

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## Introduction to The Linguistic Atlas of Japan : Methodology

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001550">https://doi.org/10.15084/00001550</a>

国立国語研究所報告 30—1 (付録A)

# 日本言語地図解説

— 方 法 —

国立国語研究所

1966

## ま え が き

この「日本語地図解説——方法——」では、主として、調査について述べ、研究室における地図編集の方法については、ほとんどふれなかった。後者については、すべての地図が完成する時をまって、あらためてまとめたいと思う。なお、調査については、別に「国立国語研究所年報7（昭和30年）」から「国立国語研究所年報16（昭和39年）」までに関連する部分があるから、参照されたい。

本編英文に関しては、非常勤職員 W. A. グロータースの協力を受けた。

徳 川 宗 賢

# 目 次

調査の目的	1
調査の方法	1
あらし(1), 質問形式(2), 質問の方法(2), 同行調査(3)	
調査票	3
調査項目	4
あらし(4), 内容(4), 調査項目の履歴(7), 調査項目の選定(16)	
調査地点	18
あらし(18), 島(21), 地点の産業(21), 調査地点の選定(22), 調査地点の決定(23)	
被調査者	24
あらし(24), 被調査者の条件(24), 被調査者の決定(26)	
調査の実際	29
資料の性格と整理の方針	31
あらし(31), 表記(31), 分類(31), 地図への記載(32), 方言調査基礎図(33), その他の資料(34)	
沿革と経過	35
日本の言語地理学の歴史(35), 日本言語地図の経過(36), 分担者(36)	
Introduction	39
付 録	
1. 調査地点一覧	47
2. 調査票その他(付図—119・調査の手引き—131)	103

## 調査の目的

われわれは、日本言語地図を作成することによって、さらに、それを通しての言語地理学的研究によって、限られた資料の範囲からではあるが、次の2点を明らかにしようとする。

(1) 現代日本標準語の基盤とその成立過程——現代日本標準語は、江戸、19世紀後半からは、近代国家日本の首都となった東京のことうばを中心として成立しつつある。20世紀初頭に確立した現代日本文章語も、東京の話しことうばを中核とした。

しかし、このことうばが、関東地方の方言を基盤としていいのか、あるいは、どの程度他地方の方言を加味しているのかは、現在かならずしも明らかでない。さらに、標準語と同じ表現を方言として使う地域が、どこに、どのくらいの広さで分布するのか、また、他のいかなる表現と対立しつつ分布するのかは、ほとんど知られていない。

日本言語地図の完成によって、選ばれた単語の全国分布が明らかになり、その範囲内で、日本標準語が、各地で、さまざまな競争者とのように戦い、いかなる経過をたどって成立しつつあるかが、言語地理学的に解明さ

れるであろう。また、二つ(あるいはそれ以上)の語形が唯一の標準語形の座を争うものについては、その地理的背景を、一目のもとに知ることができる。

(2) 日本語の地理的差異の成立と、各種方言語形の歴史——標準語と方言の対立を度外視しても、日本語に多様な地域差の存在することはよく知られている。

しかし、これらのさまざまな変種が、いかに成立し、現在どのように流動しつつあるか、たとえば、現代の問題として、関西経済圏の中心地大阪の影響力が、言語的に、どのように周辺に及んでいるか、などは、ほとんど明らかでない。また、焦点を各方言語形の生成・発展・衰亡の歴史にしばってみても、その解明は今後にまかされている。

日本言語地図は、日本の言語地理学の最初の基本的な文献として、各方面の利用に供せられるであろう。すでに、欧米の言語地理学が、それぞれの言語について明らかにしつつあるような、言語変化の諸形式、言語変化に及ぼす外的諸要因、地理的分布の各種の類型が、明らかになると考えられる。

## 調査の方法

### 1. あらまし

日本言語地図作成のための資料は、すべて調査者自身(計65名。20ページあるいは36ページ参照)が現地に出かけて、もっとも適当と考えられる被調査者を選び、直接面接して、所定の手続きにより、主として、語に関する所定の調査票(285の質問項目を含む)、および付図(88枚)を使って集めたものである。すなわち、厳密に統一ある調査によって得られた新資料といえることができる。

被調査者の条件は別に示す通りであるが、原則として

1地点1名を選んだ。調査地点の総数は、2,400地点である。

調査の対象となることばは、被調査者自身の使用語とし、特に、日常のくつろいだ雰囲気、親しい人々と話す時などに使うことばを第一とした。この場合、標準語と一致する表現を除外しないことは、言うまでもない。以前は使ったことがあるが、今は使わないことばや、指定以外の状況でしか使わないことばには、注記を加えることとした。さらに、被調査者の使わないことば(古いことばやごく新しいことばなど)を答えた場合は、付記するにとどめた。被調査者のことばを、音声学的に、できるだけ忠実に記録しようとしたことは、もちろんであ

る。

被調査者が答えたときの状況は次のような符号によって示し、区別することとした。

- ! 笑いながら答えた。
- ? 自信なさそうに答えた。
- : はずかしそうに答えた。
- # だいたい考えてから答えた。
- \* 訂正した新しい答え。

## 2. 質問形式

(1) 一定の質問・なぞなぞ式質問——日本語地図作成のための資料は、一定の質問文によって求めた。さらに、必要に応じて、特定の身振りや絵を利用する項目もある。統一を求めたのは、多数の調査者の共同調査であることを考えたためであった。

質問文は、限定した意味内容を示して語形を求める、いわゆる、〈なぞなぞ式〉質問を原則とした。各質問文の下には、必要と認めた場合、注意事項が示してある。

例：070 足の裏とかわきの下などをそっとかくと、妙な笑いたくなるような感じがします。その感じをどんなだと言いますか。

〈クスググタイ〉

071 こういうふうに足を組んで座につくことを、どうすると言いますか(あぐらをかいで坐っている人の絵を示す)。

〈アグラオカク〉

標準語形を示して翻訳させたり、あらかじめ準備した予想語形を示して答えを求めることは避けた。これは、被調査者が所定の質問を聞いて答えにくそうにしている場合も同様である。翻訳式をとらなかったのは、現代日本における標準語と方言の共存状況を考えたためと、標準語形と方言語形の分担する意味分野が、かならずしも一致しない場合のあることなどを考えたからである。標準語の1アザと2ホクロを、ともにアザと言う地域や、1ホヤケと、2アザと言う地域がある。標準語のコオルを、水が氷ると、濡れた手拭などが凍るの意味分野をわけて、コオルとシミルに言い分ける地域がある。これらの場合、アザを何と言う、コオルを何と言うと尋ねては、よい結果を期待できない。

予想語形を示す方法をとらなかったのは、各地の予想

語形を、公平にあらかじめ用意する自信がなかったからである。

(2) S式質問——〈なぞなぞ式〉質問のほかに、日本語地図作成のために、語形を示して、それに対する意味分野を求める新しい形式の質問を加えた。調査票で項目番号の次にSを付した43項目が、それである。この調査では、この形式の質問を〈S式〉質問と呼んだ(SはsemanticのS)。

〈S式〉質問には、二種の別がある。1は、xという語形をどういう意味で使うかという質問であり、2は、xという語形をaという意味で使うかという質問である。

1の例：

141S 家の「にわ」と言ったらどんな所のことですか。

2の例：

142S 土間、つまり家の中の床の張ってない所を、「にわ」と言いますか。

xを、そのままは用いないが、類似した語形でなら、かくかくの意味で使うという場合の取り扱いなどについては、別に定めた。

(3) C式質問——このほか、標準語形に二形以上の同義語があるもの(キレーダ・ウツクシイなど)について、いずれを使うか尋ねる項目が五つある。調査票で、項目番号の次にCを付したものが、それである。この調査では、この形式の質問を〈C式〉質問と呼んだ(CはchoiceのC)。

例：253C 味のいい食べものを食べて、「ああオイシイ」と言いますか。「ああウマイ」と言いますか。それとも別の言い方をしますか。

(4) 音声調査項目——さらに、音声的特徴に注目して調べる項目が13ある。これは、調査時の注目点を示すところが違うが、質問形式は〈なぞなぞ式〉と同じである。

例：260 この広い所(背中を身振りで示す)を何と言いますか。

〈注目点セ、セナカ〉

## 3. 質問の方法

資料を集める直接の行動は、質問文、および所定の絵や身振りによって行ない、ほかのことは発言しないことを原則とした。しかし、質問文を自然の話しことばに言

いかえたり、方言文脈を適当に加味することは、さしつかえないこととした。

なお、質問中に起こるいろいろの場合の処理については、次のようにきめた。

a. 答えがなかなか出ないとき——質問文をくりかえしたり、また質問文の範囲内で解説してみる。それでも答えのでないときは無答の扱いとする。

b. 標準語で答え、あるはずの方言が出ないとき——別の言い方はありませんか、土地のことばではどう言いますか、などと聞いてみる。それでも答えのでないときは、答えた語形をとりあげる。

c. 求める品詞で答えないとき——もう少し追求してみる。適当な答えがでないときは、そのまま採用する。

d. 二つ以上の答えの出たとき——意味・用法上の違いをかならず確かめて注記する。

e. 答え以外の被調査者の発言——民間語源など、必要の認められるものは、記録する。

f. 質問の対象が被調査者の生活圏内になく思われるとき——確かめる。

g. 見当違いのまちがった答えをしたとき——質問文をくり返し、または質問文の範囲内で解説して誤解を解

く。所定とかなり違った質問で得た答えは、質問文を記録する。それでも求める答えがでない場合、明らかな誤りは無答と同じ扱いとし、誤りらしいがそうでないかもしれないものは、調査者の疑いを付して記録する。

h. 第三者の発言——第三者が、被調査者の発言を、善意にしてもさまたげる事態は極力回避する。調査の相手は被調査者個人だから、第三者の答えを記録するにしても、かならず注記が必要である。

#### 4. 同行調査

調査の統一については、万全を期すために、各地方研究員について、1回はある地点で地方言語研究室員の誰かが<同行調査>を行ない、調査現場でおこるさまざまな事態について打ち合わせ、統一をはかるように努めた。何年度に、どの地方研究員について、どの研究室員がどこで同行調査を行なったかについては、「国立国語研究所年報」を参照されたい。例外として、沖縄を担当した2名の地方研究員については、諸般の理由から、この同行調査を実行することができなかった。

## 調 査 票

この調査に使用した調査票については、項目に関して別項で説明し、またその全文を付録(105ページ以下)に示すので、ここでは次の4点のみを指摘しておく。

(1) 種類——調査開始時には、第1調査票a、第2調査票aの2種類のみであったが、進行途上に項目の加減があったので、次のような9種類となった。

第1調査票	(表紙)	(使用年度—原則)*
a 第1調査票(30項目)	草色	第1～第3年度に使用
b 新第1調査票(25項目)	卵色	第4～第5年度に使用
c 改訂第1調査票(18項目)**	空色	第6～第8年度に使用
第2調査票		
a 第2調査票(200項目)	灰色	第1～第3年度に使用
b 新第2調査票(194項目)	橙色	第4～第5年度に使用

\* たとえば第5年度にも第3調査票を使用した……というように、原則と異なる調査票を使った地点もある。また、沖縄・奄美諸島では地域の特性を考慮して原則として8年間、第1・第2調査票に関しては、aまたはbを使用し、cは使わなかった。各地点での使用調査票の詳細は、付録の調査地点一覧参照。

\*\* この印のある3種の調査票の中には、地域によって調査しなくてもいい項目を含んでいる。詳細は調査項目の説明の、最後のところ(15ページ)参照。

c 改訂第2調査票(146項目)**	黄色	第6～第8年度に使用
第3調査票(27項目)	白色	第4年度に使用
第4調査票(28項目)	桃色	第5年度に使用
第3・4調査票(51項目)**、***	藤色	第6～8年度に使用

(2) 版式——すべてB5版。1ページに7～8項目が印刷され、記入欄は広くとってある。標準語形を、ローマ字で記載してあるのは、被調査者が、のぞきこむ場合を考えたためであった。巻頭に被調査者の経歴記入用紙(記入用紙と報告用紙の2枚)が付いており、巻末に、調査項目の索引が付いている(本編付録では省略)。

(3) 第1調査票を分立した——これは、被調査者決定のためであった。詳細は、被調査者選定の項を参照のこと。

と。なお、第3、第4調査票が別冊になっているのは、調査途上で項目を追加したためであって、他意はない。

(4) 項目の排列を工夫した——項目は、被調査者の連想を断ち切らないよう、調査の運びを円滑にするよう工夫した。また、被調査者が調査に自然にとけこめるよう、答えやすい項目をはじめの方におき、答えにくいものは中ほどに並べた。さらに、調査者も被調査者も疲れてくる終りには、再び、答えやすい項目を配置した。

## 調 査 項 目

### 1. あ ら ま し

総数は285。日常基本的な語が多く、方言量の多い語や、地理的分布に特色のある項目も少なくないが、総数の限定と、各分野にわたる配慮のために、常識的な線に止まったきらいがないでもない。いく組かの単語のセットを加えたところに、多少特色がある。

### 2. 内 容

ここでは、検出の便のために、意味的関連を考慮して排列した(50音順の排列は、7ページ以下参照)。

カタカナで表記したものは、〈S式〉質問項目番号である。( )内にローマ字を付したものは、音声調査項目である。〈 〉内の番号は、質問項目番号である。

- A. 人——人倫；人体・感覚；感情；判断；行動；屋外生活；屋内生活；遊戯
- B. 自然——日時；天地；鳥獸；魚虫；栽培植物；野生植物
- C. 動詞・形容詞・その他
- D. 音声調査項目

A. 人——	頭 <031>	赤い <018>
人 倫	旋毛(つむじ) <032>	黄色い <017>
男 <080>	禿げ頭 <033>	アカイ <019S>
女 <081>	禿げる <231>	アオイ <020S>
曾祖父(ひいおじいさん) <243>	雲脂(ふけ) <075>	眉毛(まゆげ) <035>
祖父(おじいさん) <242>	顔 <057>	麦粒腫(ものもらい) <036>
曾孫(ひまご) <240>	頬 <056>	鼻 <037>
玄孫(やしやご) <241>	顎(あご) <232>	匂い <038, 039>
人体・感覚	目 <034>	匂いを嗅ぐ <042>
	眩しい(まぶしい) <115>	焦げ臭い <041>

\*\*\* この調査票は、第3、第4調査票から、それぞれ2項目を除いて合併したものである。



きな臭い <040>  
鼻(いびき)をかく <054>  
耳 <043>  
口 <044>  
咳ををする <055>  
唇 <047>  
舌 <048>  
酸っぱい <053>  
(塩)辛い <049>  
辛い <050>  
(味が)薄い <051>  
甘い <052>  
おいしい <253>  
唾(つば) <046>  
嘔(よだれ) <045>  
髭(hige) <258>  
背中(senaka) <260>  
汗(ase) <259>  
肥る(ふとる) <267>  
灸(きゅう)をすえる <022>  
親指 <063>  
人差し指 <064>  
中指 <065>  
薬指 <066>  
小指 <067>  
霜焼け <068>  
踝(くるぶし) <233>  
踵(かかと) <069>  
鳩尾(みずおち) <073>  
垢(あか) <074>  
痣(あざ) <058>  
痣ができる <059>  
アザ <062 S>  
黒子(ほくろ) <060, 061>  
擦る(くすぐる) <234>  
擦ったい <070>

#### 感情

吃驚(びっくり)する <236>  
オドロク <028 S, 029 S, 030 S>  
こわい(恐しい) <237>  
コワイ <203 S, 204 S, 205 S, 206 S>  
ケチダ <207 S, 208 S, 209 S, 210 S>

奇麗(きれい)だ <250 C>  
奇麗(きれい)に <249 C>

#### 判断

居る <268 C>  
ない <269>  
いくつ <014, 016>  
いくら <015>  
数える <092, 093>  
大きい <158>  
太い <160>  
粗い <162>  
小さい <159>  
細い <161>  
こまかい <163>  
四角い <283>

#### 行動

遣る <095>  
呉れる <096>  
貰う(もらう) <094>  
貸す <100>  
借りる <099>  
アズケル <097 S, 098 S>  
捨てる <235>  
ステル <202 S>  
作る <023, 024>  
ハソンスル <211 S, 212 S>  
ナオス <025 S, 026 S, 027 S>  
坐る(すわる) <072>  
胡座(あぐら)をかく <071>  
おんぶする <261>  
担(かつ)ぐ <263, 264, 265, 266>  
背負う(しょう) <262>  
オチル <201 S>  
嘘をつく <021>  
お金 <090>  
お釣り <091>  
税金(zeikin) <278>  
カッテクル <101 S>

#### 屋外生活

たんぼ(田) <180, 181>  
畦(あぜ) <182>  
畑 <183>

案山子(かかし・とりおどし)  
<184, 185>

カド <144 S, 145 S, 146 S>  
庭 <247>  
ニワ <141 S, 142 S, 143 S>  
井戸 <147>

#### 屋内生活

家(うち) <244>  
ウチ <245 S, 246 S>  
火事だ(kazida) <277>  
襖(ふすま) <248>  
鏡(kagami) <280>  
瀬戸物 <157>  
米櫃(こめびつ) <177>  
俎板(まないた) <154>  
播鉢(すりばち) <155>  
播粉木(すりこぎ) <156>  
煮る <149>  
炊く <148>  
綿 <164>  
真綿 <165>  
糸 <166>  
絹糸 <167>  
木綿糸 <168>  
織り糸 <169>  
洗濯 <251 C>  
センタクする <170 S, 171 S>

#### 遊戯

凧 <082>  
竹馬 <083>  
お手玉 <084, 085>  
鬼ごっこ <088>  
隠れん坊 <089>  
肩車 <086>  
片足跳びををする <087>

#### B. 自然——

#### 日時

一昨々日(さきおととい) <105>  
一昨日(おととい) <104>  
一昨晚 <107>  
昨日(きのう) <103>

昨晚 <106>  
今日(きょう) <102>  
今晚 <112>  
明日(あした) <108>  
明晩(あしたのばん) <113>  
明後日(あさって) <109>  
明々後日(しあさって) <110>  
明々々後日(やのあさって) <111>  
正月(syôgatu) <274>  
七月(sitigatu) <276>  
元日(ganzitu) <275>  
七日(なのか) <238>  
九日(ここのか) <239>

### 天 地

東(higasi) <273>  
太陽 <114>  
月 <116>  
いい天気だ <270>  
雨 <117>  
梅雨(つゆ) <118>  
夕立 <119>  
雷(かみなり) <120>  
雷が落ちる <123>  
ゴロゴロ(雷鳴) <121>  
稲光(いなづま) <122>  
虹 <124>  
雪 <125>  
氷 <126>  
氷る <127>  
凍る <128>  
氷柱(つらら) <129>  
風(kaze) <272>  
旋風(つむじかぜ) <130>  
煙 <271>  
湯気 <152, 153>  
埃 <133>  
塵芥(ごみ) <131, 132, 134>  
灰 <150, 151>  
クサル <172 S>  
蔭(kage) <279>  
地震 <135>  
森 <138>

モリ <140 S>  
林 <136>  
ハヤシ <139 S>  
ハヤシ/ヤマ <137 S>

### 獣・鳥

馬 <213>  
牡馬 <214>  
牝馬 <215>  
仔馬 <216>  
鬘(たてがみ) <217>  
牛 <218>  
牡牛 <219>  
牝牛 <220>  
仔牛 <221>  
モオモオ(牛の鳴声) <222>  
土龍(もぐら) <223>  
巢(ふくろう) <224>  
ホオホオ(巢の鳴声) <225>  
鶺鴒(せきれい) <226>  
チッチ(鶺鴒の鳴声) <227>  
雀 <228>  
チュンチュン(雀の鳴声) <229>  
雞冠(とさか) <230>

### 魚・虫

魚 <254>  
ウオ <255 S>  
サカナ <256 S>  
鱗(うろこ) <076>  
蛙(かえる) <008>  
蟄(ひきがえる) <009>  
蝌蚪(おたまじゃくし) <007>  
蛇(へび) <010>  
蝮(まむし) <011>  
蜥蜴(とかげ) <012>  
蛇舅母(かなへび) <013>  
蝸牛(かたつむり) <005>  
蛞蝓(なめくじ) <006>  
蜘蛛(くも) <002>  
蜘蛛の糸 <003>  
蜘蛛の巣 <004>  
蜻蛉(とんぼ) <284>  
鬼蜻蛉(やんま) <285>

蠅(はえ) <257>  
蟻(かまきり) <001>

### 栽培植物

米 <173>  
粳(うるち) <174>  
糯(もちごめ) <175>  
飯米 <176>  
粳穀(もみがら) <178>  
糠(ぬか) <179>  
玉蜀黍(とうもろこし) <190>  
里芋(さといも) <187>  
甘藷(さつまいも) <188>  
馬鈴薯(じゃがいも) <186>  
イモ <189 S>  
茄子(なす) <282>  
唐辛子(とうがらし) <252>  
南瓜(かぼちゃ) <191>  
西瓜(suika) <281>

### 野生植物

松笠 <197>  
竹 <198>  
莖(すみれ) <192>  
蒲公英(たんぽぽ) <193>  
藪草(どくだみ) <196>  
杉菜(すぎな) <195>  
土筆(つくし) <194>  
茸(きのこ) <079>  
コケ <077 S, 078 S>  
棘(とげ) <199, 200>

### C. 動詞・形容詞・その他――

#### 動 詞(50音順)

胡座(あぐら)をかく <071>  
痣(あざ)ができる <059>  
アズケル <097 S, 098 S>  
鼻(いびき)をかく <054>  
居る <268 C>  
嘘(うそ)をつく <021>  
(雷)が落ちる <123>  
オチル <201 S>  
オドロク <028 S, 029 S>  
おんぶする <261>

(胡座を)かく <071>  
 (鼻を)かく <054>  
 (匂いを)嗅ぐ <042>  
 貸す <100>  
 数える <092, 093>  
 片足跳びをする <087>  
 担(かつ)ぐ <264, 265, 266>  
 カッテクル <101 S>  
 雷が落ちる <123>  
 借りる <099>  
 灸をすえる <022>  
 クサル <172 S>  
 擦(くすぐ)る <234>  
 呉れる <096>  
 氷る <127>  
 凍る <128>  
 背負(しょう)る <262>  
 (灸を)すえる <022>  
 捨てる <235>  
 ステル <202 S>  
 咳をする <055>  
 センタクスル <170 S, 171 S>  
 炊く <148>  
 (嘘を)つく <021>  
 つくる <023, 024>  
 ナオス <026 S, 027 S>  
 匂いを嗅ぐ <042>  
 煮る <149>  
 禿げる <231>  
 ハソンスル <211 S, 212 S>

吃驚(びっくり)する <236>  
 肥る(ふとる) <267>  
 貰(もら)う <094>  
 遣(やる)る <095>  
**形容詞(50音順)**  
 アオイ <020 S>  
 赤い <018>  
 アカイ <019 S>  
 甘い <052>  
 粗い <162>  
 いい(天気だ) <270>  
 (味が)薄い <051>  
 美味しい <253 C>  
 大きい <158>  
 辛い <050>  
 黄色い <017>  
 きな臭い <040>  
 擦(くすぐ)ったい <070>  
 焦げ臭い <041>  
 こまかい <163>  
 こわい(恐しい) <237>  
 コワイ <203 S, 204 S, 205 S,  
 206 S>  
 塩辛い <049>  
 四角い <283>  
 酸っぱい <053>  
 小さい <159>  
 ない <269>  
 太い <160>  
 細い(ほそい) <161>

眩(まぶ)しい <115>  
**その他(50音順)**  
 いくつ <014, 016>  
 いくら <015>  
 奇麗だ <250 C>  
 奇麗に <249 C>  
 ケチダ <207 S, 208 S, 209 S,  
 210 S>  
 ゴロゴロ(雷鳴) <121>  
 チッチッ(鶺鴒の鳴声) <227>  
 チュンチュン(雀の鳴声) <229>  
 (いい)天気だ <270>  
 ホオホオ(象の鳴声) <225>  
 モオモオ(牛の鳴声) <222>  
**D. 音声調査項目(50音順・カッ  
 コ内は注目点)**  
 汗(セ) <259>  
 鏡(グ) <280>  
 蔭(グ) <279>  
 火事だ(クッ) <277>  
 風(ゼ) <272>  
 元日(グッ) <275>  
 七月(シ) <276>  
 正月(グッ) <274>  
 西瓜(クッ) <281>  
 税金(ゼ) <278>  
 背中(セ) <260>  
 東(ヒ) <273>  
 髭(ヒ) <258>

### 3. 調査項目の履歴

285項目を8年間、全地点で調査したわけではない。途中で打ち切った項目もあれば、追加した項目もある。

初年度、第1, 第2調査票で出発した当時は、230項目であった。第4年度第3調査票として追加したものの27項目、第5年度第4調査票として追加したものの28項目で

ある。一方、第3年度を終わって、第一回の第1, 第2調査票改訂時に打ち切ったもの11項目、第5年度を終わって、第二回の改訂時に打ち切ったもの55項目、第5年度を終わって、第3・4調査票を改編する際に打ち切ったもの4項目であった。

別に、第6年度以降(すなわち後期計画)、38項目について、調査する地域と調査しない地域を分けた。以下に、項目ごとの履歴を、どの調査票に載っているかという観点から示す(ここでは50音順に配列した)。

アオイ (青い) <020 S>  
 アカ (垢) <074>

新第1, 改訂第1調査票で除いた。  
 改訂第2調査票で除いた。

アカイ (赤い) <018>  
アカイ (明かるい) <019 S>  
アグラオカク <071>  
アゴ (顎) <232>  
アザ (痣) <058>  
アザ <062 S>  
アザガデキル (アザニナル) <059>  
アサッテ <109>  
アシタ (明日) <108>  
アシタノバン (明晩) <113>  
アズケル (与える) <097 S>  
アズケル (与える) <098 S>  
アセ (汗) <259>  
アゼ (畦) <182>  
アタマ (頭) <031>  
アマイ (甘い) <052>  
アメ (雨) <117>  
アライ (粗い) <162>  
イイテンキダ <270>  
イクツ (年齢) <014>  
イクツ (個数) <016>  
イクラ (値段) <015>  
イッサクバン <107>  
イト (糸) <166>  
イド (井戸) <147>  
イナビカリ <122>  
イビキオカク <054>  
イモ (芋・薯・薯) <189 S>  
イル (居る) <268 C>  
ウオ (魚) <255 S>  
ウシ (牛) <218>  
ウスイ (味) <051>  
ウソオツク <021>  
ウチ (家屋) <244>  
ウチ (家庭・家族) <245 S>  
ウチ (家庭・家族) <246 S>  
ウマ (馬) <213>  
ウルチ (糶) <174>  
ウロコ (鱗) <076>  
オイシイ <253 C>  
オオキイ <158>  
オウシ (牡牛) <219>

改訂第1調査票で除いた。

改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

第3, 第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

新第2, 改訂第2調査票で除いた。

改訂第2調査票で除いた。

改訂第2調査票で除いた。

改訂第2調査票で除いた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

新第2, 改訂第2調査票で除いた。

第4, 第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

新第2, 改訂第2調査票で除いた。

第4, 第3・4調査票で加えた。

改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

第4, 第3・4調査票で加えた。

第3, 第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第1調査票で除いた。

第3, 第3・4調査票で加えた。

第3調査票で加え, 第3・4調査票で除いた。

第3調査票で加え, 第3・4調査票で除いた。

第3, 第3・4調査票で加えた。

オウマ (牡馬) <214>	
オカネ (銭) <090>	
オジイサン (祖父) <242>	第3, 第3・4 調査票で加えた。
オタマジャクシ <007>	
オチル (降りる) <201 S>	改訂第2 調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
オツリ (釣銭) <091>	改訂第2 調査票で除いた。
オテダマ <085>	
オテダマ(アソビ) <084>	
オトコ <080>	改訂第2 調査票で除いた。
オトトイ <104>	
オドロク (目覚める) <028 S>	改訂第1 調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
オドロク (目覚める) <029 S>	新第1, 改訂第1 調査票で除いた。
オドロク (吃驚する) <030 S>	新第1, 改訂第1 調査票で除いた。
オニゴッコ <088>	
オヤユビ <063>	
オリイト (織糸) <169>	改訂第2 調査票で除いた。
オンナ <081>	改訂第2 調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
オンブスル <261>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カエル (蛙) <008>	
カオ (顔) <057>	
カカシ (案山子) <185>	
カカト <069>	
カガミ <280>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カクレンボ <089>	
カゲ (蔭) <279>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カジダ (火事だ) <277>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カス (貸す) <100>	改訂第2 調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
カゼ (風) <272>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カゾエル (銭) <092>	改訂第2 調査票で除いた。
カゾエル (物) <093>	
カタアシトピオスル <087>	
カタグルマ <086>	
カタツムリ <005>	
カツグ (荷物) <263>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カツグ (棒) <264>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カツグ (天秤棒) <265>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カツグ (二人で) <266>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
カッテクル (借りてくる) <101 S>	改訂第2 調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
カド <144 S>	改訂第2 調査票で除いた。
カド (屋外) <145 S>	改訂第2 調査票で除いた。
カド (前庭) <146 S>	
カナヘビ <013>	

カボチャ <191>	
カマキリ <001>	
カミナリ <120>	
カミナリガオチル <123>	
カライ (塩からい) <049>	
カライ (辛い) <050>	改訂第2調査票で除いた。
カリル (借りる) <099>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
ガンジツ <275>	第4, 第3・4調査票で加えた。
キイロイ <017>	改訂第1調査票で除いた。
キナクサイ <040>	
キヌイト <167>	改訂第2調査票で除いた。
キノオ <103>	
キノコ <079>	
キュウオスエル <022>	改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
キョオ (今日) <102>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
キレイダ (美しい) <250C>	第3, 第3・4調査票で加えた。
キレエニ (清潔に) <249C>	第3, 第3・4調査票で加えた。
クサル (濡れる) <172S>	改訂第2調査票で除いた。
クスグッタイ <070>	
クスグル <234>	第3, 第3・4調査票で加えた。
クスリユビ <066>	
クチ (口) <044>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
クチビル <049>	
クモ (蜘蛛) <002>	改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
クモノイト <003>	改訂第1調査票で除いた。
クモノス <004>	改訂第1調査票で除いた。
クルブシ <233>	第3, 第3・4調査票で加えた。
クレル (呉れる) <096>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
ケチダ <207S>	改訂第2調査票で除いた。
ケチダ (不都合) <208S>	改訂第2調査票で除いた。
ケチダ (不思議) <209S>	改訂第2調査票で除いた。
ケチダ (吝嗇) <210S>	改訂第2調査票で除いた。
ケムリ <271>	第4, 第3・4調査票で加えた。
コウシ (仔牛) <221>	
コウマ (仔馬) <216>	
コオリ (氷) <126>	
コオル (氷る) <127>	
コオル (凍る) <128>	
コケ <077S>	改訂第2調査票で除いた。
コケ (茸) <078S>	新第2, 改訂第2調査票で除いた。
コゲクサイ <041>	
ココノカ <239>	第3, 第3・4調査票で加えた。

コマカイ <163>	
ゴミ <131>	改訂第2調査票で除いた。
ゴミ <132>	改訂第2調査票で除いた。
ゴミ <134>	改訂第2調査票で除いた。
コメ (米) <173>	改訂第2調査票で除いた。
コメビツ <177>	改訂第2調査票で除いた。
コユビ <067>	
ゴロゴロ (雷鳴) <121>	改訂第2調査票で除いた。
コワイ <203 S>	改訂第2調査票で除いた。
コワイ (疲れる) <204 S>	
コワイ (固い) <205 S>	新第2, 改訂第2調査票で除いた。
コワイ (恐しい) <236 S>	改訂第2調査票で除いた。
コワイ (恐しい) <237>	第3, 第3・4調査票で加えた。
コンバン <112>	
サカナ <254>	第3, 第3・4調査票で加えた。
サカナ (魚) <256 S>	第3, 第3・4調査票で加えた。
サキオトトイ <105>	
サクバン <106>	
サツマイモ <188>	
サトイモ <187>	
シアサッテ <110>	
シオカライ→カライ	
シカクイ <283>	第4, 第3・4調査票で加えた。
ジシン (地震) <135>	改訂第2調査票で除いた。
シタ (舌) <048>	
シチガツ <276>	第4, 第3・4調査票で加えた。
シモヤケ <068>	
ジャガイモ <186>	
ショウ (背負う) <262>	第4, 第3・4調査票で加えた。
ショウガツ <274>	第4, 第3・4調査票で加えた。
スイカ <281>	第4, 第3・4調査票で加えた。
スギナ <195>	
ズメ <228>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
スッパイ <053>	
ステル (失う) <202 S>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
ステル <235>	第3, 第3・4調査票で加えた。
スマレ <192>	改訂第2調査票で除いた。
スリコギ <156>	改訂第2調査票で除いた。
スリバチ <155>	改訂第2調査票で除いた。
スワル <072>	
ゼイキン <278>	第4, 第3・4調査票で加えた。
セキオスル <055>	

セキレイ <226>	
セトモノ <157>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
セナカ <260>	第4, 第3・4調査票で加えた。
センタク <251C>	第3, 第3・4調査票で加えた。
センタクスル <170S>	改訂第2調査票で除いた。
センタクスル (裁縫する) <171S>	改訂第2調査票で除いた。
タイヨオ <114>	
タク (炊く) <148>	
タケ (竹) <198>	改訂第2調査票で除いた。
タケウマ <083>	
タコ (瓶) <082>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
タテガミ <217>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
タンボ <180>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
タンボ <181>	
タンポポ <193>	
チイサイ <159>	
チッチッ (鶺鴒の鳴声) <227>	改訂第2調査票で除いた。
チュンチュン (雀の鳴声) <229>	改訂第2調査票で除いた。
ツキ <116>	
ツクシ <194>	
ツクル (製造) <023>	改訂第1調査票で除いた。
ツクル (酒造) <024>	改訂第1調査票で除いた。
ツバ (唾) <046>	
ツムジ <032>	
ツムジカゼ <130>	
ツユ (梅雨) <118>	
ツララ <129>	
トオガラシ <252>	第3, 第3・4調査票で加えた。
トオモロコシ <190>	
トカゲ <012>	
ドクダミ <196>	
トゲ <199>	
トゲ <200>	
トサカ <230>	改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
トリオドシ <184>	改訂第2調査票で除いた。
トンボ <284>	第4, 第3・4調査票で加えた。
ナイ (無い) <269>	第4, 第3・4調査票で加えた。ただし, 第3・4調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
ナオス <025S>	新第1, 改訂第1調査票で除いた。
ナオス (片付ける) <026S>	改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
ナオス (修繕する) <027S>	新第1, 改訂第1調査票で除いた。
ナカユビ <065>	



ナス (茄子) <282>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
ナノカ <238>	第3, 第3・4 調査票で加えた。
ナメクジ <006>	
ニオイ <038>	
ニオイ <039>	
ニオイオカグ <042>	
ニジ <124>	
ニル (煮る) <149>	
ニワ <141 S>	
ニワ (土間) <142 S>	
ニワ (前庭) <143 S>	
ニワ (庭園) <247>	第3, 第3・4 調査票で加えた。
ヌカ <199>	
ハイ (灰) <150>	改訂第2 調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
ハイ (灰) <151>	改訂第2 調査票で除いた。
ハエ (蠅) <257>	第3, 第3・4 調査票で加えた。
ハゲアタマ <033>	
ハゲル <231>	第3, 第3・4 調査票で加えた。ただし, 第3・4 調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
ハソンスル <211 S>	新第2, 改訂第2 調査票で除いた。
ハソンスル (修繕する) <212 S>	
ハタケ <183>	改訂第2 調査票で除いた。
ハナ (鼻) <037>	改訂第2 調査票で除いた。
ハヤシ (林) <136>	
ハヤシ (林) <139 S>	改訂第2 調査票で除いた。
ハヤシ・ヤマ <137 S>	改訂第2 調査票で除いた。
ハンマイ <176>	改訂第2 調査票で除いた。
ヒオジイサン (曾祖父) <243>	第3, 第3・4 調査票で加えた。
ヒガシ <273>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
ヒキガエル <009>	
ヒゲ <258>	第4, 第3・4 調査票で加えた。
ビクリスル <236>	第3, 第3・4 調査票で加えた。
ヒトサシユビ <064>	
ヒマゴ (曾孫) <240>	第3, 第3・4 調査票で加えた。
フクロオ <224>	
フケ <075>	改訂第2 調査票で除いた。
フスマ <248>	第3, 第3・4 調査票で加えた。
フトイ <160>	
フトル <267>	第4 調査票で加え, 第3・4 調査票で除いた。
へビ <010>	
ホオホオ (梟の鳴声) <225>	
ホクロ <060>	





項目	地域	北海道 I	北海道 II	北海道 III	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	
呉すす瀬	れる	096													×	×	×					
	ずめ	228	×	×	×	×		×	×	×		×	×	×	×	×			×			×
	すて	202S	×	×	×	×		×	×	×		×	×	×								
瀬戸物	戸物	157															×	×				
	田	180	×	×	×																	
	田	082										×	×	×	×							
たて	がみ	217	×	×	×																	
	さか	230											×	×								×
無な	いす	269	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	お	026S															×	×				
	灰	150	×	×	×												×	×				
禿げ	る	231	×	×	×	×		×	×	×		×	×	×			×	×				
	耳	043	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	目	034				×			×													
も	ら	094	×	×	×			×														
	森	138																				
	森	138																				
や	る	095																				
	雪	125	×	×	×	×		×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

#### 4. 調査項目の選定

調査項目は、「調査の目的」に沿うように考えて選んだ。日常基本語彙のうちから、かなりの数を選んだのは、主として、目的(1)のためであった。標準語形を与えて、使うかどうか選ばせる項目を加えたのも、このためである。目的(2)のためには、別の、いくつかの観点を立てた。たとえば、生活の分野や、方言量の大小、分布の諸形式など。また、語の変遷がかならずしも個別的でなく、関連する他の語と相関的に変化する面がありはしないかと考えて、単語のセットをいくつか加えたのもこのためである。音声に関するいくつかの項目や、意味の変化に関する項目を加えたのは、(1)と(2)の、両方の目的にかかわると言えよう。

文法に関する項目も、計画当初には考慮したが、調査現場での制限を考慮して、若干の語に関連する項目を除いて、割愛した。

調査項目は次の材料をもととして選んだ。

(1) 地方研究員からの提案——1955年、地方言語研究室は、同年度の地方研究員に対して、日本語地図作成に関する、資料集取の方法(通信調査か現地調査か)、調査項目の案、音声表記法はいかにすべきか、調査地点の数と選び方、被調査者選定の基準について、意見を求めた。ここにいう地方研究員からの提案とは、その、調査項目の案をさす。具体的な項目案のほか、語感・待遇・場面などの付加的意味のあるもの、副詞などのようにいろいろの表現のできるものは除くべきである、同音異義語について、語形を目安に、どんな意味で使われているか調べるべきだという原則的意見もあった。具体的内容は、研究員によってさまざまであったが、次の(2)以下で集めたものと、ほとんどが重なった。

(2) 全国方言辞典・分類方言辞典——地方研究員に対する委託と平行して、地方言語研究室でも、独自に資料を集めた。全国を対象とする関係上、標記の二辞典を主要資料とした。結局、150項目ほどが、この範囲から選ばれた。

(3) 基本語資料各種——国立国語研究所の報告書の中では、当時公刊されていた「婦人雑誌の用語」「地域社会

山 長 岐 静	愛 三 滋 京	大 兵 奈 和 歌	鳥 島 岡 広	山 徳 香 愛	高 福 佐 長	熊 大 宮 鹿 児
梨 野 阜 岡	知 重 賀 都	阪 庫 良 山	取 根 山 島	口 島 川 媛	知 岡 賀 崎	本 分 崎 島
× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × ×		× × × × × × ×	× × × ×	
× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×
× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×
× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×
× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×
× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×
× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×	× × × × × × × ×

の言語生活「談話語の実態」を参照した。結局180項目ほどが、この範囲から選ばれた。なお(2)との間に65ほどの重複がある。

(4) その他——各種既刊の方言調査簿・外国の言語地図調査の項目、その他各種方言研究の業績などを参考にした。この範囲から、ほぼ20項目が選ばれた。

以上の資料から、次のような手続きで、具体的な調査項目にしぼっていった。

(1) 判定——以上の資料から、候補として4,000項目以上が得られた。しかし、その中には、調査者が地域を分担して行なう全国調査の場合、不適當なものがかかり含まれていた。全国すべての地点で答えの得られる見通しのないもの(特殊な社会、職業、自然環境に関するものなど)や、調査の誤差が、結果に大きく響く可能性のあるもの(語感・待遇・場面などの付加的意味のあるもの、副詞などのようにいろいろの表現が可能なもの)などである。これらは、あらかじめ除外した。

(2) 準備調査——(1)でふるいにかけた残りを、数回の準備調査によって精選していった。調査のしやすさ、結果のよき見通しを考えるとともに、全項目が、なるべく

生活の各分野にわたるように配慮した。また、項目相互の関係を考えて、いく組かの単語のセットを作ることに心掛けた。項目に関する準備調査は次に示すように、1955年度から1956年度にかけて、5回行なわれた。

1. 中国・四国地方準備調査(使用調査票1,150項目)
2. 新宮市準備調査(540項目)
3. 秋田県花輪町準備調査(320項目)
4. 全国94地点での準備調査(299項目)……1956年度地方研究員委託
5. 宮崎県高城町準備調査(299項目)

以上の結果から、調査開始当時の第1、第2調査票に盛り込まれた230項目が、次第にかたまってきたと言えよう。なお、これらの準備調査では、項目の選定ばかりを考えていたわけではない。各調査(番号で示す)の結果考慮した観点は、次の通り。

- (1) 項目数——1地点300項目前後が適當であるとわかった。  
質問形式——〈なぞなぞ式×S式〉によることを考えた。

- (2) 項目の範囲——音声、文法をひとまず除くことを決めた。
- (3) 質問文・項目の排列——この点に関して、よほど考えねばよい結果を期待できないことがわかった。名詞に特殊な動詞が後接するものは(イビキオカクなど)まとめて質問する方がいいと考えた。項目相互の関連——項目は個別的でなく、関連的に選定することがよいとわかった。
- (4) 質問文・項目の排列——さらに改訂を要することがわかった。  
付図——さらに検討を要することがわかった。
- (5) 項目の排列——ほぼかたまつた。  
付図——ほぼかたまつた。

1960年度には、第3、第4調査票について次の準備調査を行なった(準備調査の通し番号をつけた)。

6. 全国20地点での準備調査(67項目)……うち地方研究員委託15地点
7. 東京在住各地出身者を対象とした準備調査(67項目)

候補として挙げた項目は、第1、第2調査票を作る際割愛した項目のうちから、この際調べておきたいもの、東京語の位置を明らかにするために役立つもの、国語問題に直接関連あると考えられるもの、音声に関する若干

の項目などである。

なお、このほかに、1956年度に被調査者を選ぶ方法、被調査者数はひとりでよいかなどを検討する準備調査も行なつたので、付記しておこう。

#### 8. 山梨県中巨摩郡豊村準備調査(項目141)

この調査で、第1調査票を分立することがきまつた(29ページ第1調査票の分立の項参照)。また、被調査者は、各地点で1名とすることが決まつた。なお、以上の8回の準備調査について、詳しくは、「国立国語研究所年報7・8・12」を見られたい。

(3) 打ち切り——途中で打ち切つた項目が70あること、および、第6年度以降、地域を限って調査を打ち切つた項目が38あることは、前にも述べた通りである。これらは、次のような観点によってきめた。

- a. それまでの調査結果を分布地図に作つてみて、地域差が期待したように得られなかつたもの(質問のポイントが悪かつたもの、標準語と方言のふりわけの困難なものが含まれる)
- b. 他の質問によって、その項目の内容が覆われるもの
- c. そこまでの段階で、ほぼ結果の見通しのついたもの

## 調 査 地 点

### 1. あらまし

8か年の調査期間に調査した地点の総計は、2,400であった。<sup>\*</sup>地点の網の目は、全国を覆う。最北端は北海道稚内市、最南端は沖縄入重山群島の波照間島である。調査地点の密度は、面積比で言えば1,000 km<sup>2</sup>あたり、

6.5であるから、大まかに言えば12 kmごとに1地点と言つてよろしかろう。人口比で言えば100,000人あたり2.5である。各調査地点では、1903年以前出生の男子1名を被調査者として選んだが、1960年現在、この層の人々の総数は、4,800,000人というから、この層に限れば、人口比地点密度は、50(すなわち2,000人あたり1名)となる。

\* 下記の3地点では、第3調査票だけの調査が行なわれた。地点総数には加算しなかつたが、これら27項目に関する調査結果は、他と平等に扱つた。

- 岩手県宮古市鉄ヶ崎町日影  
 〳 遠野市土淵町大杉  
 〳 釜石市浜町

なお、調査項目によっては、全地点で調査しなかつたものもある。22ページの脚注参照。

調査は、主として地方研究員が地域を分担して行ない、各地で毎年網の目をこまかくする方法で進めた。一方、調査センターの方言言語研究室員も、随時各地で調査した。

8 年、各年度の〈行政単位別調査地点数〉は、次の通

り。参考のために、①人口比地点密度(10万人あたりの調査地点数)、②面積比地点密度(1,000 km<sup>2</sup>あたりの調査地点数)を付記した。

行政単位	調査地点数								計	①人口 地点 密度	②面積 地点 密度	行政単位	調査地点数								計	①人口 地点 密度	②面積 地点 密度
	調査年度												調査年度										
	57	58	59	60	61	62	63	64					57	58	59	60	61	62	63	64			
北海道	15	15	12	14	11	9	4	3	83	1.6	1.1	京 都	7	4	5	4	5	5	3	3	36	1.8	7.8
青森	9	10	9	11	10	9	8	8	74	5.2	7.9	大 阪	5	2	1	1	3	5	1	1	19	0.3	10.6
岩手	11	12	12	23	5	9	10	9	91	6.3	6.0	兵 庫	14	20	3	1	10	9	10	4	71	1.8	8.6
宮城	7	6	9	8	9	6	5	7	57	3.3	7.8	奈 良	8	1	2	2	4	2	2	2	23	2.9	6.2
秋田	8	9	9	14	10	8	9	8	75	5.6	6.4	和 歌 山	11	4	4	5	6	4	4	4	42	4.2	8.9
山形	5	5	9	7	10	6	4	8	54	4.1	5.8	鳥 取	3	3	4	4	7	4	3	2	30	5.0	8.6
福島	10	11	11	10	13	9	7	9	80	3.9	5.9	島 根	7	7	8	7	12	6	4	6	57	6.4	8.6
茨城	6	11	5	8	8	4	4	3	49	2.4	7.5	岡 山	7	7	8	8	9	6	5	7	57	3.4	8.1
栃木	5	11	4	6	4	4	5	4	43	2.8	6.7	広 島	8	9	9	10	11	7	7	6	67	3.1	8.0
群馬	5	12	6	4	3	4	4	3	41	2.6	6.5	山 口	6	7	7	7	11	7	7	7	59	3.7	9.7
埼玉	4	6	3	7	5	1	2	3	31	1.2	8.2	徳 島	2	3	5	5	7	4	3	3	32	3.6	7.6
千葉	7	9	10	8	3	4	4	4	49	1.3	9.6	香 川	2	2	3	3	5	3	2	2	22	2.4	11.6
東 京	2	4	5	5	7	4	3	4	34	0.4	17.0	愛 媛	6	5	8	6	10	5	6	4	50	3.4	8.9
神 奈 川	3	5	3	3	2	2	2	3	23	0.7	9.5	高 知	6	6	9	7	10	5	4	5	52	6.1	12.0
新 潟	10	19	10	12	13	7	9	11	91	3.7	6.2	福 岡	5	6	6	7	4	6	4	6	44	1.1	9.0
富 山	7	2	3	5	4	4	3	3	31	3.0	7.2	佐 賀	2	2	2	5	2	3	2	2	20	2.1	8.3
石 川	8	5	5	5	5	5	5	5	43	4.4	10.2	長 崎	7	8	8	5	14	8	6	8	64	3.7	15.6
福 井	8	3	3	4	2	5	4	4	33	4.4	7.7	熊 本	6	7	7	8	11	6	5	4	54	2.9	7.2
山 梨	3	10	3	3	3	2	2	3	29	3.7	6.4	大 分	6	6	7	10	7	6	5	6	53	4.3	8.4
長 野	9	15	10	7	13	9	8	7	78	3.9	5.7	宮 崎	6	7	7	10	7	6	6	6	55	4.9	7.1
岐 阜	13	6	9	7	7	7	7	5	61	3.7	5.8	鹿 児 島	11	11	11	15	11	13	9	10	91	4.6	9.8
静 岡	7	11	8	9	9	6	6	8	64	2.3	8.2	沖 縄	×	4	13	10	11	7	7	8	60	6.2	25.0
愛 知	11	5	4	6	6	5	3	5	45	1.1	8.8	全 国	323	309	354	230					2400	2.5	6.5
三 重	12	6	6	4	8	6	5	5	52	3.5	9.0		343	336	265	240							
滋 賀	3	4	4	6	7	3	2	2	31	3.7	7.0												

\* 各地方研究員担当地域は、かならずしも行政単位(都道府県)と一致していない。

\*\* いっぽんに、言語地理学的調査にあたって、地点の密度を示す場合、〈1地点あたりの人口〉を示すことがあるが、ここでは〈人口10万人あたりの地点数〉を挙げた。この方が実状をよく示すことができると思う。低い数字は、地点の粗いことを示し(例:東京・大阪などの密集地域)、高い数字は、地点の網の目の細かいことを示す(例:岩手・秋田・島根・高知などの人口密度の低い地域、沖縄などの言語的に注目すべき地域)。なお、ここでは、1960年現在の人口を基準にしている。

\*\*\* 〈1地点あたりの面積〉を示すかわりに、ここでは、〈面積1,000 km<sup>2</sup>あたりの地点数〉を挙げた。この方が、人口密度などと、平行的に考えることができる。低い数字は、地点の粗いことを示し(例:北海道は別格として、山形・福島・長野・岐阜などの山岳無人地帯の多い地域)、高い数字は、地点の網の目の細かいことを示す(例:東京・長崎・沖縄などの島嶼部の多く、また言語的に注目すべき地域。東京・大阪などの人口密度の高い地域)。

この数字を、世界の主要言語地図と比較すると、次の通り。地点密度の観点からは、全国域言語地図としてま

ずまずの状況である(調査地域の広さから、地点の絶対数は極めて多い)が、項目数の少ないことが目立つ。

地図名(略称)	主編者	地点数	人口地点密度	面積地点密度	項目数
糸魚川言語地図(LAI)**	柴田, グロータース, 徳川, 馬瀬	183	300.0	265.6	385
スイス・ドイツ語地域言語地図(SDS)	Hötzenköcherle	573	14.3	27.0	2,600
オランダ・ベルギー言語地図(NDA)	Blancquaert	2,000	13.3	38.5	141文
ベルギー南部言語地図(ALW)	Remacle	300	8.5	17.5	4,150
スイス全国民俗地図(ASV)	Weiss	387	7.0	9.3	150
ニューイングランド言語地図(LANE)	Kürath	431	4.0	1.8	814
日本言語地図(LAJ)	国立国語研究所	2,400	2.5	6.5	285
カタロニア言語地図(ALCAT)	Griera	101	2.5	1.7	2,886
ルーマニア言語地図(ALR)	Pop	388	1.9	1.3	2,160
フランス言語地図(ALF)	Gilliéron	639	1.5	1.2	1,920
スペイン・ポルトガル言語地図(API)	Navarro	528	1.5	0.9	2,000
イタリー・スイス言語地図(AIS)	Jaberg & Jud	407	1.0	1.3	2,000

なお、65名の調査者が、それぞれ何地点ずつ調査したかは、次表の通り。具体的な各調査地点が、それぞれど

の調査者によって調査されたかは、付録「調査地点一覧」参照。

番号	氏名	地点数	番号	氏名	地点数	番号	氏名	地点数	番号	氏名	地点数
01	五十嵐三郎	25	18	佐藤茂	31	35	阿波陽	53	52	江原襄	15
02	長谷川清喜	28	19	清水茂夫	25	36	宮城文雄	30	53	須佐善信	7
03	石垣福雄	30	20	青木千代吉	71	37	近石泰秋	19	54	三浦芳夫	45
04	此島正年	67	21	谷開石雄	56	38	杉山正世	45	55	金沢直人	25
05	小松代融一	83	22	望月誼三	58	39	土居重俊	50	56	慶谷寿信	27
06	堀籠敬蔵	7	23	山田達也	41	40	都築頼助	40	57	後藤和彦	17
07	北条忠雄	71	24	堀田要治	2	41	小野志真男	44	58	馬瀬良雄	16
08	後藤利雄	32	25	奥村三雄	22	42	西島宏	23	59	佐藤亮一	18
09	菅野宏	21	26	前田勇	12	43	秋山正次	51	60	遠藤邦基	7
10	宮島達夫	16	27	和田実	27	44	糸井寛一	49	61	外間守善	15
11	多々良鎮男	40	28	岡田荘之輔	38	45	岩本実	51	96	徳川宗賢	61
12	上野勇	41	29	西宮一民	25	46	上村孝二	83	97	上村幸雄	56
13	大久保忠国	3	30	村内英一	38	47	杉浦茂夫	19	98	野元菊雄	50
14	加藤信昭	25	31	広戸惇	31	48	加藤正信	51	99	柴田武	54
15	斎藤義七郎	6	32	岡義重	48	49	日野資純	26	計		
16	剣持隼一郎	79	33	虫明吉治郎	52	50	寛大城	24	65名		2,400
17	岩井隆盛	72	34	村岡浅夫	61	51	仲宗根政善	45			

		地点数	項目数
*ドイツ言語地図(DSA)	Wenker	40,736	40文
ドイツ語彙地図(DWA)	Mitzka	48,381	200
ドイツ民俗地図(DVS)	Röhr	23,000	243

以上は通信調査で、すぐに比較できないが、圧倒的な地点数を誇っている。

\*\*糸魚川言語地図は、出版準備中のものであるが、参考として掲げた。



## 2. 島

本州・北海道・九州・四国の四つの島以外の属島での調査地点は、次の通りである。付録1に示す「調査地点一覧」の地名だけからは、そのいずれが属島における調査か明確でない場合があるので、参考のために、以下に調査地点の及んだ島名を列挙する。調査地点の網の目の及んだ属島は、全部で119に達し、属島での調査地点の総計は244であった。カッコ内の数字は、それぞれ地点数を示す。

北海道(5)

奥尻島(2), 礼文島(1), 利尻島(2)

宮城県(3)

大島(1), 江ノ島(1), 田代島(1)

山形県(1)

飛島(1)

東京都(16)

大島(2), 利島(1), 新島(2), 神津島(1), 三宅島(5), 八丈島(5)

新潟県(12)

粟島(1), 佐渡島(11)

石川県(1)

能登島(1)

三重県(2)

神島(1), 答志島(1)

兵庫県(9)

家島(1), 淡路島(8)

和歌山県(1)

大島(1)

島根県(9)

島後(隠岐)(5), 西島(2), 中島(1), 知夫里島(1)

岡山県(2)

白石島(1), 真鍋島(1)

広島県(13)

能美島(江田島)(3), 倉橋島(2), 佐木島(1), 生口島(1), 因島(1), 上浦刈島(1), 厳島(1), 大崎上島(1), 大崎下島(1), 向島(1)

山口県(11)

蓋井島(1), 見島(1), 相島(1), 向島(1), 笠戸島(1), 青

海島(1), 屋代島(周防大島)(3), 祝島(1), 角島(1)

徳島県(1)

大宅島(1)

香川県(6)

本島(1), 伊吹島(1), 小豆島(3), 豊島(1)

愛媛県(6)

日振島(1), 怒和島(1), 中島(1), 大三島(2), 伯方島(1)

高知県(1)

沖島(1)

福岡県(1)

大島(1)

佐賀県(1)

馬渡島(1)

長崎県(3)

久賀島(1), 平戸島(3), 度島(1), 平島(1), 江ノ島(1), 大島(西彼杵郡)(1), 蛸ノ浦島(1), 中通島(3), 若松島(1), 奈留島(1), 福江島(3), 生月島(1), 大島(北松浦郡)(1), 鷹島(1), 福島(1), 守久島(1), 小値賀島(1), 対馬下島(4), 対馬上島(4), 老岐島(4)

熊本県(12)

御所浦島(1), 大矢野島(1), 天草上島(3), 天草下島(7)

大分県(1)

姫島(1)

鹿児島県(35)

長島(2), 上甕島(1), 下甕島(2), 種子島(4), 屋久島(2), 口永良部島(1), 奄美大島(9), 喜界島(2), 加計呂麻島(3), 与路島(1), 請島(1), 徳之島(4), 沖永良部島(2), 与論島(1)

沖縄県(1)

沖繩島(25), 伊平屋島(1), 伊是名島(1), 伊江島(1), 粟国島(1), 久米島(2), 波嘉敷島(1), 屋我地島(1), 平安座島(1), 久高島(1), 宮古島(7), 伊良部島(4), 池間島(1), 多良間島(1), 石垣島(6), 黒島(1), 竹富島(1), 西表島(1), 鳩間島(1), 波照間島(1), 与那国島(1)

## 3. 地点の産業

各地点で、被調査者から、土地のおもな産業を尋ねた。結果は次表の通りである。カッコ内は、単業地(たと

えば農業のみ)の地点数である。全体を見ると、なんらかの形で農業に関係を持つ調査地点が、全体の80%を占めることが目立つ。なお、総計が2,400を越えるように見えるのは、複業地(たとえば農と林をかねる地点)が多いためである。

1	農(養蚕, 牧畜, 果樹を含む—以下同じ)	1864	(902)
2	林(薪炭)	573	(69)
3	漁(海苔)	443	(115)
4	工(製材, 窯業, 製塩, 酒造, その他)	237	(53)
5	商(観光, 運送, 住宅地, 官庁街, 軍事基地)	493	(166)
6	鉱(採石)	30	(3)

#### 4. 調査地点の選定

調査地点の総数については、次のように考えた。理想的には、多に越したことはない。しかし人の力には限界がある。1名の調査者が、本務のかたわらに調査できる地点数は、1か年10地点が限度であろう。広大な地域を分担する地方研究員のことも考えねばならない。費用の制約もある。1か年の調査地点の総数は、300地点前後と考えられる。

一方、言語地図一般に要求される地点密度ということがある。あまりまばらでは話にならない。そこで、世界の主要言語地図数種と比較して、日本の面積・人口を考え、全計画で2,000地点程度はぜひ必要ということになった。この調査が、最初7か年の計画で出発した根拠である。その後、費用などの関係からか、8か年の計画に変更され、また、沖縄が調査地域に加わったこと、地

方言語研究室員による調査地点が加算されたこと、などによって、調査地点の総計は、2,400となった\*。

調査地点の選定について、前期5か年の計画と、後期3か年の計画とでは、基準が違う。前期では、言語的に特色ある地点を選ぶことをむしろ避けて、全地域に満遍なく地点をばらまくことを考えたのに対して、後期計画では、逆に、言語的・社会的に特色ある地点を選ぶことに重点をおいた。全国の分布地図を作るにあたって、日本語の現状をまず知るために、偏りを避けようとしたことが、第1の理由であり、そうかといって、特色ある地点についての情報を洩らすことも適当でないと考えたことが、第2の理由である。

調査地点の候補は、次の材料をもととして選んだ。

(1) 地方研究員からの提案——調査項目のところで述べたが、1955年、地方研究員に対して、調査地点の数と選び方について意見を求めた。また、1960年・61年にも、後期調査に際しての候補地点を求めた。

(2) その他——

- a. 建設省地理調査所・総理府統計局「人口分布図」(昭和31年3月発行)
- b. 5万分の1地形図ほかの各種地図
- c. 地方史、交通史関係の文献

以上の資料をもとにして、具体的な調査予定地点をしぼった。

(1) 前期調査——この期間には、主として、全国に満遍なく選ぶことを考えた(目標は1,500地点)。そのため、まず「人口分布図」が参考となった。人口の集中している所には、できるだけ地点を選ぶ。一方、各種地図を利用して、自然環境(たとえば川筋)にも留意した。地方研究員の意見も大いに参照した。しかし研究員によって20地点の候補を挙げた人もあれば、300地点に及ぶ候補

\* ただし、調査項目の中には、前に述べた通り、全地点で調査せず、途中で追加したり、打ち切ったりした項目がある。すなわち、285すべての項目について、2,400地点での調査をしたわけではない。

また、後期計画では、地域によって調査したり、調査しなかったりした項目があったため、それぞれの項目について、何地点での調査が行なわれたか正確な数字はいま出しえないが、285項目の概略は、次の通りである。

2,400 地点で調査した項目	128
約2,000	≧ 36 (途中で地域的に打ち切ったもの)
約1,700	≧ 55 (途中で打ち切ったもの)
約1,000	≧ 62 (途中で打ち切ったもの、および途中で追加したもの)
約400	≧ 4 (途中で追加し、しかも打ち切ったもの)

なぜ、すべての調査項目について、全地点調査しなかったかについては、調査項目の選定の項を参照のこと。

を挙げた人もあったため、全面的に採用することはできなかった。かくて、1957年初頭にあたり、1,485の前期調査地点がきまった。島—沖繩を除く—については、人口・集落数による一定の基準から、全国で50の島を選び、さらにその規模によって各島の地点数を決定した(1,485の中に含まれる)。そして地方研究員の各担当地域ごとに、分類した表が作られた。

(2) 後期計画——この期間には、言語的・社会的な観点を重視して候補を選んだ。目標は700地点とした。前期計画で1,665地点が終わったこともあり、1地点あたりの調査費用もかさむようになったので、毎年の調査地点総数は、230ほどと見た。資料としたものは、地方研究員から寄せられた重要地点に関する意見と、各種の文献によって知ることのできる、古代から近世に至る地方文化の中心地や、陸上・水上の交通の要衝などである。もっとも、後期計画にはいって、新しい調査項目が加わるために、一面、機械的な基準によって、全国に、満遍なくばらまくことも必要であった。

1962年初頭にあたり、全国的視野のもとに、683の後期調査予定地点が決定し、前期計画と同様に表が作られた。このうち、172地点は、ぜひそこで調査したい地点である。

(3) 沖繩——沖繩に関しては、第2年度から、新たに調査に加わった点と、地域の特性(島ごとに、はなはだしくことばが違ふ)とを考へて、1958年初頭に全計画の調査予定地点60を決定した。したがって、沖繩に関しては、前期計画、後期計画の違いは関係がない。

## 5. 調査地点の決定

地方研究員委託分に関しては、配布された候補地点の表を参照して、研究員が具体的に決定することとした。原則として、候補地点の中から選ぶことになっているが、かならずしも候補地点で調査しなくてもよく、付近に適当な地点を選べばよい。

前期5か年は、直線距離で5km以下の移動を認めた。さらに、具体的な決定に当たって、次の5つの注意点を示した。

- a. 社会構造、産業形態などの点で、いちじるしく変わっているところは避ける。
- b. 新開地など、移入者の多いところは、被調査者を

得にくいから避ける。

- c. 市街地は、ことさら避けるべきでない。
- d. 言語的に珍しいところばかり選んではならない。
- e. 属島内に候補地点のあるものは、その島内で調査すること。他の島や本土に移したりしない。

すべて、前期計画の目的に沿った注意である。

後期計画では、予定地点683のうち、172地点については、かならず指定の候補地点で調査するよう依頼した。それらの地点が、そこでぜひ調査したい、言語的・社会的な特色を持つからである。残りの511地点については、都合によっては、直線距離で3km以下の移動を認めた。

前期計画の5kmを3kmにしたのは、①後期計画には、できるだけそこで調査したい地点が含まれること、②大幅な移動を認めると、前期計画で調査ずみの地点とのバランスが乱れることを考慮したからである。

かくて、8か年で、地方研究員分担の2,189地点が、61名の地方研究員によって具体的に選ばれ、調査が実行された。

研究室員分担の調査は、その都度計画され、実行された。これらの調査は、原則として、計画当初に立案された候補地点とは関係がない。ただし、例外として、ある年度、ある地方の地方研究員が、調査に参加できなかったため、研究室員が代わって調査した所がいくつかある。

研究室員分担の調査地点は、次の観点から選んだ。

(1) 全国にできるだけ満遍なく選ぶ——全国各地の言語生態を目にし耳にしておき、室員による音声学的な資料を得ておくためである。

(2) 地方研究員委託分の欠を補う——計画当初の立案は、その後の情報によって、多少補強する必要があった。それを、全体のバランスの中で補った。

かくて、8か年で、研究室員による211地点(全地点の8.8%)が、具体的に選ばれ、調査が実行された。

# 被 調 査 者

## 1. あ ら ま し

各地点で、その土地のことばを聞かせてくれる人、すなわち、この調査の被調査者(話者)は、男の老人1名である。調査者は、被調査者に面接して、その人について、項目全部に関する、本人自身のことばを調べた。

老人を選んだのは、これらの人々が、現代日本語の母胎となった各地方の言語を、現在もっとも純粋に伝えていると考えられたからである。したがって、調査の成果である「日本語地図」は、20世紀後半の平均的日本語より、やや古い層を示していると言うことができよう。もっとも、細心の注意を払ったとはいえ、作為的な調査を経ているために、老人たちの自然に使う言語より、いくらか新しい層を示していると言えるかもしれない。

男を選んだのは、まず性別を一定にするためであった。ある地点で男を、隣の地点で女を調べては、比較が困難である。資料の質は、できるだけ統一しておきたい。女を選ばず男を選んだのは、ある地点で生まれ育ち、現在まで生活しているのは、男が多い(女は、結婚のため、生育地を離れる場合が多い)、すなわち、被調査者をさがしやすいためと、男は比較的社会的訓練を受けているのに対して、女は外来者の応接になれない人が多いのではないかと考えたためである。しかし、実際の調査では、どうしても適当な被調査者が得られなかったため、女を被調査者とした地点が、2,400地点中8地点だけあった。

各地点1名としたのは、次のような理由による。(1)2人の被調査者を並べても、往々にして一方の意見に引きずられ、1人の場合と差のないことが多い。それどころか、圧倒された方の被調査者は、卑屈な気持ちで退屈していることがある。(2)調査者側から言えば、2人を平等視しながら、すなわち2人であることを生かして調査を進めることがむずかしい。時間がかかる。(3)他人の前では、自分の答えを訂正しにくい場合がおこりうる。(4)他人の前では、卑語といわれるようなもの出にくい場合があ

る。(5)逆に、差をつけようとして純粋でない答えをする可能性が多い。(6)たがいに確認しあっても、ほんとうに納得がいったかどうか疑わしい場合もある。(7)たがいに否定しあうと、処理がむずかしい。(8)二人を並べるのではなく、別々に調べることも考えられるが、この場合は倍近くの費用と時間がかかることを考慮しなければならない。それくらいなら、費用と時間を、地点数をふやすことに向けたらいい。

なお、この被調査者の数をいかにすべきかについては、準備調査が1回行なわれた。また、1地域社会内の個人間の言語差については、別に検証調査を行なった。

## 2. 被調査者の条件

(1) 生年・性——1903年(明治36年)以前出生の男子。ただし、1887年(明治20年)以降生まれの人が望ましい。1903年としたのは、当初、調査が終了すると考えた1963年に、満60歳に達すると考えたからであった。しかし、19世紀最終年以前出生とでもした方がよかったかもしれないと、いまは考えている。さらに高年者(たとえば1893年以前出生)に限定してもよかったかもしれないが、それでは多分被調査者がさらに選びにくくなるだろう。現に1903年以前という条件でも相当困難であった。また、高年者はいったいに精神活動が劣え、知的な作業に適当でない人の率が增加する。全国を統一したレベルで抑さえるためには、60歳台を限度と考えた。調査時の年齢(たとえば満60歳以上)で限定しなかったのは、調査開始年と、終了年との間に、かなりの期間があると考えたからである(1957年の満60歳と、1964年の満60歳とでは、8年間の隔りがある)。

上限を定めなかったのは、高年者で、よい被調査者があったとき、それを切り捨てるにしのびない場合があると考えたからであった。もっとも、明治20年以降生まれの人が望ましいという希望的補則は、つけ加えておいた。

実際の調査では、この条件にはずれた被調査者を調べ

た地点が28地点あった。それぞれ、どうしても、条件に合う人が得られなかった地点である。中には、調査者が、調査はしたが正式の調査報告としてでなく、参考資料として提出したものがあり、調査センターとしての研究室で、ぜひ採用しておきたいと考えて、正式の報告とみなしたのも含まれている。極端な1例であるが、昭和11年生まれの子供を被調査者を選んだ地点など。

最高年齢者は明治元年（調査終了時満95歳）の2名であった。しかし、やはり、高年齢者はすくない。1903年を含む1894年までの10年間に生まれた被調査者が1,384名で半数をこえる(57.7%)。そして、この期間は、各年ほぼ同数である。それ以前15年間に生まれた被調査者は、936名で、この期間は、高年齢に向かうにつれて、被調査者数が、次第に減少する(1903年から1879年までの25年間に生まれた被調査者の合計は2,320名で、全体の97%を占める)。

被調査者生年

1868	明治 1 年	2人
1869	〃 2	2
1870	〃 3	3
1871	〃 4	4
1872	〃 5	5
1873	〃 6	4
1874	〃 7	5
1875	〃 8	4
1876	〃 9	1
1877	〃 10	7
1878	〃 11	15
1879	〃 12	11
1880	〃 13	18
1881	〃 14	34
1882	〃 15	17
1883	〃 16	20
1884	〃 17	50
1885	〃 18	44
1886	〃 19	49
1887	〃 20	64
1888	〃 21	83
1889	〃 22	107
1890	〃 23	96
1891	〃 24	107
1892	〃 25	110
1893	〃 26	126
1894	〃 27	134
1895	〃 28	141

1896	明治 29 年	146人
1897	〃 30	136
1898	〃 31	139
1899	〃 32	145
1900	〃 33	135
1901	〃 34	135
1902	〃 35	142
1903	〃 36	131
1904	〃 37	13
1905	〃 38	4
1906	〃 39	1
1907	〃 40	1
1908	〃 41	3
1909	〃 42	1
1910	〃 43	1
1911	〃 44	1
1912	大正 1	1
1914	〃 3	1
1936	昭和 11	1

(2) 居住経歴——いわゆる言語形成期をずっと調査地点で生育し、しかも、それ以後も、よそ(その市・町・村の外)での生活が、兵歴など一切を含めて36か月を越えないもの。

その地点の言語の代表者としては、その土地を一步も踏み出さない人が望ましいと言えよう。しかし一方、男であるからには、多少の在外経歴を持つことも、社会的に異常とは言えない。むしろ、一度も生育地を離れたことのない人は、全体の中で、少数派に属するかもしれない。都会や、漁村など、あるいは出稼ぎの盛んな土地を考えれば、なおのことである。また、3か年程度の在外経歴なら、それほどその人の言語に影響を与えないと考えられる。場合によっては、在外経歴を持つ人の方が、見知らぬ人(調査者)に心を開くと言えることもあるであろう。在外経歴を3か年有するものでも被調査者と認められた根拠は、ここにある。3か年と限定したのは、一般の徴兵制度による入営期間にプラス1年と考えたからである。なお、言語形成期間に移動のあった人は条件からはずれるとして除外したことは、文字通り当然であろう。

実際の調査で、条件からはずれるケースの出してしまうことは、どうしても避けがたい。調査地点を定めた後に、その土地に、条件の合う人が現実に居ない場合があるからである。

在 外 歴  
(兵歴を含む)

0	1,364人
1 ~ 12 か 月	256
13 ~ 24 か 月	453
25 ~ 36 か 月	244
37 か 月 以上	83

言語形成期間での在外歴をもつもの  
うち1年未満のもの

1 ~ 12 歳 以 降	10人	1人
13 歳 以 降	13	2
14 歳 以 降	22	5
15 歳 以 降	21	3

兵 歴

0	1,767人
1 ~ 12 か 月	165
13 ~ 24 か 月	339
25 ~ 36 か 月	101
37 か 月 以上	28

(3) その他——職業・学歴・階層などについては、特に基準を立てなかった。ただし、できるだけその地点を平均的に代表する人であることが望ましいとした。

つまり、80%農業の集落で、会社を経営している人とか、その土地にひとりふたりしかいないような、学歴・階層の特に高い人は望ましくないという意味である。厳しく限定しなかったのは、被調査者選定の困難さを、いくらかでも軽減しようとしたためであったが、一方、居住経歴の条件で、たとえば大学卒業者の大部分ははずれる、と考えたからである。

被調査者2,400名の職業を分類すると、次のようになった。かっこ内の数字は、単業者(たとえば農業のみ)の人数を示す。なんらかの形で、農業に関係を持つ被調査者が、全体の63%を占めることが目立つ。

1 農(養蚕, 牧畜, 果樹を含む—以下同じ)	人 1,514(1,294)
2 林(薪炭, 狩猟)	143 (42)
3 漁(海苔)	194 (126)
4 工(製材, 家具, 窯業, 製塩, 酒造, 凍豆腐, 人形師, 仏師)	91 (74)
5 商(観光, 運送, 僧侶, 神職)	495 (452)
6 鉱(採石, 土木)	3 (2)
7 勤(官庁, 会社)	178 (176)
0 無職~不明	14

この表で、総計が2,400を越えるようにみえるのは、複業者を含むからである。たとえば農業を営みつつ商業を営むものは、1と5の両方に記入されている。

学歴を通覧すると、次表の通りである。小学校(高等学校を含む)卒業者の多いことが目立つ。

0	30人	9 年	83
(1年未満3を含む)		10 年	44
1 年	3	11 年	63
2 年	23	12 年	35
3 年	30	13 年	19
4 年	474	14 年	5
5 年	43	15 年	4
6 年	577	16 年	1
7 年	98	不 明	1
8 年	867		

そのほか、被調査者に関しては、父母の出身地を確かめてある(父母の出身地は、被調査者の条件と考えなかった)。結果を、いまここに示すことはできないが、地図解釈にあたって、参考となるであろう。

### 3. 被調査者の決定

具体的に、この人、と決定するのは、調査者の仕事である。この調査の被調査者としては、以上の条件を満たす人であることは当然ながら、しかも次のような人であることが望ましいと考えた。

- a. 言語感覚が鋭い。意味のニュアンスの違いに鋭敏で、質問に対して適切な答えをする。また、方言と標準語、敬語と卑語、日常語とあまり使わない語や現在使わない語などとの区別がはっきりしている。
- b. ふだん、その土地のその年齢層の人として、じゅうぶんな程度に方言を使っている。
- c. 精神的・肉体的に欠陥がない(もうろくしていたり、歯が抜けて発音がはっきりしない、耳が遠い、絵が見えないなどの人は、被調査者として適当でない)。
- d. その他、調査に協力的である。反応が早い。むだ話をしないなど。

ところが、このaからdにあてはまる人かどうかは、実際に面接した上でなければ、判定できないことが多い。そこで、被調査者の具体的な決定に際して二段階の措置を講じた。

(1) 事前連絡——具体的に心当たりがある場合、あるいは、あらかじめ現地に連絡せずいわゆるブツケ本番の調査を行なう場合を除いて、知人なり公的機関(役場・学校など)なりに事前に連絡して、調査の準備を行なう

ことが多い。その場合、調査の趣旨を説明し、被調査者の目ぼしをつけるために、次の二種のプリントを用意して、調査者の利用に供した。

## 日本言語地図を作る調査について

国立国語研究所 地方言語研究室

国立国語研究所では、昭和32年度を第1年度として、8か年計画で日本言語地図(方言地図)を作るための調査を行なっております。ただいま、北は北海道宗谷岬の北端から、南は沖縄の島々まで、全国でほぼ2,400地点を50人の調査員が緊密な連絡をとりながら現地調査をしております。

日本では古くから方言の研究はありますが、それは、各地の研究者がそれぞれの立場で互いに無関係に調べていたと言ってもいい状態で、日本全国を統一のある企画で同じ時期に調べたということは今まで例がありません。

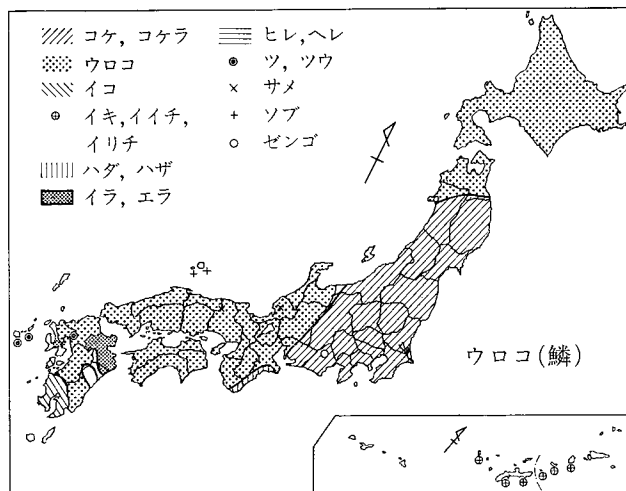
外国では、古くはフランス、ドイツ、最近ではアメリカ、ソ連など世界の多くの国々で、こういう方法で調べた方言地図ができていて、その国の言語の歴史とこれからの変化の方向を探る手がかりが与えられています。日本には、これらに比較できるものはありません。

この調査をやりとげて日本の方言地図が完成すれば、まず、現代共通語の基盤になっている東京のことがどのような性格のものが明らかになります。東京のことが勢力は現在どの範囲に広がっているか、そして、どのように地方の方言の中に浸透して行っているか、また、東京のことに対立した勢力を持つ方言はどの地方の方言が手に取るようになります。

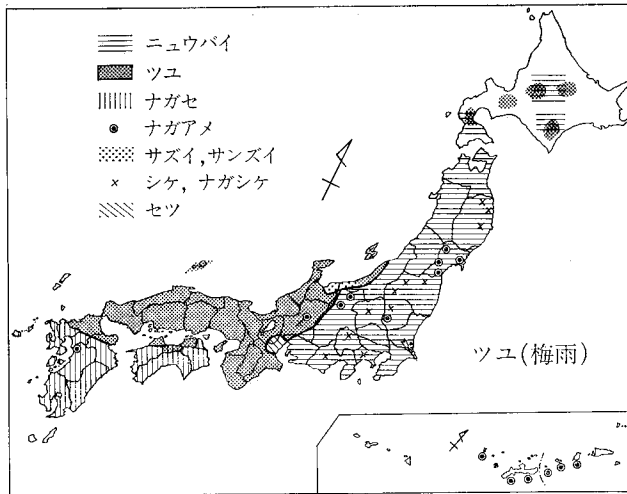
このことは、将来、標準語を確立する際の有力な資料を提供することになり、また、国語教育に役立つ資料を備えることにもなります。

幸いに、各地の協力を得て、計画どおり、りっぱな日本言語地図を作りたいと思います。

参考までに、第2年度までの調査結果の一部をあげておきます。



この図によって、共通語のウロコは、元来は東京のことにではなく、関西系のことにであることがわかります。北海道のウロコは、共通語が新しく広がったものと思われます。



この図によっても同様に、共通語ツユは、東京固有のことばでないことがわかります。しかし、ウロコの時よりもその勢力は強くありません。ウロコに比べると西の方に大きな第3勢力がある点が注目されます。なおツユもウロコも両方とも、共通語形は、その他の地域にだんだん勢力を広げています。

## 方言を話す人を御紹介下さい

国立国語研究所 方言言語研究室

国立国語研究所(文部省)では「日本言語地図」を作るために、いま日本全国で方言調査を行なっています。この調査が成功するかどうかは、調査対象としていい人が得られるかどうかにかかっています。また全国各地で同じ条件の人を調べなければ、結果を一枚の地図にあらわすことはできません。たとえば、男の人と女の人とはことばが違いますから、甲地では男、乙地では女を調べてきたのでは、地図は書けません。年齢などについても大体同じような人を全国で調べる必要があるわけです。

こんど御地が調査地になりましたので、次の条件に合う人を御紹介願いたいと思います。ごめんどうなことで恐縮ですが、よろしくおとりはからいのほど願ひ上げます。

### 1. どういう人を調べるか。

次のような条件をすべて満たしているおじいさんをひとり調べたいのです。

- (1) 明治36年以前に生まれたおじいさん(ただしあまり年をとっているかたは避けたい。せいぜい満70歳ぐらゐまで)。
- (2) 生まれてから満15歳まではよその土地(他の市町村やよその<sup>あそ</sup>字)で生活したことのない人。
- (3) それ以後、よそ(他の市町村)で生活したとしても、その期間が3か年までの人(もちろん、兵隊生活も、よそでの生活にはいります)。

必要な条件は以上の三つです。その人の職業・学歴・階層などは特に決めませんが、御地の平均からいって、あまり特殊でない方がいいのです。いうまでもありませんが、老いこんでしまってわけのわからない人・耳の遠い人・歯が抜けて発音のはっきりしない人・目の見えない人などは調査には向きません。日常の生活に方言を多く使ったかたで、以上の条件にかなった人ならどなたでも結構です。特に方言について研究している人、興味を持っている人である必要はありません。

調べるのは以上のようにひとりでもいいのですが、その人がごつごうの悪いなどの場合のために、同じような人をあと2、3人考えておいていただくと大変結構です。最初のひとりで調査が終わってしまえば改めてお訪ねい



たしませんから、この予備の人にはあらかじめお話しいただかない方がよろしいかと存じます。

## 2. どういうことを調べるか

研究所から、または研究所から委嘱されて出向いた者が、直接お目にかかって、口頭で質問します。これに対して同じく口頭で答えていただきます。内容は、動物・植物の名や、人事・自然に関する簡単な単語で、それを方言で何というか、というようなことです。たとえば、

(例 1) [とんぼの絵を見せて]これを何と言いますか。いろいろ種類がありますが、ひっくるめて何と言いますか。

(例 2) [いたどりの絵を見せて]これを何と言いますか。春先に山道などに生えます。竹のように節があって、折ってかじると酸味があります。

(例 3) 自分の妹のことを、私のオバと言いますか。

といったものです。この例でもわかるように、むずかしいことではありませんから、高い学歴の人である必要はないわけですし、読み書きできない人でもさしつかえありません。ふつうの生活をなさっている人なら、どなたにも答えられるものです。

調査にかかる時間は、人によって違いますが、1時間から2時間ぐらい。

## 3. どこで調べるか

どこでも結構です。御指定のところに参ります。役場なり学校なりへ特にお呼び出しになる必要はありません。

(2) 第1調査票の分立——現地で被調査者の候補を選んでくれている、その人が、ほんとうに、この調査の被調査者として適当かどうかは、実際に面接して、しかもしばらく調査してみなければわからないことがある。

そこで、調査票について、次のように工夫した。まず、第1調査票を開く。第1頁に被調査者の氏名・経歴などを聞き記入する欄がある。ここで最初のチェックを行なう。ついで、第1調査票30項目の質問を行なう。30項目の調査のうちに、この人が、適当かどうかを判定できるであろう。第1調査票が終わったところで、第2のチェックを行なう。

不適当となれば、その人についての調査は、ここで打ち切り、あらためて別の被調査者をさがすことになる(適当であれば、第2調査票以下に進む)。

調査を開始して、途中で被調査者が不適当とわかった場合、相手に調査を途中でやめたという印象を与えるこ

とは、おもしろくない。第1調査票を分立したのは、そこを考えたためであった。こうすれば、ともかく1冊の調査票を全部終えたのであるから、相手に悪い感じを与えないですむ。調査者の側についても、1冊目の調査票が終わったところで判定しなければならぬから、漠然とした不満を持ちながら調査を続ける状態に区切りがつけられて、好都合と考えられる。

なお、全調査の終了した現在、被調査者の氏名・経歴などを聞き記入する欄は、第1調査票の最後につけた方がよかったかもしれないと考えている。面接して、最初に詳しい履歴を聞くことは、調査の場の雰囲気作りをむずかしくすると考えられるからである。また、第1調査票の最後に、調査の流れを中断するそういうものがはいってれば、調査者にとって、ここで判定しなければならないという感じをいっそう強く印象づけることができたかもしれないと考えるからである。

## 調 査 の 実 際

実際の調査がどのように行なわれたかについては、次の5点についてだけ述べる。

(1) 依頼状——調査者が現地調査に先立って、現地の公共機関(役場・教育委員会・学校など)にあてて、所長

発信の依頼状を出す希望のある場合を考慮して下記様式公文書を用意し、実際にも相当利用された。

国 研 庶 第 号  
地 調 ( ) 一  
昭 和 年 月 日

殿

国立国語研究所長  
岩 淵 悦 太 郎 ㊟

方言調査に対する協力依頼について

国立国語研究所では、日本言語地図を作成するために、全国的な規模で方言調査を実施しております。北は北海道から、南は沖縄の島島まで、全国ほぼ2,400地点で調査をいたします。

つきましては、このたび、御地を調査地点として選ぶことになり、が 月 日にまいることになりました。御多忙中のところ、まことに恐縮ですが、なにぶんの御協力を賜われますようお願いいたします。

別に、この調査のあらましを説明し、方言を話してくれる人を選んでもらうために、二種の印刷物を用意したことは、被調査者の決定の項(26ページ)で述べた。

(2) 調査の場所——現地調査はどこで行なうべきか。特に指定しなかったが、調査者たちは、一般に、被調査者の答えやすい場所を選んだ。次表の通りであるが、個人住宅での調査の多かった(69%)ことがわかる。

調査の場所

被調査者宅	1,432
紹介者などの個人宅	225
旅館など宿泊所	113
学校・役場・公民館などの公共施設	586
神社・寺院	25
調査者自宅	1
畑・炭焼場など屋外	4
不明	14

(3) 調査の状況——調査者が被調査者を決定するまでには、その条件が厳しかったために、多くの地点で曲折があった。また、調査を開始してからも、順調に進行した調査が多かった一方、口の重い人であったり、第三者が同席して口をはさんだり、その他さまざまな理由から渋滞した場合もあった。いま、調査者の苦心を含めて、その詳細を示すことはできないが、各地点での「調査の状況」は、調査者からの報告の形で、地方言語研究室に保管されている。

実際の調査の進行を、日録ふうりにまとめたものの一部が、「国立国語研究所年報11」に記録されているので、参照されたい。

(4) 調査所要時間——第1問開始から最終質問を終わるまでの、いわゆる調査時間は、4時間半以上の場合や、1時間以下のものなど、特例はあったが、ほとんどは、2時間半以下、1時間半以上に集中した。もっとも、各地点で調査項目数が一定でないため、一概には言えない面もある。

調査時間	地点数	調査時間	地点数
0.46~1.00	7	3.01~3.15	87
1.01~1.15	68	3.16~3.30	48
1.16~1.30	241	3.31~3.45	25
1.31~1.45	338	3.46~4.00	18
1.46~2.00	407	4.01~4.15	11
2.01~2.15	386	4.16~4.30	4
2.16~2.30	358	4.31~4.45	3
2.31~2.45	245	4.46~5.00	1
2.46~3.00	142	不明	11

(5) 礼状——調査に協力してくれた人に対しては、国立国語研究所として、わずかながらの記念品を用意し、また、調査者の希望がある場合、研究所から礼状(公文書)を出すこととした。調査者個人としても、それぞれ、いろいろな形式によって謝意を表わした。

国 研 庶 第 号  
 地 調 ( ) 一  
 昭 和 年 月 日

殿

国立国語研究所長  
 岩 淵 悦 太 郎 ㊟

さきごろ、当研究所の  
 が御地にまいり、日本語地図を作る  
 ための方言調査をいたしました。その折には、お忙しいところをいろいろと御協力くださり、まことにあ  
 りがとうございました。貴重な資料を得ることができましたことを、心から感謝しております。ただいま、  
 全国から集まった資料とあわせて整理しておりますが、かならず日本語のために有益な結論が得られること  
 と思います。

とりあえず、書面をもって御礼申しあげます。

## 資料の性格と整理の方針

### 1. あらまし

日本語地図作成のための調査によって得た情報は、調査者によって、1地点ごとに、さらに1質問項目ごとにそれぞれ1枚のカードに記入され、その他の資料とともに、地方言語研究室に集められた。その総数は、約540,000枚である。ここでいうその他の資料とは、

- (1) 音声表記法に関する注意書き
- (2) 調査地点に関する情報（調査地点の位置を記入した5万分の1地形図を含む）
- (3) 被調査者に関する情報
- (4) 各地点での調査印象・調査全般に関する感想をさす。

カードの様式

1) (項目番号)	日本語地図 地図( )-14	4) (地点番号)
2) (回答)	3) (注記)	
	○	

### 2. 表 記

各調査者の記録した調査結果の表記は（特定の語形の用法に関する項目を除いて）、さまざまであった。国際音声記号（概略的なものから、かなり精密なものまである）によるもの、カナ（音声記号に準じて使えるよう、補助記号などについて、一定の約束をした）によるものなどがあり、一様でなかった。

なお、各語形のアクセントに関しては報告を求めなかったことを付記する。

### 3. 分 類

センターでは、これらの回答の分類整理にあたって、音声表記法に関する注意書を参照しつつ、調査者間の個人差と認められるものを、まずまとめた。

例：カとkaとka、メーとメエとme:

それ以上の段階での分類・統合は、項目ごとに違う。音声に関する項目では注目した単音・音節などについて、地域的な差の認められるものを、なるべく詳しく区別することとした。その他の一般項目では、音声的な変種まで区別したもの、対応関係にある音変種をまとめた

もの、わずかに差のある語形をまとめたもの、文法的に  
対応関係にある語形をまとめたもの、さらに、かなり違  
う語形でも造語法や発想法が共通すればまとめたものな  
ど、分類の細かさについては、いくつかの段階がある。  
また、1枚の地図の内部でも、あるグループの情報は細  
かく分類し、他のグループの情報は、大まかに分類した  
場合がある。

これらの細かさの各段階は、その項目の情報の複雑さ  
や、地理的分布のありさまなどの観点から決定したもの  
で、各図一様でない。また、分類・統合に際しては、全  
国各地から集められたその項目および関連項目に関する  
すべての情報を全体的関連において取りあつたもので  
あること、および、分類は、比較という観点から行  
なつて、厳密な意味での言語地理学的解釈の結論を示す  
ものではないことを、付言しておく。

各図の凡例に示した語形が、すなわち分類・統合の結  
果であるが、その具体的内容（いかなる表記の情報が含  
まれるか）および、地図には示しえなかつた小変種の分布  
などは、方言言語研究室に保存してある「日本語地図  
資料」に記録してある。

凡例に示した語形の表記は、音声および特定語形の用  
法に関する項目以外の一般項目の場合、大文字のローマ  
字によつた（用字法については、地図集巻頭の概説を参照  
のこと）。これは、音声記号でも、音素記号でもない。音声  
記号で示すとなれば、全国的に現われるいろいろの音変  
種のうち、いずれによって代表させるか決定しにくい。  
また、決定できたとしても、具体的な音声表記では、類を  
まとめる抽象力に欠ける面があると思われる。一方、音素  
記号で示すことは、異なった音素体系をもつ各地方言を通  
じて一貫させることに理論的な困難があり、地理的比較  
の基礎となりにくい面があると考えられるからである。

つまり、この大文字のローマ字表記は、全国各地の、  
異なった音素体系・異なった文法体系の存する地域にま  
たがって分布する、多くの、しかも関連ある諸語形の分  
類・統合の結果を、わかりやすく表示する目的の、言語  
地理学の理論に基づいた特殊な表記といふことができよ  
う。したがって、カナによって表わすことも可能である  
が、母音と子音の性質をひとめで感じるとる便宜のため、  
また、国際性をも考慮して、ローマ字を用いた。大文字  
を使つたのは、他の表記（概略的な音声記号や正書法な  
ど）と区別するためである。

凡例では区別した語形を、地図の題目や、各項目の説

明でさらに大きくまとめて示す場合には、カタカナ表記  
を用いた。たとえば、「フトイ」は、凡例に示した HU-  
TOI・HUTTOI・HUTEE・HUTII・HUTOKA  
などの諸語形をまとめて示す、いわば代表語形というこ  
とができる。

#### 4. 地図への記載

調査者から寄せられた情報は、地方言語研究室で以上  
のように分類整理されるが、さらに、色および形によって  
相互に識別される符号に変えられて、「方言調査基礎図」  
（具体的にはB2版の白地図である）上に記載される。音  
声記号そのままを記入したり、同じ回答の分布する地域  
を塗りつぶしたり、等語線によって分布地域を示したり  
する方法はとらなかつた。符号に変えたのは、分類整理  
の結果を相互関連的に見やすく示すためであり、地域を  
限って示す方法をとらなかつたのは、各地点からの回答  
を、できるだけきめこまかく示したかつたからである。

一個の符号は、特定の調査地点からの一情報を示して  
いる。二個以上の符号が並びへ印でくくられているもの  
は、一地点から二つ以上の情報が寄せられたことを示し  
ている。無回答の場合も、そのむね符号によって示し  
た。

符号を与えるにあたっては、できるだけ分類の原則を  
反映するように考慮し、さらに地理的分布を明瞭に示す  
ことができるよう工夫した。すなわち、ある次元による分  
類は色の区別や濃淡によって示し、他の次元による分類  
は形の区別によって示し、さらに、別の次元による分類は  
符号の大小とか方向の違いなどによって示すように心が  
けた。また関連する数項目の地図に同じ語形が現われる  
場合は、できるだけ共通の符号を使いよう、さらに音声  
上・文法上のある特性が数枚の地図に一貫して現われる  
場合は、できるだけ一定の原則によって統一するよう努  
めた。ただし、たとえば歴史的に同系統の語形に同じ色  
の符号を与えるとか、各図一貫して古い語形に、ある一  
定の傾向の形の符号を与えるとか、標準語と一致する語  
形は一定の符号によって示すとかいう方針は、とって  
いない。

研究室に集められた各地点からの情報には、表現の新  
古や、上品か下品か、共通語的か俗語的かに関する直接  
的な情報のほかに、補足的な注や、その語形を答えると

きの被調査者の状況（笑いながら答えた、自信なさそうに答えた、なかなか思い出せずやっとなら答えた）、調査の場に居あわせた第三者の発言、調査者自身の意見などもある。これらは、そのまま地図上に反映させることはできなかつた。しかし、このうち特に注意すべきものは、各項目についての説明で触れ、残りは研究室に保存してある「日本語地図資料」に記録してある。

ただし、同一地点から二個以上の回答があつて、一方の標準語と一致する回答に、共通語的である・新しい・上品である・改まった場合に使う・まれにしか使わない、およびこれらに準ずる説明がある限り、原則としてその回答を地図に記載しなかつた。したがつて、逆説的には、この点に限つて地図上に反映させたと見えよう。標準語と一致する表現を、これらの状況でしか使わないということは、この説明を記録しなかつた他の地点でも同様なことがありうる。記録のありなしを根拠に、地図に記載するかしないかを決定することは、かえつて混雑化をまねくと考えたためである。

標準語と一致する表現には説明がなく、逆に、他方の標準語と一致しない表現の方に、方言的である・古い・下品である・俗語的である・よく使う、およびこれらに準ずる説明がある場合は、上述の場合の逆とも考えられ、多少問題は残るが、この場合は、標準語と一致する表現の〈共通語的である〉などの性格が、いくぶんなりとも積極的でないと考えて、ともに地図上に示した。

なお、カードに記載された情報を分類整理し、いくつかにまとめられた情報の類に対してそれぞれ符号を与え、日本語地図が完成するまでには、研究室において、地図ごとに、幾度かの分類整理の改訂や符号の変更が繰り返されたことを付記しておく。地図完成までの詳しい手順については、機会を改めて解説するつもりである。

## 5. 方言調査基礎図

ここで、情報を記入した「方言調査基礎図」について説明しておこう。ただし、日本語地図第1集の巻頭にある「参考地図Ⅰ・調査地点番号地図」の凡例にも説明があるので、ここでは基本的な問題にだけ触れる。

方言調査基礎図とは、いわば、調査地点の番号を全国一貫した方針で付けるシステムである。調査結果を整理して記入するためには、各調査地点にそれぞれ番号を

付けることが便利なことは、言うまでもなからう。地名をそのまま使わなかつたのは、地名では長くなるし、位置を見出すのに困難があり、さらに地名には変更があるためである。

ところで、地点の番号は新しく与えるのであるから、いかようにも付けることができる。しかし、恣意的な方法より、統一した、組織的な付け方のほうがまさつていふと言えよう。この場合、端から通し番号を付けることも考えられるが、平面を扱う場合には、一定の方針を立てることがむづかしい。また、この方法では、補充調査の地点番号を付けるときに問題がある。

そこで、日本語地図作成に際しては、ひとりこの調査に限らず、あらゆる地理的な言語調査、さらに言えば、あらゆる地理的調査に使うことのできる地点番号のシステムを考えたい。このシステムによれば、具体的なある地点は、いかなる場合も常に、調査者・調査時にかかわらず同じ番号によって現わされ、しかも、各地点番号間には一定の組織があり、システムさえのみこめば、地図上で、ただちにその位置を見出すことができる。

このシステムの根本は、100進法(100分法)を用い、かつ経度・緯度によるということであり、実際には、国土地理院発行の5万分の1地形図を利用するというのである。経度・緯度は、不変と考えていい。また、5万分の1地形図は、現在、日本全土を覆う、しかも我々にとつてもっとも身近な、正確で詳細な地図である。

なお、このシステムによる地点番号は、地球表面のある点の位置を示すものではなく、ある面積をもつた地域(正確に言えば二本の経線と二本の緯線によって限られた地域)に与えるものであることを、注意しておこう。

具体的な問題となるが、現実の調査地点が、二つ以上の網目にまたがる場合は、次のように処置したことを付記する。

- (1) どちらの網目に多く含まれているかによって決定する。

図1の場合は1234.57と認める。

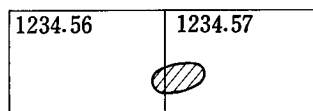


図 1

- (2) どちらともつかぬ場合は、若い番号の網目に含まれているとみなす。

図2の場合は2345.67と認める。

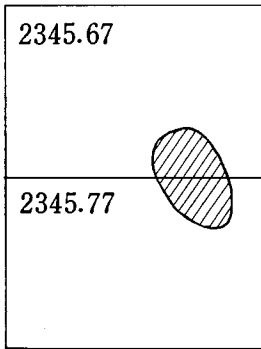


図 2

- (3) 三つ以上の網目にまたがる場合も同じ。

図3 Aの場合は5566.00, 図3 Bの場合は7777.79と認める。

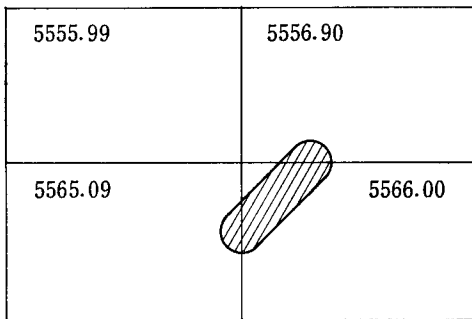


図 3 の A

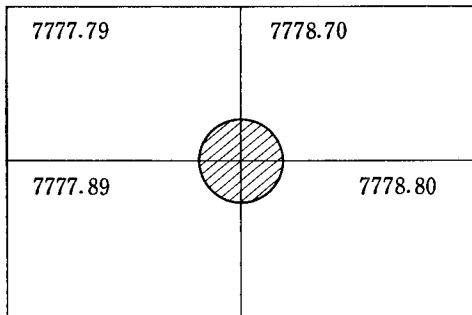


図 3 の B

また、現行の5万分の1地形図の大部分には、経度について、10''4の測量ズレがあるので、注意を要する。

どの図にズレがあるかは、各図版の経度表示によって、ひとつひとつ確かめなければならない。10''4のズレとは、言いかえれば、地形図には、基礎地図のます目に対して、わずかばかり東に寄った地域が記載されているということである。地形図上の1点が、何番であるかを知るためには、単純に、地図外枠を基準に100分(さらには10,000分)してはならない。ズレのある場合は、100分のます目を西に10''4(5~6mm。図によって違う)ずらす必要がある。つまり、ズレのある地形図の図面には、東接する地形図に含まれるべき地域の一部が記載されており、当面の図面に含まれるべき地域の一部が、西接する地形図に移っていることを意味する。

海外の離島についての5万分の1地形図のうち、あるものは、その外枠が、われわれのシステムと一致しないものがあることにも注意したい。例：山形県「飛島」、東京都「八丈島」、鹿児島県「喜界島」など。

さらに5万分の1地形図の中には、1枚の図面に、東西15'南北10'の枠からはみだす部分を併せて記載するものがあることにも注意したい。例：福島県「相馬中村」茨城県「潮来」、福井県「福井」、静岡県「浜松」など。

これらは、現行の5万分の1地形図が、節約のため例外措置をとったものと考えて、現行地形図面にこだわらず、東西2°30'南北1°40'のブロックを100分する方式でます目をかけた。

この調査について、各地点に番号を与える仕事は、調査者が、自ら調査地点を記入した5万分の1地形図をもととして、研究室において行なった。

## 6. その他の資料

(1)音声表記法に関する注意書き、(2)調査地点に関する情報(調査地点の位置を記入した5万分の1地形図を含む)、(3)被調査者に関する情報、(4)各地点での調査印象、および調査全般に関する感想などは、すべて研究室に保管されているが、機会を改めて公刊したいと思っている。さらに、調査者自身の言語が調査結果に多少とも影響する場合があると考えられるので、調査者の経歴と、調査項目に関する調査者自身の言語が記録され、保管されている。

# 沿革と経過

## 1. 日本の言語地理学の歴史

日本の言語地理学は、上田万年がドイツ留学から帰朝して企画した国語調査委員会(1902年文部省内に設置)の調査にはじまる。1903年9月、同委員会は「主トシテ普通教育ニ於ケル仮名遣ノ改正及ビ標準的発音ノ参考ニ供センガ為メ」音韻についての調査事項29箇条、「専ラ標準語制定ノ参考ニ供センガ為メ」口語法(話しことばの文法)についての調査事項38箇条を選んで、全国各府県に、現地のことばの調査を委嘱した。報告書は、上田万年主査委員のもとで整理され、まず、1905年3月「音韻調査報告書」1冊、「音韻分布図」29面、ついで、1906年12月「口語法調査報告書」2冊、「口語法分布図」37面が刊行された(1956年10月、「音韻分布図」中の4面、「口語法分布図」中の16面の複製を中心とした「日本方言地図」が、吉川弘文館から刊行されている)。これが、日本語の地域差を地図上に描き出す、日本の言語地理学第一回の調査であり、しかも、この66面の分布地図こそが、「日本言語地図」に先立つ、日本全域を対象とした、現存唯一の方言分布地図である。

国語調査委員会は、引き続き、市郡単位の精査をめざして、1908年3月、音韻について41条、口語法について90条の調査事項を選んで、ふたたび各府県に調査を委嘱した。報告書は、約900通にのぼり、岡田正美が主査となって整理に当たったが、出版の運びにならないまま、1923年9月の関東大震災に、報告書、350枚の分布地図など、この調査に関するすべての資料が焼亡してしまった。かえすがえす残念なことであるが、これが、日本の言語地理学第二回の調査である。

その後、20年間ほどの沈滞期を経て、言語地理学は、ふたたび活動をはじめた。

スイスから帰朝した柳田国男が、1927年4月以降「人類学雑誌」に「蝸牛考」を連載しはじめたのが契機である(「蝸牛考」は、その後、改訂を加えられつつ、1930年刀江書院から、さらに1943年創元社から、単行本として

刊行された)。この「蝸牛考」の発表こそ、方言分布を基礎として言語の歴史を解明する、日本の言語地理学の、真の誕生と言えようか。明治期の調査は、これと比較すれば、単に、言語の地理的差異の事実を明らかにしたにとどまる。

この研究を発端として、ひきつづきいくつかの言語地理学的研究が発表された。1928年、東条操の「方言採集手帖」の刊行も、当時の方言研究界に刺激を与えたと考えられる。しかし、当時の調査結果のうち、地図として刊行されたものはかならずしも多くなく、全国を対象とするものは、ほとんどなかった。

また、理論的研究としては、前記「蝸牛考」と、1934年以降奥羽方言の調査を行なった小林好日の研究(その結実である「方言語彙学的研究」は、著者の没後1950年に公刊された)などを挙げうるにとどまる。ヨーロッパの言語地理学研究もいくつか紹介されたが、あまり学界の反響を呼ぶことはできなかった。

第2次世界大戦をはさんで、学界の活動は、再び沈滞期にはいった。

戦後のあけぼのは、土川正男「言語地理学」(1948年)であろう。言語地図としてこの期の初頭を飾るものは、藤原与一による、中国・四国地方を対象とした *A Dialect-Geographical Study of the Japanese Dialects* (1956年)と、石黒武頭「鳥取県方言分布の実態」(1957年)であろう。かくて、「日本言語地図」作成のための調査は、これらにすぐ続いて開始されたことになる。すなわち、20世紀の後半にあたり、日本の言語地理学は、みたび活気を取りもどしたと言ってよからう。

それ以後のこの学問の発展については、いま詳しく述べないが、各地でいくつかの本格的調査が行なわれ、数十編の新しい学術論文が発表され、少なからぬ若い研究者が育ちつつあることを記しておこう。ただ、この期の諸研究に、1950年に来朝し、以来ずっと滞日しているベルギーの言語地理学者 *W. A. Grootaers* の影響が、陰に陽に働いていることは、忘れられない。

## 2. 日本言語地図の経過

1948年12月	国立国語研究所設置（評議員会において、言語地図作成の提案があった）
1955年～1956年度	日本言語地図作成のための準備調査（2か年）
1957年～1964年度	現地調査（8か年）
1957年～1961年度	前期調査（5か年）
1962年～1964年度	後期調査（3か年）
1958年度以降	沖縄が調査地域に加わる
1965年度以降	検証調査

調査結果の整理・編集・刊行

第2次世界大戦終結後間もなく、1948年12月、文部省所轄研究所として、国立国語研究所が設置された。設置法第1条には「国語及び国民の言語生活に関する科学的調査研究を行い、あわせて国語の合理化の確実な基礎を築くために、国立国語研究所を設置する」とある。

この国立国語研究所の事業として「日本言語地図」作成の計画が芽生えた時期は、いまつまびらかでない。しかし、日本全国を対象とする言語地図の作成は、久しく学界の待望するところであった。研究所には、評議員会という機関がある。事業計画・調査研究の委託その他重要事項について審議し、所長に助言する機関であるが、ごく初期のある評議員会の席上で、評議員東条操がこれを強く主張し、同中島健蔵が支持したことが伝えられている（記録では確かめえない）。

「日本言語地図」の作成を、国立国語研究所地方言語研究室の事業として、特に、地方研究員の協力によって実現する計画がスタートしたのは、1955年のことであった。年度のはじまる同4月から、二か年の準備段階にはいった。地方言語研究室員による数回の準備調査と、二回にわたる地方研究員に対する委託研究調査との結果から、次第に実施計画がまとまっていく。

この期間に、地方研究員が一堂に会する「地方研究員全国協議会」が、二回東京で行なわれている。1955年11

月21日と、1956年11月12日とである。1955年の全国協議会には、引き続き「日本の言語地理学」と題する公開討論会が、国立国語研究所主催で開かれた。発表者と題目は次の通り。

日本の言語地理学	柴田 武
調査の地点について	石垣 福雄
調査語の選び方	西宮 一民
語彙より語法を	前田 勇
どういふ項目を選ぶか	徳川 宗賢

1957年4月、新しい年度が始まると同時に、本調査に着手することになった。現地調査の皮切りは、同年6月24日、岡田荘之輔の行なった兵庫県朝来郡山東町矢名瀬での調査であった。以降1965年8月14日、加藤正信による鹿児島県熊毛郡上屋久町永良部島本村での調査まで、8か年の調査が続く。調査地点の網の目は、北海道から沖縄に及び、総計2,400、調査者は65名であった。調査は、1957年～1961年度（5か年）の前期計画と、1962年～1964年（3か年）の後期計画とにわけて行なわれた。沖縄が調査地域に加わったのは、1958年度以降であったことを付記しよう。

なお、1965年度以降は、専ら研究室が行なう調査結果の整理、編集刊行が主要な事業となったが、ほかに、「日本言語地図」の資料の性格を明らかにするための検証調査が、数回にわたって行なわれた。その結果については、別に発表する予定である。

## 3. 分 担 者

ここでは、調査の準備段階・実施段階（1955年度～1964年度）の関係者のみを掲げる。それ以降の整理・刊行段階の関係者は、刊行完了の際に示す予定である。

地方言語研究室長\*

柴田 武\*\*

地方言語研究室員\*\*\*

野元 菊雄

上村 幸雄

徳川 宗賢\*\*\*\*

\* 林大が1964年9月から1965年3月まで事務を取り扱った。

\*\* 1964年9月、東京外国語大学に転出した。

\*\*\* ほかに北村甫が1955年5月まで在職した。

\*\*\*\* 1955年6月から。



地方研究員(準備段階--1955・56年度--のみの関係者7名を含む)

(担当地域)	(氏名)	(番号)	(分担期間)										
			55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	
北海道	五十嵐三郎	01	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		02			○	○	○	○	○	○	○	○	
		03	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
青森	森手城	04	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		05	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		06	○	○	○								
秋山	田形	48				○	○	○	○	○	○	○	
		07	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		08	○	○	○	○	○	○	○				
福島	島	59									○	○	○
		09	○	○	○	○							
		53						○					
茨城	城	54							○	○	○	○	○
		10	○	○									
		55			○	○				○	○	○	○
栃群	木馬玉	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		13	○	○	○								
千葉	葉	52						○	○	○	○	○	○
		14	○	○									
		57			○	○	○	○			○	○	○
東京	京	15			○								
		49				○	○						
		14						○					
神奈川	川	58								○	○	○	○
		15	○	○	○								
		49				○	○	○	○	○	○	○	○
新富	山	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		17	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
		17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石福	川	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山長	野	20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		21											
		21		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐静	岡	22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

	(担当地域)	(氏名)	(番号)	(分担期間)																
				55	56	57	58	59	60	61	62	63	64							
愛	知	野村正良		○	○															
三	重	山田達也	23			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		堀田要治	24	○	○	○														
		杉浦茂夫	47			○	○	○												
滋	賀	慶谷寿信	56							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		熊谷直孝		○	○															
京	都	寛大城	50				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		奥村三雄	25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大	阪	遠藤邦基	60													○	○	○	○	○
		前田勇	26	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵	庫	西宮一民	29														○	○	○	○
		和田実	27	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
奈和鳥島	歌	岡田莊之輔	28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		西宮一民	29	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥島	歌	山村英一	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		取根戸重	31	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡	山	岡義重	32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		広戸惇	31																	
岡	山	虫明吉治郎	33	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		村岡浅夫	34	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
徳香愛高福佐長	島	渡辺保陽	35	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		阿宮城文雄	36	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高福佐長	島	川近石泰秋	37	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		媛杉山正世	38	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高福佐長	島	知土居重俊	39	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		岡都築頼助	40	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐長	島	賀小野志真男	41	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		崎西島宏	42	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
熊大宮鹿沖	見	小野志真男	41													○	○	○	○	
		秋山正次	43	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大宮鹿沖	見	糸井寛一	44	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		崎岩本実	45	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鹿沖	見	島上村孝二	46	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		繩仲宗根政善	51				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		外間守善	61																○	○

地方言語研究室研究補助員\*

白沢 宏校\*\*

\* 別に、1956年3月まで渡辺泰、1956年9月まで山下道代、1956年9月から1957年3月まで石塚房江が在職した。

\*\* 1957年4月から。

## INTRODUCTION

1. Aim of the survey .....	39
2. Method of the survey .....	39
3. The Questionnaire .....	39
4. Localities .....	41
5. Informants .....	42
6. Dialect Material and Classification ...	43
7. History .....	45

### 1. AIM OF THE SURVEY

The Linguistic Atlas of Japan uses the geographical method and aims to clarify, as far as a limited questionnaire will allow, the two following problems:

- (1) The formation of the modern Japanese standard language.

When the ancient city of Edo, at the end of the 19th century, became the capital of a modern state under the name of Tōkyō, its language became the core of the modern Japanese standard language. As a further evolution, in the first decades of the 20th century, the spoken language of Tōkyō was taken as the base of the modern written language. It is, however, not clear yet to what extent the dialect of the Kantō region (the region surrounding Tōkyō) furnished the basic linguistic material of the standard language, or to what extent elements of other dialects were incorporated in the process. The geographical range of the modern standard language, has yet to be defined exactly and its relationship with the surrounding dialects is unclear.

- (2) the dialectal differences in Japan and their history.

The shaping of the different varieties of dialects in Japan and their evolution needs description. One would like to know, for in-

stance, the range and the influence exerted by the language of Ōsaka, as the economic center of western Japan. The birth, the rise and the decline of many dialects have yet to be described.

### 2. THE METHOD OF THE SURVEY

The Linguistic Atlas of Japan is entirely based on personal interviews; 65 fieldworkers visited personally their allotted area, choose a suitable informant, and using a 285 item questionnaire (when necessary also 88 pictures), asked questions following a determined phraseology. As a rule, only one informant was chosen for each of the 2400 localities covered by the survey.

The aim of the survey was to record the personal speech used by the informant in familiar and daily surroundings. In some cases, the answer could be a dialectal form identical with the standard form. Note was also taken of the dialectal forms which were declared to be no longer in use, to be limited to special circumstances, to be archaic or to be recent innovations. In every case, care was taken to note the exact pronunciation. The following signs were used to show the reactions of the informant to the questioning:

- ! : answers laughing
- ? : shows some doubt
- : : shows some shame
- # : after some pause
- \* : corrects himself

### 3. THE QUESTIONNAIRE

#### 3.1. Types of questions

- (1) All the questions were written be-

forehand, and the fieldworkers were instructed to avoid all modifications in the phraseology. Pictures and gestures were to be used as prescribed. This was to assure the necessary uniformity in the responses, in spite of the great number of fieldworkers, 65 in all.

Each question was supposed to elicit one single word or expression, as for instance:

question 70 : when you are tickled on the sole of the foot or under the armpit, you have to laugh; what do you say to express this feeling?

question 71 : when you fold your feet under yourself when sitting, like this (showing a picture), what do you say you are doing?

During the questioning, no suggestions were allowed of the standard language answer or of the dialect forms. Our survey could not use the translation technique for two reasons: first, as a result of the Japanese educational system, most speakers are bilingual, using the standard language or their dialect according to the situation; second, the standard language and a dialect may have the same linguistic form, with a different semantic range; for instance, *aza* (birthmark) and *hokuro* (mole) are called by identical names in some districts, while in others birthmark is *hoyake* and mole is called *aza*. It would never do in this case to ask simply for "the local name for *aza*".

(2) The S-questions. Besides the normal questions described above, some other form of questioning was chosen to investigate semantic problems. In the case of 43 items, marked in the questionnaire with the letter S (=semantic), the fieldworker furnished a linguistic form and asked the informant to give its meaning. Here two different kinds can be

distinguished, as is made clear by the following examples:

question 141 S : when one says "the *niwa* of the house", which part is meant?

(This type of question furnishes the word and asks for its meaning.)

question 142 S : speaking of the *doma*, namely the unfloored part of the house, do you use the word *niwa*?

(This type of question furnishes the meaning, and asks whether a given word is used.)

(3) A third type of question is the one presenting a choice to the informant. This was done to ascertain the range of some standard language expressions. These questions, five in all, have a C (=choice) attached. Here is an example:

question 253 C : when you eat something that pleases you, do you say "*oisii*", or "*umai*", or do you use another word?

(*oisii* is the standard for "tasty".)

(4) Finally a certain number of questions were meant to ascertain some phonetic characteristics. The question was put in the same way as in the first type above, but as lexical uniformity was known to exist, the aim was the phonetic aspects of the answer. As an example:

question 260 : this part of the body (showing the whole back) is called...?

(The word for back is *senaka*, with different degrees of palatalization of the initial *s*).

### 3.2. Surveys done in common

To assure a greater uniformity in the questioning, one of the members of the directing dialect bureau from Tôkyô, accompanied

the local fieldworkers during the survey of one or more of the assigned localities. The technique of selecting an informant and the method of questioning was then demonstrated. As a result no less than 221 localities were surveyed by one of the directors. Since these localities are equally distributed over the whole territory, their materials furnish a way of checking on the quality of the phonetic transcription of the fieldworkers.

### 3.3. Length

The questionnaire had 285 items. Because of budget limitations, our choice was severely restricted. Words of daily use and words with a great lexical variety make up the majority.

Main contents:

- (1) Man: human relations, human body, feelings and judgments, actions, life outside the house and inside the house, recreation.
- (2) Nature: time, weather, ground, animals, plants.
- (3) Verbs, adjectives and others.
- (4) Phonetic items.

### 3.4. Preparation of the questionnaire

The questionnaire used did not have from the start the whole set of 285 questions. Some questions were dropped and some were added. The first years the two books of the questionnaire had 230 items. From the fourth year, a third book was added with 27 items, and 11 items were dropped. From the fifth year, a fourth book was added with 28 more items. Fifty nine more items were dropped in the sixth year, when the second period of the survey started, and at that time the number of localities to be visited was restricted for 38 items.

This means that an unequal number of localities was surveyed for each item of the questionnaire. The number of localities is indicated on each map. The general situation is as follows: 128 questions were put in all of the 2400 localities; 36 questions in 2000 localities, 55 questions in 1700 localities, 62 in 1000 and 4 in only 400.

### 3.5. Selection of the questions

As was noted above, in order to cover a part of the daily lexicon, very common words were asked. For the same purpose some standard words were made the object of the C-questions. Among the other words asked, some were chosen because they were known to have peculiarities in their distribution, or in their history. Lexical association was also taken into account, so as to cover several lexical groups in which the words through lexical association were thought to share a common evolution. The phonetic items were expected to furnish material for both the linguistic study of the standard language and for the comparison between dialects. A few questions will probably contribute to our understanding of the grammar of the Japanese dialects, but specific morphological and syntactic questions had to be left out because of the limitations of the survey.

## 4. LOCALITIES

The number of surveyed localities is 2400, covering the whole territory of the Japanese dialects, from Hokkaidô in the north, to the most distant island of the Okinawa archipel in the south. On an average about 6 localities were surveyed in every 1000 square kilometers, or an average of about 12 kilometers separates each surveyed locality. One inhabitant was

interrogated from each 40,000 people, but since the survey chose only male informants born before 1903, and since we know that there were 4,800,000 males of that age in the whole of Japan (1960 figures), our survey actually reproduces the speech of one out of 2000 of that stratum of the population.

The list of all surveyed localities is given on page 47. To allow for comparison between our Linguistic Atlas and the main atlases published abroad, we give a comparative table on page 20. Another table furnishes details on the chief industries of the surveyed localities, see page 22; we may note here that 80% of all localities were purely agricultural communities.

#### 4.1. Selection of the localities

During the first five years of the survey, 1665 localities were surveyed. Their final choice was left to the fieldworker himself, after the following factors had been taken into consideration by the central bureau:

- (1) Communities of a too limited type of occupation or social structure were avoided.
- (2) Newly built-up places, with an immigrant type of population were avoided, but not urban or commercial communities.
- (3) Communities presenting a too divergent linguistic type from the surrounding area (like gypsies) were avoided.
- (4) Small islands, even of very limited population, were not left out.

During the second phase of the survey which lasted three years, 735 localities were visited. These localities were chosen by the central bureau of the Linguistic Atlas, after

careful consideration of the dialect maps of the first five years.

## 5. INFORMANTS

For each locality we chose one male informant, born before 1903. Our purpose was to take down the living language of each region, and also to study the formation of the contemporary standard language. We chose an older person because the language of the older generation has a greater chance to present a well-balanced linguistic system. On the other hand, since the survey was done by questioning, some artificiality was introduced in the linguistic expression. The type of language registered in this atlas may be thought to represent a somewhat newer type than the daily conversation held privately by our informants.

To insure uniformity in the language samples, we had to choose representatives of the same sex. We tried to choose men because in Japan it is difficult to find in smaller communities women born and raised there; most of the women are married outside of their villages. Another reason for choosing men is, of course, that it is easier to keep up natural conversations with male informants, who have greater social poise. Even so, eight of our informants had to be chosen from among women.

The informants represent the following age brackets:

born between 1894 and 1903: 1384 or 60%;  
born between 1878 and 1893: 936 or 39%;  
a very small number were older or younger than these two groups.

#### 5.1. Personal characteristics

The informants were chosen from those born in the given locality, or at least from those who spent the time from the age of 3 to 15

without interruption in the given locality. We avoided those whose residence in the locality had been interrupted by significant absences, that is by longer than 36 months, the military service included.

No professional or social limitations were imposed, but we tried to choose only people who represent the general trend of occupation of their locality. The occupation of the informants were mainly:

agricultural work:	63%
commerce:	21%

Their education level represents the general level of the Japanese population. Education has been compulsory in Japan since 1871, and as a consequence 99.9% of the people are literate. Most of our informants went to primary school (88.3%), a tenth went further (10.60%), and only a few had no formal education.

#### 5.2. Selection of the informants

The final choice of the informant was left to the fieldworker. The latter was often a native of the prefecture and was always known professionally in the education circles of the region to be surveyed. He could therefore rely on acquaintances or colleagues to make the first contacts. Even after an informant was found who seemed to meet the necessary qualifications, a last precaution was taken. The questionnaire was printed in two books of unequal length. The first part contained only 30 items, and was used as a first trial of the chances of success with the chosen informant. If he did not live up to expectations, the fieldworker, reaching the end of the first book, declared the survey ended; the informant was thanked and sent home without losing face. Another informant was then found with whom the first book of

the questionnaire was used again.

#### 5.3. Interviews

The interviews were held mainly the informant's house (69%), while in 25.5% of the cases some kind of official building was used (school, village office, etc.). Some 4.7% took place at the local inn, and the rest outdoors. The time necessary to answer the questionnaire differed somewhat according to the length of the successive questionnaires; generally speaking it took most fieldworkers more than one and a half hours and less than two and half hours.

### 6. DIALECT MATERIAL AND CLASSIFICATION

After filling out the questionnaire, the fieldworker was asked to copy each answer on a separate card. The cards representing the materials of one locality were then sent to the central bureau in Tôkyô. 540,000 cards are kept there as the original material of the survey.

The phonetic recording used by the fieldworkers could not be made uniform because of their lack of instruction in the use of the International Phonetic Alphabet. Most among them did use this alphabet; however, a few used the Japanese kana-syllabary, to which a certain number of signs had been added under the direction of the central bureau. One must remember here that almost a tenth of all localities were surveyed by the members of the Linguistic Atlas bureau, who used exclusively a narrow transcription of the IPA. Their material was used successfully as a means of checking the exact values of the kana-transcription of the field-workers.

The linguistic forms shown on the maps of the atlas are written in capital letters to distinguish them from other transcription systems.

This system may be said to constitute a broad phonetic transcription. For each map, the editors chose the characteristic elements to be shown by the color scheme and by the shape of the signs. The opposition marked thus between the different linguistic forms will be sufficient to show to the user of the Atlas the phonetic value of the transcription. The choice of color and signs puts into a visual form the dynamism of the dialectal history, and the commentary appended to each map gives the first tentative interpretation.

A short example will not be out of place here, to show the reader how the phonetic values can be read from the map. For instance, let us consider the case of map 40, which gives the dialectal material corresponding to the word of the standard language: *karai* "sharp, pungent (taste)".

The red color represents the lexical form KARAI and its phonetic variants. A few aberrant lexical forms are represented by KARAKYA (island of Hachijō), KARAKA (western half of Kyūshū), by the various Ryūkyū forms KARASA, KARASAN, KARAMUNU, etc... which show a divergent morphology, and finally by a few special forms on the main islands, such as NANBAN-KARAI, TOOGARASI-KARAI, etc...

Coming back to the phonetic variants of the main form KARAI, we note that the ending -AI of the adjective is found in the dialects written in the following ways: KARAI, KAREE, KARE, KARYAA, KARYA, KARAA, KARUI, KARI, KARI, KAI, KAARE. The method we followed was to group, for instance, under the heading KARAA the notations of the fieldworkers: [kara:], [karæ:], or the kana-

syllabary notation カラア. Similarly, under the heading KARAI, were grouped the following notations [karai], [karaï], [karai], [karæi], etc. . ., or the kana-syllabary notation カライ.

The central bureau's interpretation of the various notations is of course based upon an exhaustive phonetic experience of the various dialects, acquired during the survey itself. This interpretation is strongly vindicated by the clearly defined geographical distribution of each form shown by the map.

Further elements of interpretation are given by the informant's comment ("old word", "new form", etc.) or by the fieldworker's notes. These have been helpful for the map interpretation, and they will be published in a later volume. When two linguistic forms have been recorded in the same locality, they have been both marked on the map. When, however, one of the two is the standard language form, and when, in addition, this fact has been noted by the informant ("this is the new polite form", "this is the word used in the school", etc.), in this case only, we have omitted from the map the form marked in such a way.

#### 6.1. Basic map

The map used in the Linguistic Atlas of Japan is the Basic Map shown at the beginning of volume I. The numbering of all localities has been planned in such a way that the geographical location on the map (latitude and longitude) of each locality can be read from the figures used. This system is meant to be used in all future investigations in Japan. Its advantage lies in the fact that the location on the map of the smallest human settlement in the country can be expressed by a sequence of eight numbers.



## 7. HISTORY

### 7.1. History of the linguistic geographical method in Japan.

We refer the reader first to a detailed account of the beginnings of linguistic map making in Japan published in *ORBIS* (W.A. Grootaers, *Les débuts de la géographie linguistique au Japon*, vol. VI, 2, 1957, 342–352). One will find there a detailed description of the first linguistic atlas of Japan (and one of the first to be published in the world). The author UEDA Mannen (1867–1937), studied three years (1890–1893) in Germany with Sievers, Paul and Brugmann, and he came back to Japan with an idea for a grammatical and phonetic survey by the correspondence method, similar to Wenker's *Deutscher Sprachatlas*. The phonetic atlas (29 maps) was published in 1905, the grammatical atlas (37 maps) in 1906, each with an explanatory volume. This work furnished Japanese linguistics with the first general description of the main dialect groups. The *ORBIS* article gives a detailed description of these works.

If Ueda represents the influence of the German school of dialectology, the Swiss-French school is represented by YANAGITA Kunio (1875–1963). Already the founder of the scientific study of folklore, Yanagita went to Genève in the nineteen-twenties where he followed the lectures of Eugène Pittard (1867–1962), from whom he learned about the map method. His famous work *Kagyû kô*, *The names of the snail*, first a series of articles (1927), was published as a volume in 1930, and in a revised version in 1943. This book is the first truly scientific study of dialect geography. For the first time, a dialect map

was analyzed, and the areas of word distribution provided the basis for a thorough historical study of the dialect forms.

The founder of modern Japanese dialectology, TÔJÔ Misao (born 1884), has been introduced to the foreign reader in *ORBIS* (W.A. Grootaers, *Tôjô Misao's influence on Japanese dialectology*, vol. II, 2, 1952, 565–569). Tôjô gave a great impulse to dialect surveys by the publication of his *Hôgen saishû techô* *Questionnaire for dialect surveys*, (1928). After Yanagita's book, however, one very seldom finds dialect studies using maps, and there are few maps which cover more than a small part of the country. Of scientific value was the work done in northern Japan by KOBAYASHI Yoshiharu (1886–1948), which was only presented to the public in his posthumous *Hôgen go'igakuteki kenkyû* *Studies of Dialectal Lexicography* (1950). With a thorough knowledge of European dialect geography, especially of the Gillieron method, Kobayashi published and analyzed many dialectal maps. His influence in the scientific community, however, was practically nil.

The situation of dialect geographical studies in Japan shows a great amount of progress after the end of the war. One of the first works to come out was TSUCHIKAWA Masao's *Gengo chirigaku* *Dialect Geography* (1948). His work mainly concerns the dialects of Nagano prefecture. A broad area of western Japan was explored with a correspondence survey by FUJIWARA Yoichi's *A Dialect Geographical Study of the Japanese Dialects* (in English), 1956, *Folklore Studies*, volume XV (see book review in *ORBIS*, vol. VI 2, 1957, 534–540). Finally ISHIGURO Takeaki's *Tottoriken hôgen bumpu no jittai* *Geographi-*

cal survey of the dialects of Tottori prefecture (1957) brings us immediately to the period when the present linguistic atlas of Japan was being prepared.

There is no space here for a detailed report of the scientific activity in this field since 1957. There were no less than five (Itoigawa, Shimpi, Sado, Shimokita and Setonaikai) regional atlases completed, based on the most recent scientific methods. They cover every single locality of the surveyed regions, and they all stress the thorough analysis of distributional maps. They have innovated in many fields and their new methodological advances have already been brought several times to the attention of the international congresses of linguists and dialectologists. There have been almost one hundred articles published, mostly in Japanese, concerning the partial results of these regional atlases. Six universities have now regular courses of dialect geography and the activity of a dozen young scholars shows a great promise for the future of dialect geography in Japan. The most striking example of the progress made in this field is the recent publication of HIROTO Atsushi's *Chûgokuchihô goken gengochizu* Linguistic Atlas of the Five Provinces of West Japan, Tôkyô, Kazama, 1965, with 350 well-executed maps.

We wish to mention here also the scientific activity of the Belgian dialectologist, Father Willem A. Grootaers, who since his arrival in Japan in 1950 has influenced publicly or privately the progress of dialect geographical studies

## 7.2. History of the Linguistic Atlas of Japan

The reader is referred to the detailed account of the preliminary work of the Atlas

project given in ORBIS (W. A. Grootaers, *Japanese Linguistic Atlas, End of the preliminary work*, vol. VI, 1, 1957, 68-85). It is shown there how this linguistic atlas fitted into the scientific activity of the National Language Research Institute (Ministry of Education of Japan). From its inception in 1948, the Institute was contemplating dialectal surveys as part of its studies of the modern Japanese language. The direct preparation of the atlas was started in 1955, and by 1957 the first questionnaire was ready and the fieldworkers started the first surveys. We have sketched above the differences in the survey's method between the first five year period (1957-1961) and the second three year period (1962-1964).

During the whole of the survey, the following were responsible for the general direction of the central dialectal bureau:

Head : SHIBATA Takeshi (now at the Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia-Africa, Tôkyô University of Foreign Studies, Tôkyô Gaikokugo Daigaku).  
Members : NOMOTO Kikuo, UEMURA Yukio and TOKUGAWA Munemasa.

## 付録 1. 調査地点一覽

1. ここには、日本語地図作成のための2,400か所の調査地点と、その地点に関する所要事項を示した。
2. 地点は、まず都道府県ごとに分類し、同じ府県内の地点は、「方言調査基礎図」の番号の順に配列した。第1集巻頭の「参考地図Ⅰ 調査地点番号地図」と対照されたい(本篇18ページの脚注で付言した3地点は岩手県の末尾にならべた)。
3. 各欄は次の内容を示す(左から)。
  - イ 方言調査基礎図のシステムによる地点の番号。
  - ロ 調査時の地名(現在は変更されたものもある)。
  - ハ 被調査者氏名。
  - ニ 調査者を番号によって示した(本篇20ページ、37ページと比較対照されたい)。
  - ホ 調査年度を西暦の末尾2桁の数字で示した。
  - ヘ 各地点での使用調査票を示す。各欄とも
    - aは開始当時のもの、bは第1次改訂のもの、cは第2次改訂のものを示す。
    - oはその調査票を使わなかったことを示す(なお本篇3ページ調査票の項参照)。
  - ト ABCDEは被調査者に関する情報である。
    - Aは生年(西暦の末尾2桁)、Bは職業(1 農業、2 林業、3 漁業、4 工業、5 商業、6 鉱業、7 勤め人、0 無職)、Cは学歴(年数)、Dはよその土地で生活した期間(月数)、Eはその他、兵は兵歴のあること、女は女性であることを示す。
4. 属島における調査地点については、21ページをも参照されたい。

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
	北海道												
0716. 46	稚内市北浜通10丁目	岩田直藏	01	'57	a	a	o	o	91	3	8	3	兵
0724. 12	礼文郡礼文町香深字トンナイ	上出三松	02	'62	c	c	b	b	94	5	13	60	
0724. 58	利尻郡東利尻町鴛泊本町	山田松一	01	'62	c	c	b	b	00	3	9	3	兵
0724. 95	利尻郡利尻町泉町	葛西重春	01	'62	c	c	b	b	98	7	11	36	
0737. 94	天塩郡幌延町字幌延2条1丁目	熊谷巨	02	'61	b	b	o	a	01	7	8	24	兵
0747. 70	天塩郡天塩町新栄通り1丁目	川端悦二	02	'61	b	b	o	a	98	1	8	9	
0776. 88	苫前郡羽幌町	三浦時之助	01	'60	b	b	a	o	02	7	8	24	兵
0779. 03	中川郡美深町字敷島	中瀬豊	02	'60	b	b	a	o	02	1	9	12	
0789. 95	士別市東1条7丁目	渡辺喜美寿	02	'64	c	c	b	b	00	5	9	5	
0840. 33	枝幸郡枝幸町字梅ヶ枝町	島留三郎	02	'60	b	b	a	o	01	7	9	60	
0861. 48	紋別郡雄武町字雄武市街地基線中通り	板谷栄喜知	02	'62	c	c	b	b	97	3	8	36	
0873. 94	中川郡本別町大字本別村字北4丁目	新津勝三	02	'59	a	a	o	o	99	5	9	15	兵
0894. 61	紋別郡遠軽町向遠軽	飛沢富太郎	02	'60	b	b	a	o	00	1	6	0	
0896. 22	常呂郡常呂町字トコロ	三沢政雄	02	'57	a	a	o	o	01	5	13	84	
0897. 91	網走市台町	川端滋	02	'57	a	a	o	o	88	5	13	86	兵
0990. 97	目梨郡羅臼町本町	西井誠誘	02	'62	c	c	b	b	01	5	12	48	
1699. 14	瀬棚郡瀬棚町字梅花都	中井常太郎	03	'58	a	a	o	o	92	3	6	24	兵
1706. 82	増毛郡増毛町字箸別	大川友太郎	01	'59	a	a	o	o	96	3	6	48	兵
1708. 05	雨竜郡幌加内町	横川隆盛	01	'62	c	c	b	b	01	1	6	0	
1715. 53	増毛郡増毛町字雄冬	加藤弥市	01	'64	c	c	b	b	75	3	4	16	
1719. 17	上川郡永山町9丁目	近藤儀一	01	'58	a	a	o	o	00	5	8	0	
1719. 38	上川郡東旭川村字上兵村	斎藤玉次	02	'57	a	a	o	o	02	1.5	8	0	
1725. 35	浜益郡浜益村字茂生	柳田哲三	01	'61	b	b	a	a	02	3	6	0	
1727. 75	樺戸郡新十津川町菊水町	中垣正久	01	'59	a	a	o	o	00	5	8	0	
1731. 89	積丹郡積丹町字入舸	渡辺春三	03	'61	b	b	o	a	96	3	6	18	
1736. 84	樺戸郡月形町字中野	新関権一	01	'57	a	a	o	o	91	1.2	8	0	
1738. 19	芦別市野花南町金剛	林藤吉	02	'61	b	b	o	a	01	1	6	53	兵
1739. 10	芦別市野花南町	島幸太郎	02	'61	b	b	o	a	00	1	8	0	
1739. 85	空知郡富良野町学田1区東線	伊藤源太郎	02	'59	a	a	o	o	98	1	6	0	
1742. 24	積丹郡積丹町字美国町大字船漕	福井重次郎	03	'57	a	a	o	o	86	3	6	10	
1743. 70	余市郡余市町字港町	阿部竹四郎	03	'57	a	a	o	o	96	3	6	3	兵
1744. 60	小樽市北高島町	八田固次郎	03	'60	b	b	a	o	92	3	8	15	
1745. 54	石狩郡石狩町親船町	若月豊太郎	01	'58	a	a	o	o	01	5	8	0	
1747. 04	美唄市有為第2区	橋本伝	03	'58	a	a	o	o	01	5	8	24	
1747. 55	三笠市多賀町	小林勝二	01	'60	b	b	a	o	99	1	8	0	
1754. 16	小樽市銭函町	秋田谷吉雄	01	'58	a	a	o	o	04	7	6	0	
1755. 53	札幌市北8条西6丁目	近藤彦一	01	'58	a	a	o	o	99	5	8	60	
1756. 32	江別市8条8丁目	堀本一雄	01	'57	a	a	o	o	02	5	8	48	兵
1757. 61	夕張郡栗山町	上田幸作	01	'59	a	a	o	o	00	1.6	6	0	
1761. 74	磯谷郡蘭越町字港	梅沢利吉郎	03	'64	c	c	b	b	97	1.3	6	12	
1762. 10	岩内郡岩内町字清住	高西初造	03	'60	b	b	a	o	01	5	6	0	
1763. 60	虻田郡俱知安町南3条西2丁目	成瀬徳右衛門	03	'60	b	b	a	o	01	5.7	8	20	
1770. 18	寿都郡寿都町字矢追町	川村鶴吉	03	'60	b	b	a	o	01	3	8	29	兵
1773. 27	虻田郡喜茂別町字末広町	佐藤逸郎	03	'60	b	b	a	o	03	1.2	11	60	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
1778. 45	湧払郡穂別村字穂別	中村耕平	01	'61	b	b	a	a	98	7	11	36	
1781. 95	山越郡長万部町	長沢教多	03	'60	b	b	a	o	01	3	8	24	兵
1786. 13	苫小牧市	門脇松次郎	01	'59	a	a	o	o	04	5	5	24	
1791. 33	山越郡長万部町字国庭	木村要一郎	03	'63	c	c	b	b	96	5	6	24	
1793. 14	有珠郡伊達町鹿島町	小野勝	01	'57	a	a	o	o	92	5	6	24	
1798. 13	沙流郡門別町	前川半造	01	'61	b	b	a	o	03	5	13	81	兵
1814. 25	常呂郡留辺菜町元町	永易清重	02	'58	a	a	o	o	03	5	8	60	兵
1816. 52	網走郡津別町字活汲	中西好友	02	'58	a	a	o	o	03	7	8	0	
1848. 24	上川郡標茶町字標茶	川野喜蔵	02	'59	a	a	o	o	96	1	6	51	兵
1854. 24	紋別市本町6丁目	宮川二郎吉	02	'60	b	b	a	o	95	5	4	36	
1859. 84	厚岸郡厚岸町字奔渡町	北本喜一	02	'59	a	a	o	o	02	3	7	0	
1862. 48	帯広市	高橋文雄	02	'57	a	a	o	o	01	5	13	70	
1862. 52	河西郡芽室町字毛根	中田石松	02	'58	a	a	o	o	93	1	7	24	兵
1863. 48	中川郡池田町字西1条5丁目	奥田庄一	02	'58	a	a	o	o	99	5	6	0	
1867. 15	釧路市入舟町1丁目	青山千代治	02	'57	a	a	o	o	98	4	8	60	
1893. 10	広尾郡大樹町字振別	木村鶴吉	02	'63	c	c	b	b	97	1	6	3	兵
1942. 03	根室市平内町2丁目	内山隆平	02	'59	a	a	o	o	94	7	12	25	
2608. 90	奥尻郡奥尻村字奥尻	浜栄作	03	'62	c	c	b	b	02	3	8	6	兵
2617. 68	奥尻郡奥尻村字青苗	宇苗栄太郎	03	'61	b	b	o	a	96	3	8	9	兵
2619. 28	爾志郡熊石村字鳴神	佐藤林作	03	'58	a	a	o	o	91	3	6	36	兵
2649. 79	松前郡松前町字江良	和田永蔵	03	'61	b	b	o	a	96	1	3	4	23
2700. 48	山越郡八雲町字建岩	大島久	03	'58	a	a	o	o	03	1	6	48	兵
2703. 18	室蘭市栄町	沖野義夫	01	'60	b	b	a	o	02	5	16	60	兵
2712. 33	茅部郡森町字本町	相沢金四郎	03	'58	a	a	o	o	99	5	4	0	
2713. 83	茅部郡鹿部村字鹿部	飯田常太郎	03	'58	a	a	o	o	95	3	6	30	
2720. 75	檜山郡江差町豊川町	越中谷四三郎	03	'57	a	a	o	o	75	5	4	20	
2722. 67	亀田郡七飯町字本町	片山竹治郎	03	'63	c	c	b	b	91	1	2	6	20
2731. 97	上磯郡木古内町字本町	小笠原正雄	03	'62	c	c	b	b	91	3	6	18	
2732. 39	函館市若松町	山本金蔵	03	'57	a	a	o	o	03	5	8	0	
2733. 42	亀田郡銭亀沢村字志海苔	高野福三郎	03	'57	a	a	o	o	70	3	4	4	20
2734. 05	亀田郡楸法華村字浜町	井島常次郎	03	'61	b	b	o	a	96	3	5	18	
2741. 46	上磯郡知内村字本町	千葉幸之進	03	'59	a	a	o	o	02	5	6	0	
2750. 43	松前郡松前町字大磯	鷹小次郎	03	'59	a	a	o	o	80	3	3	0	
2750. 44	松前郡松前町字唐津	武田勇作	03	'62	c	c	b	b	93	5	8	0	
2751. 10	松前郡福島町字福島	小松饒治	03	'59	a	a	o	o	88	5	4	23	兵
2800. 52	三石郡三石町港町	木村安蔵	01	'57	a	a	o	o	93	3	9	48	兵
2803. 22	広尾郡広尾町東通り9丁目	鶴沢福三郎	02	'58	a	a	o	o	03	3	6	0	
2811. 01	浦河郡浦河町旭町	高橋清太郎	01	'58	a	a	o	o	90	7	4	38	
2812. 96	幌泉郡幌泉町字幌泉	五野井貞蔵	01	'63	c	c	b	b	08	3	5	11	36
青森県													
2699. 89	西津軽郡深浦町大字磯木字亀ヶ崎	平沢平太郎	04	'61	b	b	o	a	01	5	6	24	兵
2743. 86	下北郡大間町大字大間字大間	蛭子利三郎	04	'60	b	b	a	o	02	3	7	0	
2753. 44	下北郡佐井村大字佐井字大佐井	宮川亮介	04	'60	b	b	a	o	99	3	8	0	
2754. 11	下北郡風間浦村大字易園字桑畑	坪田竹蔵	04	'64	c	c	b	b	82	3	4	0	
2754. 56	下北郡大畑町大字大畑字東町	村林源助	04	'60	b	b	a	o	89	7	8	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
2755. 76	下北郡東通村大字岩屋字往来	三 国 初 太 郎	04	'60	b	b	a	o	88	3	6	0	
2761. 44	東津軽郡三廐村大字字鉄字竜飛	柏 谷 吉 蔵	04	'62	c	c	b	b	92	3.5	4	0	
2761. 77	東津軽郡三廐村大字三廐字算用師	杣 谷 鉄 三 郎	04	'57	a	a	o	o	85	3	2	20	
2762. 61	東津軽郡今別町大字母衣月字母衣村元	米 田 松 逸	04	'60	b	b	a	o	01	3	8	0	
2763. 22	下北郡佐井村大字長後字牛滝	坂 井 三 太 郎	04	'63	c	c	b	b	86	3	4	24	兵
2763. 28	下北郡川内町大字川内字家之辺	上 山 石 蔵	04	'63	c	c	b	b	88	7	7	0	
2763. 89	下北郡川内町大字川内字川内	野 里 武 蔵	04	'57	a	a	o	o	01	3	6	36	兵
2764. 28	下北郡田名部町大字田名部字赤平	田 頭 福 松	04	'57	a	a	o	o	89	1	8	0	
2765. 02	下北郡東通村大字蒲野沢字石持	畑 中 末 五 郎	04	'64	c	c	b	b	02	1.3	6	0	
2765. 66	下北郡東通村大字小田野沢字畑浦	川 田 岩 城	04	'64	c	c	b	b	90	1.3	2	0	
2765. 71	むつ市大字奥内字奥内	鳥 山 孫 四 郎	04	'60	b	b	a	o	02	1	4	24	兵
2771. 22	北津軽郡小泊村字小泊	加 藤 末 五 郎	04	'63	c	c	b	b	96	3	6	0	
2771. 64	北津軽郡市浦村大字相内字相内	岡 本 米 太 郎	04	'58	a	a	o	o	94	1	4	24	兵
2771. 83	北津軽郡市浦村大字十三字深津	福 島 市 松	04	'63	c	c	b	b	03	3	6	24	兵
2772. 05	東津軽郡平館村大字根岸字湯の沢	福 井 伝 蔵	04	'62	c	c	b	b	00	5	6	24	兵
2772. 74	東津軽郡蟹田町大字小国字山崎	旦 代 金 作	04	'61	b	b	o	a	03	1	6	0	
2773. 13	下北郡脇野沢村大字脇野沢字本村	大 間 守 蔵	04	'60	b	b	a	o	96	3	7	24	兵
2774. 59	上北郡横浜町字大豆田	中 山 栄 三 郎	97	'60	b	b	a	o	97	5	6	0	
2775. 45	上北郡六ヶ所村大字泊字村内	中 村 政 蔵	04	'61	b	b	o	a	95	3	4	0	
2781. 34	西津軽郡車力村大字車力字花林	中 村 正 雄	04	'58	a	a	o	o	98	1	8	0	
2781. 58	北津軽郡金木町大字金木字若松町	太 田 多 吉	04	'57	a	a	o	o	03	1.5	12	30	
2781. 91	西津軽郡木造町大字出来島字雉森	新 岡 善 作	04	'62	c	c	b	b	93	1	7	24	兵
2782. 16	東津軽郡蓬田村大字阿弥陀川字阿弥陀川	入 戸 多 吉 郎	04	'62	c	c	b	b	92	1	4	12	
2782. 67	青森市大字清水	川 田 敏 一 郎	96	'60	a	a	o	o	90	1	6	0	
2783. 06	東津軽郡平内町大字東田沢字田沢	植 村 卯 之 松	04	'63	c	c	b	b	91	1	4	0	
2783. 48	東津軽郡平内町大字小湊字沼館	寺 島 申 松	04	'58	a	a	o	o	85	1	4	0	
2783. 73	東津軽郡野内村大字久栗坂	鈴 木 与 一 郎	96	'60	a	a	o	o	88	7	6	0	
2784. 63	東津軽郡平内町大字狩場沢字浜懸	金 津 松 太 郎	04	'62	c	c	b	b	95	1	6	0	
2784. 75	上北郡野辺地町大字野辺地字浜掛	上 原 子 石 蔵	04	'57	a	a	o	o	89	1	4	0	
2785. 31	上北郡六ヶ所村大字鷹架字久保の内	高 田 市 太 郎	04	'64	c	c	b	b	96	1.3	6	0	
2785. 74	上北郡六ヶ所村大字平沼字二階坂	橋 本 昇	04	'61	b	b	o	a	93	1.3	4	36	兵
2790. 38	西津軽郡鱒ヶ沢町大字本町	尾 崎 与 根 造	04	'61	b	b	o	a	84	3	4	0	
2790. 41	西津軽郡深浦町大字田野沢字汐干浜	兼 平 長 三 郎	04	'61	b	b	o	a	87	5	6	0	
2791. 15	西津軽郡木造町大字種取	加 福 勝 三 郎	04	'58	a	a	o	o	98	5	8	24	兵
2791. 80	西津軽郡鱒ヶ沢町大字長平字音羽山	花 田 栄 作	04	'62	c	c	b	b	00	1	6	0	
2791. 88	北津軽郡板柳町大字板柳字土井	木 村 源 三	04	'59	a	a	o	o	03	5	7	30	
2792. 07	青森市大字新城字平岡	佐 藤 幹 之 助	04	'57	a	a	o	o	88	1	4	31	
2792. 40	五所川原市大字福山字福山	神 勇 太 郎	04	'62	c	c	b	b	99	1	2	0	
2792. 73	南津軽郡浪岡町大字浪岡字岡田	平 野 民 十 郎	04	'59	a	a	o	o	00	1	8	0	
2793. 00	青森市松原町	村 本 兼 吉	04	'59	a	a	o	o	03	5	8	0	
2793. 51	青森市大字雲谷字山吹	川 越 勝 五 郎	04	'62	c	c	b	b	02	1	6	24	兵
2794. 85	上北郡七戸町大字前川原	中 原 清 造	04	'58	a	a	o	o	96	1	8	0	
2795. 01	上北郡甲地村中村	中 村 留	97	'60	a	a	o	o	93	5	4	24	兵
2795. 66	三沢市大字三沢浜通字淋代	大 野 西 三	04	'64	c	c	b	b	97	1.3	6	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
2795. 72	上北郡浦野館村大字大浦字寒水	小笠原菊次郎	04	'58	a	a	o	o	00	1	6	24	兵
3609. 17	西津軽郡深浦町大字深浦字浜町	佐々木原要一	04	'63	c	c	b	b	86	1	6	0	
3609. 47	西津軽郡岩崎村大字岩崎字松原	西巻岩太郎	04	'57	a	a	o	o	94	2	4	20	
3619. 08	西津軽郡岩崎村大字大間越	棟方留蔵	98	'60	b	b	a	o	88	1.3	4	0	
3700. 19	中津軽郡岩木町大字常磐野字上黒沢	大森勇七	04	'62	c	c	b	b	01	1.2	3	24	兵
3701. 37	中津軽郡岩木村大字駒越字平田	斎藤健次郎	04	'58	a	a	o	o	96	1	4	24	兵
3701. 49	弘前市富田2丁目	大谷金蔵	04	'63	c	c	b	b	84	5	4	0	兵
3701. 70	中津軽郡西目屋村大字藤川字瀬の上	淵沢定吉	04	'60	b	b	a	o	96	1	8	0	
3702. 24	黒石市大字浅瀬石字清川	成田東太郎	04	'57	a	a	o	o	03	1	9	12	兵
3702. 81	南津軽郡大鰐町大字三ツ目内	木田繁太郎	96	'60	a	a	o	o	89	7	10	36	
3702. 89	南津軽郡平賀町大字葛川字折戸	小林唯四郎	04	'63	c	c	b	b	95	2	4	0	
3704. 42	上北郡十和田町大字百目木	石倉徳次郎	04	'61	b	b	o	a	97	1	4	0	
3704. 57	十和田市上切田字関口	二森三太郎	97	'60	a	a	o	o	88	1	4	0	
3705. 42	上北郡六戸町大字折茂字川原新田	長嶺栄二郎	04	'64	c	c	b	b	00	1	3	0	
3705. 47	上北郡百石町字下明堂	小向敏蔵	04	'58	a	a	o	o	90	1	6	0	
3705. 82	三戸郡五戸町字市川通十文字	川村米吉	04	'57	a	a	o	o	94	1	4	0	
3706. 91	八戸市大字湊字繩張	榎本石蔵	04	'58	a	a	o	o	92	3	4	0	
3712. 15	南津軽郡碓ヶ関村大字碓ヶ関字白沢	花岡善治	04	'58	a	a	o	o	91	7	8	0	
3714. 27	三戸郡新郷村大字戸来字金ヶ沢	佐々木円次郎	04	'61	b	b	o	a	98	1	6	0	
3714. 74	三戸郡三戸町大字貝森字杉沢	春山重太郎	04	'64	c	c	b	b	96	1	6	0	
3714. 96	三戸郡田子町大字田子字田子	山本初太郎	04	'61	b	b	o	a	91	1.5	4	0	
3715. 51	三戸郡南部町大向下構	留目儀兵衛	97	'60	c	c	b	b	00	1	6	0	
3715. 59	三戸郡南郷村大字島守字坂本	坂本惣次郎	04	'64	a	a	o	o	90	1	8	0	
3716. 27	三戸郡階上村大字道仏字小舟渡	下野由松	04	'60	b	b	a	o	94	3	4	0	
3724. 20	三戸郡田子町大字夏坂字夏坂	中村三郎	04	'61	b	b	o	a	90	2	4	0	
岩手県													
3716. 58	九戸郡種市町大字横手	鍋久保綱吉	04	'60	b	b	a	o	00	3	8	0	
3717. 90	九戸郡種市町八木一地割	日当石太郎	97	'60	b	b	a	o	98	1.3	6	24	兵
3724. 36	二戸郡福岡町上斗米字野月平	切明畑仁助	05	'63	c	c	b	b	85	1	3	36	兵
3724. 96	二戸郡浄法寺町	角田又次郎	05	'58	a	a	o	o	93	4	4	0	
3725. 12	二戸郡金田一村	田中一郎	05	'57	a	a	o	o	90	7	8	0	
3725. 72	二戸郡一戸町	国分定吉	05	'58	a	a	o	o	01	5	8	20	
3725. 77	九戸郡九戸村伊保内	安達与一郎	05	'63	c	c	b	b	98	5	6	0	
3726. 21	九戸郡軽米町小軽米	森末治	05	'58	a	a	o	o	95	5	4	0	
3726. 25	九戸郡大野村	下館久五郎	05	'57	a	a	o	o	02	1	6	15	
3727. 21	九戸郡種市町中野	水上亀次郎	05	'58	a	a	o	o	81	1	4	22	兵
3727. 81	久慈市久慈	泉田栄助	05	'58	a	a	o	o	96	1	6	24	
3733. 18	二戸郡安代町字田山	安保演	07	'59	a	a	o	o	02	7	6	0	
3733. 88	二戸郡安代町荒沢字細野	畠山万蔵	05	'63	c	c	b	b	91	1	4	0	
3734. 42	二戸郡安代町荒屋新町	大森與次郎	05	'57	a	a	o	o	96	1	8	0	
3735. 50	二戸郡一戸町中山	佐々木金次郎	05	'63	c	c	b	b	92	1	4	0	
3735. 77	岩手郡葛巻町	檜山直哉	05	'58	a	a	o	o	97	5	6	0	
3736. 03	九戸郡山形村川井	長内重蔵	05	'63	c	c	b	b	89	1	4	0	
3736. 58	久慈市下戸鎮	長倉安太郎	05	'58	a	a	o	o	97	2	4	12	兵
3737. 32	九戸郡野田村野田	新山寛吉	05	'58	a	a	o	o	91	5	8	24	兵

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
3737. 95	下閉伊郡普代村普代	熊 谷 五 助	05	'63	c	c	b	b	01	1・2	6	24	兵
3743. 49	岩手郡松尾村寄木字畑	中 軽 米 喜 八 郎	05	'62	c	c	b	b	01	1	6	0	
3744. 18	岩手郡岩手町沼宮内	千 葉 善 吉	05	'58	a	a	o	o	95	1	6	6	
3744. 33	岩手郡西根村平館	田 村 三 右 工 門	05	'58	a	a	o	o	96	1	6	0	
3745. 62	岩手郡岩手町川口字水無	竹 村 清 次 郎	05	'62	c	c	b	b	93	1	1	6	兵
3745. 98	岩手郡玉山村籾川	玉 山 市 兵 工	05	'58	a	a	o	o	95	1	4	0	
3746. 09	下閉伊郡岩泉町安家	三 上 初 吉	99	'60	b	b	a	o	88	1	6	0	
3746. 41	岩手郡葛巻町荒沢口	清 水 野 三 太	05	'62	c	c	b	b	03	1	6	24	兵
3746. 76	下閉伊郡岩泉町大字門	内 村 七 郎	05	'58	a	a	o	o	01	5	8	0	
3747. 45	下閉伊郡田野畑村大字田野畑	佐 藤 貢	05	'58	a	a	o	o	92	1	4	3	兵
3747. 91	下閉伊郡岩泉町	八 重 樫 雄 平	05	'58	a	a	o	o	89	5	8	24	
3753. 85	岩手郡雫石町橋場	安 本 善 弥	05	'62	c	c	b	b	99	1	6	24	兵
3753. 88	岩手郡雫石町上町	杉 村 惣 太 郎	05	'61	b	b	a	a	94	1	6	24	兵
3754. 13	岩手郡滝沢村柳沢	佐 々 木 申 松	05	'62	c	c	b	b	69	1	6	0	
3754. 37	岩手郡玉山村大字川又	畑 中 長 吉	05	'57	a	a	o	o	01	1	6	0	
3754. 76	盛岡市三ツ割字田畑	熊 谷 磯 吉	05	'61	b	b	a	a	87	1	8	0	
3755. 32	岩手郡玉山村外山	三 上 卯 太 郎	05	'58	a	a	o	o	03	1	6	43	兵
3756. 26	下閉伊郡岩泉町大川	長 崎 倉 吉	05	'58	a	a	o	o	97	1	4	0	
3756. 40	下閉伊郡岩泉町大川釜津田滝ノ上	川 村 富 治	05	'62	c	c	b	b	87	1	2	0	
3757. 09	下閉伊郡岩泉町茂師	三 浦 次 郎	99	'60	b	b	a	o	93	1・3	4	9	
3757. 32	下閉伊郡岩泉町字上有芸	新 谷 長 吉	05	'62	c	c	b	b	89	1・2	3	24	兵
3757. 59	下閉伊郡田老町	上 山 長 次 郎	05	'58	a	a	o	o	91	3	4	0	
3763. 17	岩手郡雫石町字鶯宿	煙 山 庄 蔵	05	'61	b	b	a	a	94	1	4	0	
3764. 16	紫波郡都南村見前	吉 田 重 工 門	05	'58	a	a	o	o	78	1	4	0	
3764. 86	紫波郡紫波町南日詰	照 井 忠 兵 工	05	'58	a	a	o	o	87	1	4	24	兵
3764. 92	稗貫郡石鳥谷町畑	佐 々 木 種 三	05	'64	c	c	b	b	88	1	0	30	
3765. 03	盛岡市築川第三地割	吉 田 甚 太 郎	05	'62	c	c	b	b	95	1	4	0	
3765. 28	下閉伊郡川井村田代	松 草 作 之 丞	99	'60	b	b	a	o	99	1・2	6	25	兵
3765. 74	稗貫郡大迫町内川目狼久保	島 山 種 松	05	'58	a	a	o	o	87	1	6	0	
3766. 47	下閉伊郡川井村川井	中 宿 理 吉	05	'58	a	a	o	o	02	5	6	34	
3766. 97	下閉伊郡川井村小国末角	高 森 善 太 郎	05	'63	c	c	b	b	91	1	4	0	
3767. 18	宮古市第 17 地割新町	坂 下 与 右 工 門	05	'57	a	a	o	o	94	5	8	0	
3767. 22	下閉伊郡新里村茂市	茂 市 磯 衛	05	'62	c	c	b	b	90	1	6	0	
3767. 87	下門伊郡山田町豊間根	佐 々 木 英 夫	05	'58	a	a	o	o	94	1	8	0	
3768. 50	宮古市重茂	重 茂 為 治	05	'58	a	a	o	o	88	1・3	8	0	
3773. 12	和賀郡沢内村川舟	高 橋 善 二	05	'57	a	a	o	o	01	1	8	24	
3774. 44	花巻市西宮野目	駿 河 栄 正	05	'64	c	c	b	b	99	1	8	24	兵
3774. 61	花巻市田屋的場	佐 々 木 小 三 郎	05	'59	a	a	o	o	95	1	6	36	兵
3775. 11	稗貫郡大迫町上の台	小 野 一 蔵	05	'58	a	a	o	o	00	1	8	0	
3775. 83	上閉伊郡宮守村下宮守菖蒲沢	菅 原 直 蔵	05	'58	a	a	o	o	02	1	8	0	
3776. 51	遠野市附馬牛町上柳	仁 田 専 右 工 門	05	'57	a	a	o	o	88	1	4	12	兵
3776. 97	釜石市青ノ木	佐 々 木 喜 太 郎	05	'64	c	c	b	b	90	1	4	0	
3777. 32	上閉伊郡大槌町金沢	佐 々 木 喜 四 郎	05	'63	c	c	b	b	92	1	4	24	兵
3777. 48	下閉伊郡山田町船越	菊 地 正 吾	05	'58	a	a	o	o	99	4	8	12	
3777. 86	上閉伊郡大槌町	三 浦 初 太 郎	05	'58	a	a	o	o	01	1	8	0	



調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
3778. 00	宮古市大字重茂字川代	川 村 由 松	05	'64	c	c	b	b	97	1・3	6	24	兵
3783. 08	和賀郡和賀町横川目荒屋	菊 池 喜 入	98	'62	b	b	a	a	93	2	0	0	
3783. 11	和賀郡湯田村川尻	菅 原 章 三 郎	05	'59	a	a	o	o	00	1	8	24	兵
3783. 58	和賀郡和賀町岩崎新田本畑	高 橋 養 作	05	'64	c	c	b	b	79	1	4	0	
3784. 24	北上市黒沢尻町芳町	斎 藤 昌 太 郎	05	'57	a	a	o	o	88	5	8	18	
3784. 87	江刺市岩谷堂町字六日町	及 川 豊 治	05	'59	a	a	o	o	90	5	8	0	
3785. 42	江刺市米里字人首	吉 田 興 三 郎	05	'59	a	a	o	o	83	1	4	0	
3785. 68	遠野市小友町長野荷沢	菊 池 利 嗣	05	'64	c	c	b	b	98	1	6	0	
3786. 01	遠野市鍵町	菅 原 仁 平	05	'58	a	a	o	o	96	7	4	0	
3786. 44	遠野市上郷町細越	高 橋 金 之 亟	05	'58	a	a	o	o	97	1	6	24	兵
3787. 45	釜石市燐石	藤 元 千 代 松	05	'57	a	a	o	o	98	3	4	24	兵
3787. 50	釜石市一ノ渡	佐 々 木 仙 松	05	'58	a	a	o	o	96	7	6	0	
3793. 37	胆沢郡胆沢村若柳	阿 部 庄 一	05	'59	a	a	o	o	94	1	8	0	
3794. 55	胆沢郡前沢町古城	千 葉 戸 市	05	'61	b	b	a	a	89	1	4	0	
3795. 19	気仙郡住田町大字世田米小字下大股	遠 藤 和 三	05	'59	a	a	o	o	92	1	8	0	
3795. 33	東磐井郡大東町島海字市ノ通	伊 東 重 太 郎	05	'64	c	c	b	b	95	1	4	0	
3795. 86	東磐井郡大東町大原	中 沢 伊 太 郎	05	'59	a	a	o	o	89	1	8	24	兵
3796. 06	大船渡市日頃市町字石橋	鈴 木 久 五 郎	05	'63	c	c	b	b	01	1	8	24	兵
3796. 48	大船渡市盛町八幡町	新 沼 七 五 郎	05	'57	a	a	o	o	99	1	4	0	
3796. 95	高田市高田町字下和野	佐 々 木 利 吉	05	'59	a	a	o	o	96	5	6	48	兵
3797. 32	気仙郡三陸村越喜来浦浜	花 崎 伍 三 郎	05	'59	a	a	o	o	89	1・3	2	0	
4703. 18	一関市本寺	佐 藤 宗 五 郎	48	'63	c	c	b	b	85	1	2	0	
4704. 04	西磐井郡平泉町平泉高館	鈴 木 庄 作	05	'64	c	c	b	b	98	1	6	0	
4704. 45	一関市大町	千 葉 繁	05	'59	a	a	o	o	87	5	8	0	
4704. 96	西磐井郡花泉町字町	佐 藤 文 人	05	'59	a	a	o	o	96	1	4	0	
4705. 20	東磐井郡東山町松川	佐 藤 茂 三 郎	05	'64	c	c	b	b	96	1	8	0	
4705. 53	東磐井郡千厩町本町	熊 谷 軍 平	05	'57	a	a	o	o	00	5	11	0	
3767. 18	宮古市鎌ヶ崎町日影	黒 田 長 蔵	99	'60	o	o	a	o	78	3	不明	200	
3776. 83	遠野市土淵町大杉	阿部与治衛門	99	'60	o	o	a	o	76	1	3	0	
3787. 35	釜石市浜町	沢 田 権 兵 衛	99	'60	o	o	a	o	71	5	4	0	
宮 城 県													
4703. 88	栗原郡栗駒町松倉字鍛冶屋	小 野 寺 敬 一	48	'60	b	b	a	o	02	1	8	36	兵
4706. 53	気仙沼市内の脇	金 野 一 之 亟	48	'59	a	a	o	o	94	1・3	8	0	
4706. 84	気仙沼市大島浦の浜	小 野 寺 護 平	48	'65	c	c	b	b	90	1	7	0	
4712. 16	玉造郡鳴子町原	大 場 耕 二 郎	48	'60	b	b	a	o	89	1	4	24	兵
4713. 02	栗原郡花山村山内	佐 々 木 幸 蔵	48	'63	c	c	b	b	95	1	4	0	
4713. 45	栗原郡一迫町川口	佐 藤 永 次 郎	48	'60	b	b	a	o	89	1	6	24	
4713. 60	玉造郡鳴子町川渡	吉 田 誠 一	48	'59	a	a	o	o	99	5	6	24	兵
4714. 22	栗原郡金成町沢辺	菅 原 勝 二	48	'60	b	b	a	o	96	1	8	12	兵
4714. 68	登米郡中田町石森	小 野 寺 毅	48	'60	b	b	a	o	92	1	8	0	
4715. 33	登米郡東和町狼河原	秋 山 忠 一	48	'60	b	b	a	o	01	5	8	24	兵
4715. 98	本吉郡志津川町志津川	芳 賀 和 七	48	'59	a	a	o	o	91	1	8	0	
4716. 20	本吉郡本吉町津谷	菅 原 莞 爾	48	'59	a	a	o	o	92	1	10	0	
4716. 72	本吉郡歌津町馬場	三 浦 鶴 松	48	'65	c	c	b	b	00	1・3	6	0	
4722. 55	加美郡小野田町宇津野	佐 藤 栄 五 郎	48	'59	a	a	o	o	03	1	8	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
4723. 14	玉造郡岩出山町字下河原	高 橋 信 藏	97	'61	b	b	a	o	97	1	8	0	
4723. 51	加美郡小野田町東小野田字下野目大下	浅 野 久 太 郎	06	'57	a	a	o	o	89	1	8	0	
4723. 58	古川市二の構	細 川 徳 太 郎	48	'58	a	a	o	o	94	4	6	18	
4724. 00	栗原郡高清水町高清水	木 川 田 運 平	48	'60	b	b	a	o	81	1	4	24	
4724. 28	登米郡米山町西野	志 田 寿 三	48	'63	c	c	b	b	95	1	6	24	
4724. 75	遠田郡涌谷町字新町	浅 野 善 右 門	48	'59	a	a	o	o	96	5	8	0	
4725. 01	登米郡登米町寺池字鉄砲町	新 妻 三 郎	06	'57	a	a	o	o	74	0	8	36	兵
4725. 68	桃生郡河北町長面	三 条 賢 三 郎	48	'63	c	c	b	b	00	1	5	0	
4725. 92	桃生郡河北町飯野川	安原 三右衛門	48	'61	b	b	a	a	88	1	6	0	
4726. 80	桃生郡雄勝町船越	高 橋 長 太 郎	48	'61	b	b	a	a	00	3	10	33	
4732. 18	黒川郡大和町升沢	早 坂 吉 藏	48	'64	c	c	b	b	99	1	4	0	
4732. 86	宮城郡宮城村定義	庄 司 兵 治	48	'62	c	c	b	b	93	1	4	24	
4733. 35	黒川郡大和町吉岡字上町	吉 田 養 之 助	06	'57	a	a	o	o	90	1	8	24	兵
4733. 91	宮城郡泉町根白石	沼 田 幸 太 郎	48	'62	c	c	b	b	74	1	1	24	兵
4734. 20	黒川郡大郷村貝殻塚	氏 家 蔭	48	'61	b	b	a	a	99	1	5	6	0
4734. 56	桃生郡鳴瀬町小野	平 田 政 介	48	'59	a	a	o	o	95	1	9	0	
4735. 37	牡鹿郡女川町鷲の神	木 村 庄 左 衛 門	48	'59	a	a	o	o	91	5	8	0	
4735. 42	石巻市門脇字原田	佐 藤 官 平	06	'57	a	a	o	o	97	7	6	0	
4736. 63	牡鹿郡女川町江ノ島	中 村 寿 松	48	'65	c	c	b	b	02	3	6	0	
4742. 37	宮城郡宮城村上愛子字赤生木	早 坂 弥 之 助	48	'61	b	b	a	o	02	1	8	0	
4742. 43	名取郡秋保村野尻	宗 形 今 朝 吉	48	'62	c	c	b	b	99	1	2	6	0
4742. 95	柴田郡川崎町川崎	小 山 実	48	'61	b	b	a	a	00	1	7	0	
4743. 34	仙台市長者荘	伊 藤 源 吉	06	'57	a	a	o	o	03	7	11	0	
4743. 44	仙台市琵琶首丁	内 田 徳 得	48	'61	b	b	a	a	86	4	5	0	
4743. 61	仙台市大字茂庭字中の瀬	太 田 菊 治	48	'62	c	c	b	b	97	1	8	0	
4743. 95	名取市増田字田高	中 沢 四 郎 左 衛 門	48	'58	a	a	o	o	94	1	4	0	
4744. 10	塩釜市字町	五 十 嵐 喜 一	48	'62	c	c	b	b	01	5	8	24	兵
4744. 32	宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜	太 宰 勘 四 郎	48	'61	b	b	a	a	86	1	8	0	
4745. 27	石巻市田代島仁斗田	阿 部 栄 治	48	'64	c	c	b	b	92	3	4	0	
4746. 20	牡鹿郡牡鹿町鮎川	遠 藤 松 藏	48	'61	b	b	a	a	93	3	4	0	
4752. 11	柴田郡川崎町青根	佐 藤 菊 治	48	'62	c	c	b	b	97	4	6	0	
4752. 27	刈田郡蔵王町平沢	村 上 文 一 郎	48	'58	a	a	o	o	91	1	8	0	
4753. 36	名取郡岩沼町押分字奥山	三 河 吉 雄	97	'65	c	c	b	b	04	5	6	24	
4753. 52	柴田郡柴田町槻木新町	佐 藤 金 重	48	'58	a	a	o	o	96	5	8	0	
4753. 76	亶理郡亶理町荒浜	木 村 孫 入	48	'58	a	a	o	o	90	1	4	36	兵
4761. 07	刈田郡七ヶ宿町関	渡 辺 重 太 郎	48	'64	c	c	b	b	85	1	4	0	
4762. 04	白石市東小路	後 藤 留 太 郎	06	'57	a	a	o	o	97	5	6	12	
4762. 44	白石市越河五賀字馬場台	佐 久 間 幸 臣	06	'57	a	a	o	o	92	1	11	24	兵
4762. 56	伊具郡丸森町耕野川前	小 野 久 進	48	'63	c	c	b	b	98	1	10	24	兵
4762. 99	伊具郡丸森町裏	引 地 留 治 郎	48	'63	c	c	b	b	87	1	4	0	
4763. 11	角田市角田字町	手 塚 安 太 郎	97	'61	b	b	a	o	96	5	11	0	
4763. 45	亶理郡山元町坂元館下	中 村 昌 治	48	'58	a	a	o	o	92	1	4	0	
4763. 62	伊具郡丸森町字金山	島 田 陳 伍	48	'59	a	a	o	o	90	1	8	36	兵
秋 田 県													
3619. 58	山本郡八森町岩館	岡 本 広 治	07	'61	b	b	o	a	01	3	8	0	
3639. 49	山本郡八竜村浜田字一本柳	清 水 幸 吉	07	'59	a	a	o	o	93	1	6	30	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E	
					第1	第2	第3	第4						
3648. 28	男鹿市戸賀戸賀字戸賀	江 畑 与 一	07	'57	a	a	o	o	92	3	7	30		
3649. 16	南秋田郡琴浜村鷓木松木沢境	鈴 木 兼 五 郎	07	'59	a	a	o	o	92	1	6	0		
3649. 58	男鹿市船越町	加 賀 谷 清 吉	07	'62	c	c	b	b	97	5	8	0		
3649. 64	男鹿市船川港字船川	笹 淵 勇	07	'58	a	a	o	o	01	7	8	18		
3689. 38	由利郡仁賀保町平沢	斎 藤 光 次 郎	07	'62	c	c	b	b	96	5	8	24	兵	
3689. 75	由利郡象潟町塩越	渡 辺 真 寿 郎	07	'57	a	a	o	o	95	7	11	30		
3699. 25	由利郡象潟町小砂川字中磯	土 門 長 右 衛 門	59	'63	c	c	b	b	91	1	8	0		
3710. 91	山本郡八森町字八森	金 田 準 一 郎	07	'63	c	c	b	b	91	7	8	0		
3711. 92	山本郡藤里町藤琴字早飛沢	斎 藤 波 治	07	'64	c	c	b	b	87	1	4	48	兵	
3711. 98	北秋田郡田代町岩瀬字越山	松 田 喜 一	07	'64	c	c	b	b	98	7	9	0		
3712. 74	北秋田郡花矢町長走	能 登 弥 之 助	07	'61	b	b	o	a	98	7	8	3	兵	
3712. 89	鹿角郡小坂町濁川	池 田 喜 代 太 郎	07	'59	a	a	o	o	89	1	4	0		
3713. 75	鹿角郡十和田町大湯字白沢	木 村 金 吾	07	'64	c	c	b	b	86	1	4	24	兵	
3720. 58	山本郡二ツ井町梅内	安 井 勘 右 門	07	'61	b	b	o	a	92	5	8	0		
3720. 71	能代市柳町	越 後 千 代 吉	07	'59	a	a	o	o	88	1	6	24	兵	
3721. 30	山本郡藤里村藤琴	桜 田 末 吉	07	'61	b	b	o	a	98	2	6	8	0	
3721. 37	北秋田郡田代町早口坂地	関 貞 一	07	'60	b	b	a	o	87	1	2	6	36	
3721. 71	北秋田郡鷹巣町今泉	武 田 万 二	07	'60	b	b	a	o	97	1	6	0		
3722. 32	大館市金坂前	今 米 吉	07	'57	a	a	o	o	90	5	4	0		
3722. 90	北秋田郡比内町小坪沢	高 橋 永 藏	07	'64	c	c	b	b	97	1	7	0		
3722. 97	大館市十二所別所合津	佐 藤 忠 吉	07	'59	a	a	o	o	88	1	4	0		
3723. 21	鹿角郡十和田町毛馬内字山根長土路	大 西 久 治 郎	07	'57	a	a	o	o	90	1	6	0		
3730. 39	山本郡二ツ井町田代湍ノ木岱	清 水 甚 吉	07	'64	c	c	b	b	98	1	2	6	24	兵
3730. 43	山本郡山本村森岳字小狭間	柳 谷 義 直	07	'58	a	a	o	o	97	4	6	30	兵	
3731. 46	北秋田郡森吉町桂瀬	鈴 木 宇 一 郎	07	'61	b	b	o	a	90	1	4	0		
3731. 61	北秋田郡上小阿仁村小沢田	小 林 吉 二	07	'60	b	b	a	o	96	1	6	0		
3732. 26	北秋田郡比内町大葛	島 田 久 治 郎	07	'61	b	b	o	a	89	1	6	0		
3732. 73	北秋田郡森吉町湯ノ岱	大 川 助 松	07	'64	c	c	b	b	95	1	2	4	24	兵
3733. 22	鹿角郡八幡平村長谷川字長嶺	阿 部 定 治	07	'58	a	a	o	o	00	1	8	24	兵	
3733. 73	鹿角郡八幡平村字坂比平	館 花 三 郎	07	'63	c	c	b	b	03	1	2	8	10	
3740. 29	南秋田郡五城目町高樋	石 川 常 吉	07	'63	c	c	b	b	85	1	2	4	36	
3740. 33	南秋田郡五城目町大川西野字四ツ屋	加 藤 己 之 松	07	'57	a	a	o	o	90	1	6	24	兵	
3740. 82	南秋田郡昭和町大久保	菅 原 伊 治	07	'58	a	a	o	o	96	1	5	6	24	兵
3741. 16	北秋田郡阿仁町大字荒瀬字段ノ上	松 岡 平 助	98	'60	b	b	a	o	01	1	7	0		
3741. 57	北秋田郡阿仁町幸屋渡	松 橋 三 郎	07	'60	b	b	a	o	93	7	6	0		
3742. 82	仙北郡西木村上檜木内戸沢	鈴 木 文 助	07	'64	c	c	b	b	02	1	2	6	24	
3750. 28	秋田市仁別	佐々木徳三	07	'60	b	b	a	o	92	2	4	0		
3750. 43	秋田市土崎港旭町字琴平	加 賀 谷 兼 五 郎	07	'62	c	c	b	b	95	5	7	0		
3750. 75	秋田市東根小屋町	草 階 彦 吉	07	'58	a	a	o	o	79	7	0	60	兵	
3751. 81	河辺郡河辺町岩見三内三内字田尻	田 口 正 治	07	'58	a	a	o	o	89	1	8	0		
3752. 47	仙北郡田沢湖町田沢字沼田	千 葉 源 一 郎	07	'63	c	c	b	b	86	7	6	24	兵	
3752. 53	仙北郡西木村大字下檜木内字高屋	武 藤 謙 治	96	'60	b	b	a	o	93	1	6	0		
3752. 89	仙北郡田沢湖町生保内字水尻	田 口 八 五 郎	07	'59	a	a	o	o	79	7	6	0		
3760. 33	秋田市下浜村字羽川	佐 藤 甚 太 郎	07	'62	c	c	b	b	98	7	6	0		
3760. 58	河辺郡雄和村字種沢	加 藤 喜 久 治	07	'58	a	a	o	o	97	1	5	6	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被調査者名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
3760. 93	由利郡岩城町亀田	茂 木 常 蔵	96	'60	b	b	a	o	93	7	8	0	
3761. 22	仙北郡協和村船岡字上ノ一渡	菅 原 正 雄	07	'60	b	b	a	o	93	1	8	0	
3761. 74	仙北郡西仙北町刈和野	伊 東 菊 治	07	'58	a	a	o	o	94	1	8	24	兵
3762. 42	仙北郡角館町岩瀬町	佐々木竹五郎	07	'57	a	a	o	o	83	5	6	0	
3762. 71	仙北郡中仙町長野	高 橋 喜 一 郎	07	'63	c	c	b	b	02	1	6	0	
3762. 85	仙北郡太田村太田字築地古館	高 貝 正	07	'60	b	b	a	o	88	1	8	24	兵
3770. 49	由利郡大内村新田	鈴 木 重 蔵	07	'59	a	a	o	o	81	1	4	0	
3770. 62	本荘市上横町	小 島 健 之 助	07	'57	a	a	o	o	91	5	11	0	
3770. 96	本荘市大築	佐 藤 新 三	07	'63	c	c	b	b	88	1.2	4	24	兵
3771. 29	大曲市下栄町	近 江 金 治 郎	07	'58	a	a	o	o	88	4	4	0	
3771. 44	仙北郡南外村松木田	加 藤 豊 治	07	'61	b	b	o	a	99	1	7	0	
3771. 97	平鹿郡大森町字大森	上 田 岩 五 郎	07	'62	c	c	b	b	02	1	6	0	
3772. 32	仙北郡千畑村中野	高 橋 春 三	07	'61	b	b	o	a	91	1	4	0	
3772. 73	仙北郡金沢町字茨島	川 越 養 吉	07	'60	b	b	a	o	92	1	4	0	
3780. 65	由利郡矢島町館町	佐 藤 専 四 郎	07	'59	a	a	o	o	94	5	6	0	
3781. 21	由利郡東由利村館合字家の下	遠 藤 源 一 郎	07	'61	b	b	o	a	94	1	6	0	
3781. 49	平鹿郡平鹿町浅舞	俵 谷 万 治 郎	07	'59	a	a	o	o	93	5	8	3	兵
3781. 86	雄勝郡羽後町西馬音内字上川原	阿 部 五 郎	07	'62	c	c	b	b	98	5	8	0	
3782. 12	横手市大町上丁	加 賀 長 五 郎	07	'62	c	c	b	b	95	5	6	0	
3782. 38	平鹿郡山内村黒沢字蒲坂	佐々木庄治郎	07	'60	b	b	a	o	94	1	4	0	
3782. 71	平鹿郡増田町増田	石 田 半 五 郎	07	'61	b	b	o	a	93	1	8	0	
3782. 98	雄勝郡東成瀬村岩井川字東村	谷 藤 養 吉	07	'63	c	c	b	b	00	5	6	36	兵
3790. 27	由利郡島海村百宅	斎 藤 新 七	07	'64	c	c	b	b	93	1.2	4	0	
3791. 02	雄勝郡羽後町中仙道下西ノ沢	宮 田 初 蔵	96	'60	b	b	a	o	89	1	6	0	
3791. 76	雄勝郡雄勝町下院内字笈形町	高 岡 清	07	'60	b	b	a	o	03	7	13	30	
3792. 33	雄勝郡稲庭川連町稲庭町中町	佐 藤 平 右 衛 門	07	'57	a	a	o	o	83	0	6	12	兵
3792. 96	雄勝郡皆瀬村畑等字湯元	今 野 鉄 之 助	07	'63	c	c	b	b	97	1.2	6	0	
4702. 10	雄勝郡雄勝町秋之宮造石	高 橋 長 吉	07	'62	c	c	b	b	87	1.2	0	0	
山 形 県													
3688. 82	酒田市飛鳥字勝浦	本 間 熊 茂	59	'64	c	c	b	b	97	5	4	150	
3699. 55	飽海郡遊佐町吹浦	相 庭 槌 三 郎	08	'57	a	a	o	o	96	5	7	0	
4609. 07	飽海郡遊佐町大字豊岡字大内	川 俣 仁 作	59	'63	c	c	b	b	96	1	5	120	
4609. 25	酒田市本楯町新田目	高 橋 末 治	97	'64	c	c	b	b	94	1	8	0	
4609. 54	酒田市大字浜田字堀北	東 権 四 郎	08	'59	a	a	o	o	99	5	9	24	兵
4609. 68	飽海郡平田村大字山谷字三ヶ沢	渡 会 徳 治	08	'61	b	b	o	a	01	1	8	0	
4618. 49	鶴岡市大字加茂	花 沢 徳 造	59	'63	c	c	b	b	99	5	9	60	
4618. 87	鶴岡市大字三瀬	宮 田 賢 太 郎	08	'59	a	a	o	o	89	1	8	0	
4619. 23	東田川郡三川村神花	上 野 農 夫 雄	99	'61	b	b	a	o	02	1	8	0	
4619. 29	東田川郡立川町大字狩川字荒鍋	伊 藤 金 太 郎	08	'60	b	b	a	o	94	1	6	0	
4619. 63	鶴岡市五日町	高 橋 林 太 郎	08	'59	a	a	o	o	93	7	8	0	
4619. 98	東田川郡羽黒町大字川代檀平	本 間 丑 次	59	'63	c	c	b	b	01	1	8	36	兵
4628. 28	西田川郡温海町大字菅野代	本 間 利 右 衛 門	59	'64	c	c	b	b	03	1	8	0	
4628. 61	西田川郡温海町大字鼠ヶ関字原海	佐 藤 忠 造	08	'60	b	b	a	o	96	1.3	8	0	
4629. 43	東田川郡朝日村大字本郷字上ノ平	斎 藤 福 五 郎	08	'59	a	a	o	o	92	1	8	0	
4639. 10	東田川郡朝日村大字大鳥字寿岡	三 浦 長 七	59	'64	c	c	b	b	01	1	6	6	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
4639. 69	西村山郡西川町大字大井沢字中村	志 田 剛 策	59	'64	c	c	b	b	97	1	6	3	兵
4659. 01	西置賜郡小国町字五味沢	斉 藤 広 江	59	'64	c	c	b	b	99	1	6	3	兵
4659. 50	西置賜郡小国町大字北	伊 藤 惣左衛門	08	'57	a	a	o	o	90	1	4	0	
4659. 85	西置賜郡小国町大字津川字沼沢	斎 藤 喜 代 治	08	'61	b	b	o	a	92	1	6	0	
4668. 27	西置賜郡小国町大字小玉川字長者原	佐 藤 勇	16	'62	c	c	b	b	99	1	6	0	
4669. 55	西置賜郡飯豊町大字下屋地	鈴 木 仁 之 助	08	'61	b	b	o	a	01	1	8	0	
4700. 37	最上郡真室川町大字差首鍋字高坂	井 上 ハ ル ヨ	08	'61	b	b	o	a	89	1	0	0	女
4700. 78	最上郡真室川町大字大沢	小 松 勝 次 郎	59	'62	c	c	b	b	88	1	6	0	
4701. 14	最上郡真室川町大字新及位	高 橋 幸 太	59	'62	c	c	b	b	97	1	2	6	0
4701. 73	最上郡金山町大字金山字内町	柿 崎 伸 三 郎	08	'60	b	b	a	o	88	1	7	0	
4710. 18	最上郡鮭川村大字中渡字段の下	荒 木 仁 作	08	'60	b	b	a	o	89	1	2	24	兵
4710. 55	最上郡戸沢村大字古口字岩台	寺 内 金 作	08	'60	b	b	a	o	03	1	7	30	兵
4711. 41	新庄市大字飛田	阿 部 門 兵 衛	08	'58	a	a	o	o	02	1	6	0	
4711. 42	新庄市北本町	鈴 木 徳 次 郎	59	'63	c	c	b	b	98	5	9	0	
4711. 49	最上郡最上町若宮	伊 藤 今 朝 五 郎	08	'57	a	a	o	o	95	1	8	24	兵
4711. 82	最上郡舟形町舟形	星 川 五 郎 兵 衛	08	'61	b	b	o	a	00	1	8	0	
4712. 54	最上郡最上町堺田	小 松 栄 太 郎	48	'59	a	a	o	o	92	1	4	0	
4720. 17	最上郡大蔵村大字南山字柳洲	安 西 浅 次 郎	08	'61	b	b	o	a	93	1	4	0	
4721. 36	北村山郡尾花沢町大字尾花沢字麓	笹 原 秀 雄	08	'58	a	a	o	o	95	1	8	24	兵
4722. 40	尾花沢市母袋	近 藤 忠 三 郎	59	'62	c	c	b	b	90	1	3	36	
4730. 45	西村山郡西川町大字間沢	荒 木 重 見	08	'59	a	a	o	o	98	1	8	24	兵
4730. 96	西村川郡朝日町大谷	長 岡 石 五 郎	97	'65	c	c	b	b	02	1	8	0	
4731. 15	村山市大字楯岡	下 山 谷 蔵	98	'61	b	b	a	o	93	5	6	0	
4731. 42	西村山郡河北町大字谷地	高 梨 直	08	'58	a	a	o	o	99	5	6	0	
4731. 59	東根布関山	清 野 栄 助	59	'62	c	c	b	b	86	1	5	0	
4731. 85	東村山郡天童町大字天童	大 沼 忠 三 郎	08	'58	a	a	o	o	02	1	8	24	兵
4740. 26	西村山郡朝日町大字宮宿字前田沢	今 井 小 治 郎	08	'59	a	a	o	o	86	1	8	0	
4740. 93	西置賜郡白鷹町大字荒砥甲字新町	横 山 政 衛	08	'60	b	b	a	o	94	1	10	0	
4741. 43	山形市宮町	高 橋 惣 吉	59	'62	c	c	b	b	99	4	8	3	兵
4741. 44	山形市印役町	深 瀬 弥 蔵	08	'57	a	a	o	o	88	1	8	0	
4741. 92	上の山市大字金瓶字原	三 瓶 豊	08	'59	a	a	o	o	94	1	8	0	
4750. 32	長井市小出	竹 田 力 助	08	'57	a	a	o	o	01	1	8	0	
4750. 76	東置賜郡赤湯町大字柵塚	竹 田 興 吉	08	'60	b	b	a	o	98	1	6	0	
4751. 42	上の山市檜下	佐 藤 三 郎 右 衛 門	08	'59	a	a	o	o	92	1	10	0	
4760. 02	東置賜郡川西町大字下奥田字荒窪	伊 藤 茂	08	'61	b	b	o	a	03	5	9	0	
4760. 54	米沢市桐町辻西	小 泉 栄 吉	59	'64	c	c	b	b	88	5	11	0	
4760. 64	米沢市笹野町字下笹野	大 木 秀 雄	08	'58	a	a	o	o	02	1	6	0	
4760. 98	米沢市大字大沢	梅 津 勇 助	98	'62	b	b	a	a	93	2	4	24	兵
福 島 県													
4678. 77	耶麻郡西会津町大字飯根字極入	佐 藤 善 久	16	'62	c	c	b	b	97	1	6	0	
4679. 65	耶麻郡熱塩加納村大字熱塩字前田	遠 藤 虎 一	53	'59	a	a	o	o	95	4	7	0	
4688. 45	耶麻郡西会津町野沢堀越	斉 藤 次 郎	53	'59	a	a	o	o	92	1	8	38	
4689. 10	耶麻郡山都町字館ノ原	五 十 嵐 善 吾	54	'62	c	c	b	b	01	1	8	0	
4689. 14	喜多方市塗物町	渡 部 儀 八	53	'59	a	a	o	o	03	4	8	0	
4689. 62	河沼郡会津坂下町西南町裏	高 久 豊 喜	09	'57	a	a	o	o	01	7	8	18	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
4689. 86	会津若松市町北町中地	長谷川辰吉	99	'59	a	a	o	o	80	1	5	0	
4697. 92	南会津郡只見村大字只見字冲	目黒猪太	09	'57	a	a	o	o	82	1	6	0	
4698. 15	大沼郡三島村大字宮下	酒井久	53	'59	a	a	o	o	89	1	6	24	兵
4698. 21	大沼郡金山町大字川口字森ノ上	加藤菊雄	54	'64	c	c	b	b	97	1	6	0	
4699. 07	会津若松市下野伏町	内藤満	54	'64	c	c	b	b	98	5	4	36	兵
4699. 42	大沼郡会津高田町大字尾岐窪字村中	佐藤秀雄	54	'60	b	b	a	o	00	1	8	0	
4761. 57	信夫郡飯坂町茂庭字秋庭	鈴木良助	54	'61	b	b	o	a	00	1	7	24	兵
4761. 93	信夫郡飯坂町大字中野字大滝	須田儀市	54	'63	c	c	b	b	00	2	6	0	
4762. 77	伊達郡梁川町大字山舟生字上板木	斎藤茂	09	'58	a	a	o	o	99	1	8	0	
4762. 90	伊達郡桑折町字北町	新房三郎	54	'63	c	c	b	b	01	7	8	0	
4770. 62	耶麻郡北塩原村大字檜原字金山	佐藤只喜	53	'59	a	a	o	o	78	5	2	0	
4771. 58	福島市柳町	高野平治郎	09	'57	a	a	o	o	89	5	8	0	
4771. 92	福島市土湯温泉町字川上	阿部義八	09	'58	a	a	o	o	86	5	6	37	兵
4771. 98	信夫郡松川町大字浅川字館	斎藤勇吉	54	'63	c	c	b	b	97	1	6	0	
4772. 33	伊達郡霊山町大字掛田字岡	菅野慶弥	54	'61	b	b	o	a	93	1	8	24	兵
4772. 48	相馬市大字玉野字町	高玉忠	09	'58	a	a	o	o	00	1	6	24	兵
4773. 15	相馬市小野薬師堂	山田平	99	'61	b	b	a	o	96	1	8	0	
4773. 27	相馬市大字中野字北反町	佐々木重蔵	09	'58	a	a	o	o	03	1	8	0	
4773. 70	相馬郡飯館村大字草野字宮内	中川辰喜	54	'64	c	c	b	b	04	1	6	0	
4773. 78	相馬郡鹿島町大字鹿島字町	若松富治	09	'58	a	a	o	o	88	1.4	8	0	
4780. 26	耶麻郡猪苗代町大字若宮字鬼田	佐藤義美	54	'62	c	c	b	b	97	1	6	24	兵
4780. 60	耶麻郡磐梯町字源橋	阪井喜代美	54	'62	c	c	b	b	99	1.2	8	0	
4780. 64	耶麻郡猪苗代町中町	大堀由治	53	'59	a	a	o	o	79	1	8	0	
4781. 48	二本松市根崎町1丁目	村山栄五郎	54	'60	b	b	a	o	92	1.4	8	0	
4781. 86	安達郡本宮町仲町	水口清	09	'57	a	a	o	o	95	5	12	0	
4782. 04	伊達郡川俣町字鉄炮町	入巻忠吉	09	'58	a	a	o	o	99	5	10	0	
4782. 96	田村郡船引町大字上移字根岸	小泉喜美	54	'61	b	b	o	a	96	1	8	0	
4783. 38	原町市上太田字堰場	関場清記	54	'64	c	c	b	b	01	1	9	24	兵
4783. 74	双葉郡浪江町大字昼曾根字昼曾根	佐々木角治	09	'58	a	a	o	o	00	1	8	0	
4784. 41	原町市大字小浜字西内	遠藤秀松	09	'57	a	a	o	o	85	1	8	0	
4790. 30	会津若松市湊町大字原字新橋	渡部万吉	54	'62	c	c	b	b	95	1.2	8	0	
4790. 74	安積郡湖南村大字三代字御代	古河長多	09	'57	a	a	o	o	89	1	8	0	
4791. 12	安積郡熱海町大字安子島字町	早津仁蔵	54	'62	c	c	b	b	00	1	8	0	
4791. 39	田村郡三春町字北町	早川虎二郎	54	'62	c	c	b	b	00	4.5	7	0	
4791. 61	安積郡逢瀬村大字多田野字久保田	人見浩	54	'62	c	c	b	b	96	1	6	0	
4791. 65	郡山市本町	菊池久之助	54	'61	b	b	a	o	95	5	12	0	
4792. 43	田村郡船引町船引南町通	箭内今朝太郎	99	'59	a	a	o	o	87	1	6	0	
4792. 80	田村郡中田村大字中津川字堂作	宗像宥吉	54	'62	c	c	b	b	96	1	6	0	
4793. 41	田村郡都路村大字古道字傾城谷	白石東海磨	54	'60	b	b	a	o	94	1	4	0	
4794. 30	双葉郡双葉町新山字広町	新工勇	54	'60	b	b	a	o	96	1	8	0	
5607. 17	南会津郡只見町大字大倉字田向	横田康定	54	'64	c	c	b	b	04	1	8	24	兵
5608. 16	大沼郡昭和村大字喰丸字三島	渡辺虎二	54	'64	c	c	b	b	00	1	6	24	兵
5608. 51	南会津郡南郷村大字鴛巢字村中	星武雄	53	'59	a	a	o	o	01	1	6	24	兵
5609. 26	南会津郡下郷町大字湯野上字居平	渡部三左衛門	98	'61	b	b	a	o	00	1	6	24	兵
5609. 81	南会津郡田島町大字田島字仲町	渡部庄太郎	54	'60	b	b	a	o	90	1	8	24	兵

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5617. 28	南会津郡伊南村大字大原字居平	渡 部 八 百 吉	54	'64	c	c	b	b	01	1	8	24	兵
5617. 85	南会津郡檜枝岐村字下ノ台	平 野 音 作	09	'57	a	a	o	o	95	1	4	9	
5618. 43	南会津郡館岩村大字入総字宮の前	阿 久 津 入 郎	09	'57	a	a	o	o	97	1	6	10	
5700. 28	岩瀬郡長沼町大字長沼字豊町	久 保 久 蔵	54	'60	b	b	a	o	91	1	6	24	兵
5700. 32	岩瀬郡天栄村大字田良尾字居平	田 代 辰 右 衛 門	54	'63	c	c	b	b	97	1	6	0	
5700. 96	西白河郡西郷村大字羽太字谷地田	白 岩 亀 作	54	'63	c	c	b	b	01	1	6	0	
5701. 25	須賀川市東 8 丁目	吉 田 勝 三 郎	09	'58	a	a	o	o	90	5	8	24	
5701. 73	西白河郡矢吹町大字矢吹字西宅地	佐 久 間 隆	54	'61	b	b	a	o	96	1	10	0	
5702. 07	田村郡滝根町大字神俣字和貢	佐 久 間 房 義	54	'60	b	b	a	o	94	1	8	0	
5702. 52	石川郡平田村大字上蓬田字入山	村 田 義 信	54	'60	b	b	a	o	99	1	4	0	
5703. 03	双葉郡川内村大字下川内字宮下	伊 狩 伝	54	'63	c	c	b	b	00	1	6	24	兵
5703. 19	双葉郡檜葉町上繁岡二枚橋	坂 本 義 綱	54	'61	b	b	o	a	96	1	6	0	
5703. 68	双葉郡広野町大字上北迫字二本櫓	鯨 岡 松 太 郎	97	'59	a	a	o	o	93	1	8	24	兵
5703. 70	石城郡川前村大字川前字櫓立	永 山 亀 太 郎	09	'58	a	a	o	o	74	7	7	0	
5710. 29	白河市旭町 2 丁目	辺 見 浜 之 助	54	'61	b	b	o	a	99	5	8	0	
5711. 18	石川郡石川町字北町	中 村 忠 吾	54	'61	b	b	o	a	00	1	9	0	
5711. 85	東白川郡棚倉町大字棚倉字鉄砲町	大 相 栄	09	'57	a	a	o	o	01	5	8	0	
5712. 17	石城郡三和村大字下市萱字堀ノ内	佐 藤 庄 一	54	'63	c	c	b	b	96	1	4	48	兵
5712. 70	東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿	鈴 木 俊 一 郎	96	'59	a	a	o	o	96	7	8	0	
5712. 88	石城郡遠野町大字上根本字表	小 沢 清 左 衛 門	54	'61	b	b	o	a	97	1	8	0	
5713. 65	平市 1 丁目	江 尻 直 次	54	'61	b	b	o	a	00	5	8	0	
5714. 10	双葉郡久之浜町立	長 谷 川 浅 吉	54	'61	b	b	o	a	98	3	8	24	兵
5721. 26	東白川郡塙町字本町	木 村 喜 友	54	'64	c	c	b	b	02	4	8	0	
5721. 27	東白川郡塙町大字常世中野字銭神田	金 川 光 友	54	'61	b	b	o	a	97	1	8	0	
5721. 77	東白川郡矢祭村大字東館字館本	金 沢 豊	54	'61	b	b	o	a	94	1	8	0	
5722. 37	石城郡田人村大字旅人字宝坂	小 野 猪 太 郎	09	'58	a	a	o	o	01	1	8	0	
5723. 02	常磐市大字藤原字田場坂	高 木 孝 平	54	'64	c	c	b	b	04	1	8	0	
5723. 36	磐城市字横町	小 浜 長 太 郎	09	'57	a	a	o	o	75	5	9	0	
5723. 60	勿来市勿来窪田町字馬場	小 松 栄 蔵	09	'58	a	a	o	o	89	1	8	0	
茨 城 県													
5668. 88	古河市鍛冶町	服 部 庄 八	11	'60	b	b	a	o	01	5	10	0	
5669. 19	下館市未広町	沼 尻 正 吉	10	'57	a	a	o	o	93	5	8	4	
5669. 25	結城市白銀町	石 島 茂 一 郎	55	'63	c	c	b	b	98	5	8	0	
5669. 96	結城郡八千代村沼森	小 祝 勇	10	'58	a	a	o	o	00	1	8	24	兵
5679. 31	猿島郡境町上町	荒 木 新 三 郎	10	'58	a	a	o	o	01	5	8	0	
5679. 86	猿島郡岩井町辺田	倉 持 文 次 郎	10	'57	a	a	o	o	95	1	4	0	
5731. 13	久慈郡大子町大字浅川小字仲井	武 士 隆 三	10	'57	a	a	o	o	91	1	8	0	
5731. 29	久慈郡里美村大字徳田字山口	大 森 為 蔵	55	'65	c	c	b	b	95	1	2	4	0
5731. 67	久慈郡水府村大字上高倉字持方	斉 藤 鉄 之 介	55	'61	b	b	a	a	92	1	4	24	兵
5732. 13	高萩市大字下君田字小神戸	宇 野 栄	55	'61	b	b	a	a	02	1	6	0	
5732. 17	北茨城市磯原町大字大塚字峰岸	鈴 木 重 雄	55	'62	c	c	b	b	01	1	8	0	
5732. 73	高萩市大字中戸川字米平	弓 野 善 助	55	'62	c	c	b	b	86	1	4	0	
5732. 78	高萩市中町	武 藤 高 千	55	'60	b	b	a	o	95	4	8	0	
5733. 02	北茨城市大津町五浦	渡 辺 千 代 次	97	'59	a	a	o	o	84	1	3	5	0
5741. 25	那珂郡山方町山方宿	中 嶋 信 助	98	'58	a	a	o	o	91	1	8	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5741. 30	那珂郡緒川村油河内字北田	川上秀彦	55	'61	b	b	a	a	94	1	9	0	
5741. 66	那珂郡大宮町北3丁目	掛札新之介	96	'59	a	a	o	o	89	1	4	0	
5742. 32	常陸太田市町屋町	根本準之介	55	'61	b	b	a	a	84	1	4	3	兵
5742. 65	日立市諏訪	立原幾之助	10	'57	a	a	o	o	84	1	8	0	
5750. 84	西茨城郡岩瀬町大字元岩瀬	伊藤伊勢市郎	11	'61	b	b	a	a	98	1	8	24	兵
5751. 24	東茨城郡常北町勝見沢	関谷信一郎	55	'63	c	c	b	b	91	1	8	0	
5751. 60	笠間市大字笠間字才木	成田清	55	'60	b	b	a	o	89	1	8	0	
5751. 78	水戸市泉町3丁目	小貫道之介	55	'62	c	c	b	b	99	5	14	36	
5751. 89	水戸市七軒町	笹島清兵衛	99	'59	a	a	o	o	92	5	12	0	
5752. 32	那珂郡東海村大字須和間	塙幸一	55	'61	b	b	a	a	95	1	8	24	兵
5752. 94	那珂湊市六丁目	大和田熊次郎	99	'59	a	a	o	o	86	5	4	0	
5760. 24	真壁郡真壁町大字白井	伊坂弥右衛門	98	'59	a	a	o	o	90	1	8	0	
5760. 57	新治郡入郷町柿岡下宿	平亭吉	10	'58	a	a	o	o	78	1.5	4	0	
5761. 27	東茨城郡茨城町長岡	高野岩男	55	'60	b	b	a	o	95	1	8	0	
5761. 77	鹿島郡鉾田町大字紅葉	堀江茂兵衛	55	'63	c	c	b	b	03	1	8	0	
5761. 91	石岡市石岡	福田安義	10	'58	a	a	o	o	94	1	8	0	
5762. 41	鹿島郡旭村大字下大田字大谷川	石崎一郎	55	'61	b	b	a	a	98	1	8	16	兵
5770. 11	筑波郡大穂町大砂	塚本清次郎	10	'58	a	a	o	o	98	1	6	0	
5770. 46	土浦市飯田町	宮崎一男	10	'58	a	a	o	o	02	1	11	0	
5770. 57	土浦市外西町	丸木吉之助	55	'62	c	c	b	b	87	5	6	16	兵
5770. 60	筑波郡谷田部町高須賀	金井善一	55	'64	c	c	b	b	93	1	8	36	兵
5771. 36	行方郡玉造町内宿	甲清雄	55	'60	b	b	a	o	02	1	10	0	
5771. 42	新治郡出島村南根本	寺神門節義	10	'58	a	a	o	o	94	1	8	0	
5772. 00	鹿島郡鉾田町鉾田	渡辺藤樹	10	'57	a	a	o	o	02	5	9	24	兵
5772. 60	行方郡北浦村繁昌	本戸衛	55	'63	c	c	b	b	92	1	8	24	兵
5772. 84	鹿島郡大野村棚木	生井沢信孝	55	'61	b	b	a	a	01	1	8	0	
5780. 11	筑波郡伊奈村小張上中宿	吉田雄次郎	10	'58	a	a	o	o	93	1	8	0	
5780. 57	竜ヶ崎市田町城下	堀越竹三郎	10	'58	a	a	o	o	97	1	6	0	
5780. 62	北相馬郡取手町台宿	染野貞助	55	'64	c	c	b	b	03	1.4	8	24	兵
5781. 22	稲敷郡江戸崎町大宿	福田重太郎	10	'57	a	a	o	o	87	7	7	36	
5782. 25	鹿島郡鹿島町大字宮中	木滝武男	55	'60	b	b	a	o	02	5	9	15	
5782. 32	行方郡潮来町大字潮来	小林義正	55	'60	b	b	a	o	98	4	8	0	
5782. 79	鹿島郡神栖村知手浜	小関繁之助	98	'58	a	a	o	o	97	1	8	30	兵
5793. 20	鹿島郡波崎町大字矢田部	安藤喜三郎	98	'60	b	b	a	o	93	1	10	0	
栃木県													
5619. 67	那須郡黒磯町板室	室井政市	11	'60	b	b	a	o	03	1	6	0	
5628. 23	塩谷郡栗山村大字湯西川小字花和	山島佐藤次郎	98	'58	a	a	o	o	96	1.2	4	24	兵
5628. 66	塩谷郡栗山村大字日向小字戸中	山越弥五郎	11	'61	b	b	a	a	99	1	6	24	兵
5628. 70	塩谷郡栗山村大字川俣	八木沢光一	11	'63	c	c	b	b	96	2	8	0	
5629. 17	那須郡黒磯町高林	川島啓一	11	'64	c	c	b	b	00	1	8	0	
5629. 23	塩谷郡塩原町大字下塩原小字門前	鈴木末作	11	'61	b	b	a	a	01	5	6	12	
5629. 98	大田原市下石上	森島林	11	'60	b	b	a	o	99	5	8	0	
5638. 53	日光市久次良町	柴田鶴吉	11	'60	b	b	a	o	95	1	7	24	兵
5638. 54	日光市稲荷町	高田徳之助	11	'62	c	c	b	b	93	7	8	0	
5638. 67	今市市東町	茂呂丑蔵	11	'57	a	a	o	o	98	5	8	3	兵



調査地点番 号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5639. 13	塩谷郡塩谷村上寺島	和 気 弘 造	11	'64	c	c	b	b	97	1	8	3	兵
5639. 47	矢板市大字石岡	大 塩 岸	11	'60	b	b	a	o	99	1	10	0	
5639. 80	今市市大沢町	安 西 政 美	11	'59	a	a	o	o	98	1	8	0	
5647. 27	上都賀郡足尾町赤沢	島 賢 太	12	'60	b	b	a	o	96	5	4	0	
5648. 13	鹿沼市西大芦大字草久小字押越	星 野 高 一	98	'58	a	a	o	o	93	1	8	0	
5648. 53	上都賀郡粟野町大字入粟野小字水沢	大 牧 德 一 郎	11	'63	c	c	b	b	01	1	8	0	
5648. 96	上都賀郡粟野町口粟野	宇 賀 神 利 一	11	'58	a	a	o	o	98	1	8	0	
5649. 29	塩谷郡阿久津町宝積寺	檜 原 喜 一 郎	11	'57	a	a	o	o	88	1	8	0	
5649. 53	宇都宮市駒生町	杉 浦 延 藏	11	'58	a	a	o	o	81	1	0	18	兵
5649. 65	宇都宮市戸祭町	松 本 英 夫	11	'62	c	c	b	b	01	5	8	0	
5657. 78	足利市月谷町	田 島 鶴 太 郎	12	'61	b	b	o	a	98	4	8	3	兵
5658. 01	安蘇郡葛生町大字水木小字太田沢	永 島 春 吉	11	'63	c	c	b	b	94	1	4	24	
5658. 54	安蘇郡葛生町大字葛生	石 川 市 太 郎	11	'59	a	a	o	o	84	1	4	0	
5658. 89	栃木市沼和田町	片 柳 文 平	11	'58	a	a	o	o	94	1	7	0	
5659. 42	下都賀郡壬生町大字壬生	松 本 德 一	11	'58	a	a	o	o	02	5	8	0	
5659. 46	河内郡上三川町大字上三川	貝 賀 染 吉	11	'58	a	a	o	o	86	1	8	24	兵
5659. 78	芳賀郡二宮町久下田	鈴 木 信	11	'61	b	b	a	a	03	5	6	2	
5667. 08	足利市大町	椎 名 市 郎	12	'63	c	c	b	b	92	4	6	0	
5668. 13	佐野市高砂町	蛭 川 信 次 郎	11	'57	a	a	o	o	98	5	6	0	
5668. 38	下都賀郡藤岡町蛭沼	大 橋 源 次 郎	11	'64	c	c	b	b	99	1	8	0	
5669. 12	小山市稲葉郷上之町	岩 崎 沢 藏	10	'58	a	a	o	o	98	1.4	8	0	
5710. 42	那須郡那須町大字高久丙小字大沢	高 根 沢 貞 一	11	'64	c	c	b	b	91	1	4	0	
5710. 84	那須郡那須町大字寺子丙	大 森 末 吉	11	'60	b	b	a	o	96	5	5	36	兵
5720. 34	那須郡黒磯町越堀	鈴 木 元	11	'58	a	a	o	o	96	1	8	24	兵
5720. 71	大田原市大田原	加 藤 包 房	11	'57	a	a	o	o	98	1	8	24	兵
5720. 98	那須郡黒羽町大字須佐木	益 子 正 秋	11	'62	c	c	b	b	97	1	8	0	
5730. 57	那須郡馬頭町大字馬頭	郡 司 寅 之 助	11	'59	a	a	o	o	02	1	8	24	兵
5730. 71	塩谷郡喜連川町大字喜連川	蕪 木 達 吉	11	'59	a	a	o	o	02	5	8	18	
5740. 16	那須郡烏山町金町	小 堀 広	11	'58	a	a	o	o	01	5	4	0	
5740. 43	芳賀郡芳賀町大字上稲毛田	鈴 木 栄 之 進	11	'63	c	c	b	b	95	1	8	24	兵
5740. 87	芳賀郡茂木町上町	横 山 孝 助	11	'58	a	a	o	o	94	5	6	28	
5750. 30	真岡市田町	浅 香 隅 一 郎	11	'62	c	c	b	b	98	5	8	0	
5750. 31	真岡市大字東郷字八切	南 雲 孫 次 郎	11	'57	a	a	o	o	93	1	8	0	
群 馬 県													
5626. 92	利根郡水上町大字藤原字須田貝	中 島 藤 四 郎	97	'59	a	a	o	o	87	1	4	0	
5626. 99	利根郡片品村戸倉	松 浦 斗 一	12	'62	c	c	b	b	05	1	7	0	
5635. 48	利根郡水上町川上	中 島 広 寿	12	'58	a	a	o	o	89	1	4	0	
5635. 65	利根郡新治村猿ヶ京	林 喜 市 郎	12	'57	a	a	o	o	77	1	6	24	
5636. 49	利根郡片品村須賀川前田	青 木 助 多 郎	12	'58	a	a	o	o	01	1.2	6	8	兵
5636. 74	利根郡川場村谷地中原	中 村 繁 一	12	'58	a	a	o	o	03	1	8	24	兵
5644. 24	吾妻郡草津町大字草津	冲 津 善 助	96	'62	b	b	a	a	93	7	6	12	
5644. 74	吾妻郡長野原町羽根尾	柄 沢 里 平	12	'57	a	a	o	o	03	1	6	24	兵
5645. 27	吾妻郡高山村大字中山字判形	鈴 木 吾 三 郎	12	'62	c	c	b	b	97	1	7	0	
5645. 43	吾妻郡中之条町西中之条	唐 沢 曆 雄	12	'59	a	a	o	o	90	1	8	24	
5645. 89	北群馬郡長尾村北牧鍛冶谷戸	島 田 光 一 郎	12	'58	a	a	o	o	95	1	6	24	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5646. 12	沼田市柳町	宮田豊治	12	'58	a	a	o	o	90	1	4	0	
5646. 39	利根郡利根村大字根利字西沢	小管良太郎	12	'62	c	c	b	b	97	1	6	18	兵
5646. 71	勢多郡赤城村津久田西宿	角田元雄	12	'58	a	a	o	o	97	1	8	24	兵
5647. 56	勢多郡東村沢入	松島庄次郎	12	'59	a	a	o	o	03	1	6	0	
5653. 08	吾妻郡嬭恋村田代	戸部与茂平	20	'61	b	b	a	o	98	1	6	36	兵
5654. 98	碓氷郡松井田町坂本	田村鏗太郎	12	'60	b	b	a	o	81	1	6	0	
5655. 41	群馬郡倉瀨村岩氷	原田佐助	12	'60	b	b	a	o	77	1	6	0	
5655. 57	群馬郡箕郷町金敷平	山口嘉祿	12	'57	a	a	o	o	79	1	4	0	
5655. 97	安中市板鼻町	高橋万次	12	'63	c	c	b	b	96	1	6	0	
5656. 56	勢多郡大胡町茂木	勅使河原太郎治	12	'58	a	a	o	o	92	1	7	0	
5656. 62	前橋市連雀町	渡辺駒次	12	'59	a	a	o	o	94	5	7	24	
5657. 06	桐生市梅田5丁目	前原寅之助	12	'63	c	c	b	b	97	1	4	0	
5657. 53	桐生市東久方町	早川常吉	12	'63	c	c	b	b	95	4	8	24	兵
5657. 73	桐生市広沢町4丁目	周藤国治	12	'57	a	a	o	o	90	1	4	36	兵
5664. 58	甘楽郡下仁田町本宿	東間重太郎	12	'61	b	b	o	a	91	5	8	3	兵
5665. 11	碓氷郡松井田町行田	中山弥一	12	'59	a	a	o	o	96	1	8	3	兵
5665. 12	碓氷郡松井田町上町	井上重三郎	12	'63	c	c	b	b	01	5	8	0	
5665. 46	富岡市曾木	金庭巳市	12	'58	a	a	o	o	03	1	8	0	
5665. 89	藤岡市下日野大字駒留	山田利太郎	12	'64	c	c	b	b	98	1	6	0	
5666. 10	高崎市宮元町	田島武夫	12	'58	a	a	o	o	99	7	12	0	兵
5666. 18	伊勢崎市今泉町1丁目	山口静三郎	12	'57	a	a	o	o	80	1	4	36	兵
5666. 22	群馬郡倉賀野町田子屋町	綿貫金次郎	12	'62	c	c	b	b	99	1	6	0	
5667. 24	太田市太田	中村豊太郎	12	'59	a	a	o	o	95	1.5	6	0	
5667. 41	新田郡尾島町大字世良田	手島英次	12	'64	c	c	b	b	96	1	6	0	
5667. 77	邑楽郡千代田村大字舞木	大谷藤太郎	97	'59	a	a	o	o	03	7	8	24	
5668. 51	館林市谷越	島田由蔵	11	'59	a	a	o	o	90	5	9	18	
5674. 06	甘楽郡南牧村羽沢字羽根沢	神場常次郎	12	'61	b	b	o	a	00	1	6	0	
5674. 59	多野郡上野村大字檜原	田村福次	12	'64	c	c	b	b	98	1	6	0	
5675. 36	多野郡万場町万場	斎藤寅雄	12	'60	b	b	a	o	90	1	6	24	兵
5676. 10	多野郡鬼石町大字三波川字月吉	井上貞作	98	'59	a	a	o	o	88	1.2	8	0	
埼玉県													
5666. 85	児玉郡児玉町上町	斎藤豊太郎	12	'60	b	b	a	o	82	5	4	0	
5667. 81	深谷市仲町	山本泰憲	12	'60	b	b	a	o	03	1	8	20	兵
5675. 87	秩父郡小鹿野町大字三山字半平	近藤豊太郎	52	'61	b	b	a	a	99	1	11	36	
5676. 28	大里郡寄居町大字桜沢	大谷重三郎	97	'59	a	a	o	o	03	4	8	0	
5676. 52	秩父郡皆野町大字下日野沢字沢辺	新井武信	52	'64	c	c	b	b	01	5	8	24	
5676. 84	秩父市大字大野原大字大野原	高橋達一郎	52	'60	b	b	a	o	00	1	8	0	
5677. 14	熊谷市大字広瀬	村田忠治	13	'57	a	a	o	o	99	1	8	24	兵
5677. 28	行田市大字佐間字第二佐間	江原通三	52	'61	b	b	a	o	84	1	4	0	
5677. 60	比企郡小川町大字小川	新井源次郎	52	'63	c	c	b	b	95	5	8	0	
5677. 85	東松山市大字上野本字金谷	原利惣治	52	'59	a	a	o	o	92	1	8	0	
5678. 33	北埼玉郡騎西町大字上高柳字船橋	杉田倉之助	52	'60	b	b	a	o	89	1	11	0	
5678. 59	北葛飾郡幸手町大字権現堂小字下谷	新井小十郎	98	'59	a	a	o	o	94	1	8	0	
5678. 71	北足立郡北本宿村大字宮内	沼田好郎	13	'57	a	a	o	o	03	1	8	0	
5678. 86	南埼玉郡白岡町大字白岡字東	神田鈞三郎	52	'64	c	c	b	b	03	1	8	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5685. 02	秩父郡大滝村字中津川	山中 葵 二 郎	96	'59	a	a	o	o	85	1	4	0	
5685. 37	秩父郡大滝村大字大滝字樋打	磯 田 今 市	96	'59	a	a	o	o	85	1	4	0	
5686. 15	秩父郡横瀬村芦ヶ久保	村 越 仲 造	99	'61	b	b	a	a	87	4	7	0	
5686. 31	秩父郡荒川村大字上田野字事上	松 田 理 平	96	'59	a	a	o	o	92	1	4	24	兵
5686. 67	入間郡名栗村大字上名栗字津辺曾	鈴 木 和 一 郎	52	'59	a	a	o	o	95	1	11	12	兵
5687. 32	入間郡毛呂山町大字毛呂本郷字宿	紫 藤 光 六	52	'59	a	a	o	o	97	1	8	1	
5687. 59	川越市松郷下松江町	吉 田 伊 之 助	99	'59	a	a	o	o	98	4	6	0	
5687. 60	飯能市大字虎秀	井 上 又 藏	52	'63	c	c	b	b	84	1	6	35	兵
5687. 86	狭山市入間川	小 高 金 三	52	'61	b	b	a	a	94	5	8	0	
5688. 01	上尾市大字藤波字天神前	萩 原 清 隆	52	'60	b	b	a	o	97	1	6	3	
5688. 37	岩槻市大字加倉字中島	丸 井 金 之 助	52	'60	b	b	a	o	94	7	8	0	
5688. 74	北足立郡与野町大字入王子	岩 崎 福	13	'57	a	a	o	o	03	1	8	0	
5688. 86	浦和市高砂町2丁目	岩 崎 隆 壽	52	'62	c	c	b	b	88	7	8	24	兵
5689. 10	春日部市大字梅田東	清 水 元 之	57	'64	c	c	b	b	03	1	8	0	
5689. 43	北葛飾郡吉川町拾壹軒	飯 島 入 三 郎	57	'61	b	b	a	a	99	1	8	0	
5697. 24	入間郡元狭山村二本木	清 水 藤 四 郎	15	'57	a	a	o	o	96	1	8	36	兵
5698. 19	川口市十二月田町	稻 垣 兼 吉	58	'61	b	b	o	a	93	5	6	3	兵
千葉県													
5679. 41	東葛飾郡関宿町台町	増 山 豊 一	55	'65	c	c	b	b	98	7	8	0	
5689. 34	野田市野田	瀬 田 伝 次 郎	14	'61	b	b	a	o	85	5	4	12	
5689. 98	柏市豊町	岩 崎 喜 助	14	'58	a	a	o	o	94	1	8	0	
5699. 25	松戸市樋野口	高 橋 作 次 郎	14	'57	a	a	o	o	93	1	8	0	
5699. 89	船橋市湊町	大 野 繁 次 郎	57	'64	c	c	b	b	93	3	8	36	兵
5781. 65	香取郡神崎町松崎	岡 野 大 次 郎	98	'59	a	a	o	o	97	1	8	0	
5782. 94	香取郡小見川町小見川	花 垣 篤	98	'59	a	a	o	o	97	5	6	0	
5790. 03	印旛郡白井村平塚	山 蔵 勘 蔵	14	'61	b	b	a	o	96	1	8	0	
5790. 39	印旛郡印旛村瀬戸	片 野 峯 吉	14	'61	b	b	a	o	89	1	8	24	兵
5790. 64	千葉郡八千代町大和田	花 島 新 一	57	'64	c	c	b	b	94	1	4	24	兵
5790. 79	佐倉市和田町高岡	坂 上 蔵 治	14	'61	b	b	a	o	88	7	6	0	
5791. 07	香取郡大栄町横山	吉 田 喜 平	57	'64	c	c	b	b	95	1	10	3	兵
5791. 23	成田市寺台	加 藤 金 兵 衛	14	'57	a	a	o	o	95	7	8	0	
5791. 68	香取郡多古町林	平 山 捨 太 郎	96	'60	b	b	a	o	85	1	8	0	
5792. 02	香取郡小見川町油田	日 下 部 丑 松	98	'59	a	a	o	o	94	1	6	0	
5792. 18	香取郡東庄町大字東今泉東浜	桜 井 重 右 衛 門	98	'60	b	b	a	o	00	1	8	0	
5792. 62	八日市場市春海寄島	高 橋 美 太 郎	96	'60	b	b	a	o	99	1	11	0	
5792. 78	海上郡飯岡町菰園	加 藤 定 吉	57	'63	c	c	b	b	00	1	8	0	
5793. 63	銚子市芝町	丸 山 国 蔵	57	'63	c	c	b	b	02	1	8	0	
5793. 74	銚子市高神東町	伊 東 長 左 衛 門	57	'61	b	b	o	a	88	1	6	0	
6619. 76	木更津市木更津	石 川 寛	14	'58	a	a	o	o	97	7	11	0	
6629. 24	君津郡大佐和町千種新田	磯 部 虎 雄	14	'57	a	a	o	o	85	7	10	36	
6629. 98	君津郡峰上村豊岡志組	茂 木 直	57	'61	b	b	o	a	97	1	4	24	兵
6639. 29	安房郡長狭町字平塚大田代	三 木 民 三 郎	57	'62	c	c	b	b	99	1	8	0	
6639. 43	安房郡富山町久枝	伊 能 芳 治	14	'59	a	a	o	o	99	7	10	24	
6639. 79	安房郡和田町大字中原小字神田	戸 田 小 一	98	'58	a	a	o	o	00	1	12	0	
6649. 13	館山市笠名	田 辺 馬 之 助	14	'57	a	a	o	o	81	7	8	24	兵

調査地点番 号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6649. 28	安房郡千倉町北朝夷	鈴木佐輔	14	'59	a	a	o	o	99	5	8	0	
6649. 55	安房郡白浜町白浜小字島崎	木曾仁三松	57	'62	c	c	b	b	02	3	6	12	兵
6700. 25	千葉市東寺山町	高山才次郎	14	'59	a	a	o	o	95	1	6	0	
6700. 48	千葉郡泉町高根	湯浅長治	14	'59	a	a	o	o	88	7	5	24	兵
6700. 98	市原市市津町東国吉	西郡千樹	57	'63	c	c	b	b	88	1	11	36	
6701. 01	印旛郡八街町西林	中村忠司	14	'58	a	a	o	o	00	1	8	0	
6701. 46	山武郡成東町殿台	田辺晋	14	'59	a	a	o	o	01	1	11	24	兵
6702. 21	匝瑳郡光町木戸	椎名義夫	96	'60	b	b	a	o	01	1	10	0	
6710. 02	市原郡姉ヶ崎町今津朝山	清水安太郎	14	'57	a	a	o	o	86	1	3	0	
6710. 55	市原郡南総町奉免	藤代吉郎	14	'58	a	a	o	o	93	1	13	36	
6710. 70	君津郡平川町横田	三幣徳	57	'62	c	c	b	b	97	1	8	0	
6711. 12	長生郡本納町本納	石渡省三	14	'59	a	a	o	o	89	5	12	0	
6711. 16	山武郡大網白里町四天木納屋	鎌田敬造	57	'63	c	c	b	b	94	5	7	0	
6711. 60	長生郡長南町大字坂本小字小金	桑原弥七	98	'58	a	a	o	o	95	1	8	36	兵
6711. 95	長生郡一宮町東浪見小字大村	峰島鉄蔵	14	'57	a	a	o	o	81	1	3	6	0
6720. 23	君津郡上総町市場	金沢元貞	14	'58	a	a	o	o	00	5	15	36	
6720. 67	夷隅郡大多喜町小沢又	大沼清次郎	14	'58	a	a	o	o	87	1	6	4	兵
6721. 31	夷隅郡夷隅町行川	渡辺甚一	57	'61	b	b	o	a	97	1	9	0	
6721. 33	夷隅郡大原町高谷	池田実	14	'58	a	a	o	o	94	1	8	0	
6730. 27	安房郡天津小湊町字内浦	渡辺重治	57	'62	c	c	b	b	87	1	6	24	兵
6730. 33	安房郡鴨川町貝渚	粕谷勝三	14	'57	a	a	o	o	93	7	10	36	
6731. 03	夷隅郡勝浦町部原	高橋徹	14	'59	a	a	o	o	86	3	0	0	
東 京 都													
5696. 13	西多摩郡奥多摩町大字氷川	小峯仙助	15	'57	a	a	o	o	98	2	8	0	
5696. 54	西多摩郡檜原村小沢	峰岸冠司	58	'62	c	c	b	b	88	1	6	0	
5696. 68	西多摩郡五日市町小和田	宮崎匡治	58	'61	b	b	o	a	00	1	10	24	
5697. 20	青梅市森下	島崎澄	49	'58	a	a	o	o	94	5	4	0	
5697. 53	西多摩郡福生町福生	村野長治	58	'62	c	c	b	b	93	1	8	0	
5697. 86	立川市柴崎町	高島豊作	49	'59	a	a	o	o	95	1	4	24	兵
5698. 30	北多摩郡清瀬町上清戸	野島周造	49	'59	a	a	o	o	96	1	4	36	
5698. 54	練馬区下石神井	栗原勝心	49	'59	a	a	o	o	98	1	4	0	
5698. 69	文京区西原町	斎藤惣次郎	58	'62	c	c	b	b	81	5	8	0	
5698. 91	三鷹市大沢	宮川信太郎	99	'59	a	a	o	o	95	7	7	0	
5699. 42	足立区四ツ家町	岡村照吉	57	'61	b	b	o	a	90	1	4	0	
6607. 03	入王子市八日町	黒沼喜右衛門	49	'58	a	a	o	o	88	5	4	0	
6607. 18	南多摩郡多摩村関戸	小川三郎	58	'63	c	c	b	b	01	5	6	24	兵
6607. 68	町田市本町田1丁目	矢沢清兵衛	58	'63	c	c	b	b	92	1	8	0	
6608. 07	目黒区駒場町	川井栄一	49	'58	a	a	o	o	91	7	12	16	兵
6608. 69	大田区糞谷町	柴田一郎	58	'63	c	c	b	b	99	4	8	0	
6609. 02	江東区深川古石場4丁目	本多辰次	99	'58	a	a	o	o	80	3	2	60	兵
6609. 05	江戸川区長島町	梅原要次郎	15	'57	a	a	o	o	95	5	8	0	
6657. 54	(大島支庁)大島町元町	青木松之助	49	'59	a	a	o	o	81	1	3	4	4
6657. 96	(大島支庁)大島町差木地	小坂寅之助	48	'65	a	a	b	b	83	3	4	24	兵
6667. 81	(大島支庁)利島村	西村マサ	99	'62	c	c	b	b	不明	0	0	0	女
6677. 41	(大島支庁)新島本村大字若郷	前田孫之丞	58	'65	c	c	b	b	78	1	3	4	0

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6677. 70	(大島支庁)新島本村大字本村	植松甚助	58	'65	c	c	b	b	96	3	8	32	兵
6686. 75	(大島支庁)神津島村	小川乃婦	58	'65	c	c	b	b	95	1	2	552	兵
6697. 39	(三宅島支庁)三宅村伊豆	島沢鉞郎	58	'61	b	b	o	a	93	5	6	3	兵
6697. 49	(三宅島支庁)三宅村伊ヶ谷	山口恭三	58	'61	b	b	o	a	98	1	6	60	兵
6697. 59	(三宅島支庁)三宅村阿古	村上平太郎	58	'61	b	b	o	a	88	1	8	30	兵
6698. 20	(三宅島支庁)三宅村神着	佐藤源之助	58	'61	b	b	o	a	87	5	8	0	
6698. 61	(三宅島支庁)三宅村坪田	田中平五郎	58	'61	b	b	o	a	85	1	6	0	
7659. 31	(八丈島支庁)八丈町三根川向	小沢多之一	99	'60	b	b	a	o	94	1	9	31	兵
7659. 40	(八丈島支庁)八丈町大賀郷八戸	折田与右衛門	99	'60	b	b	a	o	89	1	6	0	
7659. 51	(八丈島支庁)八丈町檜立川城羅	佐藤田三郎	99	'60	b	b	a	o	81	1	4	0	
7659. 53	(八丈島支庁)八丈町末吉	冲山要	99	'60	b	b	a	o	12	1+3	10	12	
7659. 62	(八丈島支庁)八丈町中之郷向里	菊池豊蔵	99	'60	b	b	a	o	96	1	8	0	
神奈川県													
6606. 38	津久井郡相模湖町若柳奥畑	榎本清重	49	'58	a	a	o	o	87	1	6	36	兵
6606. 89	愛甲郡清川村宮ヶ瀬落合	落合仲次郎	49	'62	c	c	b	b	85	1	4	24	兵
6607. 84	相模原市当麻	萩原庄作	49	'58	a	a	o	o	92	1	8	3	兵
6608. 22	川崎市登戸町	池田定朝	15	'57	a	a	o	o	00	5	8	0	
6616. 22	足柄上郡山北町中川箒沢	佐藤伴次郎	49	'63	c	c	b	b	93	1	4	0	
6616. 79	秦野市曾屋	佐藤森造	49	'60	b	b	a	o	97	1	6	3	兵
6616. 93	足柄上郡山北町湯坂	田代為盛	49	'59	a	a	a	o	90	1	4	24	兵
6617. 34	厚木市厚木	福山伊三郎	49	'59	a	a	o	o	03	5	6	0	
6617. 75	高座郡寒川町大字宮山字根岸	北野勝善	15	'57	a	a	o	o	02	1	8	2	兵
6617. 99	藤沢市藤沢	堀川賢蔵	49	'62	c	c	b	b	02	4	6	24	兵
6618. 25	横浜市神奈川区幸ヶ谷	佐藤喜代造	49	'64	c	c	b	b	97	5	4	0	
6618. 46	横浜市中区間門町	高橋半蔵	15	'57	a	a	o	o	91	5	11	24	兵
6618. 51	横浜市戸塚区吉田元町	高橋仙次郎	49	'60	b	b	a	o	71	1	4	36	
6626. 06	足柄上郡大井町上大井	渋谷厚	49	'64	c	c	b	b	91	1	4	24	兵
6626. 30	足柄下郡箱根町仙石原下向	勝俣門三	99	'58	a	a	o	o	91	1	6	0	
6626. 46	小田原市緑町	中山延吉	49	'59	a	a	o	o	94	5	4	0	
6626. 71	足柄下郡箱根町元箱根	村瀬鹿蔵	49	'61	b	b	o	a	94	7	4	12	
6627. 12	中郡大磯町南下町	岩田亮三	49	'58	a	a	o	o	86	5	6	2	
6628. 23	逗子市逗子	宮崎弥吉	49	'58	a	a	o	o	93	7	8	24	
6628. 59	横須賀市鴨居	高橋恭一	49	'58	a	a	o	o	98	7	11	2	兵
6628. 64	横須賀市佐島	福本長吉	49	'63	c	c	b	b	91	3	4	0	
6636. 05	足柄下郡真鶴町大道通り	青木久三郎	22	'64	c	c	b	b	95	3	0	0	
6638. 14	三浦市三崎町花暮	笹本金太郎	49	'61	b	b	o	a	94	3	4	0	
新潟県													
4637. 20	岩船郡粟島浦村字内浦	本保孝一	16	'63	c	c	b	b	86	1+3	3	0	
4637. 68	岩船郡山北村大字笹川	本間俊治	16	'61	b	b	o	a	91	3	4	6	
4638. 22	岩船郡山北村大字北田中	大滝堅治	98	'62	b	b	a	a	98	1	6	0	
4638. 43	岩船郡山北村大字大毎	加藤宏平	16	'61	b	b	o	a	90	1	6	0	
4643. 47	佐渡郡相川町大字五十浦	石畑久三	97	'58	a	a	o	o	04	1	6	36	兵
4644. 10	両津市大字鷺崎	本間作太	98	'60	b	b	a	o	88	1+3	4	24	兵
4647. 69	村上市大字村上安楽町	木戸倉蔵	16	'62	c	c	b	b	94	5	8	2	
4647. 87	村上市大字岩船	木鈴清蔵	16	'57	a	a	o	o	93	5	10	0	

調査地点番 号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
4648. 04	岩船郡朝日村大字高根	板垣忠七郎	16	'62	c	c	b	b	92	5	4	0	
4648. 42	岩船郡朝日村大字新屋	貝沼準	16	'61	b	b	o	a	99	7	8	24	兵
4648. 59	岩船郡朝日村大字三面	伊藤喜一郎	16	'62	c	c	b	b	02	1	6	0	
4652. 79	佐渡郡相川町大字大間町	伊藤豊吉	16	'59	a	a	o	o	91	5	11	28	
4653. 02	佐渡郡相川町大字北片辺	山城倉吉	98	'60	b	b	a	o	03	5	6	30	
4653. 47	両津市大字夷浜田一	伊藤幸助	16	'59	a	a	o	o	93	5	8	0	
4653. 84	佐渡郡金井町大字千種小字大和田	矢田与一	98	'61	b	b	a	a	91	1	8	0	
4654. 52	両津市大字水津	北吾作	16	'59	a	a	o	o	89	1.3	4	0	
4657. 64	北蒲原郡築地村大字築地	赤塚素一	16	'61	b	b	o	a	88	7	6	6	
4657. 88	北蒲原郡黒川村大字坂井	赤妻元太郎	16	'61	b	b	o	a	97	1	6	0	
4658. 42	岩船郡関川村大字下関	伊藤初太郎	16	'61	b	b	o	a	99	1	6	0	
4663. 06	佐渡郡畑野村畑野	中川実	97	'58	a	a	o	o	89	5	6	3	兵
4663. 49	佐渡郡畑野村松ヶ崎	青木長三郎	97	'58	a	a	o	o	98	5	13	72	
4663. 92	佐渡郡羽茂町仮屋	渡辺元吉	98	'61	b	b	a	a	71	1	3	0	
4665. 87	西蒲原郡内野町字内野6番町	影山常次	16	'59	a	a	o	o	94	1	4	0	
4666. 17	新潟市島見町	川島象三郎	16	'63	c	c	b	b	03	1.3	6	18	
4666. 42	新潟市沼垂古町4丁目	渡辺長吉	16	'63	c	c	b	b	00	5	8	0	
4666. 51	新潟市関屋下川原	神田又一	16	'59	a	a	o	o	96	4	6	31	兵
4666. 99	北蒲原郡水原町大字水原	佐藤直吉	16	'61	b	b	o	a	98	1	8	0	
4667. 33	新発田市泉町	五十嵐吉次郎	16	'57	a	a	o	o	98	1	7	0	
4667. 76	新発田市大字山内	宮川楹蔵	16	'61	b	b	o	a	01	1	8	0	
4672. 19	佐渡郡小木町字宿根木	石塚瑛太郎	16	'59	a	a	o	o	78	1	6	10	
4675. 45	西蒲原郡巻町甲	石田忠太郎	16	'59	a	a	o	o	96	1	6	0	
4675. 62	西蒲原郡岩室村字間瀬	山川重作	16	'63	c	c	b	b	90	3	6	3	
4676. 39	北蒲原郡安田町保田字宮町	安沢金松	97	'65	c	c	b	b	94	1	4	48	兵
4676. 42	中蒲原郡小須戸町大字小須戸	高橋三四治	16	'57	a	a	o	o	96	5	6	0	
4676. 60	白根市茨曾根	栗田虎吉	16	'59	a	a	o	o	02	1	6	0	
4676. 67	五泉市大字五泉	酒井一郎	16	'60	b	b	a	o	00	5	6	0	
4677. 65	東蒲原郡三川村大字岡沢	神田新吉	16	'61	b	b	o	a	96	1	7	12	
4678. 71	東蒲原郡鹿瀬町日出谷字中村	遠藤常信	97	'59	a	a	o	o	00	5	6	24	
4684. 77	三島郡出雲崎町石井町	小林佐次郎	16	'58	a	a	o	o	78	3	0	21	
4685. 10	三島郡寺泊町上荒町	長谷川勘右衛門	16	'63	c	c	b	b	88	5	8	6	
4685. 28	三条市西四日町	中沢富次	16	'59	a	a	o	o	87	4	4	36	
4685. 72	三島郡与板町南新町	石黒広作	16	'58	a	a	o	o	03	5	6	36	
4685. 88	見附市本明町	北沢正吉	97	'59	a	a	o	o	88	1	5	36	
4686. 02	加茂市大字加茂第十二区	有本音蔵	16	'64	c	c	b	b	91	1	6	1	
4686. 52	南蒲原郡下田村大字飯田	三瓶平策	16	'60	b	b	a	o	95	1	9	36	兵
4686. 96	南蒲原郡下田村大字笠堀	熊倉乙蔵	16	'64	c	c	b	b	95	2	4	11	兵
4687. 01	中蒲原郡村松町大字笹目字高石	五十嵐与栄松	16	'64	c	c	b	b	95	1.2	8	12	
4687. 37	東蒲原郡上川村大字広谷字八田蟹	長谷川勝	16	'61	b	b	o	a	03	1	6	0	
4694. 26	刈羽郡西山町大字下山田	和田又治	16	'62	c	c	b	b	02	1.6	8	3	兵
4694. 81	柏崎市本町2丁目	小熊豊三	16	'57	a	a	o	o	95	5	8	36	
4694. 95	刈羽郡北条町字北条	寺沢喜義	16	'58	a	a	o	o	01	1	8	0	
4695. 19	栃尾市栃尾岩神区	植村米作	16	'57	a	a	o	o	85	5	6	0	
4695. 21	長岡市関原町3丁目甲	藤田豊次	16	'58	a	a	o	o	89	4	8	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
4695. 33	長岡市千手町3丁目	金 安 吉 次	16	'62	c	c	b	b	90	5	8	0	
4695. 87	古志郡山古志村大字種芋原	板 牧 吉 松	16	'64	c	c	b	b	02	1	6	0	
4696. 82	北魚沼郡入広瀬村大字穴沢	佐 藤 利 久	16	'60	b	b	a	o	81	1.2	3	0	
5602. 99	直江津市塩屋区	中 戸 賢 亮	16	'63	c	c	b	b	96	5	14	36	
5603. 35	中頸城郡柿崎町大字柿崎仲町	山 田 泰 一 郎	16	'58	a	a	o	o	00	5	8	24	
5603. 88	中頸城郡吉川町大字山直海字村屋	常 山 正 一	96	'58	a	a	o	o	96	1	6	0	
5604. 28	刈羽郡小国町大字新町	中 村 重 太 郎	16	'63	c	c	b	b	00	1	6	0	
5604. 52	刈羽郡黒姫村大字折居字餅櫃	高 橋 鹿 之 助	16	'62	c	c	b	b	96	1	6	3	
5604. 65	刈羽郡高柳町大字岡野町	石 塚 米 吉	16	'57	a	a	o	o	82	0	4	36	兵
5605. 11	小千谷市横町	田 中 秀 太 郎	16	'59	a	a	o	o	93	5	8	0	
5605. 57	北魚沼郡堀之内町旭町	佐 藤 一 二	16	'57	a	a	o	o	01	5	8	24	兵
5605. 70	中魚沼郡川西町字原田	丸 山 周 作	16	'64	c	c	b	b	92	1	4	0	
5606. 83	北魚沼郡湯之谷村大字大湯	桜 井 高 五 郎	16	'60	b	b	a	o	94	5	4	8	
5611. 39	西頸城郡能生町大字能生	倉 又 富 治	16	'64	c	c	b	b	01	5	8	0	
5611. 74	糸魚川市大字一の宮	矢 島 喜 久 一	16	'57	a	a	o	o	91	1	8	0	
5611. 81	西頸城郡青海町本町2丁目	斎 藤 五 太 郎	16	'58	a	a	o	o	80	1.3	6	0	
5612. 22	西頸城郡能生町字筒石	久 保 田 庄 吉	16	'58	a	a	o	o	02	3	6	35	
5612. 39	高田市大町3丁目	大 島 久 二 郎	16	'57	a	a	o	o	84	5	8	36	兵
5612. 98	新井市三俣	柴 田 磯 吉	16	'58	a	a	o	o	97	1	4	0	
5613. 33	中頸城郡三和村字川浦	岩 沢 千 代 治	16	'64	c	c	b	b	97	1	8	0	
5613. 48	東頸城郡安塚町大字小黒	岩 崎 麟 太 郎	16	'58	a	a	o	o	89	1	6	24	
5613. 53	中頸城郡清黒村大字菅原	本 多 寿 太 郎	16	'58	a	a	o	o	03	1	8	0	
5613. 80	新井市大字新井朝日町	池 田 喜 三 郎	16	'63	c	c	b	b	01	7	6	0	
5614. 24	東頸城郡松代町大字松代	樋 口 広 吉	16	'60	b	b	a	o	87	1	4	10	
5614. 62	東頸城郡松之山町大字浦田字中立山	飯 塚 政 平	16	'64	c	c	b	b	97	1.6	9	13	
5614. 68	中魚沼郡中里村大字田沢字田沢	村 山 義 平	16	'60	b	b	a	o	97	1	6	0	
5615. 20	十日町市大字十日町高田町	上 村 寿 平	16	'60	b	b	a	o	99	1	6	0	
5615. 28	南魚沼郡大和村大字大崎	中 島 英 一	16	'60	b	b	a	o	96	1	4	12	兵
5615. 65	南魚沼郡六日町大字六日町	岡 部 岩 雄	16	'62	c	c	b	b	87	5	10	24	
5615. 74	南魚沼郡塩沢町大字塩沢	角 谷 喜 太 郎	16	'60	b	b	a	o	80	1	4	23	兵
5615. 78	南魚沼郡六日町大字畔地	大 塚 義 春	16	'64	c	c	b	b	91	1.2	4	8	兵
5620. 16	西頸城郡青梅町大字市振	建 部 常 春	17	'58	a	a	o	o	85	4.5	9	18	
5621. 43	糸魚川市小滝瀬野田	伊 藤 賀 一 郎	16	'58	a	a	o	o	90	1	4	24	兵
5622. 48	中頸城郡妙高村関山	内 田 富 造	16	'58	a	a	o	o	95	1	8	3	兵
5623. 42	新井市大字長沢	大 野 正	20	'65	c	c	b	b	03	1	9	0	
5624. 05	中魚沼郡津南町大字赤沢	高 橋 増 一	16	'60	b	b	a	o	03	1	8	18	
5625. 32	南魚沼郡湯沢町大字湯沢一の町	高 橋 利 徳	16	'57	a	a	o	o	89	5	4	24	兵
5625. 91	南魚沼郡湯沢町二居	林 千 代 吉	16	'63	c	c	b	b	89	5	4	9	
富 山 県													
5527. 89	氷見市朝日北部	岩 水 源 助	17	'59	a	a	o	o	80	1	2	2	兵
5528. 31	氷見市中田	中 山 初 蔵	17	'61	b	b	a	a	94	1	4	0	
5529. 77	黒部市三日市町三日市	菅 野 脩 一	17	'58	a	a	o	o	89	5	8	0	
5537. 34	西礪波郡福岡町字沢川	村 口 磯 次 郎	17	'63	c	c	b	b	93	1.2	4	0	
5537. 94	西礪波郡石動町上野本	坪 野 次 作	17	'59	a	a	o	o	86	1	8	0	
5537. 99	西礪波郡戸出町戸出	柴 田 太 四 郎	17	'60	b	b	a	o	87	5	8	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5538. 33	新湊市放生津東町	塩谷善右工門	17	'62	c	c	b	b	91	7	8	12	兵
5538. 49	富山市岩瀬町御蔵町	藤沢助次郎	17	'62	c	c	b	b	89	1	4	0	
5538. 50	高岡市横田町宮ノ腰	吹田勝次郎	17	'57	a	a	o	o	87	4	4	0	
5538. 63	射水郡小杉町三ヶ	津田誉三	96	'63	c	c	b	b	94	1	8	0	
5538. 88	富山市長柄町	荒川重義	17	'57	a	a	o	o	82	4	5	0	
5538. 90	東礪波郡中田町字中田	高橋庄太郎	17	'60	b	b	a	o	82	5	6	12	兵
5539. 16	魚津市橋向町	膳亀源次郎	17	'58	a	a	o	o	86	5	8	0	
5539. 43	滑川市神明町	長谷川喜十郎	17	'57	a	a	o	o	03	4	6	0	
5539. 74	中新川郡上市町南町	椎名保弘	17	'60	b	b	a	o	96	5	9	0	
5547. 25	西礪波郡礪中町津沢町上町	中村重雄	17	'60	b	b	a	o	95	5	6	0	
5547. 96	東礪波郡城端町城端	今井兼嗣	17	'57	a	a	o	o	92	5	9	0	
5548. 24	婦負郡婦中町外輪野	宮田助蔵	17	'61	b	b	a	a	90	5	4	0	
5548. 35	婦負郡八尾町保内高善寺	武田利重	99	'57	a	a	o	o	92	1	6	48	兵
5548. 58	上新川郡大沢野町八木山	林直次	17	'59	a	a	o	o	89	1	4	0	
5548. 60	東礪波郡庄川町字湯山	山本善次郎	17	'63	c	c	b	b	03	1	8	0	
5549. 09	中新川郡上市町伊折	山下金太郎	17	'64	c	c	b	b	89	1	3	24	兵
5549. 32	上新川郡大山町上滝	藤井米一	17	'61	b	b	a	a	90	5	8	0	
5549. 55	中新川郡立山町芦峰寺	佐伯利一	17	'63	c	c	b	b	95	1	4	24	兵
5557. 42	西礪波郡福光町中ノ河内	大見作次郎	17	'64	c	c	b	b	95	1	4	0	
5557. 48	東礪波郡平村下梨	藤井貞次郎	17	'60	b	b	a	o	92	2+4	8	0	
5558. 09	婦負郡細入村片掛	平井外二	17	'61	b	b	a	a	81	5	3	0	
5558. 33	婦負郡八尾町庵谷	多田秀忠	17	'64	c	c	b	b	94	1+2	4	0	
5620. 30	下新川郡入善町入膳町	沢谷由次郎	17	'62	c	c	b	b	99	1	9	24	
5620. 32	下新川郡朝日町道下	竹中慶太郎	17	'57	a	a	o	o	88	1	11	36	
5620. 80	下新川郡宇奈月町浦山	八尾彦一	99	'57	a	a	o	o	01	7	15	36	兵
石川県													
4588. 98	珠洲市馬繰町	山田才太郎	17	'63	c	c	b	b	96	1	4	16	
4589. 83	珠洲市狼煙町	秋谷内清太郎	17	'61	b	b	a	a	96	1	6	33	兵
4597. 66	輪島市河井町新田町	大岡義信	17	'57	a	a	o	o	69	5	8	0	
4597. 72	輪島市大沢町大字宝来町	藤沢成安	17	'62	c	c	b	b	94	7	4	30	
4598. 33	輪島市町野町南時国	三井常太郎	17	'61	b	b	a	a	79	1	4	12	
4898. 59	珠洲市宝立町字鶴飼	三杯正信	17	'61	b	b	a	a	89	5	8	30	兵
4598. 74	鳳至郡柳田村字鈴ヶ嶺	小谷佐太郎	17	'63	c	c	b	b	84	1	4	24	兵
4599. 31	珠洲市正院町正院	小西又右工門	17	'61	b	b	a	a	94	5	8	32	兵
5506. 68	鳳至郡門前町字剣地	竹森勝太郎	17	'60	b	b	a	o	89	1	6	0	
5507. 09	鳳至郡能都町字大田原	山本市栄	17	'64	c	c	b	b	02	1+2	8	30	兵
5507. 20	鳳至郡門前町字門前	貝田祐治	17	'60	b	b	a	o	88	7	8	0	
5507. 66	鳳至郡穴水町字大町	森本藤四郎	17	'60	b	b	a	o	82	7	7	0	
5508. 16	鳳至郡能都町宇出津町	川口力太郎	17	'60	b	b	a	o	94	3	4	24	
5508. 19	珠洲郡松波町字小木	山崎栄吉	96	'57	a	a	o	o	93	3	8	0	
5508. 43	鳳至郡能都町字鶴川	角八郎	17	'61	b	b	a	a	95	1+3	4	0	
5516. 19	羽咋郡富来町地頭町	蔵谷市蔵	17	'57	a	a	o	o	88	5	8	36	兵
5516. 59	羽咋郡富来町福浦港	端谷留治	17	'62	c	c	b	b	03	1	8	24	
5517. 24	鹿島郡中島町字中島	嶽為次	17	'59	a	a	o	o	84	5	4	24	兵
5517. 57	七尾市石崎町	柿島平吉	17	'62	c	c	b	b	02	3	6	0	



調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5517. 78	七尾市袖が江町	石井和三郎	17	'57	a	a	o	o	73	7	11	0	
5517. 90	羽咋郡高浜町字高浜	藤田匠作	17	'60	b	b	a	o	89	5	9	0	
5518. 20	鹿島郡能登島町字向田	斉藤栄太郎	17	'59	a	a	o	o	94	1	4	0	
5518. 71	七尾市庵町	石垣久松	17	'59	a	a	o	o	93	3	6	0	
5527. 15	鹿島郡鹿西町字能登部上	丹後理一	17	'59	a	a	o	o	85	7	8	6	
5527. 61	羽咋市川原町	高田豊吉	17	'58	a	a	o	o	02	7	9	0	
5527. 94	羽咋郡志雄町字所司原	久保菊雄	17	'64	c	c	b	b	96	1	6	0	
5536. 29	羽咋郡押水町字免田	上野清治	17	'64	c	c	b	b	93	1	8	0	
5536. 78	河北郡宇ノ気町字宇野気	森佐吉	17	'62	c	c	b	b	92	5	6	0	
5536. 99	河北郡津幡町字清水	宮一松太郎	17	'57	a	a	o	o	93	1	7	0	
5546. 34	金沢市大野町4丁目	笹島与作	17	'63	c	c	b	b	99	4	6	0	
5546. 56	金沢市巴町	村上幸作	17	'58	a	a	o	o	97	4	8	0	
5546. 82	石川郡松任町東3番丁	得田理吉	17	'58	a	a	o	o	89	4	7	0	
5555. 09	石川郡美川町字新町	永井又八郎	17	'62	c	c	b	b	91	7	12	36	
5555. 58	小松市土居原町	寺尾末次郎	17	'58	a	a	o	o	97	4	8	30	
5555. 84	加賀市伊切町	元谷久蔵	17	'63	c	c	b	b	94	1・3	6	24	兵
5556. 35	石川郡鶴来町本町4丁目	太田文二	17	'58	a	a	o	o	91	5	8	0	
5556. 84	石川郡鳥越村字別宮	宮中正樹	96	'57	a	a	o	o	96	1	4	24	兵
5565. 12	江沼郡大聖寺町新組町	菊知金一	17	'57	a	a	o	o	96	5	8	2	
5565. 19	小松市打木町	喜多実	17	'63	c	c	b	b	91	1・2	4	0	
5565. 55	江沼郡山中町薬師町	松村辰吉	17	'59	a	a	o	o	88	4	8	0	
5566. 35	石川郡尾口村字東二口	林甚八	17	'64	c	c	b	b	96	2	6	0	
5566. 51	小松市丸山町	竹三郎右門	17	'64	c	c	b	b	03	1	6	28	兵
5566. 95	石川県白峰村字白峰	山下茂五郎	17	'57	a	a	o	o	83	5	8	33	兵
福井県													
5564. 76	坂井郡三国町下西	黒川人志	18	'58	a	a	o	o	00	5	6	24	兵
5564. 79	坂井郡金津町十日区	三谷登	18	'62	c	c	b	b	00	5	8	0	
5574. 42	丹生郡国見村三本木字長原	田中林助	18	'58	a	a	o	o	00	1・2	6	0	
5574. 68	福井市春山中町	牧勇太夫	18	'62	c	c	b	b	96	5	8	0	
5574. 79	福井市板垣町	木村強	18	'57	a	a	o	o	00	1	8	0	
5574. 84	丹生郡清水町大森	多田仁松	18	'64	c	c	b	b	91	1	4	12	
5575. 00	坂井郡丸岡町本町2丁目	林近	18	'63	c	c	b	b	97	5	8	0	
5575. 55	吉田郡上志比村山王	鈴木藤次郎	18	'58	a	a	o	o	90	4	8	0	
5575. 93	足羽郡美山村市波	藤本勸志	98	'57	a	a	o	o	84	1・5	4	25	
5576. 60	勝山市下元祿	松井恭祐	18	'57	a	a	o	o	96	5	8	0	
5576. 96	大野市上打波中村	大道三太郎	18	'63	c	c	b	b	83	1	0	19	兵
5584. 22	丹生郡織田町織田	駒野辰治	18	'60	b	b	a	o	97	7	8	0	
5584. 37	鯖江市本町1丁目	松田沢次郎	18	'64	c	c	b	b	96	5	6	24	兵
5584. 57	武生市村園町	辻本孫右衛門	18	'57	a	a	o	o	91	1	12	12	兵
5585. 09	大野市中野	高岡与助	18	'57	a	a	o	o	92	1	8	3	兵
5585. 63	今立郡池田村稻荷	梅田文	18	'60	b	b	a	o	85	1	7	36	
5586. 56	大野郡和泉村川合	新井小太郎	18	'61	b	b	o	a	83	1	5	36	兵
5586. 70	大野郡西谷村中島	林又右衛門	18	'61	b	b	o	a	99	0	6	24	兵
5594. 02	南条郡河野村河野	中村吉右衛門	18	'64	c	c	b	b	95	5	8	60	
5594. 37	南条郡今庄町今庄	三田村治平	18	'60	b	b	a	o	86	1	8	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5595. 05	今立郡池田村河内	斎藤隆一	18	'62	c	c	b	b	97	1.2	6	0	
5595. 20	南条郡今庄町上温谷	伊藤二郎	18	'60	b	b	a	o	74	1	0	0	
6503. 66	三方郡三方町三方	鳥居市左衛門	18	'59	a	a	o	o	98	5	8	36	兵
6503. 73	小浜市田烏	森下利之助	18	'64	c	c	b	b	84	4	5	10	兵
6504. 01	敦賀市櫛川	景山三郎大夫	18	'57	a	a	o	o	00	1	6	0	
6504. 03	敦賀市神楽2丁目	岩井久五郎	18	'63	c	c	b	b	81	5	6	0	
6504. 44	敦賀市追分	山本勘三郎	18	'63	c	c	b	b	93	1	8	0	
6512. 02	大飯郡高浜町若宮	出口得三郎	18	'59	a	a	o	o	88	5	8	0	
6512. 09	小浜市伏原	今村金蔵	18	'57	a	a	o	o	70	1	3	0	
6512. 14	大飯郡大飯町本郷	渡辺源一郎	97	'62	c	c	b	b	99	1	6	0	
6512. 67	遠敷郡名田庄村久坂	小野定右衛門	98	'57	a	a	o	o	02	2	11	24	兵
6513. 24	遠敷郡上中町三宅	玉井松吉	18	'59	a	a	o	o	88	1	4	0	
6513. 51	小浜市上根来	岡田市之丞	18	'62	c	c	b	b	00	1.2	6	0	
山梨県													
5683. 77	北巨摩郡高根村長沢	小沢正助	19	'60	b	b	a	o	87	1	4	36	兵
5693. 13	北巨摩郡白州町台が原	細田照近	19	'60	b	b	a	o	92	1	4	3	兵
5693. 78	韮崎市本町	清水貞次郎	19	'58	a	a	o	o	96	1	6	0	
5694. 31	中巨摩郡敷島町上芦沢	長田旭	19	'60	b	b	a	o	01	1	6	0	
5694. 79	塩山市上於曾	済間秀尾	19	'58	a	a	o	o	93	1	8	11	
5694. 82	甲府市和田町	山本浜吉	19	'57	a	a	o	o	99	1	6	0	
5695. 10	東山梨郡三富村川浦字天科	岡部友重	19	'64	c	c	b	b	83	1.2	4	16	兵
5695. 47	北都留郡小菅村川池	青柳頼胤	99	'58	a	a	o	o	92	1	6	0	
5695. 61	塩山市上小田原	手塚孝之	19	'61	b	b	a	a	97	1	6	0	
6603. 08	中巨摩郡白根町百々	清水卓重	19	'57	a	a	o	o	88	1	8	3	兵
6603. 24	中巨摩郡芦安村杵沢	深沢安太郎	19	'63	c	c	b	b	90	2	4	36	兵
6603. 52	南巨摩郡早川町奈良田	深沢武八	99	'58	a	a	o	o	98	1	6	0	
6603. 82	南巨摩郡早川町上湯島	深沢綱丸	19	'58	a	a	o	o	81	1	4	48	兵
6604. 02	甲府市泉町	和田半七	19	'62	c	c	b	b	89	5	4	0	
6604. 15	東八代郡石和町市部	矢花柄平	19	'62	c	c	b	b	88	1	8	0	
6604. 38	東八代郡御坂町上黒駒	弦間国平	19	'61	b	b	a	a	93	1	4	0	
6604. 60	西八代郡市川大門町	村松豊富	19	'58	a	a	o	o	99	5	8	30	兵
6604. 98	南都留郡足和田村西湖	朝比名与一	19	'64	c	c	b	b	95	1.2	8	0	
6605. 37	大月市上町	加藤市朗	19	'59	a	a	o	o	82	5	4	0	
6605. 84	都留市鹿留	伊藤政雄	19	'57	a	a	o	o	89	1.4	8	0	
6606. 35	北都留郡上野原町諏訪	片伊木源吉	49	'58	a	a	o	o	89	1	4	0	
6613. 07	南巨摩郡中富町揚	笠井政男	19	'58	a	a	o	o	02	1	6	12	
6613. 54	南巨摩郡早川町薬袋	水野喜勇	99	'58	a	a	o	o	97	1	8	0	
6613. 77	南巨摩郡身延町身延	遠藤文三	19	'58	a	a	o	o	83	5	6	24	
6613. 97	南巨摩郡身延町相又下	千頭和忠則	96	'65	c	c	b	b	83	1.2	6	0	
6614. 04	西八代郡上九一色村字精進	小林国武	19	'61	b	b	a	o	93	1	4	0	
6615. 02	富士吉田市浅間町	堀内内匠	19	'59	a	a	o	o	96	1	8	0	
6615. 09	南都留郡道志村善ノ木	池谷壽晴	19	'63	c	c	b	b	87	1.2	4	0	
6623. 28	南巨摩郡南部町南部	若林敏雄	19	'59	a	a	o	o	01	1.5	8	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5623. 27	長 野 県 下高井郡野沢温泉村大字虫生小字十二沢	斎 藤 善 作	96	'58	a	a	o	o	85	1	8	36	
5623. 85	飯山市木島野坂田	武 田 要	20	'57	a	a	o	o	97	1	8	0	
5624. 85	下水内郡栄村字小赤沢	福 原 藤 吉	96	'58	a	a	o	o	78	1	4	0	
5631. 16	北安曇郡小谷村池原	田 原 康 栄	20	'61	b	b	a	o	36	1	8	20	
5631. 26	北安曇郡小谷村下り瀬	北 村 信 義	20	'62	b	b	a	a	97	1	7	25	
5631. 75	北安曇郡白馬村北城塩島	塩 島 儀 太 郎	20	'64	c	c	b	b	98	1	8	20	兵
5632. 28	上水内郡信濃町古間	荒 井 貞 治	20	'58	a	a	o	o	01	1	8	15	兵
5632. 83	上水内郡戸隠村折橋	今 井 栄 治 郎	20	'57	a	a	o	o	02	1	8	0	
5633. 45	中野市栗和田	竹 内 幸 好	20	'59	a	a	o	o	95	1	8	29	兵
5623. 81	上水内郡豊野町豊野伊豆毛	中 山 一 二 三	20	'59	a	a	o	o	01	1	8	0	
5633. 96	上高井郡高山村荻久保	宮 川 鉄 治	20	'63	c	c	b	b	90	1	4	3	兵
5641. 07	上水内郡小川村桐山区	伊 藤 貞 英	20	'65	c	c	b	b	99	1	9	0	
5641. 13	北安曇郡白馬村神城沢渡	西 沢 徳 衛	20	'57	a	a	o	o	98	1	8	24	兵
5641. 73	大町市大字平字森	遠 藤 代 蔵	96	'62	b	b	a	a	89	1	8	0	
5641. 94	大町市大字大町高見町	横 沢 民 弥	20	'64	c	c	b	b	01	5	11	32	
5641. 99	更級郡大岡村字宮平	所 宇 金 吾	98	'62	c	c	b	b	94	1	8	24	
5642. 17	長野市東後町	寺 島 友 吉	20	'60	a	a	o	o	90	5	10	0	
5642. 31	上水内郡中条村中条	上 条 喜 代 美	20	'60	a	a	o	o	96	1	9	0	
5642. 67	埴科郡松代町紺屋町	永 野 英 雄	20	'63	c	c	b	b	95	1	12	0	
5643. 33	上高井郡東村大字仁礼関谷	田 中 武 重	20	'59	a	a	o	o	99	1	8	24	兵
5651. 45	北安曇郡池田町	松 田 鑑 司	20	'61	b	b	a	o	86	7	8	0	
5651. 95	南安曇郡穂高町	東 条 智 躰	20	'63	c	c	b	b	89	5	10	0	
5652. 06	埴科郡戸倉町今井	児 玉 元 男	20	'59	a	a	o	o	00	1	8	0	
5652. 22	東筑摩郡麻績村本町	臼 井 義 元	20	'60	a	a	o	o	89	1	8	24	兵
5652. 37	埴科郡坂城町中之条	池 田 喜 助	20	'63	c	c	b	b	88	1	6	24	兵
5652. 81	東筑摩郡四賀村中川横川	野 村 耕 之 進	20	'64	c	c	b	b	87	1	4	0	
5652. 96	小県郡塩田町大字別所日影	竹 内 清 一 郎	20	'59	a	a	o	o	99	1	8	24	兵
5653. 42	小県郡本原村大畑	横 沢 善 作	20	'57	a	a	o	o	92	1	8	0	
5653. 60	上田市北天神町	宮 島 忠 夫	20	'63	c	c	b	b	00	5	8	0	
5653. 65	小県郡東部町檜原	奈 良 原 正	20	'63	c	c	b	b	03	1	8	2	兵
5654. 94	北佐久郡軽井沢町長倉	中 沢 袈 裟 雄	12	'61	b	b	o	a	01	1	8	0	
5661. 34	南安曇郡堀金村田多井	板 花 泰 雄	20	'60	a	a	o	o	97	1	8	0	
5661. 68	松本市幅上町	石 曾 根 茂	20	'64	c	c	b	b	00	5	8	0	
5661. 89	松本市寿区百瀬	広 前 慶 三	20	'57	a	a	o	o	99	1	8	24	兵
5662. 78	小県郡和田村原	小 合 沢 東 作	20	'60	a	a	o	o	95	1	7	12	
5663. 01	小県郡丸子町上丸子	小 林 理 助	20	'60	a	a	o	o	86	5	8	0	
5663. 09	北佐久郡御代田町塩野	内 堀 仁 助	20	'57	a	a	o	o	94	1	8	0	
5663. 64	北佐久郡望月町春日堀端	竹 花 右 一 郎	20	'63	c	c	b	b	89	1	6	0	
5663. 68	佐久市大字原	飯 島 市 兵 衛	20	'63	c	c	b	b	02	5	8	0	
5664. 51	北佐久郡東村大字志賀本郷	須 江 修 治	20	'60	a	a	o	o	01	1	8	0	
5670. 47	南安曇郡奈川村古宿	忠 地 太 七	20	'59	a	a	o	o	87	1	4	0	
5671. 00	南安曇郡安曇村稻核	前 田 清 吾	20	'64	c	c	b	b	01	1	6	0	
5671. 36	東筑摩郡洗馬村芦ノ田	古 牧 賢	20	'59	a	a	o	o	95	1	8	24	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5671. 38	塩尻市塩尻町	関 沢 清 人	20	'64	c	c	b	b	03	5	8	0	
5671. 68	塩尻市北小野字古町	赤 羽 英 夫	96	'62	b	b	a	a	02	1	8	36	
5671. 94	西筑摩郡檜川村贅川	太 田 岩 雄	20	'64	c	c	b	b	87	1.2	6	0	
5672. 52	岡谷市小井川	宮 坂 愛 治	20	'60	a	a	o	o	00	1.4	8	24	兵
5672. 67	茅野市柏原	篠 原 菊 三	20	'65	c	c	b	b	90	1	8	0	
5672. 75	諏訪市上諏訪桑原町	宮 坂 一 郎	20	'60	a	a	o	o	93	5	12	0	
5673. 78	南佐久郡南牧村海尻	井 出 武 雄	20	'61	b	b	a	o	95	1	8	3	兵
5674. 11	南佐久郡佐久町大日向平川原	菊 池 達 雄	20	'61	b	b	a	o	95	1	6	0	
5674. 54	南佐久郡北相木村白岩	山 口 好 平	20	'65	c	c	b	b	02	1.2	6	0	
5680. 34	西筑摩郡開田村大字西野入江	小 林 光 治	96	'58	a	a	o	o	95	1	4	0	
5680. 98	西筑摩郡福島町下町	川 合 新 入	20	'58	a	a	o	o	92	5	8	0	
5681. 41	西筑摩郡木祖村蕨原	牛 丸 善 吉	20	'59	a	a	o	o	96	1.5	8	0	
5681. 47	上伊那郡箕輪町上古田	大 槻 寛 淑	20	'61	b	b	a	o	90	1	8	0	
5682. 34	上伊那郡高遠町藤沢片倉	守 屋 宮 内	20	'65	c	c	b	b	86	1	4	0	
5682. 37	茅野市金沢大沢	矢 島 敏 敏	20	'60	a	a	o	o	99	1	8	0	
5682. 92	上伊那郡高遠町	山 田 正 義	20	'62	b	b	a	a	01	4	8	0	
5683. 61	諏訪郡富士見町高森	小 林 藤 之 進	19	'61	b	b	a	a	83	1	4	0	
5684. 11	南佐久郡川上村御所平	由 井 益 雄	20	'65	c	c	b	b	98	1.2	4	0	
5684. 26	南佐久郡川上村梓山	関 与 重	20	'61	b	b	a	o	00	1	6	24	
5690. 12	西筑摩郡王滝村下条	小 谷 龜 太 郎	20	'64	c	c	b	b	87	1	6	24	
5690. 27	西筑摩郡上松町本町	松 島 縫 治 郎	20	'58	a	a	o	o	89	5	8	0	
5690. 96	西筑摩郡大桑村長野弓矢	棚 秋 宇 平	20	'57	a	a	o	o	87	1	8	0	
5691. 37	上伊那郡西春近村諏訪形赤木	野 溝 富 雄	20	'57	a	a	o	o	02	1	8	24	兵
5692. 53	上伊那郡長谷村市野瀬	宮 下 九 衛	20	'62	b	b	a	a	99	1.2	6	0	
6600. 53	西筑摩郡南木曾町妻籠	嵯 峨 隆 一	20	'61	b	b	a	o	94	1	7	0	
6600. 97	下伊那郡清内路村上清内路	原 重 三	20	'65	c	c	b	b	87	1	6	13	兵
6601. 25	下伊那郡松川町上片桐上町	牛 久 保 幸 一	20	'62	b	b	a	a	01	1	7	0	
6601. 93	飯田市銀座	岡 本 宗 吉	20	'62	b	b	a	a	99	5	6	9	
6602. 62	下伊那郡大鹿村大河原上市場	高 橋 英 雄	20	'62	b	b	a	a	00	1	6	28	兵
6610. 77	下伊那郡浪合村中下町	近 藤 波 治	96	'58	a	a	o	o	90	7	6	24	兵
6611. 61	下伊那郡下条村大字陸沢字親田	熊 谷 正 一	20	'62	b	b	a	a	03	1	8	0	
6611. 68	下伊那郡上村上町	山 崎 喜 之 助	20	'62	b	b	a	a	95	1	6	24	兵
6620. 49	下伊那郡阿南町新野柄洞	村 松 直 太 郎	20	'65	c	c	b	b	93	1	6	24	兵
6620. 53	下伊那郡根羽村田島	石 原 一 雄	20	'62	b	b	a	a	98	1	4	0	
6621. 34	下伊那郡天竜村大字平岡満島	遠 山 正 芳	20	'57	a	a	o	o	92	1	6	24	兵
岐 阜 県													
5557. 85	大野郡白川村字小白川	飯 波 美 稻	17	'63	c	c	b	b	95	1.5	2	0	
5558. 67	吉城郡宮川村字戸谷	山 口 芳 松	17	'59	a	a	o	o	88	2	4	0	
5559. 51	吉城郡神岡町土	洞 興 与 三 十 郎	21	'57	a	a	o	o	89	2	2	24	兵
5567. 46	大野郡白川村大字茨町字下ゴソ	黒 木 貞 雄	21	'60	b	b	a	o	97	1	8	0	
5568. 22	吉城郡河合村羽根	井 平 久 祿	21	'62	c	c	b	b	99	1	8	0	
5568. 57	吉城郡古川町中気多	荒 木 吉 郎	21	'57	a	a	o	o	99	1	6	0	
5568. 92	大野郡清見村池本	新 井 光 泉	21	'63	c	c	b	b	91	1.2	4	0	
5569. 02	吉城郡神岡町船津	美 登 秀 三 郎	21	'63	c	c	b	b	93	7	7	6	
5569. 36	吉城郡上室村大字長倉	尾 上 重 次 郎	21	'61	b	b	o	a	02	1.2	6	30	兵

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
5569. 99	大野郡丹生川村久手	村 上 伊 三 郎	99	'57	a	a	o	o	88	1	4	24	兵
5577. 06	大野郡白川村長瀬	大 塚 清 二 郎	21	'64	c	c	b	b	86	1	0	0	
5577. 88	大野郡荏川村新洲	山 下 濶	21	'57	a	a	o	o	00	1	4	0	
5578. 27	大野郡清見村大字牧ヶ洞字徳野	中 田 常 造	21	'59	a	a	o	o	92	1	4	6	兵
5579. 10	高山市花川町	橋 本 富 造	21	'59	a	a	o	o	85	4	4	0	
5579. 42	大野郡久々野町大字小屋名	岩 本 作 良	98	'62	c	c	b	b	98	1	9	12	
5579. 79	大野郡高根村上ヶ洞	中 井 吉 蔵	21	'61	b	b	o	a	03	5	6	27	
5587. 74	郡上郡白鳥町為真	岡 田 平 造	21	'60	b	b	a	o	88	1	4	0	
5588. 02	大野郡清見村橋谷	古 川 末 之 助	21	'64	c	c	b	b	81	1・2	2	18	兵
5588. 78	益田郡萩原町萩原	今 井 明 治	21	'59	a	a	o	o	90	1	8	24	兵
5588. 81	郡上郡奥明方村二間手	堀 越 栄 三	99	'57	a	a	o	o	93	1	8	0	
5589. 30	益田郡小坂町大島	荒 井 仁 太 郎	21	'57	a	a	o	o	98	1	6	0	
5595. 89	揖斐郡徳山村本郷	北 村 公 道	21	'60	b	b	a	o	91	7	4	22	
5597. 26	郡上郡大和村河辺	岩 谷 増 三	21	'64	c	c	b	b	96	1	8	0	
5597. 78	郡上郡八幡町相生町門原	武 藤 長 四 郎	21	'57	a	a	o	o	90	1	4	24	兵
5598. 53	郡上郡和食村大字沢	大 沢 周 一	21	'60	b	b	a	o	90	1	8	0	
5598. 67	益田郡下呂町瀬戸	細 江 慶 次 郎	21	'60	b	b	a	o	80	1	5	0	
5599. 41	益田郡下呂町高地	今 井 浦 次 郎	21	'59	a	a	o	o	99	5	9	18	兵
5599. 75	恵那郡加子母村上桑原	林 武 男	21	'59	a	a	o	o	90	1	8	0	
6505. 58	揖斐郡藤橋村東横山	岸 幸 之 助	21	'60	b	b	a	o	81	1・2	4	0	
6506. 03	本巣郡根尾村大字長嶺	久 郷 春 治	21	'63	c	c	b	b	99	1	6	0	
6506. 55	本巣郡本巣村日当	国 井 団 蔵	21	'57	a	a	o	o	01	1・2	8	24	兵
6506. 86	揖斐郡谷汲村上長瀬	長 屋 秀 一	96	'62	b	b	a	a	95	1	8	0	
6507. 13	武儀郡河戸村大字奥河戸字高賀	武 藤 吉 三 郎	21	'61	b	b	o	a	82	1	3	24	兵
6507. 48	美濃市下河和	後 藤 林 一	21	'61	b	b	o	a	02	1	8	0	
6507. 72	山県郡美山村岩佐	山 本 貫 一	21	'63	c	c	b	b	81	5	8	24	兵
6507. 79	武儀郡武儀村下之保字上野	森 又 太 郎	21	'61	b	b	o	a	77	1	0	3	
6508. 06	益田郡金山町本町	杉 山 忠 二	21	'62	c	c	b	b	95	5	8	0	
6508. 36	加茂郡白川町河東区野原	田 口 茂 七	21	'60	b	b	a	o	94	1	5	0	
6508. 74	加茂郡七宗村上麻生本郷	今 瀬 清 市	21	'64	c	c	b	b	93	7	8	0	
6509. 38	恵那郡福岡村向田瀬	丹 羽 重 一	21	'57	a	a	o	o	03	1	9	8	兵
6509. 43	加茂郡白川町黒川大字中之平	田 口 守 一	21	'59	a	a	o	o	00	7	12	30	兵
6509. 91	恵那市中野方町大字勢井後	柘 植 義 男	21	'64	c	c	b	b	99	1	8	0	
6516. 10	揖斐郡春日村六合小学榎	所 辰 雄	21	'63	c	c	b	b	98	1	6	0	
6516. 15	揖斐郡大野町西方	牧 村 義 雄	21	'58	a	a	o	o	99	1	9	0	
6516. 85	大垣市長沢町	種 田 武 雅	21	'63	c	c	b	b	93	7	8	24	兵
6517. 31	岐阜市長良天神	正 木 清 作	21	'58	a	a	o	o	94	7	12	6	兵
6517. 50	岐阜市安良多町1丁目	野 村 甚 太 郎	21	'62	c	c	b	b	93	5	4	0	
6517. 65	稲葉郡鷺沼町三ツ池	石 黒 角 治 郎	21	'57	a	a	o	o	94	1	3	0	
6517. 70	羽島郡笠松町新町	伴 清 之	21	'62	c	c	b	b	89	4	8	0	
6518. 15	加茂郡八百津町旭町	佐 藤 弥 太 郎	21	'61	b	b	o	a	89	7	11	26	兵
6518. 30	美濃加茂市太田町	則 竹 敏 夫	21	'58	a	a	o	o	03	7	11	0	
6518. 87	土岐市本郷町下	鈴 木 友 次 郎	21	'58	a	a	o	o	99	1	5	0	
6519. 43	恵那市武並町大字竹折小字上野	永 井 尚	21	'58	a	a	o	o	96	1	8	0	
6519. 67	恵那郡岩村町大字飯羽小字分根	高 橋 孫 四 郎	21	'58	a	a	o	o	92	1	8	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6526. 04	大垣市入方町	名 和 真 一	21	'57	a	a	o	o	00	1.5	8	0	
6526. 08	羽島市竹鼻町上鍋	加 藤 甚 吉	21	'62	c	c	b	b	97	5	4	0	
6526. 45	海津郡平田町昭和町	服 部 富 三 郎	21	'57	a	a	o	o	91	1	6	0	
6528. 06	多治見市生田町	古 田 義 雄	23	'59	a	a	o	o	95	4	8	0	
6529. 15	恵那郡明智町市場町	松 原 利 一	21	'57	a	a	o	o	95	5	4	0	
6610. 00	中津川市中津川子野	佐 伯 三 郎	21	'59	a	a	o	o	91	1	8	0	
6620. 20	恵那郡上矢作町本郷 静 岡 県	山 内 曄	21	'62	c	c	b	b	90	5	8	3	
6621. 57	磐田郡水窪町奥領家針間野	田 中 万 吉	22	'64	c	c	b	b	86	1	4	0	
6621. 94	磐田郡水窪町長尾	森 山 今 朝 市	22	'60	b	b	a	o	96	1.2	5	0	
6622. 69	安倍郡井川村井川下島	荒 尾 常 作	99	'58	a	a	o	o	73	1	3	0	
6623. 53	安倍郡梅ヶ島村梅ヶ島	秋 山 弘	22	'60	b	b	a	o	91	1	4	0	
6624. 13	富士郡白糸村字原	渡 辺 一 郎	22	'57	a	a	o	o	97	1	4	24	兵
6624. 65	富士宮市阿幸地	望 月 源 一	22	'61	b	b	o	a	04	1	11	36	兵
6625. 17	御殿場市西田中	芹 沢 信 衛	22	'57	a	a	o	o	97	1	6	0	
6625. 66	御殿場市神山小字尾尻	藤 田 圭 一	22	'60	b	b	a	o	96	1	6	0	
6631. 05	磐田郡水窪町向島	片 桐 覚 治	99	'58	a	a	o	o	68	1	4	0	
6631. 53	磐田郡佐久間町山香地区落井	引 水 賢 次 郎	22	'64	c	c	b	b	96	5	7	0	
6631. 60	磐田郡佐久間町浦川	大 友 讓	22	'57	a	a	o	o	02	2.5	8	12	
6631. 69	周智郡春野町小俣京丸	森 坂 良 秋	22	'63	c	c	b	b	03	1	6	24	兵
6632. 15	榛原郡本川根町奥泉	中 村 耕 造	99	'58	a	a	o	o	77	5	6	0	
6632. 64	榛原郡中川根町田野口	小野田勝太郎	96	'65	c	c	b	b	00	1	8	0	
6632. 88	安倍郡清沢村中村	森 主 音 吉	22	'61	b	b	o	a	97	2	6	0	
6633. 27	清水市西河内河内	望 月 東 一	22	'63	c	c	b	b	87	1	4	7	兵
6633. 33	安倍郡玉川村落合	安 本 茂 吉	22	'58	a	a	o	o	93	1	8	0	
6633. 89	清水市辻町	藤 波 林 作	22	'58	a	a	o	o	00	1	8	24	兵
6634. 07	吉原市伝法	池 野 芳 作	22	'61	b	b	o	a	89	1	6	24	兵
6634. 32	庵原郡由比町	望 月 喜 之 助	22	'58	a	a	o	o	02	1	8	0	
6634. 33	庵原郡蒲原町神沢	海 野 平 太 郎	22	'63	c	c	b	b	00	1	8	0	
6635. 20	駿東郡原町植田	大 草 与 作	22	'64	c	c	b	b	92	1.3	7	24	兵
6635. 36	三島市三島	木 村 茂	22	'63	c	c	b	b	01	5	11	10	
6635. 44	沼津市八幡町	鷺 津 泰 作	22	'64	c	c	b	b	97	1	8	24	兵
6635. 54	沼津市下香貫	落 合 泰 次 郎	22	'58	a	a	o	o	02	1	8	24	兵
6635. 87	田方郡伊豆長岡町温泉場3丁目	渡 辺 孫 平	22	'57	a	a	o	o	94	5	4	0	
6636. 62	熱海市上多賀	椎 野 和 一	22	'59	a	a	o	o	93	1	8	0	
6640. 29	天竜市熊字大地野	酒 井 梅 吉	23	'64	c	c	b	b	94	5	6	12	
6640. 76	引佐郡引佐町東黒田	田 中 弥 作	23	'61	b	b	o	a	95	1	6	0	
6641. 39	周智郡森町三倉大河内	山 下 芳 万 佐	22	'63	c	c	b	b	98	1.2	8	12	兵
6641. 43	天竜市横山町小川	岩 田 健 治	22	'60	b	b	a	o	00	1.2	8	0	
6641. 82	天竜市二俣町横町	鈴 木 広 友	22	'60	b	b	a	o	01	5	6	0	
6641. 97	周智郡森町	安 西 金 平	22	'58	a	a	o	o	97	1	8	0	
6642. 33	榛原郡川根町家山	西 村 喜 作	22	'61	b	b	o	a	95	1	8	24	兵
6642. 58	藤枝市瀬戸谷中山	勝 治 保 元	22	'57	a	a	o	o	98	1	8	0	
6642. 85	島田市上伊太	北 川 祝 太 郎	96	'65	c	c	b	b	94	1.2	8	36	
6643. 15	静岡市緑町	松 沢 勇 作	22	'63	c	c	b	b	09	5	6	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6643. 16	静岡市曲金	鶴 田 林 蔵	22	'57	a	a	o	o	01	1	7	0	
6643. 72	焼津市大村新田	早 川 新 治	22	'58	a	a	o	o	01	1	8	0	
6645. 01	田方郡戸田村井田	天 野 栄 蔵	22	'65	c	c	b	b	00	1	8	20	兵
6645. 37	田方郡中狩野村本柿木小学下柿木	飯 塚 栄 一	22	'59	a	a	o	o	02	1	8	0	
6645. 62	田方郡土肥町土肥	鍵 山 伊 一	22	'60	b	b	a	o	95	5	7	0	
6646. 23	伊東市鎌田	森 口 信 次 郎	22	'59	a	a	o	o	92	1	8	0	
6646. 74	伊東市八幡野	山 下 正 一	22	'59	a	a	o	o	02	3	8	0	
6650. 12	引佐郡三ヶ日町三ヶ日	北 脇 猪 吉 郎	22	'62	c	c	b	b	97	1	8	6	
6650. 70	浜名郡湖西町鷺津	松 野 喜 傳 次	22	'60	b	b	a	o	91	1	8	24	兵
6650. 79	浜松市中島町	吉 川 伊 吉	22	'58	a	a	o	o	93	5	8	0	
6650. 94	浜名郡舞坂町仲町	杏 谷 里 吉	22	'62	c	c	b	b	80	3	4	36	兵
6651. 32	浜松市笠井町	川 島 光 治 郎	22	'60	b	b	a	o	91	5	8	0	
6651. 64	磐田市見付町宿町	鈴 木 正 吉	22	'62	c	c	b	b	02	5	9	0	
6652. 06	島田市横井町	橋 本 太 一 郎	22	'58	a	a	o	o	92	1	8	24	兵
6652. 30	掛川市下俣	袴 田 良 一	22	'57	a	a	o	o	00	1	4	0	
6652. 77	榛原郡相良町中西	中 山 清 次 郎	22	'61	b	b	o	a	93	1	6	0	
6653. 30	榛原郡吉田町片岡	高 橋 素 一	22	'61	b	b	o	a	94	1	8	24	兵
6655. 38	賀茂郡河津町小鍋	土 屋 由 蔵	22	'62	c	c	b	b	91	2	8	0	
6655. 51	賀茂郡松崎町松崎	渡 辺 勘 助	22	'59	a	a	o	o	93	1	4	0	
6655. 87	賀茂郡下田町中	村 山 正 平	22	'59	a	a	o	o	91	1	8	0	
6655. 97	賀茂郡下田町3丁目	平 井 平 次 郎	22	'62	c	c	b	b	97	5	8	0	
6656. 31	賀茂郡稲取町西町	遠 藤 惣 右 衛 門	22	'59	a	a	o	o	93	3	8	0	
6661. 02	磐田郡竜洋町駒場	田 村 忠 次 郎	22	'60	b	b	a	o	97	1	4	30	兵
6662. 01	小笠郡大浜町浜野	熊 切 春 吉	22	'61	b	b	o	a	97	1	8	0	
6662. 38	榛原郡御前崎町大山	増 田 猪 一	22	'61	b	b	o	a	96	1	5	5	0
6665. 01	賀茂郡南伊豆町妻良	村 田 寿 太 郎	22	'62	c	c	b	b	96	3	8	24	兵
6665. 25	賀茂郡南伊豆町下流	平 山 万 吉	22	'59	a	a	o	o	99	3	8	24	
愛 知 県													
6517. 77	犬山市大字犬山	長 谷 川 惣 一	21	'64	c	c	b	b	97	5	6	0	
6526. 98	津島市下新田町	坪 内 保	21	'61	b	b	o	a	00	7	12	18	兵
6527. 22	一宮市本町8丁目	中 尾 清 万	23	'59	a	a	o	o	03	5	13	0	
6527. 44	西春日井郡西春村徳重	河 村 泰 一	23	'57	a	a	o	o	96	1	8	0	
6527. 73	西春日井郡清州町	山 田 清 一	23	'62	c	c	b	b	98	1	8	0	
6528. 21	春日井市坂下町	長 谷 川 仲 一	23	'59	a	a	o	o	98	1	8	24	兵
6528. 64	瀬戸市前田町	寺 尾 元 次	23	'57	a	a	o	o	96	5	8	0	
6529. 63	西加茂郡小原村大字平畑	山 田 良 輔	23	'61	b	b	o	a	96	1	2	9	0
6529. 88	北設楽郡稲武町大字小田木	後 藤 幸 雄	23	'64	c	c	b	b	03	5	9	18	
6536. 39	海部郡弥富町	若 山 包 一	56	'60	b	b	a	o	94	7	8	24	兵
6537. 06	名古屋市市中区南伊勢町	大 塚 春 長	23	'59	a	a	o	o	85	5	12	12	
6537. 21	海部郡蟹江町	高 坂 倉 吉	23	'58	a	a	o	o	85	1	8	24	兵
6537. 58	名古屋市緑区鳴海町字三皿	加 藤 徹 三	23	'63	c	c	b	b	00	1	11	12	
6538. 02	愛知県日進町大字北新田	稻 吉 沖 一	23	'62	c	c	b	b	01	1	8	21	兵
6538. 46	豊田市東梅坪町	佐 野 真 七 松	23	'59	a	a	o	o	92	1	4	0	
6539. 12	東加茂郡足助町大字足助字石橋	小 山 松 太 郎	23	'57	a	a	o	o	95	5	8	0	
6539. 60	東加茂郡松平町大津	中 泉 精 一 郎	96	'65	c	c	b	b	80	5	8	36	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6539. 78	南設楽郡作手村大字管沼字落合	河 合 國 造	23	'63	c	c	b	b	87	1	4	0	
6547. 09	刈谷市八幡町	竹 中 義 三	23	'65	c	c	b	b	04	7	13	12	兵
6547. 24	知多郡知多町岡田字小石山	河 内 磯 衛	23	'57	a	a	o	o	96	1	4	36	兵
6547. 67	半田市勘内町	神 原 重 吉	23	'58	a	a	o	o	89	5	6	0	
6547. 79	碧南市字築山	石 川 利 一	23	'64	c	c	b	b	00	7	11	0	
6548. 02	碧海郡知立町牛田西屋敷	坂 田 利 一	23	'57	a	a	o	o	03	1	6	0	
6548. 26	岡崎市康生通東1丁目	松 井 弘	23	'61	b	b	o	a	90	5	11	36	
6548. 82	西尾市錦城町	山 内 正 義	23	'57	a	a	o	o	99	1	6	6	
6549. 03	額田郡額田町大字椋形字平岩	鈴 木 栄 三 郎	23	'61	b	b	o	a	84	2	4	0	
6549. 60	岡崎市本宿町字広畑	香 村 治 助	23	'58	a	a	o	o	86	1	8	0	
6549. 69	南設楽郡新城町	川 合 義 雄	23	'58	a	a	o	o	97	4	6	0	
6557. 14	常滑市大字坂井字落田	永 田 兵 右 門	23	'60	b	b	a	o	00	1	6	0	
6557. 36	知多郡美浜町河和	久 保 兼 吉	99	'57	a	a	o	o	84	1	4	15	兵
6557. 54	知多郡南知多町大字内海中前田	大 岩 初 蔵	23	'62	c	c	b	b	95	1	8	0	
6557. 77	知多郡豊浜町大字豊浜字高浜谷	飯 田 栄 太 郎	23	'60	b	b	a	o	84	3	2	0	
6558. 09	蒲郡市蒲郡町本町	宮 田 理 作	23	'63	c	c	b	b	86	5	8	0	
6558. 10	幡豆郡一色町大字赤羽下郷中	三 矢 恒 三	23	'58	a	a	o	o	95	1	8	12	
6558. 37	宝飯郡西浦町字南ヶ坪	丸 山 金 作	23	'60	b	b	a	o	87	3	7	0	
6559. 22	宝飯郡御津町大字御馬	石 黒 寿 一	23	'57	a	a	o	o	94	3	9	24	兵
6559. 46	豊橋市互町字通り	丸 地 清 次	23	'62	c	c	b	b	86	5	12	0	
6559. 67	豊橋市大岩町字東郷内	野 口 美 知 治	23	'60	b	b	a	o	99	1	8	0	
6568. 09	渥美郡田原町大字大久保字山下	中 神 新 太 郎	23	'57	a	a	o	o	02	1	8	24	兵
6568. 13	渥美郡渥美町大字中山字北郷	川 口 与 七	23	'61	b	b	o	a	84	1	8	6	兵
6569. 12	渥美郡田原町大字六連四谷	西 山 義 雄	96	'62	c	c	b	b	01	1	8	0	
6630. 43	北設楽郡設楽町大字荒尾字川角	金 田 栄 助	23	'57	a	a	o	o	94	7	8	0	
6630. 58	北設楽郡東栄町大字本郷字南万場	仲 井 義 人	23	'60	b	b	a	o	99	5	8	12	兵
6630. 82	南設楽郡鳳来町海老入洞	竹 下 利 三 郎	99	'57	a	a	o	o	86	1	8	0	
6640. 34	南設楽郡鳳来町字大野	鈴 木 嘉 市	23	'61	b	b	o	a	99	1	8	0	
三 重 県													
6536. 00	員弁郡北勢町瀬木	佐 藤 孫 一	56	'63	c	c	b	b	90	1	8	0	
6536. 32	員弁郡員弁町楚原	近 藤 民	47	'59	a	a	o	o	91	1	8	0	
6536. 68	桑名市外堀	伊 藤 吉 三 郎	47	'58	a	a	o	o	00	5	8	30	
6545. 19	四日市市水沢町	清 水 茂 三 郎	56	'61	b	b	a	a	88	1	7	0	
6545. 64	鈴鹿郡関町大字坂下	柏 木 喜 一 郎	56	'65	c	c	b	b	02	1	8	0	
6545. 88	亀山市西町	岩 間 重 五 郎	47	'58	a	a	o	o	85	5	8	36	
6546. 15	四日市市	保 位 保	47	'57	a	a	o	o	03	5	6	0	
6546. 73	鈴鹿市神戸本多町	武 井 侑	47	'58	a	a	o	o	95	7	8	0	
6554. 08	阿山郡春日村新堂	中 川 忠 之	47	'57	a	a	o	o	99	1	6	0	
6554. 45	上野市愛宕町	山 本 二 郎	47	'59	a	a	o	o	97	5	12	35	
6554. 88	名賀郡青山町勝地	永 井 口 信 雄	56	'65	c	c	b	b	93	1	8	0	
6555. 31	阿山郡大山田村上阿波	川 瀬 清 一	56	'61	b	b	a	a	94	1	8	0	
6555. 65	安芸郡美里村足坂	沢 善 一 七	47	'59	a	a	o	o	92	1	7	0	
6556. 03	鈴鹿市江島町	尾 崎 利 信	56	'62	c	c	b	b	01	5	8	6	
6556. 60	津市桜橋2丁目	加 藤 吉 兵 衛	24	'57	a	a	o	o	88	5	8	0	
6564. 33	名張市中町	松 本 喜 一	29	'58	a	a	o	o	97	5	9	0	



調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6565. 09	一志郡久居町木造	北出喜多郎	47	'59	a	a	o	o	03	1	8	35	兵
6565. 17	一志郡一志町川合	田上寿男	47	'59	a	a	o	o	84	1	11	60	兵
6565. 22	一志郡白山町南家城	松井忠治郎	47	'57	a	a	o	o	77	1	6	0	
6565. 56	一志郡嬉野町矢下	佐田才松	56	'65	c	c	b	b	97	1.2	8	6	
6565. 90	一志郡美杉村奥津	坂本義藏	56	'63	c	c	b	b	99	1	6	0	
6566. 51	松阪市日野町	松本幸之助	47	'58	a	a	o	o	01	4	8	0	
6566. 89	伊勢市大湊町	坂本甚作	56	'62	c	c	b	b	98	3	6	0	
6567. 79	鳥羽市神島町	山本松吉	98	'61	b	b	a	a	92	3	4	24	
6567. 86	鳥羽市答志町	西川豊太郎	56	'62	c	c	b	b	98	3	6	0	
6575. 17	松阪市大石	村木伊右衛門	47	'57	a	a	o	o	02	1.2	6	0	
6575. 40	飯南郡飯高町粟野	岡田幸助	56	'65	c	c	b	b	88	1	4	0	
6675. 66	多気郡大台町佐原	古田庄太郎	56	'61	b	b	a	a	01	1.2	8	0	
6575. 82	多気郡宮川村唐櫃	森本政吉	56	'63	c	c	b	b	93	1	6	24	兵
6576. 28	伊勢市宇治浦田町	白鬚長二	24	'57	a	a	o	o	90	7	4	24	兵
6576. 32	度会郡度会村麻加江	菌 與 作	56	'60	b	b	a	o	98	1.2	8	0	
6576. 56	伊勢市横輪町	上田金之丞	97	'57	a	a	o	o	81	1	3	0	
6576. 93	度会郡度会村脇出	森田理之助	56	'62	c	c	b	b	94	1	6	24	兵
6577. 13	鳥羽市鳥羽町大里	岡田根作	47	'59	a	a	o	o	94	4	8	36	兵
6577. 71	志摩郡磯部町迫間	梅元甚五郎	56	'60	b	b	a	o	89	1	4	4	
6577. 86	志摩郡阿児町安乘	池田忠三郎	56	'62	c	c	b	b	01	5	8	0	
6584. 28	多気郡宮川村大字檜原	吉田松助	56	'61	b	b	o	a	93	2	5	24	兵
6585. 25	度会郡紀勢町柏崎	小倉賢太郎	47	'57	a	a	o	o	02	5	8	24	
6585. 49	度会郡南島町方座	西堀音市	56	'62	c	c	b	b	02	1.3	8	0	
6585. 83	北牟婁郡長島町中町	大西安太郎	56	'60	b	b	a	o	03	3	3	24	
6586. 27	度会郡南勢町宿浦	山本住太郎	47	'58	a	a	o	o	02	3	8	0	
6586. 32	度会郡南島町贊浦	田中菊太郎	56	'60	b	b	a	o	97	3	9	0	
6587. 42	志摩郡志摩町和具	伊藤治	47	'57	a	a	o	o	02	7	12	60	
6594. 19	北牟婁郡海山町上里	西村文之助	56	'62	c	c	b	b	02	1	8	0	
6594. 67	尾鷲市	村田秋男	47	'57	a	a	o	o	00	5	8	0	
6595. 32	北牟婁郡海山町島勝	玉井卯兵衛	47	'57	a	a	o	o	84	5	6	0	
6595. 90	尾鷲市九鬼町九木浦	川上久兵衛	56	'65	c	c	b	b	03	5	8	36	
7504. 11	熊野市五郷町桃崎	下垣内友一	56	'61	b	b	o	a	95	5	6	0	
7504. 27	尾鷲市曾根町	佐野清次郎	97	'57	a	a	o	o	93	4	6	36	
7504. 64	熊野市木本町	武上千代之丞	56	'61	b	b	o	a	97	5	8	30	
7513. 15	南牟婁郡紀和町和气	下地春松	99	'62	c	c	b	b	78	5	6	756	兵
7514. 21	南牟婁郡御浜町大字阿田和 滋 賀 県	石橋堯平	56	'61	b	b	a	a	87	1.3	8	0	
6504. 99	伊香郡木之本町木之本小字八木屋町	川隅治郎	18	'61	b	b	o	a	90	5	8	0	
6505. 60	伊香郡木之本町大字杉野上村	杉田兵治	98	'62	c	c	b	b	01	1.2	6	0	
6514. 25	伊香郡西浅井村菅浦	前田重三	50	'64	c	c	b	b	99	1	4	0	
6514. 38	東浅井郡湖北町字山本	柴田照	96	'57	a	a	o	o	02	1	8	0	
6514. 61	神崎郡永源寺町甲津畑	田井中忠助	50	'60	b	b	a	o	96	1.2	8	0	
6515. 24	坂田郡伊吹村吉槻	立沢岐十	50	'58	a	a	o	o	02	1.2	6	2	兵
6515. 70	長浜市南船町	村瀬忠兵衛	50	'58	a	a	o	o	78	5	4	0	
6523. 06	高島郡朽木村古川	柳生良吉	50	'63	c	c	b	b	95	1.2	4	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6523. 54	滋賀郡堅田町坊村	葛 野 常 喜	50	'60	b	b	a	o	92	1	4	0	
6523. 86	滋賀郡志賀町大字木戸	山 村 秀 次	96	'57	a	a	o	o	99	1	8	24	兵
6524. 01	高島郡安曇川町上小川	志 村 三 次	50	'60	b	b	a	o	00	1	8	0	
6524. 66	愛知郡稲枝町普光寺	宮 路 久 四 郎	50	'61	b	b	o	a	94	1	10	0	
6525. 05	坂田郡山東町梓	日 比 德 蔵	50	'61	b	b	o	a	99	1	2	6	0
6525. 30	彦根市連着町	池 田 太 三 郎	50	'59	a	a	o	o	93	5	6	0	
6525. 75	犬上郡多賀町大君ヶ畑	吉 川 国 春	50	'61	b	b	o	a	96	2	6	24	兵
6525. 90	愛知郡秦荘町岩倉	上 林 九 兵 衛	50	'62	c	c	b	b	02	1	8	0	
6533. 36	滋賀郡堅田町衣川	田 中 寅 治 郎	50	'58	a	a	o	o	90	1	8	0	
6533. 89	栗太郡栗東町小柿	塚 本 太 平	50	'60	b	b	a	o	95	1	6	0	
6534. 13	近江入幡市玉木町 2 丁目	西 脇 金 三	50	'65	c	c	b	b	98	5	4	24	兵
6534. 37	八日市市金星町	堀 川 辰 之 助	50	'60	b	b	a	o	02	5	8	0	
6534. 41	野洲郡野洲町永原江部	上 田 吉 次 郎	50	'61	b	b	o	a	99	1	10	0	
6534. 85	甲賀郡甲西町下田	山 中 信 吉	50	'61	b	b	o	a	97	1	5	0	
6535. 24	神崎郡永源寺町箕川	谷 口 純 作	50	'63	c	c	b	b	95	2	4	12	兵
6535. 73	高島郡今津町大供	古 賀 正 衛	50	'60	b	b	a	o	87	1	4	0	
6535. 90	蒲生郡日野町大窪	岸 田 益 吉	50	'62	c	c	b	b	79	1	8	0	
6543. 05	大津市膳所伊勢屋町	川 崎 久 松	25	'58	a	a	o	o	94	5	8	0	
6543. 56	大津市大石中町	田 中 藤 次 郎	25	'61	a	b	o	a	01	1	6	0	
6544. 26	甲賀郡水口町大字北内貴	倉 田 治 郎 平	50	'59	a	a	o	o	98	1	6	0	
6544. 69	甲賀郡甲賀町大字上野	光 前 政 次 郎	96	'57	a	a	o	o	96	1	8	0	
6544. 72	甲賀郡信楽町字長野	古 谷 忠 兵 衛	50	'59	a	a	o	o	83	7	0	24	兵
6545. 41	甲賀郡土山町大字北土山	東 久 吉	50	'59	a	a	o	o	92	1	2	8	24
京 都 府													
5499. 98	竹野郡網野町塩江	山 本 庄 次 郎	60	'62	c	c	b	b	99	3	6	36	兵
5590. 53	竹野郡丹後町間人小泊	中 村 音 蔵	25	'59	a	a	o	o	90	1	5	0	
5591. 60	与謝郡伊根町本庄上	矢 野 準 治	25	'61	b	b	o	a	89	1	8	0	
5591. 91	与謝郡伊根町字平田	向 井 市 治	60	'64	c	c	b	b	94	3	11	0	
6409. 35	熊野郡久美浜町久美浜	黒 崎 金 蔵	28	'58	a	a	o	o	89	5	4	7	
6500. 22	中郡峰山町字吉原	馬 場 定 右 衛 門	25	'59	a	a	o	o	89	5	4	0	
6500. 83	与謝郡野田川町三河内	野 村 両 太 郎	25	'61	b	b	o	a	72	4	4	0	
6500. 88	宮津市惣	岩 坪 長 四 郎	98	'57	a	a	o	o	74	5	7	15	
6501. 86	舞鶴市河辺由里	永 野 藤 太 郎	25	'61	b	b	o	a	86	1	4	0	
6501. 92	舞鶴市西神崎	香 川 態	60	'63	c	c	b	b	97	3	6	0	
6510. 65	加佐郡大江町新町	塩 見 久 良	25	'60	b	b	a	o	90	4	6	15	
6511. 33	舞鶴市字倉谷	田 中 作 治 郎	25	'58	a	a	o	o	84	1	8	0	
6511. 49	綾部市奥上林	渡 辺 吉 郎 左 衛 門	60	'64	c	c	b	b	86	1	2	4	0
6511. 85	綾部市八津合町字西屋	桜 井 藤 吉	98	'57	a	a	o	o	90	1	8	0	
6520. 03	福知山市字十二	服 部 庄 吉	25	'57	a	a	o	o	81	1	4	24	兵
6520. 79	天田郡三和町千束	田 中 一 三	60	'64	c	c	b	b	88	2	6	0	
6521. 03	綾部市十倉名畑町	川 端 克 己	25	'57	a	a	o	o	02	1	8	24	
6521. 17	船井郡和知町字下栗野	江 本 和 左 衛 門	25	'57	a	a	o	o	98	1	8	3	
6521. 20	綾部市味方町	西 村 長 之 助	97	'63	c	c	b	b	81	1	9	3	兵
6521. 94	船井郡瑞穂町橋爪	竹 本 正 次	25	'61	b	b	o	a	95	1	6	24	兵
6522. 03	北桑田郡美山町大字盛郷小字林	佐 野 貞 一	60	'63	c	c	b	b	99	1	2	8	0

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被調査者名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6522. 37	北桑田郡美山町字佐々里	勝山倉之助	25	'59	a	a	o	o	03	1・2	5	24	兵
6522. 79	北桑田郡京北町大字上黒田小字森ノ本	林 伝 治	60	'63	c	c	b	b	92	1・2	6	0	
6522. 93	北桑田郡京北町西村字大坪代	吉田太四郎	25	'57	a	a	o	o	84	1・2	4	0	
6532. 30	船井郡園部町字熊原	松本鶴之助	25	'60	b	b	a	o	91	1	6	20	
6532. 70	亀岡市宮前町字東神前	人見源太郎	25	'59	a	a	o	o	87	1	6	0	
6532. 89	京都市上京区元誓願寺通	加藤貞之助	25	'58	a	a	o	o	02	4	6	0	
6532. 93	亀岡市安町中島	関 辰之助	60	'62	c	c	b	b	92	1	4	0	
6533. 31	京都市左京区鞍馬本町	松本善次郎	25	'58	a	a	o	o	84	2	4	12	兵
6542. 27	乙訓郡向日町物集女	中山新一郎	25	'60	a	a	a	o	00	1	9	12	
6542. 32	亀岡市東別院町東掛坊谷	石田三次郎	25	'60	b	b	a	o	90	1	4	0	
6542. 58	京都市伏見区淀町	古 藪 宗 介	60	'62	c	c	b	b	93	5	8	12	
6543. 52	宇治市五ヶ庄字上村	古川元次郎	25	'57	a	a	o	o	88	1	8	24	兵
6553. 22	綴喜郡井手町大字井手小字野神	長谷川 信太郎	29	'61	b	b	a	a	93	1	8	0	
6553. 47	相楽郡笠置町大字笠置小字栗栖	森井八十八	29	'59	a	a	o	o	97	1	8	0	
6553. 52	相楽郡木津町小寺	堤 寅 太 郎	29	'63	c	c	b	b	87	1	11	0	
大 阪 府													
6541. 27	豊能郡能勢町下田尻北脇	泉 善之進	27	'57	a	a	o	o	90	1	8	4	
6542. 71	茨木市泉原	寺野忠雄	96	'62	c	c	b	b	95	7	12	36	
6551. 18	箕面市半町	奥村治一郎	26	'59	a	a	o	o	92	1	6	0	
6552. 03	高槻市富田町	吉田定助	26	'57	a	a	o	o	83	4	4	0	
6552. 46	北河内郡交野町字星田	中井長太郎	29	'63	c	c	b	b	02	7	8	36	兵
6552. 71	大阪市城東区隅田町4丁目	巳角忠三郎	26	'59	a	a	o	o	92	1	4	0	
6552. 90	大阪市東区南本町1丁目	牧村史陽	29	'64	c	c	b	b	98	5	11	576	
6561. 49	堺市今池町2丁目	北尾末吉	26	'58	a	a	o	o	03	1	6	0	
6562. 22	大阪市東住吉区平野新町5丁目	石田三郎	26	'57	a	a	o	o	98	7	11	0	
6562. 64	羽曳野市古市町	小池専太郎	26	'61	b	b	o	a	85	5	2	0	
6570. 89	泉南郡南海町鳥取	島中久雄	26	'57	a	a	o	o	94	7	4	0	
6571. 15	岸和田市春木町南浜	井上梅吉	26	'58	a	a	o	o	99	5	9	0	
6571. 34	貝塚市南	嘉田久平	29	'63	c	c	b	b	91	4	8	0	
6571. 63	泉佐野市日根野町野々地蔵	神藤信太良	98	'57	a	a	o	o	91	1	11	24	兵
6571. 68	和泉市父鬼町	井谷七丑松	26	'57	a	a	o	o	88	2	4	0	
6572. 04	富田林市字甲田	杉田徳治郎	29	'63	c	c	b	b	86	5	8	0	
6572. 22	河内長野市古野町	浦田友三郎	26	'59	a	a	o	o	89	1	4	0	
6572. 55	南河内郡千早赤阪村千早	田川休吉	96	'26	c	c	b	b	95	1	8	0	
6580. 06	泉南郡岬町深日	南 藤 定	30	'62	c	c	b	b	99	4・5	6	0	
兵 庫 県													
6407. 28	美方郡浜坂町浜坂	松崎豊治	28	'57	a	a	o	o	84	5	3	0	
6408. 15	城崎郡香住町香住	寺田松太郎	28	'58	a	a	o	o	00	1	6	36	
6408. 72	美方郡村岡町味取	仕名野登	99	'61	b	b	a	a	01	2	6	0	
6408. 88	城崎郡竹野町椒小字中村	山尾松五郎	28	'63	c	c	b	b	87	1	4	36	兵
6409. 00	城崎郡竹野町竹野	安部精一	28	'62	c	c	b	b	91	5	8	0	
6409. 72	豊岡市大開通	岡田三代造	28	'57	a	a	o	o	00	5	8	0	
6418. 13	美方郡村岡町村岡	田中初蔵	28	'58	a	a	o	o	79	1	3	0	
6418. 75	養父郡関宮町関宮	岩崎鹿太郎	28	'58	a	a	o	o	95	5	8	36	兵
6419. 09	出石郡但東町中山	加藤銀造	28	'61	b	b	o	a	93	5	8	27	兵

調査地点番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6419. 25	出石郡出石町出石本町	米 沢 貞 治 郎	28	'58	a	a	o	o	95	5	12	43	
6419. 50	養父郡八鹿町八鹿	岡 本 作 太 郎	28	'58	a	a	o	o	85	5	6	35	兵
6419. 69	出石郡但東町小坂	後 政 吉	28	'62	c	c	b	b	85	1	3	0	
6428. 13	養父郡大屋町横行	安 達 惣 助	28	'62	c	c	b	b	80	1	2	1	0
6428. 26	養父郡大屋町和田	山 内 種 太 郎	28	'58	a	a	o	o	03	1	6	0	
6428. 76	宍粟郡一宮町上岸田	山 本 豊 治	28	'58	a	a	o	o	03	1	6	4	
6428. 91	宍粟郡波賀町飯見	竹 上 準 一	28	'62	c	c	b	b	01	1	2	8	12
6429. 15	朝来郡山東町矢名瀬	中 島 清 蔵	28	'57	a	a	o	o	88	4	4	24	
6429. 30	養父郡養父町長野小字尾ノ上	松 下 正 二	28	'63	c	c	b	b	01	1	8	28	兵
6429. 61	朝来郡朝来町山口	荒 川 義 一	28	'58	a	a	o	o	98	1	5	7	6
6429. 65	朝来郡生野町黒川小字黒川	竹 村 円	28	'63	c	c	b	b	03	1	6	8	
6437. 07	宍粟郡千種町千種	笹 勇	28	'61	b	b	o	a	00	5	6	36	
6437. 94	佐用郡佐用町佐用	尾 崎 角 治	28	'61	b	b	o	a	96	1	4	40	兵
6438. 33	宍粟郡一宮町安積小字曲里	橋 本 麻 太 郎	28	'61	b	b	o	a	91	7	8	24	
6439. 01	朝来郡生野町口銀谷	河 野 英 雄	28	'59	a	a	o	o	91	5	9	11	
6439. 17	多可郡加美町市原	森 安 唯 一	98	'62	c	c	b	b	95	1	4	0	
6439. 61	神崎郡神崎町賀賀町	大 野 与 一	28	'62	c	c	b	b	73	5	10	0	
6439. 77	多可郡中町森本	福 岡 勇 治	27	'58	a	a	o	o	02	1	8	0	
6447. 08	佐用郡三日月町本郷	船 曳 定 吉	97	'57	a	a	o	o	96	1	10	24	
6447. 39	揖保郡新宮町千本	桑 原 哲 治	96	'65	c	c	b	b	95	1	8	12	兵
6447. 84	赤穂郡上郡町大持	中 村 啓 助	27	'60	a	a	o	o	88	5	8	0	
6448. 23	宍粟郡安富町植木野	塚 本 順 治	27	'63	c	c	b	b	90	1	8	33	
6448. 61	揖保郡新宮町馬立	高 林 茂 市	27	'58	a	a	o	o	03	7	8	23	兵
6449. 19	西脇市上本町	来 住 亀 之 助	27	'58	a	a	o	o	89	1	8	0	
6449. 20	神崎郡福崎町福田	大 杉 太 八 郎	27	'57	a	a	o	o	91	1	4	0	
6449. 33	加西郡北条町北条	奥 畑 栄 次	27	'57	a	a	o	o	90	5	4	30	
6449. 84	加西郡北条町千ノ沢峠	桜 井 一 二	27	'64	c	c	b	b	01	1	8	0	
6457. 18	相生市那波	元 佐 甚 治	27	'63	c	c	b	b	03	5	8	36	兵
6457. 45	赤穂市塩屋向	山 中 千 太 郎	27	'59	a	a	o	o	96	7	4	30	
6458. 08	姫路市1丁町	尾 田 佐 太 一	27	'58	a	a	o	o	00	7	7	0	兵
6458. 26	姫路市飾磨区御幸	水 野 奥 蔵	28	'62	c	c	b	b	82	5	4	36	
6458. 40	揖保郡御津町室津	小 西 勝 次	27	'58	a	a	o	o	88	4	8	36	兵
6458. 91	飾磨郡家島町真浦	秋 山 市 松	28	'63	c	c	b	b	97	7	4	0	
6459. 29	三木市福井	藤 原 鶴 蔵	27	'57	a	a	o	o	98	4	5	0	
6459. 52	高砂市高砂町田町	釜 谷 利 英	27	'59	a	a	o	o	03	5	8	0	
6459. 87	明石市大久保町大窪	増 本 弥 三 郎	28	'61	b	b	o	a	02	1	8	0	
6469. 19	明石市東魚町	林 宇 之 助	28	'62	c	c	b	b	87	5	8	0	
6469. 77	津名郡北淡町富島西之丁	岡 林 吉	27	'59	a	a	o	o	88	5	8	3	兵
6479. 26	津名郡津名町生穂中之内雨乞	打 越 岩 一	27	'57	a	a	o	o	95	5	8	2	
6479. 51	津名郡五色町都志角川	岡 本 関 三 郎	97	'57	a	a	o	o	02	1	5	6	0
6479. 95	洲本市外通町5丁目	湊 宇 吉	27	'57	a	a	o	o	68	5	6	0	
6488. 48	三原郡南淡町福良本町	東 大 蔵	99	'61	b	b	a	a	97	7	6	24	兵
6489. 01	三原郡緑町庄田	長 谷 惣 次 郎	28	'62	c	c	b	b	87	1	4	0	
6489. 27	洲本市由良町紺屋町宇天神町	竹 田 虎 之 助	27	'57	a	a	o	o	89	7	8	36	
6489. 81	三原郡南淡町灘土生	北 村 安 吉	27	'65	c	c	b	b	96	3	4	3	兵

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6520. 50	氷上郡青垣町佐治	松 本 茂 一	28	'63	c	c	b	b	96	5	6	0	
6520. 94	氷上郡春日町黒井	中 川 喜 代 蔵	28	'57	a	a	o	o	98	1	8	0	
6530. 23	氷上郡柏原町柏原本町	田 俊 之 助	28	'57	a	a	o	o	82	7	10	0	
6530. 58	多紀郡篠山町下二階町	藤 本 一 雄	28	'58	a	a	o	o	02	5	8	36	兵
6531. 53	多紀郡多紀村福住	堀 口 幸 一	28	'57	a	a	o	o	01	5	9	30	
6540. 16	三田市大字藍本字波田	下 家 地 一 義	97	'62	b	b	a	a	92	1.5	11	120	
6540. 52	加東郡東条町天神	西 山 兵 蔵	28	'61	b	b	o	a	99	5	8	0	
6540. 79	三田市三田湯山町	枅 谷 利 治	28	'61	b	b	o	a	00	5	8	0	
6541. 52	宝塚市大原野東部島田	島 田 真 治	27	'65	c	c	b	b	03	1	9	0	
6541. 66	川西市山下字大蔵	田 中 利 市 郎	27	'57	a	a	o	o	91	1	8	1	
6550. 13	義褒郡淡河村淡河町	武 野 音 吉	27	'57	a	a	o	o	87	1	6	0	
6550. 96	神戸市生田区楠町6丁目	橋 本 岩 次	27	'57	a	a	o	o	89	7	6	9	
6551. 20	神戸市兵庫区有馬町中之町	西 田 徳 治	27	'64	c	c	b	b	94	5	8	6	
6551. 52	芦屋市岩園町	極 楽 地 悦 蔵	26	'58	a	a	o	o	94	1	4	0	
6551. 77	尼崎市大物町2丁目	松 川 常 七	29	'63	c	c	b	b	95	5	11	0	
6560. 22	神戸市垂水区西垂水町宮本	御 影 福 太 郎	27	'57	a	a	o	o	88	1.3	6	36	兵
6560. 40	津名郡淡路町岩屋片浜	山 谷 宇 三 郎	27	'64	c	c	b	b	03	3	6	0	
奈 良 県													
6552. 88	生駒郡生駒町谷田	田 中 末 治 郎	98	'57	a	a	o	o	99	1	8	24	兵
6553. 83	奈良市北市町	山 本 吉 太 郎	29	'57	a	a	o	o	98	1	12	2	兵
6553. 99	山辺郡山添村大字峰寺	今 中 政 之	29	'64	c	c	b	b	98	1	8	0	
6562. 48	北葛城郡王寺町字王寺	寺 田 甚 太 郎	26	'58	a	a	o	o	89	1	4	0	
6563. 43	天理市大字守目堂	大 塚 武 雄	29	'57	a	a	o	o	98	7	11	0	
6563. 58	山辺郡都祁村大字吐山	皿 木 重 治	96	'57	a	a	o	o	94	1	8	24	兵
6563. 84	桜井市大字栗殿	御 簾 覚 太 郎	96	'57	a	a	o	o	97	5	9	20	
6564. 51	宇陀郡室生村大字三本松	勝 井 喜 三 雄	29	'59	a	a	o	o	95	1	9	36	兵
6572. 29	御所市	涌 井 庄 太 郎	29	'62	c	c	b	b	95	1	11	0	
6572. 97	宇智郡五条町大字新町	伊 本 圭 志	29	'57	a	a	o	o	99	5	8	3	兵
6573. 17	宇陀郡大字陀町拾生内垣内	阪 奥 彦 三 郎	29	'58	a	a	o	o	97	1.5	8	36	兵
6573. 71	吉野郡下市町大字下市	加 藤 藤 造	29	'60	b	b	a	o	87	5	8	0	
6574. 06	宇陀郡御杖村大字菅野	平 田 幸 松	29	'57	a	a	o	o	94	1.2	10	24	兵
6574. 52	吉野郡東吉野村大字杉谷小字中村	萩 原 藤 吉	29	'64	c	c	b	b	95	2	4	0	
6583. 19	吉野郡川上村字武木	田 垣 内 退 造	29	'61	b	b	a	a	84	2	4	18	兵
6583. 41	吉野郡西吉野村大字西日浦	上 垣 義 寿	29	'60	b	b	a	o	89	2	4	0	
6583. 45	吉野郡天川村大字洞川	宮 田 鶴 松	29	'63	c	c	b	b	00	2	8	0	
6583. 93	吉野郡大塔村篠原	辻 内 定 光	98	'61	b	b	a	a	01	2	6	33	兵
6584. 90	吉野郡上北山村大字西原	大 谷 幸 作	98	'61	b	b	a	a	87	1	6	0	
6592. 35	吉野郡野迫川村大字平	上 野 薫 雄	29	'63	c	c	b	b	03	1	6	0	
6593. 30	吉野郡十津川村谷瀬	佐 田 時 治	99	'62	c	c	b	b	85	2	6	24	兵
6593. 98	吉野郡下北山村大字寺垣内	小 倉 松 治	29	'61	b	b	a	a	90	2	4	24	兵
7503. 11	吉野郡十津川村大字小原	中 谷 正 春	29	'57	a	a	o	o	02	2	6	0	
和 歌 山 県													
6580. 33	海草郡加太町加太	加 太 庄 司	30	'57	a	a	o	o	93	0	4	0	
6580. 66	和歌山市北田辺町2丁目	日 置 熊 三 郎	30	'58	a	a	o	o	02	5	6	0	
6581. 36	那賀郡粉河町粉河	羽 畑 茂 助	30	'57	a	a	o	o	95	1	4	24	兵

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6581. 52	那賀郡岩出町宮	今 井 与 一	30	'59	a	a	o	o	02	1	6	0	
6581. 68	那賀郡粉河町瀬中の組	北 浦 民 次 郎	30	'62	c	c	b	b	92	1	4	36	兵
6582. 12	伊都郡高野町口名倉	伊 藤 藤 吉	30	'59	a	a	o	o	93	7	4	6	兵
6582. 48	伊都郡富貴村東富貴天神垣内	宮 前 梅 之 助	97	'57	a	a	o	o	96	1	4	0	
6582. 73	伊都郡高野町高野山	半 田 福 松	30	'57	a	a	o	o	84	5	4	24	兵
6590. 08	海南市日方	丸 山 庄 次 郎	30	'58	a	a	o	o	98	5	6	0	
6590. 35	海草郡下津町下津	中 村 栄 次 郎	30	'62	c	c	b	b	01	5	6	24	兵
6590. 87	有田郡湯浅町湯浅	崎 山 角 太 郎	30	'57	a	a	o	o	93	5	8	0	
6591. 02	海草郡野上町動木	西 川 秀 雄	30	'58	a	a	o	o	97	1	4	0	
6591. 57	有田郡清水町清水	中 川 峻	30	'61	b	b	o	a	95	1	6	0	
6591. 81	有田郡金屋町修理川	竹 内 雅 一	30	'65	c	c	b	b	89	1	4	0	
6592. 10	伊都郡花園村梁瀬	大 前 太 一	30	'65	c	c	b	b	00	1	8	0	
7500. 24	日高郡由良町横浜	大 江 正 吉	30	'59	a	a	o	o	85	5	6	0	
7500. 43	日高郡日高町北井	狩 野 信 一	30	'65	c	c	b	b	00	1	6	0	
7500. 66	御坊市御坊	畑 中 米 太 郎	30	'57	a	a	o	o	94	5	4	0	
7501. 14	日高郡美山村川原河	西 川 武 夫	30	'61	b	b	o	a	91	2	6	0	
7501. 68	日高郡竜神村福井	岡 本 芳 太 郎	30	'61	b	b	o	a	95	1	8	0	
7501. 72	日高郡印南町田の垣内	熊 代 峰 蔵	30	'64	c	c	b	b	99	1	6	0	
7502. 22	日高郡竜神村竜神	若 井 薫	97	'57	a	a	o	o	90	5	7	36	
7502. 89	東牟婁郡本宮町三越	道 窪 恵 次 郎	99	'62	c	c	b	b	95	5	6	636	
7502. 91	西牟婁郡中辺路町小松原	岡 崎 長 次 郎	30	'63	c	c	b	b	02	1	6	0	
7503. 48	東牟婁郡北山村大字大沼	橋 詰 為 彦	98	'61	b	b	a	a	00	2	8	30	
7510. 18	日高郡印南町印南	中 島 鶴 松	30	'59	a	a	o	o	91	3	6	0	
7511. 66	田辺市湊	木 下 虎 雄	30	'57	a	a	o	o	01	1	6	0	
7511. 93	西牟婁郡白浜町白浜	雑 賀 弥 七	30	'63	c	c	b	b	97	3	8	0	
7512. 43	西牟婁郡大塔村平瀬	小 原 平 四 郎	30	'61	b	b	o	a	96	1	6	0	
7513. 01	東牟婁郡本宮町請川	宇 恵 岩 五 郎	30	'61	b	b	o	a	01	1	6	36	兵
7513. 43	東牟婁郡熊野川町上長井	中 村 文 雄	30	'63	c	c	b	b	95	1	6	12	兵
7513. 69	新宮市新宮	大 石 哲 士	30	'57	a	a	o	o	99	0	13	0	
7521. 16	西牟婁郡白浜町富田	山 本 要 三 郎	30	'60	b	b	a	o	91	1	7	0	
7521. 79	西牟婁郡すさみ町すさみ	古 田 昌 一	30	'60	b	b	a	o	89	5	7	24	兵
7522. 48	東牟婁郡古座川町佐田字地下	稻 垣 政 一 郎	30	'60	b	b	a	o	02	2	6	0	
7522. 94	西牟婁郡江住町江住	山 形 音 松	30	'57	a	a	o	o	87	0	4	0	
7523. 05	東牟婁郡那智勝浦町那智山	野 田 政 彦	30	'58	a	a	o	o	91	1	8	0	
7523. 27	東牟婁郡那智勝浦町勝浦	二 河 捨 松	30	'63	c	c	b	b	00	3	6	24	兵
7523. 30	東牟婁郡古座川町長洞尾字滝押	根 木 福 一	30	'60	b	b	a	o	98	2	8	0	
7523. 74	東牟婁郡古座町下田原	高 尾 平 九 郎	97	'57	a	a	o	o	95	1	6	72	兵
7533. 11	西牟婁郡串本町串本	塩 津 甚 市	30	'60	b	b	a	o	93	7	6	0	
7533. 12	西牟婁郡串本町大島	東 畑 千 太 郎	30	'62	c	c	b	b	99	3	6	0	
鳥 取 県													
6404. 83	西伯郡中山町大字赤坂	福 永 福 重 郎	31	'57	a	a	o	o	98	1	9	24	兵
6405. 95	東伯郡羽合町大字宇野	村 中 多 三	31	'63	c	c	b	b	92	1	4	0	
6406. 77	鳥取市賀露町	浜 部 徳 五 郎	31	'63	c	c	b	b	92	1	8	24	
6406. 92	気高郡気高町浜村	鈴 木 熊 雄	31	'57	a	a	o	o	89	1	8	0	
6407. 43	岩美郡岩美町浦富	池 内 沢 治	28	'58	a	a	o	o	94	5	9	24	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6413. 10	米子市和田町大字上和田	矢倉万亀雄	31	'59	a	a	o	o	98	1	8	0	
6413. 29	西伯郡大山町宮内	瀬尾米造	99	'61	b	b	a	a	90	7	0	0	
6413. 43	米子市靴町1丁目	原修一郎	31	'62	c	c	b	b	99	5	6	0	
6413. 76	西伯郡岸本町大字大殿字大寺	岩田平四郎	31	'57	a	a	o	o	95	1	7	0	
6414. 17	東伯郡東伯町大字劬	吉田愛治	31	'61	b	b	o	a	03	1	8	36	兵
6414. 25	東伯郡赤碓町宮木	太田四郎	97	'63	c	c	b	b	06	1	6	0	
6415. 23	倉吉市大字海田	角 廉	31	'59	a	a	o	o	99	1	8	24	兵
6415. 78	東伯郡三朝町丹戸	小椋亀吉	31	'62	c	c	b	b	89	1	4	24	兵
6415. 80	東伯郡関金町関金宿	吉田庄司	31	'61	b	b	o	a	92	5	6	24	
6415. 83	東伯郡三朝町助谷	山本耕一	31	'62	c	c	b	b	02	1	6	0	
6416. 09	鳥取市立川町	隠岐田成美	31	'58	a	a	o	o	86	5	4	30	
6416. 31	気高郡鹿野町大字鷲峰	田中多一	31	'61	b	b	o	a	85	1	8	0	
6416. 58	八頭郡河原町字袋河原	萩原文一	31	'58	a	a	o	o	93	1	6	0	
6117. 14	岩美郡国府町大字栃本	森原英太郎	31	'61	b	b	o	a	95	1	9	0	
6417. 72	八頭郡八東町大字安井宿	西尾勝美	31	'60	b	b	a	o	00	1	8	24	兵
6417. 85	八頭郡若桜町字赤松	中島定二	31	'64	c	c	b	b	93	1	8	30	兵
6422. 77	日野郡日南町阿毘縁	岩田栄蔵	32	'63	c	c	b	b	94	1.2	8	0	
6423. 23	西伯郡西伯町字下中谷	岩田勝蔵	31	'64	c	c	b	b	93	1	4	0	
6423. 75	日野郡日野町大字黒坂	青戸音治	31	'59	a	a	o	o	93	1.5	4	24	
6424. 20	日野郡江府町大字貝田	福田岩雄	31	'59	a	a	o	o	02	1	8	12	
6429. 04	八頭郡佐治村小字畑	西村又十郎	31	'60	b	b	a	o	95	1	4	0	
6426. 47	八頭郡智頭町波多	福本 実	99	'61	b	b	a	a	10	2	8	144	兵
6427. 27	八頭郡若桜町岩屋堂	山根重太郎	31	'60	b	b	a	o	92	1.2	4	24	兵
6427. 40	八頭郡智頭町大字郷原	東 正 市	31	'60	b	b	a	o	99	1.2	9	0	
6433. 34	日野郡日南町上石見	後藤虎一	33	'61	b	b	o	a	94	1	8	0	
島 根 県													
5462. 29	穩地郡五箇村大字北方	金坂勝男	32	'57	a	a	o	o	96	1	4	0	
5462. 57	穩地郡都万村大字油井	藤山米太	32	'62	c	c	b	b	92	5	4	24	兵
5463. 12	周吉郡中村大字中村字郡	藤野元平	32	'57	a	a	o	o	00	1	6	18	
5463. 64	周吉郡西郷町大字大久	斎藤正香	32	'62	c	c	b	b	96	5	9	12	兵
5463. 73	周吉郡西郷町西町	長沢宇太郎	32	'57	a	a	o	o	91	3	4	0	
5471. 59	知夫郡西ノ島町赤之江	長府伊勢太郎	32	'57	a	a	o	o	81	1.3	4	0	
5472. 31	知夫郡西ノ島大字別府	山本秀夫	32	'62	c	c	b	b	03	1.3	8	24	
5472. 34	海士郡海士村大字海士	佐々松若	32	'57	a	a	o	o	83	1	3	60	兵
5472. 91	知夫郡知夫村大江	崎新太郎	96	'61	b	b	a	a	97	1	6	12	兵
6338. 99	江津市大字郷田字後浜新開	南山要二郎	32	'60	b	b	a	o	02	7	9	0	
6339. 35	瀬摩郡温泉津町湯里中組	林芳 芬	32	'58	a	a	o	o	02	7	9	0	
6339. 37	大田市大森町駒の足区	石飛作一	32	'63	c	c	b	b	01	7	8	0	
6339. 44	瀬摩郡温泉津町温泉津大字小浜	吉村喜三郎	32	'63	c	c	b	b	98	4	8	0	
6339. 86	大田市大代町字大家	森 信 一	32	'61	b	b	o	a	02	5	6	36	
6348. 63	浜田市高田町	中村孝介	31	'64	c	c	b	b	84	7	12	24	
6348. 71	浜田市日脚	北谷助市	32	'57	a	a	o	o	70	1	6	48	兵
6348. 77	那賀郡金城村大字今福字五十石	上田勝太郎	32	'61	b	b	o	a	78	1	6	0	
6349. 09	邑智郡川本町大字川本	松島幸造	31	'64	c	c	b	b	99	7	8	24	兵
6349. 23	邑智郡桜江町川戸	日和田師郎	32	'59	a	a	o	o	99	1	6	24	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6349. 67	邑智郡石見町矢上字下京	渡 辺 豊 市	32	'58	a	a	o	o	98	1.5	7	3	兵
6349. 80	那賀郡旭町大字今市小谷城	前 原 健 之 助	96	'61	b	b	a	a	01	1	6	0	
6356. 98	益田市飯浦	小 松 綱 夫	32	'59	a	a	o	o	99	1	8	0	
6357. 38	那賀郡三隅町大字三隅	中 村 運 市	32	'61	b	b	o	a	03	7	9	18	兵
6357. 74	益田市遠田	矢 富 豊 一 郎	32	'59	a	a	o	o	90	1	4	0	
6358. 43	那賀郡弥栄村大字木都賀	佐々木伝右工門	32	'61	b	b	o	a	90	1	4	0	
6376. 09	美濃郡美都町大字都茂	斎 藤 薫	32	'63	c	c	b	b	00	1	8	35	
6367. 73	鹿足郡日原町大字枕瀬	村 上 安 右 工 門	32	'58	a	a	o	o	88	1	8	26	
6368. 60	美濃郡匹見町大字紙祖字荒木	岡 本 保 吉	96	'61	b	b	a	a	84	1	4	0	
6377. 11	鹿足郡津和野町大字後田	山 田 庄 次 郎	32	'59	a	a	o	o	87	1	8	3	兵
6377. 65	鹿足郡六日市町大字七日市	藤 井 松 蔵	32	'58	a	a	o	o	00	1	8	0	
6401. 89	八東郡鹿島町恵曇	青 山 弥 一	32	'60	b	b	a	o	92	3	4	0	
6402. 53	八東郡島根村大字野波	相 見 兵 之 助	32	'63	c	c	b	b	91	1	7	0	
6402. 94	松江市上本庄町字川部	松 本 友 徳	32	'60	b	b	a	o	03	1	8	0	
6403. 60	八東郡美保関町大字福浦	宮 本 朝 雄	32	'60	b	b	a	o	96	1.3	6	0	
6403. 62	八東郡美保関町大字美保関	桶 谷 源	31	'64	c	c	b	b	91	3	4	0	
6410. 45	簸川郡大社町大字字龍	木 村 弥 一 郎	32	'62	c	c	b	b	01	1.3	8	12	兵
6410. 77	簸川郡大社町大字中荒木字四軒家	石 田 善 右 工 門	32	'61	b	b	o	a	92	1	8	0	
6411. 33	平田市中之島町	森 脇 友 吉	32	'57	a	a	o	o	95	1	4	0	
6411. 66	八東郡宍道町大字佐々布	多 根 正 直	32	'59	a	a	o	o	96	1	9	0	
6411. 80	出雲市今市町	米 山 定 市	32	'62	c	c	b	b	84	5	8	6	兵
6412. 12	松江市殿町	石 村 春 莊	32	'59	a	a	o	o	00	4	8	0	
6412. 48	安来市荒島町	清 水 賢 吉	32	'60	b	b	a	o	02	1.4	6	0	
6412. 91	大原郡大東町大字北村	高 島 清 左 衛 門	96	'61	b	b	a	a	84	1	8	100	兵
6420. 34	簸川郡多伎村大字小田字山之空	安 井 忠 次 郎	32	'59	a	a	o	o	00	1	6	12	
6420. 58	簸川郡佐田村大字反辺字町	安 食 猪 十 郎	32	'62	c	c	b	b	91	1	8	24	兵
6420. 60	大田市久手町波根西	古 谷 源 二	32	'57	a	a	o	o	88	5	11	30	
6421. 26	大原郡木次町大字木次	森 山 伴 助	32	'57	a	a	o	o	82	5	13	60	
6421. 79	仁多郡仁多町大字三沢	糸 賀 幸 四 郎	31	'64	c	c	b	b	94	1	5	18	
6421. 82	飯石郡掛合町西側地区	影 山 孝 市	96	'61	b	b	a	a	86	1	8	0	
6422. 16	能義郡布部村大字布部下布部	青砥卯之右工門	32	'61	b	b	o	a	99	1	9	36	
6422. 93	仁多郡横田町大字横田字角	和 泉 宗 市	32	'59	a	a	o	o	84	1	4	0	
6430. 26	飯石郡頓原町大字角井	三 島 新 四 郎	31	'64	c	c	b	b	90	1	6	3	兵
6430. 53	邑智郡邑智町大字粕渕旭町	山 田 正 一	32	'61	b	b	o	a	95	1	6	0	
6431. 41	飯石郡頓原町大字花栗	木 村 文 次	32	'58	a	a	o	o	98	1	9	0	
6432. 22	仁多郡横田町大馬木	戸 屋 金 蔵	34	'60	b	b	a	o	02	1	6	0	
6440. 25	邑智郡大和村大字都賀本郷	西 島 静 人	32	'60	b	b	a	o	97	5	8	24	
6440. 81	邑智郡瑞穂町大字山田	岩 戸 実 夫	31	'64	c	c	b	b	01	1	6	3	
岡 山 県													
6424. 35	真庭郡川上村福田	立 田 富 之 助	33	'61	b	b	o	a	95	1	8	24	
6424. 89	真庭郡湯原町下湯原	池 田 澄 雄	99	'61	b	b	a	a	04	1.7	8	0	
6424. 92	真庭郡新庄村字鍛冶屋	岩 田 義 夫	33	'64	c	c	b	b	89	1	8	24	兵
6425. 41	真庭郡中和村大字下和小字野辺	入 沢 茂 太 郎	33	'64	c	c	b	b	99	1	6	0	
6425. 57	苫田郡奥津町大字長藤小字原口	水 田 武 兵	33	'60	b	b	a	o	99	1	8	0	
6426. 83	苫田郡加茂町知和	山 本 喜 久 一	33	'60	b	b	a	o	96	1	8	0	



調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6427. 93	英田郡西粟倉村大字影石小字谷口	中島三郎兵衛	31	'64	c	c	b	b	81	1	4	0	
6433. 97	新見市上市井村	佐々井海造	33	'57	a	a	o	o	84	1	6	0	
6434. 52	阿哲郡大佐町永富	高橋浄念	33	'61	b	b	o	a	00	1	6	0	
6434. 57	真庭郡勝山町勝山	山藤真太郎	33	'57	a	a	o	o	99	5	8	24	
6435. 03	苫田郡富村富西谷小字宮原	古市徳勝	33	'64	c	c	b	b	99	1	6	0	
6435. 68	津山市院庄	岸川武雄	33	'60	b	b	a	o	03	1	8	0	
6435. 72	真庭郡落合町中河内	柴田正隆	33	'60	b	b	a	o	99	1	6	24	兵
6436. 33	津山市綾郡字王地	高山萬一	96	'63	c	c	b	b	00	1	8	33	兵
6436. 57	勝田郡勝田町真加部	小林十七蔵	33	'57	a	a	o	o	90	1	8	0	
6436. 60	津山市椿高下	柴田貴純	33	'60	b	b	a	o	89	7	14	31	
6436. 98	英田郡作東町原	溝曾路友治	33	'63	c	c	b	b	84	1	8	12	兵
6437. 23	英田郡大原町古町	有元一陽	33	'60	b	b	a	o	03	7	8	0	
6443. 03	阿哲郡哲西町大字上神代字日長谷	福田万太郎	97	'62	b	b	a	a	92	1	8	0	
6443. 88	川上郡成羽町吹屋	長尾久平	33	'59	a	a	o	o	84	5	8	0	
6444. 25	上房郡北房町下啓部	大月雅夫	33	'61	b	b	o	a	03	1	8	0	
6444. 62	新見市草間井倉野	三村音松	33	'63	c	c	b	b	92	1	4	0	
6444. 89	上房郡賀陽町田土	幸田与利治	33	'57	a	a	o	o	02	1	8	0	
6445. 11	真庭郡落合町旦土	杉山元四郎	33	'60	b	b	a	o	96	1	6	0	
6445. 57	久米郡久米南町下二ヶ	松本太	33	'59	a	a	o	o	03	7	11	21	兵
6446. 05	英田郡美作町湯郷	鳥越活三	33	'60	b	b	a	o	01	1	11	24	
6446. 43	赤磐郡吉井町周匝	小宮山五六	33	'59	a	a	o	o	88	4	8	0	
6446. 69	和気郡吉永町都留岐	小寺熊夫	33	'62	c	c	b	b	90	1	6	0	
6453. 59	川上郡川上町地頭	三村方一	33	'61	b	b	o	a	99	1	8	0	
6453. 64	後月郡芳井町大字西江原小字西村入	山室一市	33	'63	c	c	b	b	95	1	6	0	
6454. 24	高梁市松山	森定二郎	33	'59	a	a	o	o	97	7	8	0	
6454. 88	総社市秦下	河西塩太郎	33	'58	a	a	o	o	80	1	4	0	
6455. 27	御津郡御津町金川	水河隆治	33	'58	a	a	o	o	99	1	11	0	
6455. 31	吉備郡足守町大字間倉字上杭田	河田政一	96	'65	c	c	b	b	91	5	6	0	
6455. 62	吉備郡足守町上足守	枝松猛夫	33	'58	a	a	o	o	89	7	13	24	兵
6455. 88	岡山市高島新屋敷	梅島喬正	33	'57	a	a	o	o	01	1	8	16	
6456. 23	赤磐郡熊山町沢原	入矢静太	33	'59	a	a	o	o	03	5	8	18	兵
6456. 57	和気郡備前町西片上	尾川太四郎	33	'58	a	a	o	o	91	7	8	0	
6456. 73	上道郡上道町浅川	時長弥寿平	99	'61	b	b	a	a	94	1	8	0	
6457. 51	和気郡日生町中日生	古松藤次郎	99	'61	b	b	a	a	84	1	4	0	
6463. 38	井原市井原町中町	砂田桂市	34	'61	b	b	o	a	00	4	10	0	
6464. 23	小田郡矢掛町矢掛	片山親徳	33	'59	a	a	o	o	03	5	8	0	
6464. 77	玉島市玉島	猪木宗吉	33	'59	a	a	o	o	93	5	8	0	
6464. 90	笠岡市笠岡	中藤正平	33	'63	c	c	b	b	00	5	11	24	兵
6465. 07	岡山市下之町	小林種次	33	'62	c	c	b	b	97	5	4	0	
6465. 40	倉敷市元町	森茂夫	33	'58	a	a	o	o	91	7	10	18	
6465. 82	児島市林	原元次郎	33	'63	c	c	b	b	96	1	6	24	兵
6466. 10	西大寺市西大寺	大森後藤治	33	'58	a	a	o	o	00	5	9	0	
6466. 16	邑久郡邑久町尻海	島岡岩次郎	33	'58	a	a	o	o	82	3	4	0	
6466. 36	邑久郡牛窓町牛窓	岡崎忠士	33	'62	c	c	b	b	96	3	4	0	
6466. 41	岡山市小串	柴田岩治	33	'62	c	c	b	b	03	5	6	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6474. 03	浅口郡寄島町寄島	岡本楠松	33	'57	a	a	o	o	02	1	8	24	
6474. 50	笠岡市白石島	山川平一	33	'65	c	c	b	b	95	3	4	24	兵
6474. 83	笠岡市真鍋島	志村兼吉	33	'65	c	c	b	b	03	3	8	0	
6475. 07	玉野市玉	近藤菊市	33	'59	a	a	o	o	97	7	6	6	
6475. 27	玉野市向日比	久富条松	33	'62	c	c	b	b	01	3	6	0	
6475. 32	児島市田之浦	柏山清十郎	33	'57	a	a	o	o	00	5	8	12	
広島県													
6358. 87	山県郡芸北町大字東八幡字菅原	反田肇	32	'63	c	c	b	b	03	1	6	0	
6359. 38	山県郡大朝町大字大朝	植木亀次	34	'58	a	a	o	o	97	1	8	24	兵
6359. 62	山県郡芸北町細見	中山喜久太郎	34	'62	c	c	b	b	87	1	4	0	
6368. 59	山県郡戸河内町本郷土居	河本健市	34	'57	a	a	o	o	80	7	6	36	兵
6369. 32	山県郡加計町道の口	栗岡寿三	34	'59	a	a	o	o	00	1	8	3	兵
6369. 37	山県郡豊平町字長沢	背戸柳一	34	'62	c	c	b	b	79	1	4	0	
6378. 05	佐伯郡吉和村市垣内	山崎喜代一	34	'62	c	c	b	b	95	1.2	4	0	
6378. 87	佐伯郡佐伯町津田かじや川	正木収市	34	'58	a	a	o	o	88	1	4	24	兵
6379. 31	佐伯郡湯来町伏谷川角	隅川禎三郎	34	'57	a	a	o	o	96	1	5	42	兵
6379. 67	広島市己斐本町	橋本調次	34	'58	a	a	o	o	84	1	4	24	兵
6379. 68	広島市播磨屋町	熊野松男	34	'64	c	c	b	b	99	5	10	0	
6379. 74	佐伯郡五日市町五日市	木原貞雄	34	'62	c	c	b	b	01	1	8	0	
6388. 49	大竹市玖波町駅内	網本友二郎	35	'60	b	b	a	o	00	1	8	24	兵
6389. 22	佐伯郡宮島町宮島	尾田芳松	34	'62	c	c	b	b	02	5	8	31	兵
6389. 56	佐伯郡沖美町三吉字古戸	大桜重郎	34	'62	c	c	b	b	98	1	4	0	
6389. 59	安芸郡江田島町本浦向川	鉛本常太郎	34	'59	a	a	o	o	71	1	4	7	
6489. 98	佐伯郡大柿町大原	山野井譏市	34	'59	a	a	o	o	89	1	6	3	兵
6431. 85	比婆郡高野町中門田	大坂元造	34	'60	b	b	a	o	87	1	4	0	
6432. 74	比婆郡西城町大字油木	小笠原小巳	34	'60	b	b	a	o	03	1.2	6	0	
6440. 67	双三郡作木村大字大津	林勘一	32	'60	b	b	a	o	94	1	4	3	兵
6411. 19	比婆郡比和町比和	岡田忠夫	34	'63	c	c	b	b	01	7	8	0	
6441. 55	比婆郡口羽村向泉日南	深井長造	34	'57	a	a	o	o	93	1	4	0	
6441. 71	双三郡布野村上布野二井殿	広田房右衛門	34	'63	c	c	b	b	95	1	8	3	兵
6442. 35	比婆郡西城町中野	田盛陸七	34	'58	a	a	o	o	98	1	8	24	兵
6442. 80	庄原市紅屋町	竹中栄吉	34	'58	a	a	o	o	79	1	4	24	兵
6443. 00	比婆郡東城町内堀	名越又一	34	'63	c	c	b	b	91	1.2	8	24	
6443. 61	比婆郡東城町備中町	名越和四郎	33	'61	b	b	o	a	72	5	0	0	
6450. 45	高田郡美土里生田中北	栗田七太郎	34	'57	a	a	o	o	92	1.5	4	12	
6451. 14	三次市三次町寺戸	厚朴征次郎	34	'58	a	a	o	o	81	1	2	1	
6451. 79	双三郡吉舎町	原次郎	34	'60	b	b	a	o	03	5	14	36	
6451. 83	双三郡三和町下板木宮蔵	素利福美	34	'63	c	c	b	b	99	1	8	31	兵
6452. 17	神石郡神石町中郷	須田楨太郎	34	'57	a	a	o	o	92	1	4	18	兵
6452. 83	甲奴郡甲奴町本郷	柳生惣一	34	'61	b	b	o	a	92	1.4	8	0	
6452. 98	神石郡三和村高蓋	広瀬操	34	'63	c	c	b	b	96	1.5	7	0	
6453. 31	神石郡油木町油木	永井信次郎	33	'61	b	b	o	a	83	1	4	10	兵
6460. 08	高田郡吉田町1丁目	岡崎喜助	34	'58	a	a	o	o	01	1.4	4	24	
6460. 10	山県郡千代田町本地石原	増広俊二	96	'61	b	b	a	a	99	1	8	24	
6460. 76	高田郡白木町秋山	渡辺実夫	34	'61	b	b	o	a	04	1	8	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6461. 27	世羅郡世羅西町小国	宮田 陸 一	34	'60	b	b	a	o	98	1.5	6	0	
6461. 53	賀茂郡豊栄町清武郷谷	宗正 二 一	34	'57	a	a	o	o	97	1	4	36	兵
6462. 52	世羅郡甲山町西上原	山崎 米 一	34	'60	b	b	a	o	98	1	5	0	
6462. 59	府中市府中町	川瀬 一 太	34	'60	b	b	a	o	03	4	6	24	
6463. 02	神石郡三和町坂瀬川	門井 新 一	34	'63	c	c	b	b	84	1	3	0	
6463. 73	芦品郡駅家町万能倉	宮 忠 雄	34	'61	b	b	o	a	01	1	9	35	兵
6470. 11	安佐郡高陽町中深川中の堂	川合 仁 一	99	'62	c	c	b	b	84	1	4	0	
6470. 59	賀茂郡西条町字御藪宇	水野 克 己	34	'60	b	b	a	o	00	7	13	24	
6470. 71	安芸郡海田町海田市上市	島本 末 三	34	'58	a	a	o	o	02	1	8	6	
6471. 26	賀茂郡河内町大字下河内下門田	藤野 寿 恵	34	'60	b	b	a	o	85	7	6	0	
6471. 59	豊田郡本郷町本郷字西下岡	谷 寿 雄	34	'61	b	b	o	a	03	1	8	0	
6471. 99	竹原市忠海町宮床	府本 慶 三	34	'64	c	c	b	b	99	1	4	0	
6472. 05	御調郡御調町丸河南	藤井 操	96	'61	b	b	a	a	99	1	8	0	
6472. 53	三原市西町大黒町	村上 卯 太 郎	34	'64	c	c	b	b	81	1	4	3	
6472. 58	尾道市久保町杵子小路	沼尾 易 蔵	34	'61	b	b	o	a	95	7	6	0	
6472. 68	御調郡向島町田尻中組	上田 歳 秋	34	'61	b	b	o	a	98	5	6	24	兵
6473. 04	福山市笠岡町	青山 正 二 郎	34	'61	b	b	o	a	99	5	8	12	兵
6573. 65	福山市鞆町石井	常田 岩 吉	34	'57	a	a	o	o	05	3	4	18	
6480. 29	豊田郡安浦町内海平本	山本 忠 雄	34	'59	a	a	o	o	02	1	8	24	
6480. 41	呉市吉浦本町4丁目	尾崎 喜 代 松	34	'58	a	a	o	o	79	5	0	29	兵
6480. 91	安芸郡音戸町波多見宮田	西河内 悦 太 郎	34	'57	a	a	o	o	93	1	5	0	
6481. 15	竹原市吉名町港区柏下	吉村 熊 吉	34	'59	a	a	o	o	93	1.5	4	31	兵
6481. 56	豊田郡木之江町5丁目	奥村 喜 市	34	'59	a	a	o	o	96	4	9	6	
6481. 90	安芸郡蒲刈島町大字大浦	高畑 数 人	34	'64	c	c	b	b	99	7	8	24	
6481. 94	豊田郡豊町大長	川口 秀 男	34	'64	c	c	b	b	04	1	8	0	
6482. 04	三原市鷺浦町向田野浦	鎌田 虎 之 助	34	'64	c	c	b	b	96	1	6	24	兵
6482. 23	豊田郡瀬戸町福田	小西 繁 一	34	'59	a	a	o	o	99	1	6	35	
6482. 26	因島市田熊町東浜	岡野 久 蔵	34	'59	a	a	o	o	96	5	8	36	
6490. 30	安芸郡倉橋町倉橋	久保 万 助	34	'59	a	a	o	o	93	1	4	0	
山口県													
6354. 46	萩市見島本村	長谷川 鶴 蔵	35	'64	c	c	b	b	94	1	8	24	兵
6365. 91	萩市相島中	中野 萬 作	35	'62	c	c	b	b	00	1	6	0	
6366. 16	阿武郡田万川町大字江崎弐町	宅野 富 蔵	35	'62	c	c	b	b	98	3	6	0	
6366. 24	阿武郡須佐町大字須佐字水海	村田 治 郎 吉	35	'59	a	a	o	o	89	1	7	0	
6366. 67	阿武郡須佐町大字鈴野川字大原	三明 繁 弐	35	'62	c	c	b	b	94	1	8	0	
6373. 59	大津郡油谷町大字向津具下本郷	高倉 虎 弐	35	'59	a	a	o	o	97	1	8	0	
6373. 84	豊浦郡豊北町角島元山	古岡 四 郎	35	'64	c	c	b	b	94	1.3	6	36	兵
6374. 64	大津郡日置村大字日置上字古市	光川 輝 敏	35	'57	a	a	o	o	94	1	8	0	
6374. 68	長門市仙崎鍛冶屋町	藤井 権 一	35	'59	a	a	o	o	97	3	6	24	兵
6375. 08	阿武郡阿武町大字奈古浜	大谷 伊 平	35	'62	c	c	b	b	93	3	4	0	
6375. 40	長門市通11区	中谷 末 松	35	'62	c	c	b	b	00	3	6	0	
6375. 65	萩市青梅	羽鳥 時 松	35	'57	a	a	o	o	93	1	6	0	
6376. 33	阿武郡むつみ村大字吉部上字市下	吉村 勤 一	35	'60	b	b	a	o	95	7	8	24	兵
6376. 68	阿武郡阿東町徳佐地区下市	水津 四 十 二	35	'60	b	b	a	o	97	1	8	0	
6378. 70	玖珂郡錦町字佐郷紙屋	森上 政 一	35	'57	a	a	o	o	00	1.5	6	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
6383. 28	豊浦郡豊北町大字滝部字高根	木 下 佐 一	35	'59	a	a	o	o	94	1	8	0	
6383. 77	豊浦郡豊浦町大字字賀小字湯玉	西 田 平 四 郎	98	'63	c	c	b	b	81	1	6	0	
6384. 25	長門市佷山郷	藤 田 競	96	'61	b	b	a	a	86	1	8	0	
6384. 73	豊浦郡豊田町大字西市字下市	重 中 喜 七	35	'59	a	a	o	o	00	7	8	0	
6385. 10	美祢郡秋芳町嘉万八代中辺	田 原 太 作	35	'62	c	c	b	b	03	1	8	0	
6385. 28	阿武郡旭村大字佐々並	前 田 義 明	35	'64	c	c	b	b	99	1	8	3	兵
6385. 63	美祢郡美東町大田地区下新町	佐 々 木 信 吉	35	'59	a	a	o	o	93	1	6	0	
6385. 98	山口市大字上字野令滝区伊勢門前	吉 嘉 友 介	35	'57	a	a	o	o	87	1	8	0	
6386. 32	阿武郡阿東町大字篠部字篠目	藤 井 満 蔵	97	'62	b	b	a	a	86	1	4	36	兵
6386. 66	佐波郡徳地町大字八坂字三谷川	吉 鹿 愛 吉	35	'60	b	b	a	o	02	2	7	12	兵
6387. 48	玖珂郡錦町大字広瀬字下向	前 田 利 助	35	'61	b	b	o	a	89	5	3	24	兵
6387. 62	都濃郡鹿野町大字鹿野上字上市	角 保 太 郎	35	'60	b	b	a	o	91	1	8	24	兵
6388. 52	玖珂郡美和町大字下畑字神谷	久 保 十 介	35	'61	b	b	o	a	92	1	6	0	
6393. 26	豊浦郡豊浦町黒井地区原	大 江 伝 七	35	'59	a	a	o	o	91	1	8	0	
6393. 41	下関市大字蓋井島	周 防 浅 五 郎	35	'63	c	c	b	b	94	3	4	0	
6394. 09	美祢市伊佐町牛明	古 屋 長 一	35	'58	a	a	o	o	96	1	5	0	
6394. 43	下関市吉田町駒辻	藤 岡 又 六	35	'57	a	a	o	o	86	1	4	0	
6394. 78	厚狭郡楠町大字船木字下田町	河 野 太 介	35	'58	a	a	o	o	89	1	8	0	
6395. 21	厚狭郡楠町東吉部字市	窪 川 政 代	35	'58	a	a	o	o	98	1	6	24	兵
6395. 46	吉敷郡小郡町東津	宮 部 平 太 郎	35	'58	a	a	o	o	90	5	8	0	
6395. 61	宇部市二俣瀬区木田	吉 村 金 蔵	96	'65	c	c	b	b	04	5	8	0	
6395. 97	吉敷郡秋穂町東	吉 岡 源 治	35	'63	c	c	b	b	97	5	8	0	
6396. 08	佐波郡徳地町大字島地字市	石 丸 義 治	35	'60	b	b	a	o	92	5	8	24	
6396. 62	防府市大字三田尻村	脇 本 幻	35	'58	a	a	o	o	93	5	13	24	兵
6396. 83	防府市大字向島字郷ヶ崎	美 濃 長 一	35	'63	c	c	b	b	01	3	6	8	兵
6397. 24	都濃郡都濃町大字須領万本郷字下市	藤 井 馬 太 郎	35	'60	b	b	a	o	96	1	8	0	
6397. 62	徳山市大字徳山字西今宿	福 谷 甚 一	35	'61	b	b	o	a	98	7	12	0	
6398. 07	岩国市西岩園本町1丁目	国 広 光 蔵	35	'61	b	b	o	a	93	5	8	0	
6398. 42	玖珂郡周東町高森上市	安 永 大 吉	35	'60	b	b	a	o	99	7	8	0	
6398. 78	玖珂郡由宇町横町区	藤 本 武 治	35	'64	c	c	b	b	98	5	8	36	兵
7303. 17	下ノ関市武久	藤 井 貞 由	40	'61	b	b	a	a	98	1	8	0	
7303. 37	下ノ関市上田中町8丁目	加 見 弘 太 郎	40	'63	c	c	b	b	87	5	4	8	兵
7304. 26	小野田市刈屋	山 県 重 種	35	'63	c	c	b	b	96	4	15	24	
7304. 29	宇部市浜	浜 田 峯 兆	35	'58	a	a	o	o	00	4	8	0	
7305. 13	宇部市大字東岐波字磯地	伊 藤 熊 治	35	'58	a	a	o	o	01	1	10	0	
7307. 14	下松市大字笠戸島本浦	橋 本 修 治	35	'63	c	c	b	b	94	4	7	0	
7307. 18	光市大字島田字石田	石 川 久 次	35	'57	a	a	o	o	93	1	8	0	
7307. 48	光市大字室積浦上西之浜	小 村 宇 作	35	'63	c	c	b	b	95	3	6	12	
7308. 33	熊毛郡平生町大字平生村字沼	西 本 吉 太 郎	35	'61	b	b	o	a	02	1	8	0	
7308. 48	大島郡大島町大字小松字北方石丸	岩 本 安 一	35	'61	b	b	o	a	00	1	6	0	
7309. 37	大島郡東和町伊保田字吉賀	大 沼 小 兵 衛	96	'61	b	b	a	a	81	7	8	72	
7309. 61	大島郡橋町大字西安下庄字正分	中 村 伊 作	35	'61	b	b	o	a	94	1	7	0	
7317. 29	熊毛郡上関町大字祝島	出 田 政 次	35	'64	c	c	b	b	02	5	8	0	
7318. 04	熊毛郡上関町大字室津	鈴 木 源 一	35	'64	c	c	b	b	94	1	8	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
徳 島 県													
6488. 85	鳴門市鳴門町土佐泊字大谷	笠 井 時 雄	36	'57	a	a	o	o	03	1	8	0	
6495. 82	三好郡池田町谷町	橋 本 善 太 郎	36	'61	b	b	o	a	95	7	12	0	
6495. 88	三好郡三加茂町	立 花 龍 岳	36	'61	b	b	o	a	98	5	15	0	
6496. 56	美馬郡脇町下曾江	佐 藤 晴 一	36	'61	b	b	o	a	93	1	7	0	
6496. 72	美馬郡貞光町北町	泉 利 香	36	'61	b	b	o	a	01	5	8	0	
6497. 00	阿波郡市場町大影相栗	古 本 久 六	36	'64	c	c	b	b	89	1	4	22	兵
6497. 36	板野郡上板町高瀬	村 山 専 一	36	'60	b	b	a	o	93	1	6	0	
6497. 41	阿波郡市場町大字市場町筋	天 満 常 太 郎	36	'60	b	b	a	o	93	7	13	0	
6497. 77	徳島市入田町笠木	細 川 武 雄	96	'62	c	c	b	b	99	1	8	0	
6497. 90	麻植郡美郷村大字中枝字下浦	中 山 清 一	36	'64	c	c	b	b	94	1	4	0	
6498. 00	板野郡大麻町板東字北条	青 野 青 一	36	'62	c	c	b	b	86	1	8	0	
6498. 33	徳島市河内町富久	新 井 茂	36	'59	a	a	o	o	93	1	8	0	
6498. 61	徳島市伊月町2丁目	庄 野 猪 太 郎	36	'59	a	a	o	o	02	4	9	0	
6498. 93	小松島市二条通り	郡 有 信	36	'62	c	c	b	b	91	7	9	0	
7405. 21	三好郡池田町大利込	今 村 清 茂	36	'61	b	b	o	a	00	7	13	0	
7405. 35	三好郡西祖谷山村小祖谷	喜 多 六 右 衛 門	36	'64	c	c	b	b	86	1・2	4	0	
7405. 85	三好郡東祖谷山村大西	登 道 虎 二 門	36	'57	a	a	o	o	84	1	4	0	
7406. 25	美馬郡穴吹町古宮字葛生	小 山 勇 磨	36	'59	a	a	o	o	02	1	9	0	
7406. 53	美馬郡一字村大字川又実平	実 平 栄 助	98	'61	b	b	a	a	02	1・2	8	22	兵
7407. 24	名西郡神山町神領字中津	原 金 一 郎	36	'59	a	a	o	o	89	5	8	0	
7407. 36	勝浦郡上勝町大字正木字槻地	浦 田 盾 太 郎	36	'59	a	a	o	o	01	1	8	0	
7408. 25	那賀郡羽浦町大字中ノ庄	田 中 縫 蔵	36	'60	b	b	a	o	02	1	9	3	
7408. 50	阿南市大井町	岡 田 政 太 郎	36	'63	c	c	b	b	94	1	4	0	
7408. 75	阿南市橘町西浜	東 条 伊 之 助	36	'60	b	b	a	o	99	5	8	0	
7416. 34	那賀郡木頭村大字北川字大地平	谷 庫 吉	98	'61	b	b	a	a	89	2	4	3	兵
7417. 22	那賀郡上那賀町平谷字稚野尾	家 段 菊 入	36	'63	c	c	b	b	89	1	4	0	
7417. 27	那賀郡相生町朴野	東 野 勘 治	36	'58	a	a	o	o	96	1・2	6	0	
7417. 72	海部郡海南町皆ノ瀬	谷 井 浅 蔵	36	'63	c	c	b	b	93	7	4	0	
7417. 79	海部郡日和佐町山河内字本村	坂 本 清 美	36	'58	a	a	o	o	02	1・2	8	0	
7418. 07	阿南市椿町横尾	丸 畑 光 太 郎	36	'62	c	c	b	b	02	1	7	0	
7418. 33	海部郡由岐町西ノ地	小 谷 宗 太 郎	36	'58	a	a	o	o	92	1	8	0	
7427. 24	海部郡海南町浅川字粟の浦	福 本 周 吉	36	'60	b	b	a	o	84	1	6	0	
香 川 県													
6467. 73	小豆郡内海町福田	山 口 孫 平	96	'62	c	c	b	b	89	7	4	36	兵
6475. 61	丸亀市本島町泊	横 田 観 太 郎	97	'61	b	b	a	a	91	5	7	36	
6476. 13	小豆郡土庄町豊島唐櫃	梶 岩 太	37	'63	c	c	b	b	96	1	4	0	
6476. 17	小豆郡土庄町	川 口 四 郎	37	'60	b	b	a	o	99	5	6	15	兵
6476. 92	高松市丸亀町	三 好 吉 太 郎	37	'62	c	c	b	b	96	5	8	24	兵
6476. 93	高松市屋島西町	中 村 嘉 次 郎	37	'57	a	a	o	o	96	1	5	3	兵
6477. 02	小豆郡内海町草壁	長 岡 清 次 郎	37	'61	b	b	a	a	00	1	6	3	兵
6484. 43	三豊郡詫間町大字箱	竹 上 嘉 太 郎	37	'64	c	c	b	b	99	1	6	36	兵
6484. 78	三豊郡三野村大見字岡崎	佐 藤 林 吾	37	'57	a	a	o	o	01	1	8	0	
6485. 14	坂出市松ヶ枝町	筒 井 幸 吉	37	'59	a	a	o	o	00	4・5	6	6	
6485. 30	仲多度郡多度津町大通町	前 田 忠 太 郎	37	'62	c	c	b	b	92	7	3	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E	
					第1	第2	第3	第4						
6485. 46	綾歌郡綾南町大字滝宮	西山 霞	37	'61	b	b	a	a	01	1	8	2	兵	
6485. 82	仲多度郡琴平町通町	竹川 元敬	37	'59	a	a	o	o	02	5	9	27		
6486. 07	大川郡志度町大字志度	玉越 定喜興	37	'58	a	a	o	o	02	5	8	30	兵	
6486. 50	香川郡香南町大字由佐	和泉 伊太郎	37	'58	a	a	o	o	94	1	6	6	兵	
6486. 93	香川郡塩江町塩江	福井 秀一	37	'63	c	c	b	b	95	1	2	4	0	
6487. 43	大川郡大内町三本松北町	丸橋 市平	37	'59	a	a	o	o	98	5	5	20	兵	
6487. 66	大川郡引田町南後町	鏡原 重一	37	'60	b	b	a	o	98	1	4	0		
6494. 08	三豊郡豊中町笠田字笠岡	大西 朋八	37	'61	b	b	a	a	90	1	8	6	兵	
6494. 21	観音寺市伊吹町	三好 春吉	37	'64	c	c	b	b	01	3	8	0		
6494. 55	三豊郡豊浜町大字和田浜	武下 磯市	37	'60	b	b	a	o	99	5	8	0		
6495. 18	仲多度郡琴南村中通本村 愛媛県	西村 好太郎	97	'61	b	b	a	a	85	1	6	0		
6482. 52	越智郡上浦村大字甘崎字口狭	浅海 保	38	'57	a	a	o	o	89	1	8	0		
6482. 75	越智郡伯方町大字木浦字瀬戸浜	山岡 新一	38	'62	c	c	b	b	02	5	8	32		
6491. 49	今治市大浜字松本	四田 俊雄	38	'59	a	a	o	o	97	1	8	0		
6491. 65	越智郡菊岡町大字佐方	村上 定次郎	38	'59	a	a	o	o	91	1	9	0		
6492. 11	越智郡吉海町幸新田	八塚 勝太郎	38	'58	a	a	o	o	99	1	8	24	兵	
6492. 50	今治市米屋町4丁目	阿部 徹夫	38	'65	c	c	b	b	08	4	6	7	兵	
7329. 39	喜多郡長浜町仁久	浜上 玄房	38	'65	c	c	b	b	02	5	6	36		
7329. 57	喜多郡長浜町櫛生	宝生 盛	38	'61	b	b	o	a	94	5	7	13		
7338. 48	西宇和郡瀬戸町大字川之浜	阿部 景則	38	'62	c	c	b	b	98	1	7	12		
7338. 55	西宇和郡三崎町二名津	浜西 庄松	38	'57	a	a	o	o	03	1	6	0		
7339. 27	入幡浜市旭町	菊池 忠	38	'59	a	a	o	o	92	7	12	12		
7349. 07	東宇和郡明浜町大字高山	二宮 善平	38	'59	a	a	o	o	78	1	3	0		
7349. 86	北宇和郡宇和海村大字蔭淵字豊浦	三好 善造	38	'63	c	c	b	b	97	1	3	6	0	
7349. 91	北宇和郡宇和海村大字日振島字明海	池田 栄治	38	'63	c	c	b	b	99	1	3	6	24	兵
7359. 78	南宇和郡内海村家串	兵頭 運喜	38	'63	c	c	b	b	01	1	6	24	兵	
7400. 11	温泉郡中島町元怒和	窪岡 岩太郎	38	'62	c	c	b	b	03	1	8	0		
7400. 15	温泉郡中島町大浦	山田 賢一	38	'57	a	a	o	o	00	1	8	38	兵	
7401. 11	北条市大字辻字朝日町	西山 長五郎	38	'59	a	a	o	o	93	4	7	24		
7401. 18	越智郡玉川村大字鈍川字中通	角田 勝太郎	97	'61	b	b	a	a	93	1	6	48	兵	
7401. 60	松山市福角町中筋	桐木 武雄	38	'65	c	c	b	b	03	1	8	24	兵	
7401. 92	松山市東野町	浅川 四郎	38	'61	b	b	o	a	87	1	5	24	兵	
7402. 42	周桑郡壬生川町新町	大野 金作	38	'58	a	a	o	o	01	1	8	0		
7402. 47	西条市東町1丁目	高橋 重左衛門	38	'58	a	a	o	o	98	5	6	0		
7403. 16	宇摩郡土居町大字上天満字寺の下	寺尾 留吉	38	'58	a	a	o	o	90	1	8	0		
7403. 21	新居浜市新居浜本町	白石 三代太	38	'60	b	b	a	o	91	5	7	0		
7403. 86	宇摩郡別子山村保土野	近藤 嘉平太	38	'62	c	c	b	b	95	1	6	0		
7404. 12	伊予三島市三島町字上町	森田 晴隆	38	'58	a	a	o	o	97	4	8	0		
7404. 56	宇摩郡新宮村大字新瀬川字土居	石川 葎三郎	38	'57	a	a	o	o	82	1	8	12	兵	
7410. 57	伊予市大字市場字下往還	西村 饒	38	'60	b	b	a	o	89	1	4	3	兵	
7411. 27	温泉郡川内町大字則之内字一ヶ谷	近藤 仙	38	'61	b	b	o	a	96	7	8	24		
7411. 61	伊予郡砥部町大字大南字大谷	篠原 梅吉	38	'60	b	b	a	o	81	1	5	2	0	
7412. 26	西条市西之川山字名古瀬谷	伊藤 正吉	97	'61	b	b	a	a	91	2	4	0		
7412. 31	周桑郡丹原町大字明河保井野字日浦	渡部 重太郎	38	'62	c	c	b	b	93	2	0	3	兵	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
7412. 71	上浮穴郡面河村大字柚野字西之谷	正 鑄 平 吉	38	'60	b	b	a	o	87	1.2	4	24	兵
7420. 18	伊予郡中山町泉町3丁目	西 田 義 矩	38	'60	b	b	a	o	98	5	6	24	兵
7420. 91	大洲市大洲本町2丁目	栗 田 永 治 郎	38	'61	b	b	o	a	73	5	4	24	兵
7421. 38	上浮穴郡美川村上黒岩字堤	西 浦 進 一	38	'60	b	b	a	o	89	1	7	3	兵
7421. 62	上浮穴郡小田町字町村	枅 見 太	38	'61	b	b	o	a	92	5	8	0	
7430. 15	大洲市森山字富谷	富 尾 佐 太 郎	38	'61	b	b	o	a	95	7	4	3	兵
7430. 75	東宇和郡野村町野村本町3丁目	本 泉 竹 松	38	'61	b	b	o	a	03	1.4	6	0	
7430. 80	東宇和郡宇和町鬼窟	河 野 熊 雄	38	'65	c	c	b	b	00	5	8	0	
7431. 08	上浮穴郡柳谷村西谷字古味	森 岡 仁 助	38	'63	c	c	b	b	89	1	4	0	
7431. 13	東宇和郡野村町小屋字大久保	永 山 吉 光	38	'63	c	c	b	b	02	1	6	0	
7431. 82	東宇和郡黒瀬川村大字高野子字太郎原	小田原 伊太郎	38	'57	a	a	o	o	95	1	4	0	
7440. 69	北宇和郡松野町大字吉野字豊森	薬師寺 政太郎	38	'59	a	a	o	o	94	1	12	0	
7440. 72	宇和島市大工町	鍵 山 晋 一	38	'59	a	a	o	o	98	5	6	22	
7450. 20	北宇和郡津島町岩松	浅 野 政 美	38	'59	a	a	o	o	03	7	7	24	
7450. 44	北宇和郡津島町御内	日 南 栄 作	97	'61	b	b	a	a	00	1	6	0	
7460. 23	南宇和郡城辺町長野	畑 田 東 平	39	'57	a	a	o	o	93	1	4	24	
7460. 30	南宇和郡西海町船越	伊 田 正 芳	39	'63	c	c	b	b	01	3	6	24	
高 知 県													
7413. 29	土佐郡大川村船戸桃が谷	西 村 義 治	39	'64	c	c	b	b	02	1	7	0	
7413. 62	土佐郡本川村長沢	和 田 栄	39	'59	a	a	o	o	01	7	8	3	
7413. 89	土佐郡土佐村東石原	坂 本 重 盛 次	39	'62	c	c	b	b	00	1	8	18	兵
7414. 06	長岡郡大豊村立川下名成川	前 野 春 次	39	'62	c	c	b	b	95	7	6	32	
7414. 43	長岡郡那山町那山町	前 田 武 己	39	'59	a	a	o	o	95	1	7	1	
7414. 87	長岡郡大豊村角茂谷	佐 藤 寿 栄	39	'61	b	b	o	a	03	1	8	4	
7415. 01	長岡郡大豊村岩原111番屋敷	小笠原 金五郎	39	'59	a	a	o	o	81	1	4	3	兵
7415. 47	香美郡物部村久保堂の岡	佐々木 要	39	'62	c	c	b	b	94	2	6	0	
7415. 85	香美郡物部村大栃	山 中 芳 治	39	'60	b	b	a	o	92	1	5	3	兵
7422. 26	吾川郡池川町東竹の谷	山 中 松 義	39	'57	a	a	o	o	92	1	4	0	
7423. 12	吾川郡吾北村小川榎山	清 水 巳 三 郎	39	'60	b	b	a	o	01	1	8	0	
7423. 77	吾川郡伊野町大和町	町 田 彦 三 郎	39	'58	a	a	o	o	88	5	6	38	兵
7423. 80	高岡郡越知町	坂 本 篤 彦	39	'59	a	a	o	o	99	5	8	3	兵
7424. 60	高知市福井町	楠 瀬 照 美	39	'59	a	a	o	o	88	7	6	1	
7424. 61	高知市江の口	小 川 清 彦	39	'63	c	c	b	b	91	5	9	0	
7424. 67	香美郡野市町西野	近 森 善 亀 知	39	'58	a	a	o	o	86	5	11	0	
7425. 02	香美郡在所村朴の木	岡 本 正 明	39	'57	a	a	o	o	03	1	9	12	
7425. 27	安芸市畑山大野	小 松 春 吉	39	'64	c	c	b	b	85	1	0	0	
7425. 82	安芸郡芸西村和食	松 本 勝 一 郎	39	'59	a	a	o	o	96	1	8	2	
7426. 61	安芸郡馬路村日浦	岩 城 立 吉	39	'60	b	b	a	o	96	7	7	8	
7426. 74	安芸郡北川村島	上 村 福 太 郎	39	'62	c	c	b	b	99	5	6	6	
7427. 71	安芸郡甲浦町	森 島 寅 吉	36	'57	a	a	o	o	81	5	4	0	
7427. 90	安芸郡東洋町大字野根	岡 初 男	98	'61	b	b	a	a	97	5	10	0	
7431. 67	高岡郡檮原村檮原	中 越 鉄 馬	39	'61	b	b	o	a	03	1	8	0	
7432. 44	高岡郡東津野村舟戸桂	西 森 百 馬	39	'58	a	a	o	o	95	1	5	0	
7432. 95	高岡郡大野見村大字奈路	石 村 友 太 郎	98	'61	b	b	a	a	80	1	3	0	
7433. 37	土佐市宇佐西の丁	吉 市 信 之 助	39	'59	a	a	o	o	90	3.5	0	3	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
7433. 52	須崎市多の郷神田	井 上 繁 馬	39	'57	a	a	o	o	92	6	5	12	
7434. 02	高知市浦戸	堀 内 健 一	39	'62	c	c	b	b	95	5	11	0	
7435. 07	安芸市伊尾木	有 沢 百 千 万	39	'59	a	a	o	o	89	5	4	1	
7436. 40	安芸郡田野町東町	川 田 耕 太 郎	39	'57	a	a	o	o	80	7	12	4	
7436. 68	安芸郡佐喜浜町舟場中里	小 笠 原 繁	39	'58	a	a	o	o	97	1.3	7	36	
7436. 73	室戸市羽根中野大岸	町 田 步	39	'64	c	c	b	b	02	1	8	0	
7441. 19	高岡郡檮原村松原字大串	久 岡 良 晴	39	'64	c	c	b	b	02	1.2	6	24	
7441. 63	幡多郡十和村川口	宗 海 諱 治	39	'59	a	a	o	o	94	1	7	2	
7441. 89	幡多郡大正町田野々	武 内 増 吉	39	'59	a	a	o	o	96	1	8	0	
7442. 39	高岡郡中土佐町上の加江	岸 本 亮 太 郎	39	'60	b	b	a	o	92	3	6	0	
7442. 75	高岡郡窪川町窪川	河 野 虎 太 郎	39	'59	a	a	o	o	86	5	8	24	
7446. 26	安芸郡室戸町領家	川 田 勝 次	39	'58	a	a	o	o	71	1.5	4	0	
7451. 22	幡多郡西土佐村藤の川中屋敷6番屋敷	高 田 作 真	39	'61	b	b	o	a	93	1.2	4	24	兵
7551. 77	中村市藤岡藤	渡 辺 照 美	39	'61	b	b	o	a	96	1	8	1	
7452. 08	高岡郡窪川町興津浦分	山 崎 吉 太 郎	39	'64	c	c	b	b	92	3	4	18	
7452. 20	中村市常六	谷 孫 太 郎	39	'63	c	c	b	b	92	1	3	0	
7452. 54	幡多郡佐賀町佐賀	川 西 英 雄	39	'60	b	b	a	o	02	7	8	0	
7460. 39	宿毛市宿毛	高 橋 忠 三 郎	39	'57	a	a	o	o	01	5	8	24	
7461. 23	中村市有岡	金 沢 芳 太 郎	39	'61	b	b	o	a	91	1	8	0	
7461. 39	中村市下田町	和 田 勝 太 野	39	'61	b	b	o	a	94	5	9	12	
7461. 77	土佐清水市下の加江町小方	仙 石 兵 太 郎	98	'61	b	b	a	a	88	1	7	0	
7470. 29	幡多郡大月町姫の井	奥 田 鶴 雄	39	'61	b	b	o	a	94	1	6	24	兵
7470. 72	宿毛市沖の島弘瀬	金 子 松 吉	39	'63	c	c	b	b	88	3	3	17	
7471. 33	土佐清水市下川口郷	岩 井 菊 之 助	39	'62	c	c	b	b	93	1	4	35	
7471. 38	土佐清水市越27番屋敷	門 田 次 太 郎	39	'58	a	a	o	o	88	3	5	11	
福 岡 県													
7301. 67	宗像郡大島村字西区	遠 藤 卯 太 郎	40	'63	c	c	b	b	95	5	8	24	兵
7302. 66	遠賀郡芦屋町第一船頭町	長 野 賢 二 郎	40	'63	c	c	b	b	97	0	8	0	
7302. 71	宗像郡玄海町大字鐘崎	権 田 太 平	40	'63	c	c	b	b	94	3	4	0	
7302. 87	遠賀郡水巻町大字頃末字固定	久 保 田 龍 次	40	'58	a	a	o	o	86	1	8	0	
7303. 29	門司市大字田ノ浦	西 田 金 蔵	40	'57	a	a	o	o	98	5	8	0	
7303. 38	門司市入幡町3丁目	柴 崎 正 治	40	'63	c	c	b	b	92	5	8	0	
7303. 61	若松市藤ノ木赤島町	平 野 厳 蔵	40	'59	a	a	o	o	99	1.3	4	24	兵
7303. 75	北九州市小倉区銀天街	魚 住 治 左 工 門	40	'64	c	c	b	b	85	1	4	0	
7311. 68	粕屋郡吉賀町古賀栄町2丁目	長 崎 朝 衛 門	40	'59	a	a	o	o	81	1	7	24	兵
7312. 11	宗像郡宗像町字田熊	力 丸 精 一	40	'57	a	a	o	o	93	1	8	3	
7312. 69	直方市大字下境字辻屋	和 田 峰 善 三 郎	40	'60	a	a	a	o	91	1	4	24	
7312. 83	鞍手郡若室町大字脇田	大 村 徹	40	'64	c	c	b	b	94	1	8	0	
7313. 34	小倉市大字木ノ下	溝 口 連	40	'61	b	b	a	a	98	1	8	0	
7313. 68	行橋市字中津熊	堤 勇 太 郎	40	'61	b	b	a	a	90	1	8	24	兵
7320. 59	糸島郡前原町大字板持字養老	田 浦 重 助	40	'58	a	a	o	o	89	1	4	24	兵
7320. 95	糸島郡二丈村字深江	堀 田 長 次 郎	40	'62	c	c	b	b	92	1	8	3	兵
7321. 46	福岡市(博多)片土居町	中 西 金 次 郎	99	'58	a	a	o	o	96	5	6	0	
7321. 87	筑紫郡那珂川町片繩字下片繩	坂 井 清	97	'65	c	c	b	b	01	1	8	0	
7321. 93	早良郡早良町字東入部	安 田 弥 七 郎	40	'57	a	a	o	o	88	5	8	24	兵



調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
7322. 17	飯塚市大字立岩字笠松	花 元 千 代 松	40	'60	a	a	a	o	95	1	4	0	
7322. 21	粕屋郡篠栗町中町	藤 太 熊	97	'60	b	b	a	o	00	1.2	6	0	
7322. 79	嘉穂郡嘉穂町大字大隈字上町	中 島 裕 一	40	'64	c	c	b	b	87	5	8	0	
7322. 81	筑紫郡太宰府町大字太宰府字大町	古 賀 孝 藏	40	'58	a	a	o	o	90	5	10	24	兵
7323. 02	田川市大字下伊田	中 川 欽 二	40	'60	a	a	a	o	90	1	8	0	
7323. 17	京都郡犀川町上本庄	中 村 寿 一	40	'60	a	a	a	o	98	7	8	0	
7323. 84	田川郡添田町大字耕田	中 村 俊 次	40	'64	c	c	b	b	88	1.2	4	0	
7324. 24	豊前市松江	大 森 政 雄	40	'61	b	b	a	a	98	1.3	8	0	
7331. 27	筑紫郡那珂川町不入道字中木戸	添 田 操	40	'59	a	a	o	o	99	1	8	0	
7332. 27	甘木市秋月魚町	田 尻 八 郎	40	'62	c	c	b	b	98	7	8	0	
7332. 46	甘木市大字甘木恵比須町	高 良 金 三 郎	40	'59	a	a	o	o	98	5	6	0	
7332. 52	三井郡小郡町字大保	佐々木良藏	40	'62	c	c	b	b	93	1	8	0	
7332. 97	浮羽郡田主丸町上新町	林 田 德 次 郎	40	'57	a	a	o	o	89	5	8	0	
7333. 51	甘木市高木町大字黒川字馬場	鳥 巢 熊 吉	40	'59	a	a	o	o	97	1	4	24	兵
7341. 47	三潞郡城島町字城島	権 藤 広 吉	41	'59	a	a	o	o	91	4	8	0	
7342. 10	久留米市諏訪野町5丁目	小 川 栄 次 郎	40	'62	c	c	b	b	89	4	8	0	
7342. 12	久留米市御井町字仲ノ町の東	大 石 万 藏	40	'58	a	a	o	o	93	5	8	0	
7342. 72	八女市本町	大 坪 武 平	96	'63	c	c	b	b	98	5	6	36	
7342. 76	八女郡黒木町字黒木	鬼 塚 鹿 藏	40	'58	a	a	o	o	77	5	7	0	
7343. 14	浮羽郡浮羽町大字小壘字小松堀	永 井 実 藏	44	'61	b	b	a	a	97	1	8	0	
7351. 06	柳川市曙町	道 庭 雪 雄	40	'62	c	c	b	b	90	7	12	0	
7351. 09	山門郡瀬高町下ノ庄恵比須町	高 須 姜 太 郎	40	'57	a	a	o	o	96	5	8	24	兵
7351. 68	大牟田市大字草木上	江 口 栄	40	'60	a	a	a	o	99	5	8	24	兵
7352. 14	八女郡立花町上辺春字立石	野 中 喜 市	43	'64	c	c	b	b	02	1	8	36	兵
7353. 03	八女郡矢部村大字北矢部字飛 佐 賀 県	栗 原 信 吾	97	'60	b	b	a	o	00	7	8	0	
7229. 50	東松浦郡鎮西町大字馬渡島新村野中部 落	牧 山 高 治	41	'62	c	c	b	b	03	1	6	0	
7229. 75	東松浦郡呼子町字小谷町	柴 田 定	41	'61	b	b	a	a	95	5	8	12	
7239. 24	東松浦郡玄海町牟形	寺 田 吉 治	99	'60	b	b	a	o	05	1	8	72	兵
7239. 29	唐津市城内西	戸 川 顕	41	'60	b	b	a	o	80	5	14	36	兵
7239. 85	伊万里市波多津町大字畑津	金 子 鉄 之 助	41	'58	a	a	o	o	01	1	7	24	
7249. 35	伊万里市伊万里町上仲町	多 久 島 恵 吉	41	'58	a	a	o	o	96	5	8	0	
7249. 95	西松浦郡有田町外尾町	岩 永 德 納	41	'57	a	a	o	o	98	4	8	5	兵
7330. 31	東松浦郡浜崎玉島町浜崎東区	森 正 夫	41	'60	b	b	a	o	02	5	8	0	
7330. 77	佐賀郡富士村字貝野	貝 野 勘 一	41	'64	c	c	b	b	90	1	4	15	
7330. 91	東松浦郡相知町大字田頭	黒 木 東	97	'63	c	c	b	b	00	5	8	0	
7331. 41	神埼郡三瀬村字岸高	武 本 吉 藏	41	'57	a	a	o	o	98	1	4	0	
7340. 24	多久市北多久町多久原	田 洧 良 一	41	'60	b	b	a	o	82	1	7	39	兵
7340. 27	小城郡小城町北小路	安 川 卯 一	41	'63	c	c	b	b	99	5	6	0	
7340. 50	武雄市若木町大字川古山中	山 口 卓 二	41	'63	c	c	b	b	03	1	8	4	兵
7340. 74	杵島郡大町町大字福母字中島	千 綿 又 一 郎	41	'61	b	b	a	a	72	1	7	0	
7341. 42	佐賀市兵庫町下村	西 村 德 久 治	41	'59	a	a	o	o	96	5	10	30	
7341. 51	佐賀市伊勢屋町	愛 野 哲 夫	41	'62	c	c	b	b	99	5	9	0	
7350. 21	藤津郡塩田町字本谷	峰 松 信 一	41	'59	a	a	o	o	90	1.5	8	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
7350. 44	鹿島市浜町南舟津	小柳 勝一		'64	c	c	b	b	96	3	6	3	兵
7350. 96	藤津郡太良町大字糸岐小字河内 長崎県	川崎 熊一		'60	b	b	a	o	76	1	4	0	
6267. 16	上県郡上原町佐須奈	山本 栄吉		'57	a	a	o	o	72	0	8	12	兵
6267. 68	上県郡上対馬町琴	米田 関蔵		'65	c	c	b	b	97	1	6	12	兵
6267. 84	上県郡上原町檜滝	川本 熊男		'65	c	c	b	b	88	1	11	36	
6277. 62	下県郡豊玉村大字仁位	河内 清		'61	b	b	a	a	92	1	4	12	兵
6286. 68	下県郡殿原町大字小茂田	斎藤 藤猛		'63	c	c	b	b	96	1.3	8	12	兵
6287. 42	下県郡美津島町大字鶏知	吉野 土岐太		'61	b	b	a	a	84	7	6	0	
6287. 71	下県郡殿原町天道茂	平川 武美		'61	b	b	a	a	91	7	12	18	
6296. 27	下県郡殿原町大字豆殿	小森 八兵衛		'61	b	b	a	a	00	1.3	6	0	
7208. 97	老岐郡勝本町勝本浦	土肥 貞木		'62	c	c	b	b	00	5	8	0	
7218. 09	老岐郡芦辺町箱崎釘之尾触	日高 末太郎		'60	b	b	a	o	86	7	5	0	
7218. 26	老岐郡郷ノ浦町里触	山口 麻太郎		'60	b	b	a	o	91	0	6	84	
7218. 58	老岐郡郷ノ浦町永田触	池元 熊吉		'60	b	b	a	o	99	1	8	24	兵
7237. 67	北松浦郡生月町一部浦	志水 常次郎		'62	c	c	b	b	87	3	4	0	
7238. 12	北松浦郡大島村神の浦	平松 栄		'62	c	c	b	b	97	5	8	0	
7238. 40	平戸市度島町度島浦	西屋 九一郎		'62	c	c	b	b	97	1.3	6	19	兵
7238. 82	平戸市築地町	松本 久三郎		'62	c	c	b	b	91	7	13	2	兵
7238. 86	松浦市御厨町駅通り	中山 義一		'60	a	a	o	o	98	1	8	0	
7238. 90	平戸市中野町山中免	松永 銀之丞		'57	a	a	o	o	94	1	6	0	
7239. 41	北松浦郡鷹島村神崎	近藤 甚蔵		'61	b	b	a	a	78	1	2	36	兵
7239. 82	北松浦郡福島町塩浜	木寺 福次郎		'61	b	b	a	a	87	1	4	0	
7239. 90	松浦市今福町楠原	坂口 勇太郎		'62	c	c	b	b	89	1	4	24	兵
7246. 45	北松浦郡宇久町平字佐賀里	岩本 五郎		'61	b	b	a	a	85	3	7	36	兵
7246. 82	北松浦郡小値賀町笛吹	野元 五郎作		'60	b	b	a	o	89	1	4	6	兵
7247. 86	平戸市志々伎町	長田 徳三郎		'61	b	b	a	a	01	5	8	30	
7248. 15	北松浦郡江迎町大字長坂字梶野村	山浦 英太郎		'61	b	b	a	a	88	1	8	0	
7248. 49	北松浦郡世知原町木浦原免	陣野 重一		'61	b	b	a	a	94	1	8	24	兵
7248. 64	北松浦郡小佐々町田原	本山 荒太郎		'63	c	c	b	b	02	1	6	0	
7248. 99	佐世保市山手町	藤井 栄治		'58	a	a	o	o	93	7	6	30	
7256. 64	南松浦郡新魚目町立串	小倉 清		'60	a	a	o	o	95	7	10	54	
7257. 94	西彼杵郡崎戸町江島郷	富岡 伝助		'64	c	c	b	b	98	1.3	6	0	
7258. 58	西彼杵郡瀬川村横瀬本郷	土井 増吉		'57	a	a	o	o	92	1	4	48	兵
7258. 64	西彼杵郡大島町幸町	大石 太郎		'60	a	a	o	o	98	7	4	12	
7258. 82	西彼杵郡崎戸町蛸の浦郷	井上 近次郎		'64	c	c	b	b	83	1	2	15	兵
7258. 89	西彼杵郡西彼村八木原郷白浜	楠本 圭一		'64	c	c	b	b	92	1	6	36	兵
7259. 22	佐世保市早苗町	松崎 顕吾		'63	c	c	b	b	97	7	11	0	
7259. 54	東彼杵郡川棚町中組郷	松崎 精二		'59	a	a	o	o	94	5	8	36	
7259. 98	東彼杵郡東彼杵町平似田郷	森林 峯太郎		'63	c	c	b	b	95	1	7	0	
7266. 09	西彼杵郡崎戸町平島	桂 福市		'64	c	c	b	b	03	1.3	6	0	
7266. 34	南松浦郡有川町鯛之浦	浦田 小吉		'58	a	a	o	o	95	1.3	6	0	
7266. 60	南松浦郡若松町若松郷	山本 一鬼		'64	c	c	b	b	98	3	6	0	
7266. 92	南松浦郡奈良尾町奈良尾	梶本 丈太郎		'61	b	b	a	a	91	3	7	48	兵
7268. 45	西彼杵郡大瀬戸町瀬戸檜浦	森崎 辰次郎		'58	a	a	o	o	03	1	8	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
7268. 87	西彼杵郡外海町字神の浦小字下大野	浜 口 寅 助	41	'64	c	c	b	b	03	1	8	40	兵
7269. 48	大村市池田郷	井 川 徳 三 郎	42	'57	a	a	o	o	78	1	4	0	
7269. 51	西彼杵郡琴海村長浦	小 佐 々 文 一	97	'61	b	b	a	a	92	1	8	27	兵
7269. 96	西彼杵郡長与村本川内郷大越	尾 崎 殖 蔵	41	'63	c	c	b	b	97	1	6	3	兵
7274. 57	南松浦郡三井楽町本町浜ノ畔郷	貞 方 沢 太	42	'57	a	a	o	o	83	5	12	36	兵
7275. 07	南松浦郡奈留島村夏井	松 本 利 則	42	'60	a	a	o	o	99	3	11	60	
7275. 24	南松浦郡久賀島村久賀	藤 田 伝 右 衛	42	'60	a	a	o	o	88	1	4	0	
7275. 84	福江市上大津	佐 々 野 音 吉	42	'57	a	a	o	o	90	1	8	60	兵
7279. 01	西彼杵郡外海村多以良	益 田 直 太 郎	42	'59	a	a	o	o	78	1	4	36	兵
7279. 65	長崎市大浦元町	森 塚 末 造	42	'59	a	a	o	o	98	7	8	0	
7279. 93	長崎市竿の浦町	森 山 寅 松	41	'63	c	c	b	b	98	1	6	24	兵
7284. 16	南松浦郡玉の浦町中須郷	中 里 伊 勢 松	97	'61	b	b	a	a	03	7	10	150	
7289. 31	西彼杵郡野母崎町高浜	三 浦 政 喜	97	'61	b	b	a	a	98	1	8	0	
7360. 47	北高来郡小長井村川原浦	倉 本 政 雄	42	'59	a	a	o	o	97	1	4	12	
7360. 92	諫早市城見町1丁目	西 山 庄 三	42	'58	a	a	o	o	84	0	8	0	
7361. 82	南高来郡国見町多比良馬場	太 田 清 三 郎	99	'60	b	b	a	o	92	1	8	24	兵
7370. 16	南高来郡愛野町中島	松 尾 秀 一	41	'63	c	c	b	b	94	1	6	24	兵
7370. 41	北高来郡飯盛村江浦下釜	松 原 鼎 治	42	'59	a	a	o	o	02	1	11	84	兵
7370. 58	南高来郡小浜町北野	中 村 福 松	42	'58	a	a	o	o	92	1	4	12	
7371. 54	島原市安中	福 島 吉 次 郎	42	'58	a	a	o	o	85	1	2	30	
7371. 93	南高来郡有家町原尾名	松 尾 純 専	41	'63	c	c	b	b	91	1	4	0	
7380. 26	南高来郡加津佐町大和町	酒 井 甚 蔵	42	'58	a	a	o	o	91	3	8	0	
熊 本 県													
7352. 38	鹿本郡鹿北村大字四丁字中間	飛 松 義 行	97	'60	b	b	a	o	91	1	6	0	
7352. 61	玉名郡南関町関町堀池園	笹 淵 茂 人	43	'57	a	a	o	o	03	1	8	0	
7352. 97	山鹿市日吉町	堀 元 次	43	'59	a	a	o	o	94	5	8	0	
7353. 51	鹿本郡菊鹿村大字矢谷字下矢谷	淵 上 吉 蔵	43	'61	b	b	o	a	97	1	4	24	兵
7354. 23	阿蘇郡小国町大字上田字蔵園	北 里 義 永	43	'61	b	b	o	a	91	1	4	0	
7361. 17	荒尾市大字荒尾	前 田 松 蔵	43	'60	b	b	a	o	86	1	4	24	
7362. 42	玉名市高瀬	高 田 久 士	43	'60	b	b	a	o	03	7	8	0	
7362. 67	鹿本郡植木町植木3丁目	友 枝 弘	43	'59	a	a	o	o	93	5	8	0	
7363. 12	菊池郡菊池町隈府横町	今 坂 啓 蔵	43	'57	a	a	o	o	85	4	4	0	
7363. 59	阿蘇郡阿蘇町大字赤水	中 田 富 蔵	43	'62	c	c	b	b	90	1	5	0	
7363. 85	菊池郡大津町陣内	上 岡 静 雄	43	'59	a	a	o	o	92	1	8	36	
7364. 34	阿蘇郡一の宮町大字宮地字田島	田 島 軍 記	43	'60	b	b	a	o	01	1	9	24	兵
7372. 03	飽託郡河内芳野村大字船津	上 村 熊 蔵	43	'62	c	c	b	b	95	1	8	24	兵
7372. 27	熊本市古町細工町	清 永 茂 三 郎	43	'61	b	b	o	a	90	5	11	22	兵
7372. 96	宇土市新1丁目	永 松 常 蔵	43	'59	a	a	o	o	91	5	7	36	
7373. 23	上益城郡益城町木山大字寺迫	豊 島 政 雄	43	'58	a	a	o	o	94	1	4	0	
7373. 56	上益城郡矢部町大字中島字北中島	渡 辺 敬 馬	43	'64	c	c	b	b	90	1	4	36	兵
7373. 92	上益城郡甲佐町大字上早川字下大谷	田 上 末 雄	43	'60	b	b	a	o	89	1	4	3	兵
7373. 99	上益城郡矢部町大字浜町	井 上 哲 治	43	'61	b	b	o	a	94	5	8	24	
7374. 15	阿蘇郡高森町	溜 淵 清 治	43	'61	b	b	o	a	93	5	7	19	
7374. 75	阿蘇郡蘇陽町菅尾字大久保	甲 斐 両 平	43	'57	a	a	o	o	87	1	4	24	兵
7380. 74	天草郡五和町大字二江字通詞	橋 本 定 政	43	'58	a	a	o	o	99	1	9	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
7381. 38	宇土郡三角町大字三角浦字本村	緒方和作	43	'61	b	b	o	a	95	7	6	24	
7381. 47	天草郡大矢野町登立新田	小野榮作	43	'57	a	a	o	o	96	1.5	6	0	
7381. 97	天草郡松島町大字合津小字古園	本多雅	43	'58	a	a	o	o	89	1	4	3	兵
7382. 01	宇土市網田下網田西原	山口玉藏	98	'63	c	c	b	b	03	1	6	12	
7382. 58	下益城郡小川町大字小川	岩本逸次	43	'59	a	a	o	o	98	5	9	0	
7382. 93	八代市東塩屋町	塩先吉次郎	43	'63	c	c	b	b	91	3	8	24	兵
7382. 97	八代市東町本猫谷	藤武虎松	43	'57	a	a	o	o	90	1.2	4	0	
7383. 83	八代郡泉村大字栗木字南川内	押方弥一郎	43	'59	a	a	o	o	94	5	6	0	
7383. 98	八代郡泉村大字樅木	伊藤福藏	43	'62	c	c	b	b	94	1	4	36	兵
7390. 26	本渡市本渡町大字本渡字内柿	田中太重	43	'61	b	b	a	o	03	1	6	0	
7390. 70	天草郡天草町高浜地区内内野区	小崎喜三七	43	'58	a	a	o	o	00	1	4	0	
7390. 75	本渡市宮地岳町中岳	松川栄吉	43	'64	c	c	b	b	96	1	8	0	
7391. 01	天草郡有明町上津浦字横浜	赤城玉造	43	'62	c	c	b	b	84	1	6	0	
7391. 44	天草郡倉岳村大字浦字中浦	藤野皆吉	43	'58	a	a	o	o	03	1	6	0	
7391. 94	天草郡御所浦村嵐口	中村助次郎	43	'62	c	c	b	b	92	1	5	10	
7392. 33	八代市日奈久竹ノ内町	西村政喜	43	'60	b	b	a	o	87	1	7	36	
7392. 45	八代郡坂本村大字荒瀬字渋利	宮川市松	43	'61	b	b	o	a	89	1	4	0	
7392. 94	球磨郡球磨村大字神瀬字上蔭	鶴山徳貫	43	'63	c	c	b	b	02	1.2	8	24	兵
7393. 62	球磨郡五木村大字高野	久保田万作	43	'61	b	b	o	a	94	1	6	24	兵
7394. 60	球磨郡水上村大字江代川口区字藤藪	半仁田政蔵	43	'63	c	c	b	b	94	1	4	36	
8300. 11	天草郡河浦町大字崎津	宮本栄太郎	43	'64	c	c	b	b	00	3	5	24	
8300. 25	天草郡河浦町宮野河内字本郷	池田源市	97	'60	b	b	a	o	94	1	6	0	
8300. 80	牛深市牛深町真浦	桂田吉松	43	'58	a	a	o	o	89	3	4	0	
8301. 19	葦北郡葦北町大字計石	山口伊勢松	43	'59	a	a	o	o	95	1.3	7	0	
8301. 76	水俣市大字浜	深水善蔵	43	'58	a	a	o	o	98	1	8	24	兵
8302. 19	球磨郡山江村大字万江字屋形	中村一男	43	'63	c	c	b	b	98	4	6	0	
8302. 55	球磨郡球磨村大字一勝地字柳詰	柳詰佐太郎	43	'61	b	b	o	a	02	6	6	0	
8302. 91	水俣市大字久木野字下鶴	下鶴喜寿	43	'64	c	c	b	b	96	1	6	0	
8303. 13	球磨郡相良村大字四浦字初神	山田需	97	'60	b	b	a	o	97	1	6	0	
8303. 47	球磨郡多良木町字地蔵堂	土肥清作	43	'57	a	a	o	o	84	1	4	12	兵
8303. 70	人吉市城本町	浜田四米蔵	43	'61	b	b	o	a	94	1	4	0	
8303. 84	球磨郡錦村大字一武字本別府	長峰亀市	43	'63	c	c	b	b	98	1	6	0	
大分県													
7316. 65	東国東郡姫島村北浦	入江繁治郎	44	'63	c	c	b	b	01	3	6	26	兵
7316. 93	東国東郡国見町大字伊美	野田隆	44	'60	b	b	a	o	99	1	8	0	
7324. 47	中津市大字上宮永	高野岩吉	40	'61	b	b	a	a	78	1	8	0	
7324. 96	下毛郡本耶馬溪村字樋田	平原覚郎	40	'64	c	c	b	b	97	0	8	24	兵
7325. 57	豊後高田市大字呉崎中新開	森若若次郎	44	'63	c	c	b	b	91	1	8	36	兵
7325. 84	宇佐郡宇佐町南宇佐	溝口与四郎	44	'60	b	b	a	o	90	1	8	24	兵
7326. 41	西国東郡真玉町大字黒土中村	佐当伝十郎	98	'60	b	b	a	o	01	1	8	0	
7326. 69	東国東郡国東町安国寺宇田野	栗林森作	44	'60	b	b	a	o	92	1	4	0	
7333. 29	下毛郡山国町大字榎ノ木字新谷	新谷豊	44	'63	c	c	b	b	94	1.2	4	0	
7333. 75	日田市大肥本町	石井光男	44	'61	b	b	a	a	01	7	8	0	
7334. 44	下毛郡耶馬溪村大字大島	梅木新	44	'61	b	b	a	a	98	1	8	24	兵
7334. 78	下毛郡耶馬溪村大字深耶馬小柿山	藤高松太郎	44	'61	b	b	a	a	86	1	8	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
7335. 19	速見郡山香町大字立石小字上町	宝積順太	44	'60	b	b	a	o	84	1	8	0	
7335. 34	宇佐郡安心院町大字新原字峰ノ前	新開与一	44	'57	a	a	o	o	85	1	8	0	
7335. 93	宇佐郡安心院町大字寒水	江藤藤造	44	'63	c	c	b	b	90	1	4	0	
7336. 28	東国東郡安岐町大字下原	池永春男	44	'63	c	c	b	b	98	1	6	0	
7336. 54	杵築市西下司区小字菊本	石堂幸太郎	44	'60	b	b	a	o	84	1	4	0	
7336. 71	速見郡日出町大字日出字赤山	赤山定治	44	'57	a	a	o	o	89	1	8	8	兵
7343. 17	日田市田島町字大原道	武内次郎	44	'57	a	a	o	o	92	1	6	0	
7343. 76	日田郡前津江村大野本村	吉田アサエ	96	'63	c	c	b	b	01	5	8	0	女
7344. 30	日田郡栄村合田字柚ノ木	江田正夫	44	'61	b	b	a	a	97	1	11	0	
7344. 45	玖珠郡玖珠町大字山田字谷口	梅木忠臣	44	'57	a	a	o	o	86	1	8	34	兵
7344. 99	玖珠郡九重町大字田野字北方	時松藤彦	44	'64	c	c	b	b	98	1	6	0	
7345. 43	大分郡湯布院町大字川北字荒木	衛藤牧之助	44	'60	b	b	a	o	93	1	6	10	
7345. 47	別府市東山一区小杉	田中虎雄	44	'61	b	b	a	o	96	1	8	0	
7345. 98	大分郡庄内町東長宝	大津一平	44	'64	c	c	b	b	01	4	10	18	
7346. 54	大分市中央町	阿南嘉助	44	'64	c	c	b	b	90	5	4	0	
7346. 58	北海道郡大在村大字横田	田中松三郎	44	'58	a	a	o	o	88	1	8	12	
7346. 63	大分市大字三芳字椎迫	甲斐静男	44	'61	b	b	a	a	01	1	11	0	
7347. 55	北海道郡佐賀岡町大字関字西町	戸次清三郎	44	'59	a	a	o	o	87	5	8	0	
7347. 93	臼杵市大字佐志生藤田	小野清九郎	44	'62	c	c	b	b	96	1	8	0	
7353. 19	日田郡中津江村大字栃野字下鶴	森下義太	44	'61	b	b	a	a	03	1	8	0	
7355. 22	大分郡庄内町阿蘇野地区高津原	松山栄馬	44	'64	c	c	b	b	94	1	8	12	
7355. 48	大分郡野津原町大字高原小字高沢	田浦磯馬	44	'60	b	b	a	o	96	7	6	0	
7355. 81	直入郡久住町久住	田中泉	44	'58	a	a	o	o	01	1	6	0	
7356. 06	大分郡大南町中戸次字市	高村菱男	44	'58	a	a	o	o	97	1	6	0	
7356. 55	大野郡犬飼町大字犬飼二部区	桑田米夫	44	'58	a	a	o	o	91	4	8	6	兵
7356. 70	大野郡大野町大字田中小字妙勝庵	足立勇	98	'60	b	b	a	o	98	1	6	0	
7356. 98	大野郡野津町大字清水原字今俵	坂本信好	44	'62	c	c	b	b	00	1	8	0	
7357. 31	臼杵市大字福良	北山満	44	'59	a	a	o	o	93	1	8	0	
7357. 64	津久見市大字津久見字西の内	大村嘉夫	44	'59	a	a	o	o	03	1	8	0	
7357. 69	津久見市大字四浦字落ノ浦	加藤荒吉	44	'62	c	c	b	b	99	1	3	6	1
7365. 25	竹田市大字玉来字玉来	渡部源一	44	'57	a	a	o	o	99	5	12	9	兵
7365. 51	直入郡茨町大字柏原字柏原	後藤実	44	'62	c	c	b	b	99	1	8	0	
7365. 67	大野郡緒方町大字小原字小原	工藤健雄	44	'58	a	a	o	o	91	1	4	0	
7366. 14	大野郡三重町大字赤嶺字下赤嶺	佐藤満平	44	'58	a	a	o	o	85	1	8	3	兵
7366. 87	南海部郡字目村大字千束字豊藤	高橋松夫	44	'59	a	a	o	o	98	1	8	0	
7366. 91	南海部郡字目町木湍内西山	小野工	44	'64	c	c	b	b	87	1	4	0	
7367. 25	佐伯市西中区中央通	保田精一	44	'59	a	a	o	o	94	5	6	0	
7367. 49	南海部郡米水津村浦代	高宮五一	44	'62	c	c	b	b	95	1	8	0	
7367. 61	南海部郡直川村大字上直見字竹ノ下	佐竹作太郎	44	'59	a	a	o	o	93	1	9	30	
7368. 32	南海部郡鶴見村大字丹賀字丹賀	山崎理一	44	'57	a	a	o	o	90	1	3	4	18
7377. 27	南海部郡蒲江町大字蒲江字熊野 宮崎県	中野昭二郎	44	'59	a	a	o	o	86	3	4	18	
7375. 30	西臼杵郡高千穂町大字河内	佐藤実信	45	'63	c	c	b	b	96	1	8	0	
7375. 37	西臼杵郡日之影町大字見立字川之詰	工藤勲	45	'63	c	c	b	b	96	1	4	36	兵
7375. 71	西臼杵郡高千穂町大字押方字片内	興梠閔治	45	'58	a	a	o	o	02	1	6	3	兵

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
7375. 96	西白杵郡日之影町大字七折字大菅	池田富一郎	45	'57	a	a	o	o	92	1	4	0	
7376. 62	東白杵郡北川村祝子川	亀井益水	45	'64	c	c	b	b	88	1	4	0	
7376. 68	東白杵郡北川村大字川内名字瀬口	小野竹治	45	'60	b	b	a	o	85	1	4	30	兵
7377. 72	東白杵郡北浦村大字古江	木原捨吉	45	'60	b	b	a	o	88	1	4	18	兵
7384. 16	西白杵郡五カ瀬町大字鞍岡字折立	由良田繁一	45	'58	a	a	o	o	98	1	6	0	
7385. 38	東白杵郡北方村字滝下	甲斐実弥	45	'60	b	b	a	o	98	1.2	6	24	兵
7385. 61	東白杵郡諸塚村大字七つ山字本村	甲斐敦敦	45	'57	a	a	o	o	96	1.2	4	36	兵
7385. 84	東白杵郡諸塚村大字家代本村	堀徳衛門	45	'62	c	c	b	b	95	1	7	0	
7386. 55	延岡市松山町	黒木熊次郎	45	'58	a	a	o	o	94	1	6	0	
7386. 56	延岡市新町	甲斐靖造	45	'63	c	c	b	b	86	5	4	30	兵
7386. 63	延岡市岡元町	甲斐利作	45	'60	b	b	a	o	88	1	4	24	兵
7394. 14	東白杵郡椎葉村大字下福良字尾八重	椎葉繁	45	'58	a	a	o	o	00	1.2	6	0	
7394. 85	東白杵郡椎葉村大字大河内本郷	椎葉伝三郎	98	'60	b	b	a	o	00	1	6	24	兵
7395. 09	東白杵郡北郷村大字入下字椿原	植野一	45	'62	c	c	b	b	01	1	6	0	
7395. 25	東白杵郡西郷村大字小原字笹陰	藤田福弥	45	'58	a	a	o	o	91	1	6	6	
7395. 63	東白杵郡南郷村大字神門	中邑浩	45	'61	b	b	o	a	03	1	8	0	
7395. 88	東白杵郡東郷村大字坪谷字石原	田原万治	45	'64	c	c	b	b	90	1.2	4	24	
7396. 16	東白杵郡門川町字上納屋	宮原仲治	45	'62	c	c	b	b	02	3	8	30	兵
7396. 53	日向市大字塩見字奥野	鈴木松治	45	'57	a	a	o	o	99	1.5	6	24	
8304. 66	児湯郡西米良村大字村所	佐藤清一	45	'61	b	b	o	a	86	1.5	4	0	
8305. 40	西都市大字銀鏡	浜砂彦三郎	45	'64	c	c	b	b	97	1	8	0	
8305. 73	児湯郡東米良村大字尾八重字小八重	中武広助	45	'57	a	a	o	o	97	1.2	4	16	
8305. 76	児湯郡木城村大字石河内	十住常一	45	'63	c	c	b	b	90	5	7	0	
8306. 04	日向市美々津町別府村	河野清	45	'63	c	c	b	b	96	1	8	0	
8306. 42	児湯郡都農町下苅生	黒木良一	45	'61	b	b	o	a	98	1	8	0	
8313. 72	西諸県郡加久藤町永山	川原田矢入	45	'59	a	a	o	o	02	1	8	2	兵
8313. 84	西諸県郡飯野町大字末永字田代	上野儀右衛門	45	'64	c	c	b	b	96	1	8	0	
8313. 88	小林市大字北西方字永久津	飯屋三左衛門	45	'59	a	a	o	o	92	1	4	0	
8314. 52	西諸県郡須木村小字永田	飯屋一二	45	'59	a	a	o	o	92	1	4	0	
8315. 42	西都市三財字水喰	中武重光	97	'65	c	c	b	b	92	1	6	24	兵
8315. 46	西都市大字右松	高松貞二	45	'61	b	b	o	a	96	1	4	0	
8315. 89	宮崎郡佐土原町下田島	太田文袿	45	'59	a	a	o	o	89	1	5	0	
8316. 20	児湯郡高鍋町上江字北平原	飛田正一	45	'58	a	a	o	o	88	1	4	2	
8323. 59	西諸県郡高原町大字蒲牟田字狭野	日高満義	45	'57	a	a	o	o	98	1	6	0	
8324. 26	西諸県郡野尻町大字紙屋東上原	迫田勇	45	'60	b	b	a	o	96	1	4	0	
8324. 83	北諸県郡高崎町大字大牟田	大丸武盛	45	'61	b	b	o	a	90	1	6	30	兵
8325. 03	東諸県郡国富町本庄字八幡	井戸川常男	45	'60	b	b	a	o	01	1	6	0	
8325. 56	宮崎市上町1丁目	日高勝助	45	'62	c	c	b	b	02	5	7	0	
8325. 77	宮崎市大字田吉	落合平三郎	45	'59	a	a	o	o	90	1	8	0	
8334. 25	北諸県郡高城町大字大井手	武教孝	45	'60	b	b	a	o	02	1	8	0	
8334. 63	都城市東町4丁目	藤本新之助	45	'61	b	b	o	a	85	1	4	0	
8335. 05	宮崎市大字鏡洲	渡辺忠記	45	'63	c	c	b	b	95	1	8	24	兵
8335. 11	宮崎郡田野町甲黒草	横山年行	98	'60	b	b	a	o	97	1	8	0	
8335. 48	宮崎市大字内海	長友正次郎	45	'60	b	b	a	o	84	3	4	18	兵
8335. 83	南那珂郡北郷町大字北河内字坂元	高崎新作	45	'61	b	b	o	a	94	1	4	3	兵

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
8345. 10	日南市大字酒谷字深瀬	緒 方 政 義	45	'62	c	c	b	b	89	1	4	27	兵
8345. 18	日南市大字宮浦字吹毛井	蛇 原 記 義	45	'62	c	c	b	b	92	5	4	30	
8345. 24	日南市大字板敷字札	佐 山 倉 蔵	45	'57	a	a	o	o	96	1	4	0	
8345. 74	南那珂郡南郷町中村乙	酒 井 末 蔵	45	'59	a	a	o	o	97	1	8	0	
8354. 29	串間市福島町上郡元	西 村 三 吉	46	'58	a	a	o	o	94	1	8	20	兵
8355. 23	串間市大字市木	右 松 久 一	45	'59	a	a	o	o	89	1	4	0	
8355. 62	串間市大字都井字迫	坂 本 貞 義	45	'64	c	c	b	b	97	1	6	3	兵
鹿 児 島 県													
8229. 96	薩摩郡里村里	岸 重 男	46	'61	b	b	a	o	96	5	6	36	
8239. 31	薩摩郡鹿島村藺牟田	柳 川 若 之 助	46	'62	c	c	b	b	93	3	7	36	兵
8248. 18	薩摩郡下飯村手打	江 口 義 和	46	'61	b	b	a	o	94	1	4	0	
8300. 87	出水郡東町大字鷹巣小字上揚	東 条 種 輔	46	'58	a	a	o	o	99	1	6	0	
8310. 26	出水郡東町大字山門野小字上	三反田 武衛門	46	'58	a	a	o	o	99	1	4	36	兵
8310. 87	阿久根市琴平町	坂 元 英 雄	46	'59	a	a	o	o	94	5	9	1	兵
8311. 41	出水郡高尾野町旧番所	徳 田 正 雄	46	'62	c	c	b	b	99	1	6	0	
8311. 59	出水市大字上大川内大水流部落	小 原 亀 助	46	'62	c	c	b	b	98	1	2	8	兵
8311. 63	出水市大字武本	谷 口 直 則	46	'57	a	a	o	o	99	5	4	0	
8312. 33	大口市大字山野小字下ノ馬場	木 山 喜 兵 次	46	'59	a	a	o	o	98	1	5	0	
8312. 75	伊佐郡菱刈町大字田中	森 永 常 右 衛 門	46	'57	a	a	o	o	95	1	10	36	
8320. 59	薩摩郡高城町大字西方	一 松 時 恵	46	'61	b	b	a	a	99	5	8	32	
8320. 98	川内市港町京泊	小 倉 武 志	46	'62	c	c	b	b	99	3	8	0	
8321. 58	薩摩郡宮之城町屋地	大 磯 太 三 郎	46	'59	a	a	o	o	94	1	8	24	兵
8322. 43	薩摩郡薩摩町永野	吉 原 広 志	46	'63	c	c	b	b	94	1	8	0	
8322. 68	始良郡横川町大字中ノ	成 見 利 恵	46	'61	b	b	a	a	91	5	8	18	
8330. 58	串木野市羽島小字白浜	立 石 金 太 郎	46	'62	c	c	b	b	03	1	6	0	
8331. 12	川内市平佐町加治屋馬場部落	豎 山 卯 吉	46	'62	c	c	b	b	91	1	8	0	
8331. 17	薩摩郡入来町麓	副 田 重 安	46	'59	a	a	o	o	90	5	8	36	兵
8331. 98	日置郡那山町那山	肥 後 盛 二	99	'62	c	c	b	b	81	7	11	91	兵
8332. 07	始良郡溝辺町大字有川石原	末 元 仁 助	46	'63	c	c	b	b	03	1	8	3	兵
8332. 42	始良郡蒲生町大字上久徳	石 神 安 次	46	'57	a	a	o	o	02	5	11	36	
8332. 59	始良郡隼人町大字内山田	横 山 栄 治	46	'59	a	a	o	o	02	1	6	36	兵
8332. 84	始良郡始良町脇元	春 山 政 則	46	'63	c	c	b	b	93	1	8	36	兵
8333. 03	始良郡霧島町大字田口字待世	橋 口 常 吉	96	'60	b	b	a	o	07	1	8	0	
8333. 79	嚙喉郡財部町南俣小字阿那里	若 松 美 利	46	'58	a	a	o	o	92	1	4	0	
8333. 92	始良郡福山町大字福山	浜 田 嘉 兵 衛	46	'57	a	a	o	o	00	5	8	36	兵
8341. 12	日置郡東市来町大字伊作田字江口	前 田 愛 之 助	96	'60	b	b	a	o	85	1	3	8	0
8341. 46	日置郡上伊集院村大字入佐	寺 園 熊 市	46	'59	a	a	o	o	87	1	8	24	兵
8341. 94	日置郡吹上町大字中原	黒 川 信	46	'59	a	a	o	o	91	7	9	12	
8342. 35	鹿兒島郡西桜島村藤野	岩 元 末 盛	46	'59	a	a	o	o	99	1	9	0	
8342. 51	鹿兒島市武町上武	榎 田 静 蔵	46	'58	a	a	o	o	90	5	6	33	兵
8342. 69	垂水市牛根町麓宮崎小路	久 富 木 重 盛	98	'63	c	c	b	b	02	1	6	42	兵
8343. 06	始良郡福山町大字佳例川小字柴建	川 畑 武 八	46	'63	c	c	b	b	91	1	6	36	兵
8343. 74	嚙喉郡輝北町上百引	福 重 栄 吉	46	'61	b	b	a	a	93	1	8	12	
8343. 97	嚙喉郡大崎町野方荒佐野	川 崎 常 吉	96	'60	b	b	a	o	80	7	8	16	
8344. 11	嚙喉郡末吉町大字二之方小字上新地	田 之 上 良 幸	46	'58	a	a	o	o	01	1	9	24	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
8344. 71	贈嶽郡有明町大字伊崎田小字繩瀬	脇原秀則	46	'63	c	c	b	b	02	1	6	0	
8350. 68	川辺郡笠沙町大字赤生木	大迫栄熊	46	'59	a	a	o	o	89	5	4	36	
8351. 07	谷山市下福元町錫山西山部落	藤元俊行	46	'63	c	c	b	b	98	1	6	3	
8351. 41	加世田市万世町唐仁原小字大崎	中村敬吉	46	'62	c	c	b	b	90	4	8	24	兵
8351. 65	川辺郡川辺町大字田部田	中野太次郎	46	'59	a	a	o	o	87	5	4	0	
8352. 29	垂水市大字柗原	石躍善右衛門	46	'59	a	a	o	o	02	1	8	32	兵
8352. 40	揖宿郡喜入町大字瀬々串小字中	今村徳二	46	'58	a	a	o	o	87	3	10	0	
8352. 92	揖宿郡喜入町前之浜	内園栄熊	98	'63	c	c	b	b	04	1	6	0	
8353. 63	鹿屋市西原町	馬庭清右衛門	46	'57	a	a	o	o	87	1	8	33	兵
8353. 68	肝属郡東串良町大字池之原	富田泰蔵	46	'61	b	b	a	a	02	5	8	34	
8354. 14	贈嶽郡志布志町大字志布志	又木栄三郎	46	'57	a	a	o	o	98	4	8	36	
8360. 39	川辺郡坊津町坊	鮫島源樹	46	'62	c	c	b	b	97	5	8	0	
8361. 28	揖宿郡穎娃町大字上別府青戸	西篤	46	'61	b	b	a	a	93	1	12	0	
8361. 31	枕崎市大字枕崎	田中健	46	'57	a	a	o	o	00	1	8	3	
8362. 34	指宿市大字新西方	東川嘉左衛門	46	'57	a	a	o	o	89	1	8	0	
8362. 81	揖宿郡開聞町大字十町小字松原田	原村寅市	46	'58	a	a	o	o	92	1	8	7	兵
8362. 85	揖宿郡山川町福元	南久一	46	'62	c	c	b	b	96	5	7	0	
8363. 51	肝属郡大根占町大字城元小字神之浜	吉元伊助	46	'63	c	c	b	b	91	5	6	3	兵
8363. 64	肝属郡大根占町大字馬場笹原	笹原銀太郎	46	'61	b	b	a	a	01	1	6	12	
8364. 33	肝属郡内之浦町大字南方	宮地武教	46	'57	a	a	o	o	01	1	8	0	
8372. 47	肝属郡佐多町大字伊坐敷	持留賢吉	46	'61	b	b	a	a	02	1	8	27	兵
8372. 87	肝属郡佐多町大字馬込小字大泊	日高金袈裟	46	'63	c	c	b	b	91	1	4	0	
8373. 08	肝属郡内之浦町辺塚	船迫幸之進	46	'63	c	c	b	b	92	1	4	0	
8373. 43	肝属郡佐多町辺塚字中村	浜川吉之助	96	'60	b	b	a	o	90	1・3	4	0	
8393. 69	西之表市西表小字小牧	日高慶慈	46	'60	b	b	a	o	97	7	9	0	
8394. 01	西之表市国上小字浦田	浜松次吉	99	'62	c	c	b	b	93	1・3	8	24	
9303. 88	熊毛郡中種子町大字野間小字畑田	石堂秋也	46	'60	b	b	a	o	97	1	7	0	
9310. 27	熊毛郡上屋久町口永良部島本村	有馬藤吉	48	'65	c	c	b	b	91	1・3	6	0	
9312. 42	熊毛郡上屋久町宮之浦中町	中島菊助	46	'61	b	b	a	a	93	1	6	36	兵
9313. 55	熊毛郡南種子町大字上中小字中西	柳田彦哉	46	'60	b	b	a	o	89	1	5	0	
9322. 52	熊毛郡屋久町尾之間	日高武雄	46	'61	b	b	a	a	97	1	8	24	兵
0228. 96	大島郡笠利町佐仁	岩元忠熊	46	'64	a	a	b	b	97	1	6	0	
0237. 79	名瀬市入船町	久保井米彦	46	'60	a	a	o	o	98	5	9	36	兵
0237. 84	大島郡大和村大字大金久	元野政喜	46	'60	a	a	o	o	93	1	4	36	兵
0238. 55	大島郡奄郷村赤尾木	碓山前太郎	46	'64	a	a	b	b	02	1	6	0	
0246. 48	大島郡宇検村阿室	宮畑重吉	46	'64	a	a	b	b	99	1	6	0	
0246. 97	大島郡瀬戸内町実久	森秀彦	46	'60	a	a	o	o	89	1	6	0	
0247. 31	大島郡宇検村田検	安田清盛	46	'64	a	a	b	b	98	1	8	35	
0247. 56	大島郡住用村山岡	市田寛義	46	'60	a	a	o	o	02	1	8	36	
0248. 00	名瀬市西仲勝町	森崎清義	46	'64	a	a	b	b	95	1	6	36	
0249. 17	大島郡喜界町湾	大山一保	46	'60	a	a	o	o	93	1	6	0	
0256. 08	大島郡瀬戸内町瀬武	山田義也	46	'64	a	a	b	b	03	1	6	0	
0256. 76	大島郡瀬戸内町与路	森福積	46	'64	a	a	b	b	99	1	8	24	兵
0256. 89	大島郡瀬戸内町池治	益山能良	46	'64	a	a	b	b	03	1	8	36	兵
0257. 12	大島郡瀬戸内町古仁屋中央区	栄当號	46	'60	a	a	o	o	01	4	8	24	兵



調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
0257. 43	大島郡瀬戸内町諸鈍	吉 川 彦 市	46	'60	a	a	o	o	02	1	8	0	
0265. 96	大島郡天城村大字岡前小字前野	沢 佐 太 郎	46	'58	a	a	o	o	99	1	8	30	兵
0275. 36	大島郡天城町瀬滝	向 井 実 吉	46	'64	a	a	b	b	92	1	6	0	
0275. 97	大島郡伊仙村伊仙小字中伊仙	吉 岡 德 盛	46	'58	a	a	o	o	99	1	8	33	兵
0276. 50	大島郡徳之島町大字亀徳小字里晴	高 城 福 茂	46	'58	a	a	o	o	03	1	4	35	
0294. 66	大島郡和泊町大字和泊	西 光 治	46	'58	a	a	o	o	85	1	7	0	
0294. 93	大島郡知名町大字瀬利覚	青 木 利 高	46	'57	a	a	o	o	00	5	6	2	
0340. 00	大島郡喜界町早町	中 沢 豊 治	46	'60	a	a	o	o	93	1	8	15	
1213. 76	大島郡与論村大字茶花 沖 繩	町 納 順	46	'57	a	a	o	o	93	1	10	0	
1148. 59	島尻郡粟国村字東	赤嶺マチュ一	61	'64	a	a	b	b	91	1	0	120	女
1156. 89	島尻郡具志川村(久米島)字仲地	山 里 昌 徳	51	'58	a	a	o	o	81	1	8	0	
1167. 01	島尻郡仲里村字比嘉	平 良 朝 雄	51	'58	a	a	o	o	72	1	0	0	
1169. 84	島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷	米 田 春 雄	51	'59	a	a	o	o	95	1	4	0	
1211. 69	島尻郡伊平屋村字田名	末 吉 カ マ ド	61	'65	a	a	b	b	98	1	0	0	女
1221. 47	島尻郡伊是名村字勢理客	名 嘉 マ シ イ	61	'65	a	a	b	b	88	1	0	24	女
1223. 91	国頭郡国頭村字奥	照 喜 名 真 次	51	'61	b	b	a	a	95	1	不明	0	
1231. 72	国頭郡伊江村字東江上	与 那 城 忠 正	51	'62	b	b	b	b	95	1	2	0	
1231. 88	国頭郡今帰仁村字与那嶺	仲 宗 根 蒲 二	51	'58	a	a	o	o	75	1	6	0	
1232. 29	国頭郡国頭村字辺野喜	東 恩 納 寛 三	51	'61	b	b	a	a	97	5	4	36	
1232. 75	国頭郡大宜味村字喜如嘉	前 田 幸 太 郎	51	'61	a	a	a	a	91	7	11	72	
1233. 61	国頭郡国頭村字安波	宮 城 森 吉	61	'64	a	a	o	o	93	1	4	0	
1241. 05	国頭郡本部町字渡久地5班	長 嶺 彦 一	51	'62	b	b	a	a	84	3・5	0	0	
1241. 49	国頭郡名護町字城一斑	比 嘉 龜 造	51	'61	b	b	a	a	85	1	0	0	
1241. 96	国頭郡恩納村字名嘉真	仲 村 好 吉	51	'61	a	a	a	a	83	1	4	0	
1242. 00	国頭郡屋我地村字饒平名	長 田 長 次 郎	51	'62	b	b	b	b	94	1	3	0	
1242. 22	国頭郡羽地村字源河	親 川 政 永	51	'61	b	b	a	a	92	1	4	45	
1242. 26	国頭郡東村字平良	宮 城 定 吉	61	'64	a	a	o	o	95	1	6	180	
1242. 72	国頭郡久志村字瀬嵩	城 間 盛 吉	61	'64	a	a	o	o	00	1	0	12	
1250. 59	中頭郡読谷村字波平	比 嘉 良 平	51	'63	b	b	b	b	80	1	11	60	
1251. 04	国頭郡恩納村字恩納	大 城 保 助	61	'63	a	a	o	o	95	1	8	24	兵
1251. 27	国頭郡金武村字金武	吉 田 省 吉	61	'64	a	a	o	o	03	1	8	24	兵
1251. 73	中頭郡具志川村字兼箇段	玉 城 松 寿	51	'63	b	b	b	b	03	1	10	72	兵
1251. 93	中頭郡与那城村字平安座	又 吉 加 那	51	'61	a	a	a	a	94	1	4	0	
1260. 78	那覇市寒川町1丁目	田 場 盛 功	51	'63	b	b	b	b	90	1	7	0	
1260. 87	島尻郡小祿村字小祿	上 原 牛	51	'63	b	b	b	b	83	1	2	0	
1261. 01	中頭郡北谷村字吉原	津 嘉 山 寛 芳	61	'65	a	a	b	b	95	1	4	0	
1261. 16	中頭郡勝連村字平敷屋	吉 里 清	61	'65	a	a	b	b	05	1	6	24	
1261. 32	中頭郡中城村字伊舍堂	比 嘉 松 助	51	'61	b	b	a	a	82	1	0	0	
1261. 70	中頭郡西原村字桃原	安 谷 屋 広 英	61	'64	a	a	o	o	98	1	6	72	兵
1261. 80	島尻郡与那原町浜田区	上 原 真 康	51	'62	b	b	a	a	03	1	6	0	
1270. 26	島尻郡糸満町	上 原 秀 夫	51	'62	b	b	a	a	03	1・3	6	0	
1270. 29	島尻郡東風平村字富盛	野 原 兼 次	51	'63	b	b	b	b	90	1	4	36	兵
1271. 05	島尻郡知念村字久高	安 泉 松	61	'63	a	a	o	o	03	7	11	36	
1271. 20	島尻郡玉城村字奥武	大 城 牛	51	'59	a	a	o	o	84	1・3	4	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	[ 調 査 票 ]				A	B	C	D	E
					第1	第2	第3	第4					
2067. 52	石垣市字平久保	大 松 知 良	61	'64	a	a	b	b	08	1	6	0	
2068. 08	(宮古)多良間村塩川	川 平 ハ ル	61	'65	a	a	b	b	14	1	8	120	女
2072. 20	(八重山)与那国町祖内	吉 本 政 吉	61	'64	a	a	b	b	11	5	13	216	兵
2074. 69	(八重山)竹富町字祖納	前 大 用 全	51	'60	a	a	a	o	83	1	4	0	
2075. 22	(八重山)竹富町字鳩間	加 治 工 伊 佐	51	'60	a	a	a	o	03	0	6	0	
2076. 25	(八重山)石垣市字川平	仲 本 英 領	51	'60	a	a	a	o	81	1	4	72	兵
2076. 96	(八重山)石垣市字新川	宜 野 座 安 顕	51	'60	a	a	a	o	96	1	8	24	兵
2076. 97	(八重山)大浜町字平得	田 本 信 輝	51	'60	a	a	a	o	92	1	6	24	兵
2076. 98	(八重山)大浜町字宮良	川 田 久 吉	51	'60	a	a	a	o	00	1	6	36	兵
2076. 99	(八重山)大浜町字白保	米 盛 松	51	'60	a	a	a	o	85	1	4	24	兵
2085. 69	(八重山)竹富町黒島仲本	本 成 善 資	51	'60	a	a	a	o	03	1.5	6	0	
2086. 03	(八重山)竹富町字竹富玻璃座間	古 見 真 知	51	'60	a	a	a	o	90	1	4	0	
2095. 60	(八重山)竹富町波照間富嘉	西 島 本 嘉 那	51	'60	a	a	a	o	89	1.3	4	0	
2140. 49	(宮古)平良市字池間	与 那 嶺 蒲 一	51	'59	a	a	o	o	84	3	0	24	
2140. 96	(宮古)伊良部村字長浜	島 尻 実 永 信	51	'59	a	a	o	o	00	7	10	72	
2141. 61	(宮古)平良市字狩俣	池 間 景 信	51	'59	a	a	o	o	97	1	6	24	兵
2141. 71	(宮古)平良市字島尻	花 城 金 入	51	'59	a	a	o	o	01	1	6	24	兵
2150. 06	(宮古)伊良部村字国仲	友 利 惠 勝	51	'59	a	a	o	o	84	1	4	24	兵
2150. 07	(宮古)伊良部村字仲地	川 満 昌 平	51	'59	a	a	o	o	82	1	4	0	
2150. 17	(宮古)伊良部村字伊良部	横 田 惠 金	51	'59	a	a	o	o	03	7	6	156	
2151. 11	(宮古)平良市字東仲宗根	山 崎 惠 孝	51	'59	a	a	o	o	88	7	11	72	
2151. 20	(宮古)平良市字久松松原	松 原 金 蔵	51	'59	a	a	o	o	88	1	4	0	
2151. 51	(宮古)下地町字上地	上 地 長 造	51	'59	a	a	o	o	99	1.4	6	0	
2151. 64	(宮古)城辺町字友利	砂 川 武 任	51	'59	a	a	o	o	97	1	8	24	兵
2151. 67	(宮古)城辺町字保良	下 地 勝 道	51	'59	a	a	o	o	81	1	4	48	兵

## 付録 2. 調査票 その他

1. ここには，日本語地図作成のための調査に使用した調査票の全文と，付図（絵）88面，および調査の手引きを示した。
2. ただし，スペースの関係で実物そのままの形式を再現することはできなかった。
  - a. 調査票は，実物も B5 版であるが，各冊 1 ページに 7～8 問が印刷され，記入欄が広くとってあった。

また，実物には，巻頭に報告用の経歴記入用紙，巻末に項目の索引が付けてあったが，ここでは省略した。
  - b. 絵の実物は，約 10 × 15 cm の大きさであった。
  - c. 手引きは，後期計画において補足した部分も，あわせて示した。

調査者番号	調査者氏名	調査地点番号
(フリガナ)		
調査地点	道都 府県	
調査地点のおもな産業	調査した場所	
調査の日時	19	年 月 日

お名前は何と言いますか。	男 女	お生まれは明治…… 明治	年
お住まいはどちらですか。			
お仕事はどんなことをしていますか。			
(経歴)	お生まれはここ(この町・村・部落)ですか。 小学校はここ(この町・村・部落)ですか。小学校は何年でしたか(4年か6年か・学校名)。 小学校を卒業してから、ずっと今のお仕事ですか(職歴、最終学歴—学校名—を聞く)。  よその土地で生活なさった経験はありませんか(どこで、いくつとき、どれぐらい、なんのために)。  兵隊に行きましたか(どこ、隊名、何年間)。		
御両親はどちらのお生れですか。 おとうさんは… おかあさんは…			

備考 (調査地点の概観・歴史・交通・被調査者の特徴・調査の印象など)
------------------------------------

# 第 1 調 査 票

調査を始める前に念をおしておくこと——これから聞きたいのは、

- 被調査者自身の使うことば、あるいは被調査者自身が若いころ使ったことのあることばであり、しかも
- くつろいだときとか親しい人と話すときとかに使うことばについてである。だから、
- 今は使わない昔のことばや、自分は使わないほかの人のことばなどは、そのように注意してほしい。

※ 初めに、虫の名前をいくつか聞きます。

- 001 絵 こういう虫を何と言いますか。前足が草を刈るかまに似ています。おこるとそれを振り立てて向かって  
きます。色は緑とか茶色など kamakiri
- 002 絵 これは何と言う虫ですか。しりから糸を出して網を張ってほかの虫をつかまえて食べます。足は八本あ  
ります。いろいろ種類がありますが、ひっくるめた名前は何んですか。 kumo  
くもの総称を求めること。
- 003 絵 その[クモ]がしりから出す糸のことを何と言いますか。 kumo no i to
- 004 絵 [クモ]の作る網のことを何と言いますか。ほかに、こんな形でなく、天井のすみなどで見掛ける目の  
細かい網もあります。 kumo no su
- 005 絵 これを何と言いますか。からを背負ってのろのろはって歩きます。夏、ことに雨のころ多く見掛けま  
す。 katatumuri
- 006 絵 これを何と言いますか。[カタツムリ]に似ているけれど、からは背負っていない。暗いじめじめした所  
に住んでいます。塩をかけると体が溶けるということですが。 namekuzi
- 007 絵 これを何と言いますか。夏の初め、水の中に群がって泳いでいます。大きくなるにつれて手足が生えて  
きます。 otamazyakusi  
手足の有無などで名の違うことがあります。総称を求めること。
- 008 絵 [オタマジャクシ]が大きくなるとこうなりますが、これを何と言いますか。いろいろ種類がありま  
す、ひっくるめた名前は何ですか。 kaeru  
かえるの総称を求めること。
- 009 絵 これは何と言いますか。体が大きくてのろのろしています。背中茶色腹は白くて黒い紋があります。  
hikigaeru
- 010 絵 これを何と言いますか。いろいろ種類がありますが、ひっくるめて何と言いますか。 hebi  
へびの総称を求めること。
- 011 絵 毒を持っている種類ですが、何と言いますか。色は茶色で黒い<sup>せいがた</sup>銭形の紋があります。 mamusi
- 012 絵 これは何と言いますか。長さは五寸ぐらい。ひなたの土の上をちょろちょろ走り回ります。色は黒くて  
つやつや光って、鮮かな青い線があります。水の中にははいりません。 tokage  
いもり・やもりなどとまちがえないよう。
- 013 それと形は似ているけれど、色が土色のがいます。やはり昼間見掛けるもので、水の中にははいりませ  
ん。何と言いますか。 kanahebi  
いもり・やもりとは違う。なお、012と013のうち一方しかないか、またはこの二種を区別しない地方がある。
- ※ 虫の名前はこれぐらいにして、別のことばをいくつか聞きます。
- 014 人の年齢を尋ねるとき、何と言って聞きますか。「年は～」それから何と言いますか。 ikutu  
何歳などと答えた場合は改まつた言い方ではないか確かめること。
- 015 物の値段を尋ねるときには何と言いますか。「このまんじゅうはひとつ～」それから何と言いますか。  
ikura



- 032 絵 [アタマ]の上に、毛がうずになっている所があります。ここのことを何と言いますか。 tumuzi  
位置・数・巻き方などによる特別の名前は注記。牛馬などの旋毛の名はとらない。
- 033 絵 こういうつるつるになった[アタマ]を何と言いますか。髪の毛の抜けてしまった[アタマ]です。 hageatama  
卑称だけに使う形には注記。病的なはげあたまについての特別の名はとらない。
- 034 絵 これを何と言いますか。この、物を見るものです。 me  
眼球にあたる形はとらない。「目が見えない」の目。
- 035 絵 [メ]の上に生えている、これのことを何と言いますか。 mayuge  
まつげとまちがえないよう注意。
- 036 絵 まぶたのへりにぷつとできる小さなできものです。何と言いますか。うみを持って赤くはれると、むずむずしてかゆいのですが間もなく直ります。 monomorai  
類似のできもの・眼病とまちがえないよう注意。
- 037 絵 これを何と言いますか。ここで息をします。 hana  
においのことは038以下に出るからふれないよう注意。
- 038 梅の花のそばに寄るとぷうんと何か[ハナ]に感じます。この、[ハナ]に感じるものを、梅の花の何と言いますか。 nioi  
よにおいの例として梅の香をあげた。
- 039 髪の毛が火の中にはいって焦げると、やはりぷうんと[ハナ]に感じます。感じるもののことを、髪の毛の焦げる何と言いますか。 nioi  
悪いものの例として髪の毛の焦げるにおいをあげた。
- 040 布切れなどが火の中にはいると妙な[ニオイ]がします。どんな[ニオイ]がすると言いますか。 kinakusai  
形容詞の終止形を求める。
- 041 飯をたいて焦げついたときどんな[ニオイ]がすると言いますか。 kogekusai  
形容詞の終止形を求める。
- 042 物の[ニオイ]を知ろうとして[ハナ]で(くくんかぐまねをする)こういふりにすることを[ニオイ]をどうすると言いますか。 nioiokagu  
「ニオイ」(を)～(動詞)」と言えるかどうか注意。
- 043 絵 これを何と言いますか。この、物を聞くものです。 mimi  
じかく(耳袋)のことではない。「耳が遠い」の耳。
- 044 絵 これを何と言いますか。物を言ったり食べたりします。 kuti
- 045 赤ん坊がよく[クチ]から水のようなものをたらししていることがあります。その水のようなものを何と言いますか。 yodare
- 046 切手をはるときべろとなめることがあります。そのときつける水のようなものを何と言いますか。(指先に少しつけてみせて)これを何と言いますか。 tuba
- 047 絵 ここのことを何と言いますか。女の人が紅をつけるところです。 kutibiru  
上下のくちびるをひつくるめた名を求める。
- 048 絵 これを何と言いますか。 sita  
舌先などの部分ではない。
- 049 今度は、物の味のことで。塩の味はどんなだと言いますか。薬は「苦い」などと言いますが、そんな言い方で言うと塩は……。 karai
- 050 それでは唐辛子の味はどんなだと言いますか。 karai

- 051 しる(つゆ)などを作ったとき塩の味の足りないのを言うのに、しる(つゆ)の味がどんなだと言いますか。  
usui  
アマイというのが普通の言い方なら、それをとりあげることは斯わるまでもない。
- 052 砂糖の味はどんなだと言いますか。 amai
- 053 梅干の味はどんなだと言いますか。 suppai  
梅干が不適当なら青いみかんなどとさしかえてもよい。
- 054 ちょっと話がかかります。眠っているとき息をするたびに(いびきのまねをする)こういうふうにするこ  
とがあります。(まねる)こうすることをどうすると言いますか。 ibikiokaku  
「イビキ(を)~(動詞)」という形が出ない場合は、別にせきに対する名詞も聞いてみる。
- 055 かぜをひいたときなどに、のどを痛めて(ごほんごほんのまねをする)とすることがあります。(まねる)  
こうすることをどうすると言いますか。 sekiosuru  
せきばらいとは違う。「せき(を)~(動詞)」という形の出ない場合は、別にせきに対する名詞も聞いてみる。
- 056 絵 このへんの柔かい所のことを何と言いますか。 hoho
- 057 絵 ここ全体のことを何と言いますか。朝起きたときに洗います。 kao  
卑称には注記。
- 058 生れつき体の一部の色が変わって、赤くなったり青黒くなったりしていることがあります。その、いつ  
までも消えない色の変った所のことを何と言いますか。 aza  
大きさ、位置、色などでいろいろ違う形が出れば注記。総称も別に聞く。
- 059 ひどくなぐられたときなどに、そこが青黒くなって二三日あとが残ることがあります。そういうふう  
に色が変ることを、どうなる、何が出来ると言いますか。 azagadekiru, azaninaru
- 060 体に黒いごまつぶぐらいの点があることがあります。その点のことを何と言いますか。 hokuro  
061 と区別があるかどうか。そばかす、にきびなどとまちがえないよう。
- 061 ごまつぶよりも大きい、豆つぶぐらいの大きさの黒い点のことを何と言いますか。少しふくらんでいま  
す。 hokuro  
そばかす、にきびなどとまちがえないよう。
- 062 S (ここまでにアザという形が出ないとき)「あざ」というのはどんなもののことですか。(「アザ」が出てい  
たら、その内容をくりかえし)そのほかに「アザ」というものがあります。どんなもののことですか。
- 063 絵 今度は指の名前についてですが、この指を何と言いますか。 oyayubi
- 064 絵 この指は何と言いますか。 hitosasiyubi
- 065 絵 この指は何と言いますか。 nakayubi
- 066 絵 この指は何と言いますか。 kusuriyubi
- 067 絵 この指は何と言いますか。 koyubi
- 068 手の指や足の指などが、冬、寒さのために赤くはれてかゆくなったり、ひどくなるとくずれたりするこ  
とがあります。そんなときどうなった、何ができたと言いますか。 simoyake  
ひび、あかざれ(皮膚のさけるもの)とは違う。凍傷のこと。
- 069 絵 足のこのへんのことを何と言いますか。 kakato
- 070 足の裏とかわきの下などにそっと触れると妙な笑いたくなるような感じがします。その感じをどんな  
と言いますか。 kusuguttai
- 071 絵 それでは、こういうふうにはぎを折って座につくことを、どうすると言いますか。 suwaru  
きちんと、ちゃんとなどの副詞を併り答もとりあげる。
- 072 絵 こういうふうにはぎを組んで座につくことを、どうすると言いますか。 aguraokaku  
「アグラ(を)~(動詞)」という形を求める。



- 073 絵 胸の骨の下の真中あたり、柔かいこのあたりのことを何と言いますか。 mizuoti  
胃とか肝臓など内臓に関する答はとりあげない。
- 074 長いこと体を洗わないでいて体をこすると、汚いものがぼろぼろ落ちます。その汚いものを何と言いますか。 aka  
あかの特殊な状態(こびりついたあかなど)についての名には注記。
- 075 [アタマ]をかくと白い粉のようなものが落ちてくる場合があります。その白いもののことを何と言いますか。 huke
- 076 絵 ちょっと別のことになりますが、魚の皮の上に並んでいるすきとおった薄い爪のようなもの、これを何と言いますか。 uroko
- 077 S (ここまでにコケという形が出ないとき)「こけ」というのはどんなもののことですか。(「コケ」が出ていたらその内容をくりかえし)そのほかに「コケ」というものがありますか。
- 078 S 絵 (きのこのことだと言わなかったら)まつだけやしいたけなど、こらいうものをひっくるめて「こけ」と言うことはありませんか。 言う 言わない
- 079 (078 でコケと言わないことがわかったとき)それでは、まつたけやしいたけなど、そのほか毒のあるものもありますが、こらいうものをひっくるめて何と言いますか。 kinoko  
きのこの総称を求める。
- 080 またちょっと話が変りますが、獣や鳥については「おす・めす」という区別があります。でも、このことばは人間には使いません。人間については何と言いますか。 otoko onna
- 081 卑称について注記。年齢に関係のない単なる性別を表わす形を求める。答は、080 に男にあたる形を、081 に女に当たる形を記入する。
- ※ 今度は、こどもの遊びに関係のあることばです。
- 082 絵 このおもちゃを何と言いますか。いろいろの形があってそれぞれ名前があるのですが、ひっくるめて何と言いますか。空高く飛ばして遊びます。 tako  
総称を求める。
- 083 絵 この男の子は何で遊んでいると言いますか。 takeuma  
遊び道具としての竹馬を聞くこと。遊びの名ではない。
- 084 絵 女の子の遊びです。何と言う遊びですか。このこどもは何をして遊んでいると言ったらよいでしょう。 otedama (asobi)  
085 との区分に注意。
- 085 絵 そのとき使う小さな袋のことを何と言いますか。あずきや小石などを入れます。 otedama  
084 との区別に注意。
- 086 絵 こらいうふうに、こどもを首にまたがらせて肩に乗せることを何と言いますか。 kataguruma  
「カタグルマ(を)する」という言い方のない場合は注記。
- 087 絵 こらいうふうに片方の足だけで飛ぶことを、何を、どうすると言いますか。 kataasitobiosuru  
「カタアソトビ(を)〜(動詞)」という形の出ない場合は、別にかたあしとびに対する名詞も聞いてみる。なお、石けりやふたりで倒しあう遊びの名とはちがう。ただビヨンビヨンとぶこと。
- 088 ひとりのこどもが鬼になってほかのこどもを追いかける。鬼につかまったこどもが代って鬼になる。そんな遊びのことを何と言いますか。 onigokko  
細かいルールの違いがあるだろうが、この質問の範囲で答を求める。
- 089 鬼でないこどもはみつからないようにあちこちに隠れる。みつかったこどもが次に鬼になる。そんな遊びのことを何と言いますか。 kakurenbo  
細かいルールの違いがあるだろうが、この質問の範囲で答を求める。
- ※ こどもの遊びはこのくらいにして、今度は物のやりとりや受け渡しに関係のあることばをいくつか聞きます。

- 090 絵 最初はこれです。店で何か物を買うとき支払う、こういう物をひっくるめて何と言いますか。 okane  
紙幣・硬貨いずれかのみをさす形には注記。隠語風のものについても同じ。
- 091 30 円の物を買うとき 100 円札を出すと、品物といっしょに 70 円返してくれます。この返してくれる  
[オカネ]のことを何と言いますか。 oturi
- 092 70 円をみんな 10 円玉で返してくれたとします。70 円あるかどうか 10 円、20 円と(手つきを示す)調べ  
ることをどうすると言いますか。 kazoeru  
調べる・確かめるなどはとらない。
- 093 [オカネ]でなく、たとえば鉛筆なら鉛筆を一本二本と(手つきを示す)調べることをどうすると言いま  
すか。 kazoeru  
調べる・確かめるなどはとらない。
- 094 [オカネ]を出さないで、ただ物を受け取ることを物をどうすると言いますか。たばこを一本、わたしが、  
友達から、どうすると言いますか。[オカネ]を出すなら「買う」と言うところですが……。 morau  
敬語表現には注記。必ず対等の場合を聞くこと。なお、受けるなどはとらない。
- 095 ただで与えることを物をどうすると言いますか。わたしが、友達に、たばこを一本、どうすると言いま  
すか。[オカネ]と引き換えなら「売る」と言うところですが……。 yaru  
敬語表現には注記。必ず対等の場合を聞くこと。特にアゲル・ヤルの区別など。なお、譲る・与えるなどはとらない。
- 096 それでは、よその人が自分に物を渡すことをどうすると言いますか。友達が、わたしに、たばこを一本  
どうすると言いますか。 kureru  
敬語表現には注記。必ず対等の場合を聞くこと。
- 097 S 「あずける」ということばをこんなふうに使いますか。こどもが淋しがっているから、そのこどもにおも  
ちゃを買って、「あずける」。おもちゃを与えるときにです。 使う 使わない
- 098 S こんなふうに使いますか。よく働いたからほうびに[オカネ]を「あずける」。[オカネ]を与えるときに  
です。 使う 使わない
- 099 くぎを打ちたいが金づちがない。そんなときに隣の家で金づちをどうしますか。どうすると言いま  
すか。 kariru  
借りてくるなどと答えた場合は、単独で借りるという言い方があるか、確める。
- 100 [カ Ril]の反対は何と言いますか。金づちを[カリ]に来たらどうしますか。どうすると言いますか。  
kasu  
貸してやるなどと答えた場合は、単独で貸すという言い方があるか、確かめる。
- 101 S 物を「かってくる」と言うのは[オカネ]を支払って品物を手に入れてくることですか。それとも借用して  
くることですか。 買ってくる 借ってくる  
どちらも使わないことも考えられる。
- ※ こんどはひにちの名前です。
- 102 絵 本日は○月○日(調査当日を言う)ですが、その本日ということばをふだんのことばで言うと言いま  
すか。 kyô
- 103 絵 [キョオ]の前日のことは何と言いますか。[キョオ]から言えば○日(調査前日を言うのことです)。  
kinô
- 104 絵 その前の日のことは何と言いますか。 ototoi
- 105 絵 その前の日のことは何と言いますか。 sakiototoi
- 106 絵 それでは[キノオ]が暮れてからくる夜の何を何と言いますか。[キョオ]のすぐ前の夜のことは。  
sakuban
- 107 絵 その前の夜のことは何と言いますか。[オトトイ]が暮れてからくる夜のことは。 issakuban
- 108 絵 [キョオ]の次の日は何と言いますか。 asita

- 109 絵 その次の日のことは何と言いますか。 asatte
- 110 絵 その次の日のことは何と言いますか。 siasatte
- 111 絵 その次の日のことは何と言いますか。 yanoasatte
- 112 絵 [キョオ]が暮れてからくる夜のことは何と言いますか。 konban
- 113 絵 その次の夜のことは何と言いますか。 asitanoban
- ※ 今度は天気や気候などに関係のあることです。
- 114 朝東の方から出て、夕方西の方に沈む、あの昼間空に輝いているものを何と言いますか。 taiyô  
特別の敬称や児童語には注記。
- 115 [タイヨオ]を見るとあまり明かるいので目のあけていられないような感じがします。その感じをどんな  
だと言いますか。 mabusii  
目がくらむなどは違う。
- 116 夜、空で輝く丸くて大きいもの、あれは何と言いますか。一か月のうちに欠けたりまた丸くなったりし  
ます。 tuki  
特別の敬称や児童語には注記。
- 117 悪い天気のととき空から水の降ってくるのを、何が降ると言いますか。 ame  
雨の種類による特別の名はとらない。
- 118 夏の初めごろ[アメ]の長く降り続く時期があります。その[アメ]のことを何と言いますか。 tuyu  
雨自体とその季節を言い分ける場合は注記。
- 119 絵 夏の日に、いままで日が照っていたのに急に大粒の[アメ]が降ってくるがあります。この[アメ]の  
ことを何と言いますか。 yûdati
- 120 絵 [ユウダチ]が降るときなどに黒い雲の中でぴかりと光って音のすることがあります。それを何が鳴って  
いると言いますか。 kaminari  
「カミナリが鳴る」という形で言わない場合は注記。
- 121 [カミナリ]の音をまねて言うとき、どう言い表わしますか。 gorogoro
- 122 絵 そのときぴかりと光る、その光のことを何と言いますか。 inabikari  
雷鳴を伴わないものについても答えた場合は注記。
- 123 [カミナリ]のために高い木がひどく裂かれていることがあります。どうするとそうなると言いますか。  
kaminari ga otiru  
「カミナリ(が)～(動詞)」という形でない場合は注記。
- 124 絵 空にかかる七色の帯のようなものです。これを何と言いますか。[ユウダチ]のあとなどに見られます。  
nizi
- 125 絵 冬の寒い日に、空から白いものがちらちら降ってきます。何が降ると言いますか。 yuki  
雪の種類による特別の名はとらない。
- 126 冬の寒い夜などに池の水が固まるがあります。その冷たいすきとおったガラス板のようなものを何  
と言いますか。 kôri  
厚さや形状など、氷の種々の状態による特別の名については注記。
- 127 水が[コオリ]になることを水がどうなると言いますか。 kôru  
氷が張るなどはとらない。
- 128 水気のあるもの、たとえば濡れたてぬぐいなどが寒さのためにかちかちになることを、どうなると言  
いますか。 kôru
- 129 絵 やはり冬のことですが、軒先などにさがる[コオリ]の棒です。これを何と言いますか。 turara
- 130 絵 枯葉などを巻き上げるこういう風を何と言いますか。軒先などでくるくる回っているのを見掛けます。  
tumuzi kaze  
たつまきのような特に大きいものについては注記。

- 131 風が強く吹く日など[メ]に何かはいることがあります。[メ]に何がはいったと言いますか。 gomi  
ごみの類を目にはいつたものとしてとらえる。
- 132 そうじするときほうきで掃き集めるもの、掃くと集まってくるもののことを何と言いますか。 gomi  
わらくず、落ち葉など具体的なものの名はとらない。家の中のごみと戸外のごみを区別するかどうか。
- 133 畳を起して棒などでたたくと、中から細かい汚いものももうもうと出てきます。何が出てくると言いますか。 hokori
- 134 川の流れにある棒ぐいに、わらくずとか水草の切れたもの、場合によっては野菜の切りくずなどいろいろ汚いものがひっかかることがありますが、そういう汚いものを何と言いますか。 gomi  
わらくず、落ち葉など具体的なものの名はとらない。
- 135 ちょっと話がかわりますが、地面が急にぐらぐらと揺れて、ひどいときには大木や家が倒れたりすることがあります。その地面の揺れること、それを何と言いますか。 zisin
- 136 木が一町歩も二町歩も生えている場所のことを何と言いますか。そこへ行ってたきぎを拾ったりします。 hayasi  
ヤマが普通の言い方なら、それをとりあげることは断るまでもない。
- 137 S (136が「ヤマ」だったら)平地で木が広く生えている所も[ヤマ]ですか。 ヤマである ヤマでない  
(136が「ハヤシ」だったら)平地でも傾斜地でも同じように[ハヤシ]と言いますか。 ハヤシである ハヤシでない  
136がヤマでもハヤシでもなかつたら質問しなくてよい。
- 138 お宮の境内などに木が一カ所に集まってこんもりと生えている場所のことを何と言いますか。 mori
- 139 S (ここまでにハヤシが出ないとき)「はやし」というのはどんな場所のことですか。
- 140 S (ここまでにモリが出ないとき)「もり」というのはどんな場所のことですか。
- ※ 今度は、家のまわりについてのことばや、いろいろの道具に関係のあることばです。
- 141 S 家の「にわ」と言ったらどんな所のことですか。
- 142 S 土間、つまり家の中の床の張ってない所のことを「にわ」と言いますか。 言う 言わない
- 143 S 家の前の仕事場、つまり脱穀したり、豆を干したりする所のことを「にわ」と言いますか。 言う 言わない
- 144 S 「かど」と言ったらどんな場所のことですか。
- 145 S 家の外、つまり屋外のことを「かど」と言いますか。 言う 言わない
- 146 S 家の前の仕事場、つまり脱穀したり、豆を干したりする所のことを「かど」と言いますか。 言う 言わない
- 147 地面に深い穴を掘って、つるべやポンプで飲み水などを汲み出す所があります。それを何と言いますか。 ido  
底に水がわいてきます。  
特殊な構造のものについては注記。
- 148 米をおかまに入れてから火にかけて飯にする。こうすることを飯をどろすると言いますか。 taku
- 149 それでは大根をなべに入れて、みそやしょうゆを入れて火にかける。こうすることを、大根をどろすると言いますか。 niru
- 150 かまどでたきぎ(まき)をたいたあとに残る白いもの、あれのことを何と言いますか。 hai
- 151 いろりや火鉢の中に火をいけるために入れてある粉のようなものことは何と言いますか。 hai
- 152 絵 この煙のようなもの、湯を沸かすと水の表面から立ってくるものを何と言いますか。 yuge
- 153 絵 [タイた]ばかりの御飯から立ちのぼるこういうものを何と言いますか。 yuge
- 154 絵 これを何と言いますか。野菜や魚を料理するときに使う板です。 manaita  
野菜用と魚用の区別がある場合はいずれもとりあげる。その場合総称も聞く。

- 155 絵 この鉢のことを何と言いますか。ごまや、みそをすりつぶすのに使います。 suribati
- 156 絵 棒の方は何と言いますか。 surikogi
- 157 絵 こういう土(どろ)で作ってかまで焼いたもの、いろいろありますが、ひっくるめて何と言いますか。 setomono
- 土器・陶器・磁器の区別ができれば注記。
- 158 絵 二つの箱ですが、両方を比べて(大きい方をさし)こちらの方が(小さい方をさし)こちらよりもどうだと言いますか。 ôkii  
非常に大きいことを表わす形には注記。以下163までこれに準ずる。
- 159 絵 それでは(小さい方をさし)こちらは(大きい方をさし)こちらよりもどうだと言いますか。 tiisai
- 160 絵 二本の棒があります。長さは同じですが、両方を比べて(太い方をさし)こちらの方が(細い方をさし)こちらに比べてどうだと言いますか。 hutoi
- 161 絵 それでは(細い方をさし)こちらの方が(太い方をさし)こちらよりもどうだと言いますか。 hosoi
- 162 絵 二つのふるいがあります。大きさは同じですが、ただ網の目が違います。両方を比べたとき(あらい方をさし)こちらの目は(細かい方をさし)こちらの目よりもどうだと言いますか。 arai
- 163 絵 それでは(細かい方をさし)こちらの目は(あらい方をさし)こちらの目よりもどうだと言いますか。 komakai
- 164 絵 今度は、別のことですが、ふとんの中に入っている白いふかふかしたもののことを何と言いますか。 wata
- 165 その[ワタ]でない、蚕のまゆから作ったものを何と言いますか。着物に入れたりします。 mawata
- 166 絵 着物を縫うとき針に通す、これを何と言いますか。 ito
- 167 その[イト]のうち、蚕のまゆから作るものを何と言いますか。 kinuito  
生糸とまちがえないよう注意。
- 168 [ワタ]から作る[イト]は何と言いますか。 momen'ito
- 169 着物を縫うとき使うのでなく、織物を織るとき使うものは何と言いますか。 oriito
- 170 S 着物を「せんたく(せんたく)する」というのは、着物をどうすることを言いますか。
- 171 S 裁縫することを「せんたく(せんたく)する」と言うことはありませんか。 言う 言わない  
「言う」と答えたときは、仕立てる・繕う・縫い直す・裁縫するなどのうち、どれに使うか詳しくその使い方を調べる。
- 172 S 雨に降られて着物がぐさったというふうに、「くさる」ということばを、濡れるという意味に使いますか。 使う 使わない
- ※ 農業に関係のあることば、それから草や木の名をいくつか聞きます。
- 173 稲からとれる穀物のことを何と言いますか。 kome
- 174 その[コメ]のうちふだんの食事用のものを、もちや赤飯用にすると区別して何と言いますか。 uruti
- 175 もちや赤飯用のものは何と言いますか。 motigome
- 176 農業で自分の家の食用にする[コメ]のことを何と言いますか。 hanmai  
米作をする農民だけに質問する。177も同じ。
- 177 [ハンマイ]をしまっておく入れ物のことを何と言いますか。 komebitu  
木箱、かめなどの注記が必要。
- 178 [コメ]のみみから、からを取ったものは玄米ですが、その玄米にしたとき残るからのことを何と言いますか。卵やりんごを箱づめにするときに使います。 momigara
- 179 玄米について白くするとき出るかすの粉のことを何と言いますか。 nuka

- 180 絵 稲を作る場所ですが、こういう所を何と言いますか。 tanbo  
 水田などという答の場合は、別のもつ普通の言い方がないか質問する。なお、181参照。報告用のカードには180に一区画の名を、181に広い場所の名を書く(その場合、必ず答の語形を記入すること。180と同じなどは書かない。)
- 181 絵 それは一区画(一枚)のことですか。それとも、いくつもつながった広い場所のことですか。(その答によつて)それでは  $\left. \begin{array}{l} \text{いくつもつながった広い場所} \\ \text{一区画(一枚)} \end{array} \right\}$  のことは何と言いますか。
- 182 絵 こういふ[タンボ]の境のことを何と言いますか。小さな土手のようになっています。 aze  
 地方によつて習慣も違い、地形によつてもいろいろ種類がある。いろいろ答えたときは、それぞれに注記。
- 183 絵 [タンボ]に対して大根や芋などを作る、こういう場所のことを何と言いますか。 hatake
- 184 とりいれの近づいた[タンボ]や[ハタケ]に、きらきら光るものをひもにつけたり、風で揺れるものや音をたてるものを立てたりします。鳥や獣の寄って来るのを防ぐためにです。そんなものをひっくるめて何と言いますか。 toriodosi  
 総称を求める。
- 185 絵 そんなもののうち人間の形をしたものについては何と言いますか。 kakasi
- 186 絵 こういふ芋を何と言いますか。夏の初めと秋と一年に二度とれます。 zyagaimo  
 品種が多いが、総称を求める。
- 187 絵 それでは、これは何と言いますか。茶色の毛が生えていて[ニル]とぬるぬるします。いろいろ種類があつて茎の食べられるものもありますが、ひっくるめて何と言いますか。 satoimo  
 品種が多いが、総称を求める。
- 188 絵 これは何と言いますか。秋の終りに取り入れます。茎はつるになって地面に広がります。 satumaimo  
 品種が多いが、総称を求める。
- 189 S このあたりで普通「いも」と言ったらどの芋のことを言うのですか。芋が食べたいと言ったらどの芋のことですか。 じゃがいも さといも さつまいも  
 すでにこの項目に当たる答が出ていたら、質問しなくてもよい。以上の三種以外の場合もありうる。
- 190 絵 これは何と言いますか。夏の終りごろとれます。薄緑色の皮があつて[アカイ]毛のふさがついています。 tômorokosi  
 品種が多いが、総称を求める。
- 191 絵 これを何と言いますか。夏とれる、つるになる大きな実です。 kabotya  
 形によつて名が違えば、それぞれ記入する。とうがんとゆうがおなどは違う。
- 192 絵 何という草ですか。春、紫色の花をつけます。 sumire  
 草の名と花の名と区別がある場合は草の名をとりあげる。花の名は注記する。
- 193 絵 これは何と言う草ですか。花の色は黄色か白です。花が終ると白い毛のついた実ができて、風に吹かれて飛んで行きます。 tanpopo
- 194 絵 これは何と言いますか。春先、川の土手などの日当りのよいところに出てきます。 tukusi
- 195 絵 [ツクシ]が出たあとからこういふ草が生えてきます。何と言いますか。 sugina
- 196 絵 この草を何と言いますか。一種の悪い[ニオイ]がします。日陰に生える紫がかつた濃い緑色の草で、夏の初めに白い花が咲きます。 dokudami
- 197 絵 松の実ですが、これを何と言いますか。 matukasa
- 198 絵 これを何と言いますか。ざるやかごを作ったり魚釣りのさおや旗ざおにしたりします。いろいろ種類がありますが、ひっくるめて何と言いますか。 take  
 総称を求める。
- 199 絵 [タケ]を割っているときや、よく削ってない板をこすったときなどに何か手に刺さることがあります。何が刺さつたと言いますか。 toge

- 200 絵 いばらやさんしょうの木(そのほか、ばら、からたち)などの枝についているとがった針のようなものを何と言いますか。 toge
- ※ 今度は、一つ一つことばを出してその使い方を聞きます。  
S式の質問を集めた。最初の二問はその導入もかゝる。
- 201 S 汽車から降りることを汽車から「おちる」というふうに言うことはありませんか。——東北の仙台あたりではそういう言い方をするそうですが、ここではそう言うことはありませんか。 言う 使わない  
東北地方では202を先にする。東北地方では——以下は言わなくてよい。
- 202 S 「すてる」ということばを紛失する・なくすという意味に使いますか。——四国ではそういう言い方をするそうですが、ここではそう言うことはありませんか。 使う 使わない  
四国地方では、——以下は言わなくてよい。
- 203 S それでは「こわい」ということばはどんなとき使いますか。
- 204 S 疲れた・くたびれたという意味に使いますか。重い荷物を背負って歩いたので「こわい」というふうに。 使う 使わない
- 205 S 固いという意味に使いますか。もちが古くなって「こわく」になったというふうに。 使う 使わない  
連用形であることは問題にしない。
- 206 S 恐しいという意味に使いますか。あの家の犬は大きくて、よくほえるので「こわい」というふうに。 使う 使わない
- 207 S 今度は、けちということばですが、「けち」とか「けちだ」ということばをどんなときに使いますか。
- 208 S 不都合だ・けしからんという意味に使いますか。ことわりなしに人の物を使ってあの男は「けちだ」というふうに。 使う 使わない
- 209 S 不思議だ・妙だという意味に使いますか。あの男がさいころを振るといつも六が出る。「けちだ」というふうに。 使う 使わない
- 210 S 物惜しみをするという意味で「けちだ」ということばを使いますか。 使う 使わない
- 211 S 今度は、はそんなということばですが、物を「はそんな」というのは物をどうすることですか。
- 212 S こわれた物を修繕する・元通りになおすことを「はそんな」と言いますか。 言う 使わない
- ※ 最後に獣や鳥の名前をいくつか聞いて終りにしましょう。
- 213 絵 こういう動物のことを何と言いますか。 uma
- ※ このあたりでは[ウマ]を飼っていますか。  
馬を飼っていない地方では214~216は質問しなくてよい。なお、この質問の報告は213のカードに記入する。飼っている地方は答の下の行に○印を、飼っていない地方は×印を記入する。
- 214 おすの[ウマ]のことを何と言いますか。 ouma  
種馬についての特別な名が出たら注記が必要。
- 215 めすの[ウマ]のことを何と言いますか。 meuma
- 216 こと生まれたばかりのこどもの[ウマ]を何と言いますか。 kouma  
総称を求めるが、おす・めすの別があれば注記。
- 217 絵 [ウマ]の首に生えている毛のことを何と言いますか。 tategami
- 218 絵 こういう動物を何と言いますか。 usi
- ※ このあたりでは[ウシ]を飼っていますか。  
牛を飼っていない地方では219~222は質問しなくてよい。なお、この質問の報告は218のカードに記入する。飼っている地方は答の下の行に○印を、飼っていない地方は×印を記入する。
- 219 おすの[ウシ]のことを何と言いますか。 ousi  
種牛についての特別な名が出たら注記が必要。
- 220 めすの[ウシ]のことを何と言いますか。 meusi

- 221 こと生まれたばかりのこどもの[ウシ]を何と言いますか。 kousi  
総称を求めるが、おす・めすの別があれば注記。
- 222 [ウシ]の鳴き声を言い表わすのに何と言いますか。 mômô  
 [コウシ]の鳴き声を何と言いますか。  
コウシに特別な鳴き声があれば、注記してそれも記入する。
- 223 絵 土の中に穴をあけて畑の土を持ち上げる動物です。農作物に害があります何と言いますか。 mogura
- 224 絵 こんどは鳥ですが、こういう鳥を何と言いますか。夜、飛び回ります。 hukurô  
みみずくなどと区別する。
- 225 この鳥の鳴き声を言い表わすのに何と言いますか。 hôhô
- 226 絵 この鳥を何と言いますか。水のそばにいる小さな鳥で尾を動かします。 sekirei  
せぐろせきれい・きせきれいなどを区別する地方はそれを聞き出して注記する。ただしその場合は総称も尋ねる。
- 227 この鳥の鳴き声を表わすのに何と言いますか。 tittit
- 228 絵 こういう鳥を何と言いますか。ごく普通の小さい鳥で、家の屋根などに巣を作ります。群がって飛んできて農作物に害を与えます。 suzume
- 229 この鳥の鳴き声を表わすのに何と言いますか。 tyuntyun
- 230 絵 にわたりの頭の上にある赤いもの、これを何と言いますか。おんどりのはめんどりに比べて大きいよ  
 ろです。 tosaka
- ※ これで全部終わりました。長いことありがとうございました。

### 第 3 調 査 票

- 231 絵 こういうふうにつるつるになることをどうなると言いますか。 hageru  
病気によるはげではない。「はげになる」というような形ではなく、一つの動詞を求める。
- 232 絵 ここのところ(手振りで示す)を何と言いますか。 ago  
A, 口の下側のとがつたところ, B, 耳の下側のとがつたところ, C, 下あご全体で区別していれば、分けて聞く。
- 233 絵 ここのところを何と言いますか。 kurubusi  
内くるぶしと外くるぶしとの違いがあれば注記、その際には総称にも注意。
- 234 [クスグッタイ](項目 070 を参照)感じをおこさせるために、足の裏とのかわきの下などにそっと触れる  
 ことをどうすると言いますか。 kusuguru
- 235 いらなくなったものを、ごみためへ持って行って、どうすると言いますか。 suteru
- 236 急にうしろから大きな声をかけられてドキンとすることを、どうすると言いますか。 bikkuri suru
- 237 大きな犬が何匹もほえかかって、いまにもかみつきそうになる。そんな時の感じをどんなだと言いま  
 すか。 kowai
- 238 日を教えて、よっか(4日)、いつか(5日)、むいか(6日)その次は何と言いますか。 nanoka
- 239 [ナノカ]の次はようか(8日)。その次は何と言いますか。 kokonoka
- 240 絵 孫の子供は何と言いますか。 himago
- 241 絵 [ヒマゴ]の子供は何と言いますか。 yashago
- 242 絵 男親の男親を何と言いますか。 oziisan  
呼び名ではなく、名称を求める。階層による区別。敬意による区別があれば注記。
- 243 絵 [オジイサン]の男親を何と言いますか。 hioziisan  
項目 242 と同じ注意をすること。
- 244 絵 何が3軒あると言いますか。 uti
- 245 S あそこは子供が多い[うち]だ(や)、というふうに言いますか。 言う 言わない



- 246 S (言わないとしたら)では、何と言いますか。
- 247 屋敷内に枝ぶりのいい木を植えたり、池を作ったり石どろろりを置いたりしてあるところがあります  
が、そういうところを何と言いますか。 niwa  
内庭か外庭か、ある場所について注記。
- 248 絵 へやとへやとの境にする、こういう、紙を張った引き戸を何と言いますか。 husuma
- 249 C 座敷をそうじしたあとで、「ああ、キレエニなった」と言いますか。「ああ、ウツクシク(ウツクシュウ)  
なった」と言いますか。それとも別の言い方をしますか。 kireini
- 250 C [ニジ(虹)](項目 124 を参照)を見て、「ああ、キレエダ(ヤ)と言いますか。「ああ、ウツクシイ」と言  
いますか。それとも別の言い方をしますか。 kireida
- 251 C 「着物を洗うときにセンタクする」、「センダクする」、そのどちらで使いますか。  
「センタク」とも「センダク」とも言わない場合は、注をして、共通語としてどちらを使うかを聞く。「センタク」、「センダク」を「洗う」意  
味で使わない場合も注記する。
- 252 絵 こういう、赤くなって、辛いものを何と言いますか。 tōgarasi
- 253 C 味のいい食べものを食べて、「ああ、オイシイ」と言いますか。「ああ、ウマイ」と言いますか。それとも  
別の言い方をしますか。 oisii
- 254 絵 イワシとかタイとか、コイとか、水のなかで泳いでいる、こういう生き物を何と言いますか。 sakana  
大魚と小魚、淡水魚と海水魚で区別があるか。幼児語にも注意。
- 255 S (254でサカナが出たら)「ウオ」ということばを使いますか。どういう場合ですか。 使う 使わない  
複合語では求めない(ウオつり)などのように
- 256 S (254でウオが出たら)「サカナ」ということばを使いますか。どういう場合ですか。 使う 使わない  
複合語では求めない(焼きザカナなど)
- 257 絵 夏たくさん出て、食物にたかる、いろいろな虫を何と言いますか。 hai

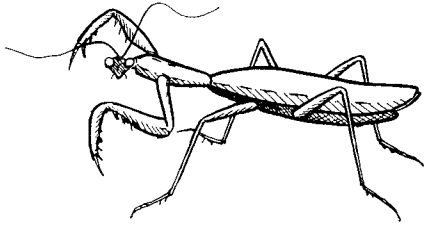
## 第 4 調 査 票

- 258 絵 こういうふうに生えているものを、何と言いますか。《音声・ヒ》 hige
- 259 暑い時に、からだから流れ出る(水のような)ものを、何と言いますか。《音声・セ》 ase
- 260 ここの広い所(背中を身振りで示す)を、何と言いますか。《音声・セ》 senaka
- 261 絵 赤ん坊をこうすることを、どうすると言いますか。 onbusuru
- 262 絵 荷物をこうすることを、どうすると言いますか。 syou  
両肩でふろしき包みを〜。
- 263 絵 こうすることは、どうすると言いますか。 katugu  
片方の肩でふろしき包みを〜。
- 264 絵 こうすることは、どうすると言いますか。 katugu  
材木を〜。
- 265 絵 これはどうすると言いますか。 katugu  
てんびん棒を〜。
- 266 絵 これは、どうすると言いますか。 katugu  
ふたりで〜。
- 267 からだがやせる、その反対に肉がついて目方のふえることを、どうすると言いますか。 hutoru  
成長することではない。
- 268 C あそこに人が「イル」と言いますか。「オル」と言いますか。それとも、あそこに人が「アル」と言います  
か。 iru

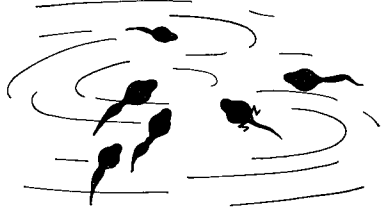
269	鉛筆がある。その反対を何と言いますか。ここには鉛筆は～。	nai
270	空が晴れて日が照っている。そんな時、きょうの天気はどんな天気だと言いますか。 「日本晴れや」・「上天気じゃ」などはとらない。「よかひよりじや」などはとる。	iitenkida
271 絵	こういうふうに、煙突から出るものを何と言いますか。	kemuri
272 絵	この[ケムリ]が流れているのは、何が吹いているからですか。《音声・ゼ》	kaze
273	太陽の出る方角を、何と言いますか。西の反対です。《音声・ヒ》	higasi
274	一年の最初の月を、何と言いますか。《音声・グワ》	syôgatu
275	その月の最初の日を何と言いますか。一年の最初の日。《音声・グワ》	ganzitu
276	四月・五月・六月、その次を何と言いますか。《音声・シ》	sitigatu
277	家に火がついてぼろっと燃えたとします。「何だ(じゃ・や)」と言いますか。《音声・クワ》	kazi da
278	国(家)が国民から取り立てるお金のことを、何と言いますか。《音声・ゼ》	zeikin
279 絵	こういうふうにくつるものを、何と言いますか。《音声・ㇿ》	kage
280 絵	顔をうつすための、こういうものを何と言いますか。音声・ㇿ》	kagami
281 絵	こういうものを、何と言いますか。中は赤いです。《音声・クワ》	suika
282 絵	こういうものを何と言いますか。濃い紫色です。	nasu
283 絵	この箱は、どんな箱だと言いますか。	sikakui (hako)
284 絵	いろいろの種類がありますが、こういう虫をひっくるめて何と言いますか。	tonbo
285 絵	[トンボ]の中で、特に大きいものを、何と言います。	yanma

付 図

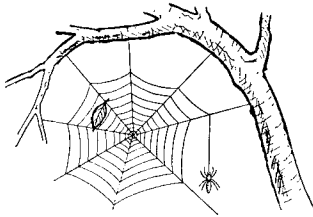
001



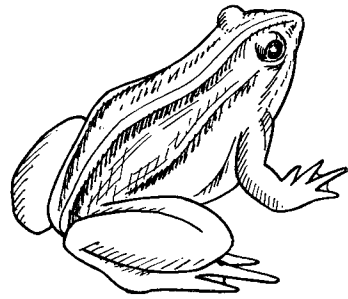
007



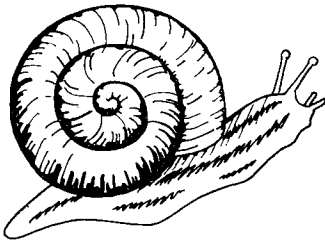
002 • 003 • 004



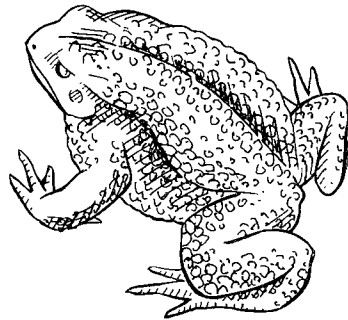
008



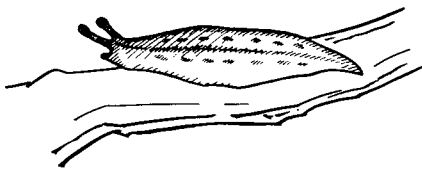
005



009



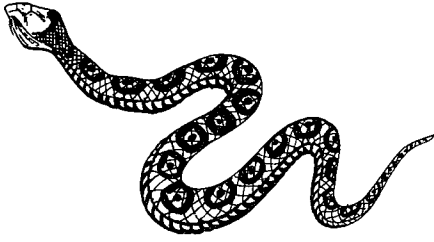
006



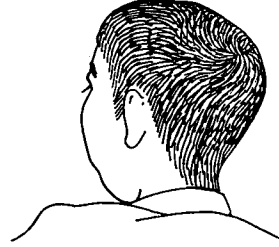
010



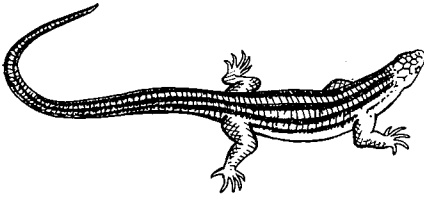
011



031 • 032



012

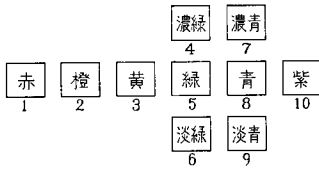


033



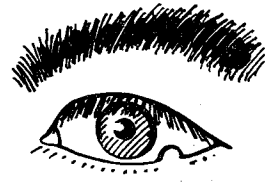
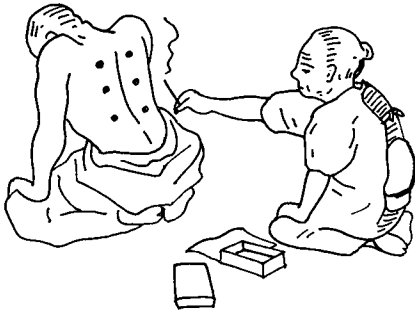
017 • 018 • 020 S

034 • 035 • 037 • 043 • 044 • 047 • 056 • 057



022

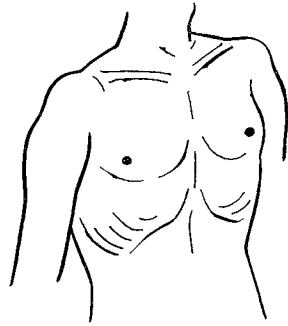
036



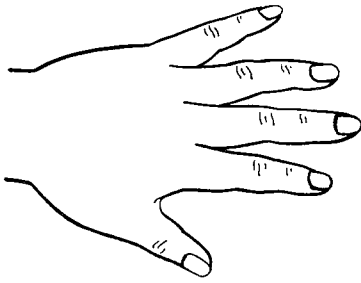
048



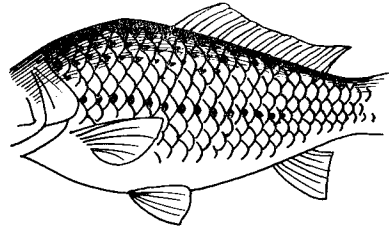
073



063 • 064 • 065 • 066 • 067



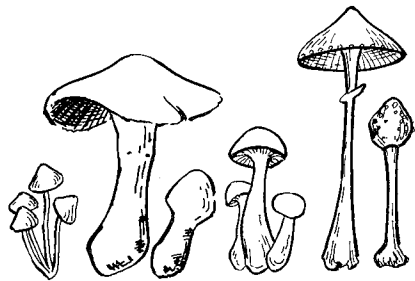
076



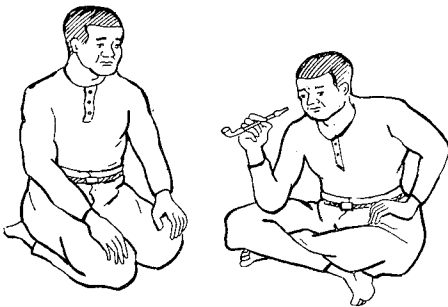
069



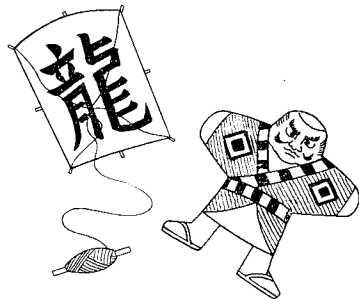
078 S • 079



071 • 072



082



083



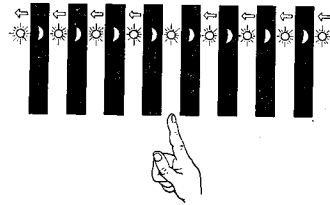
090



084 • 085



102~113



086



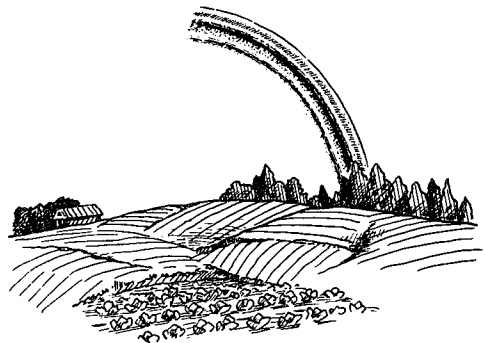
119 • 120 • 122



087



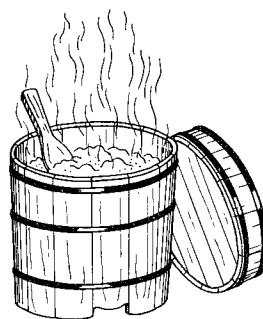
124 • 183



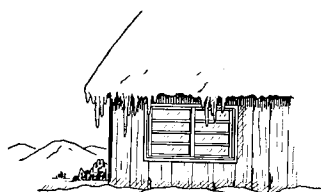
125



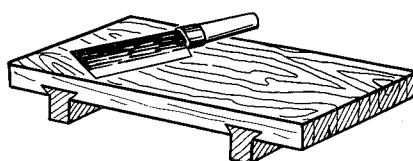
153



129



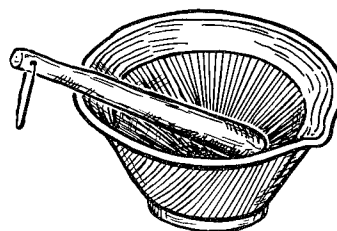
154



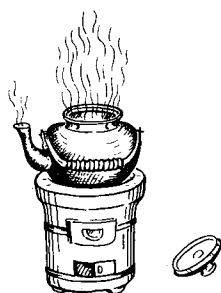
130



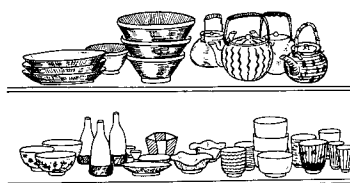
155 • 156



152

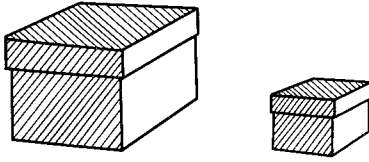


157

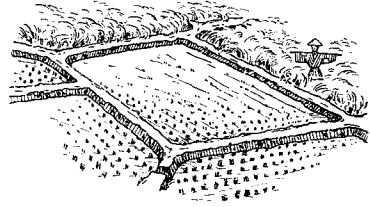




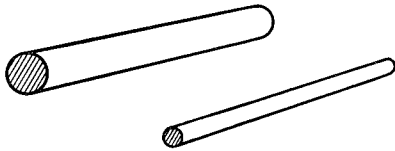
158 • 159



180 • 181 • 182 • 185



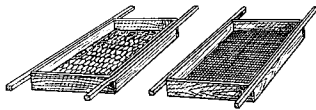
160 • 161



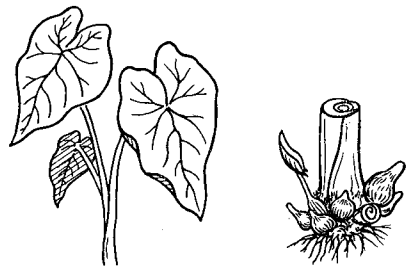
186



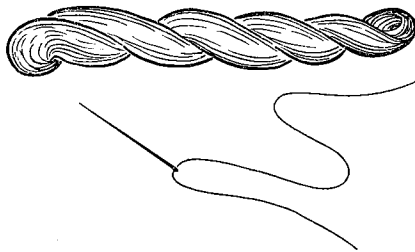
162 • 163



187



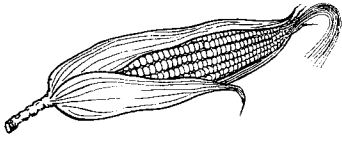
166



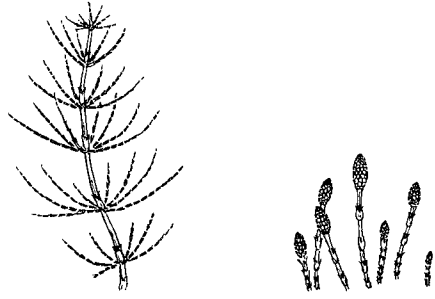
188



190



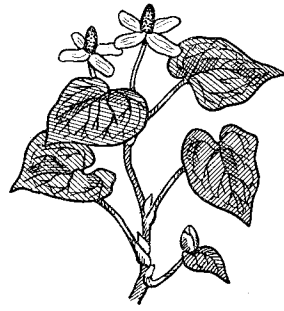
194 • 195



191



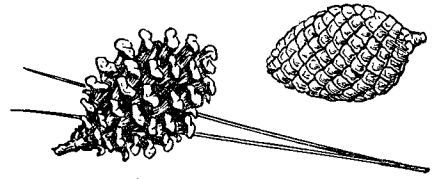
196



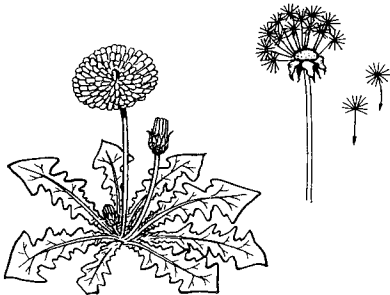
192



197



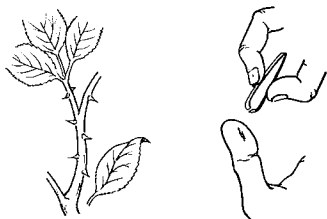
193



198



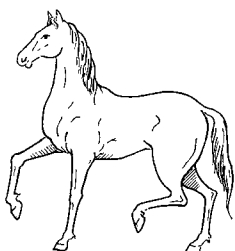
199 • 200



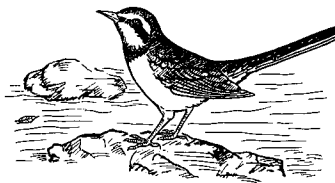
224



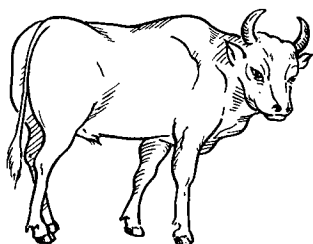
213 • 217



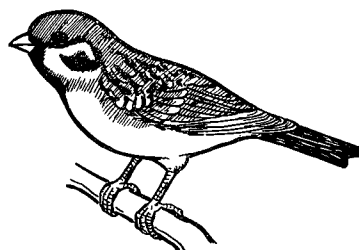
226



218



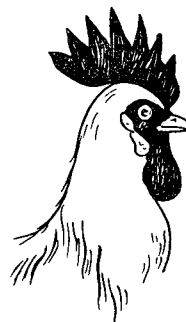
228



223



230



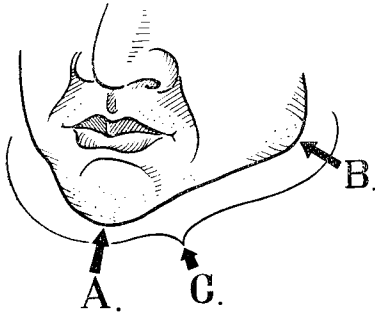
231



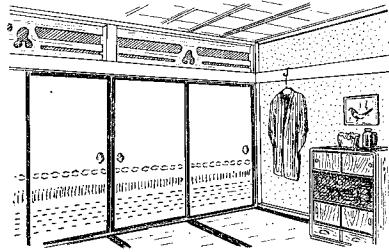
244



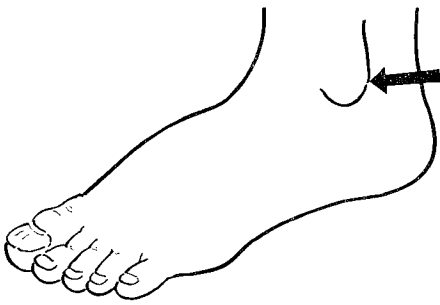
232



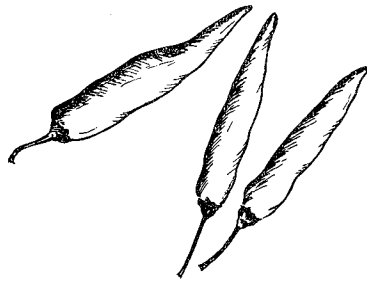
248



233



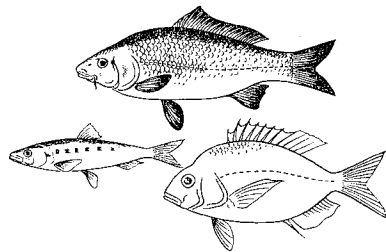
252



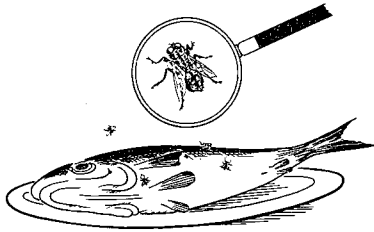
240 • 241 • 242 • 243



254



257



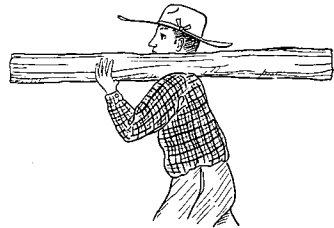
263



258



264



261



265



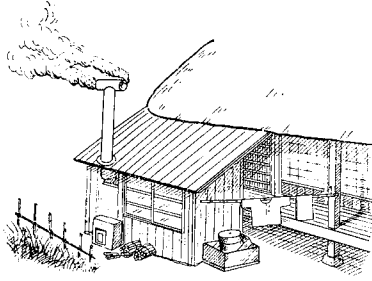
262



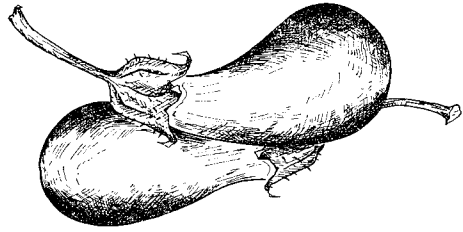
266



271 • 272



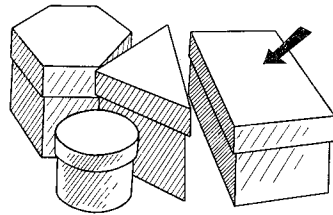
282



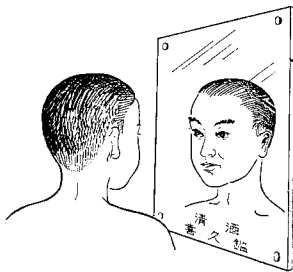
279



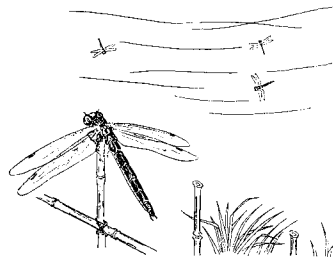
283



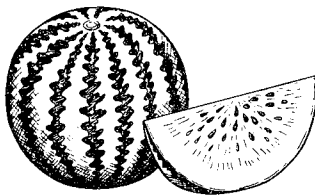
280



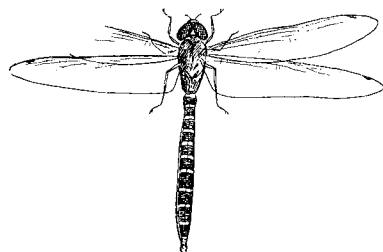
284



281



285



手 引 き

1 あらまし 調査者が現地におもむいて、所定の調査票と調査票付図を使い、この手引きに従って面接調査を行う。

2 調査することば 調査の対象とすることばは、被調査者(被調査者については、3のところの説明)自身が現在使っていることば、あるいは少年時代に使ったことのあることばで、しかも、くつろいだとき、親しい人たち(家族たちや幼なじみなど)と話し合うとき使うことば(いわゆる方言)とする。

被調査者の使ったことのない古いことばや、現在使われていても、被調査者自身が使ったことのないことばとは、はっきり区別する必要がある。これらのことばを参考として聞きとめることは望ましいことだが、それはあくまで参考であり、記入するときにはそのことを注記する必要がある。被調査者の使うことばでも、あらたまったとき使うことばとか、知らない人と話すとき使うことば(いわゆる共通語)と区別する必要のあることももちろんである。

3 被調査者 調査者が候補者を選び、適当であるかどうかを判定し、決定する。

3・1 数 調査地点1地点について1名。その同じ人について項目全部を調査することとする。

特別の事情で調査を途中で打ち切る場合は、別の被調査者について第1項から調査し直すこと。

3・2 条件 1903年(明治36年)以前に生まれた男子で、いわゆる言語形成期(満3歳~15歳)をずっとその地点(その集落)で過ごし、それ以後もよそ(その市・町・村のそと)での生活が(兵営生活など一切を含めて)36か月を越えない人とする

職業・学歴・階層などについては特に基準を定めないが、できるだけその地点を平均的に代表する人であることが望ましい(80%農業の集落で会社の経営者とか、その土地でひとりふたりしかいないような、学歴・階層の特に高い人などは望ましくない)。なお、明治36年以前という指定だから、文久・元治・慶応の生まれの人でもよいわけだが、あまり高齢な人は調査の対象として適当でない場合が多い。全国の水準をそろえる上からも、明治20年以降生まれの人が望ましい。なお、1,2か月の短期間の旅行は、よそでの生活とは見ないこととする。

さらに、次のような条件を備えている人を、被調査者として適当と考える。

a. 言語感覚が鋭い(意味のニュアンスの違いに鋭敏で、質問に対して適切な答えをする。方言と共通語、敬語と卑語、日常語とあまり使わない語・現在使わない語などの区別がはっきりしている。ただし、これは方言に特定の意見を持っているという意味ではない)。

b. ふだん、その土地のその年齢層の人としてじゅうぶんな程度に方言を使っている(その土地の方言をほとんど使わない生活をしている人は、調査に向かない)。

c. 精神的・肉体的に欠陥がない(もうろくしている、歯が抜けて発音がはっきりしない、耳が遠い、付図が見えない人などは、被調査者として適当でない)。

d. そのほか、調査に協力的である。反応が早い。むだ話をしないなど。

これらの条件を満たす人であるかどうかは、実際には面接調査した上でなければわからないことが多い。そこで、被調査者として適当かどうかは、ともかく調査をしてみて、第1調査票が終わったところで判定する。なお、5・7参照。

4 調査地点 調査地点とは、被調査者が言語形成期を過ぎた集落(地名として最も細かく分けたその地名。ただし、都市は丁目とする)とする。調査地点をどのあたりにとるか、何地点調査するかなどの全体の構想は、調査センターで立てる。具体的に、どの集落で調査するかは、調査者が決める。

## 5 調査の実際

5.1 準備 調査者は、あらかじめ調査地点を決める。現地では、被調査者(正確には候補者)に面接して調査のあらましを説明し、どういう答えを求めると、その大体を理解してもらう。

現地の被調査者や協力者(紹介者など)に対して、希望があれば所定様式の依頼状(公文書)を出すことができる。希望者は、あて先の氏名・住所・調査予定日を早目に連絡してほしい。事務手続き上、連絡を受けて



から発送まで、ほぼ1週間かかるものと予定されたい。研究所から本人あて直接発送する。

また、「日本語地図を作る調査について」(調査のあらましを説明した印刷物)と「方言を話す人を御紹介下さい」(紹介者に被調査者の条件を説明した印刷物)を用意したから、利用されたい。

## 5.2 経歴表 項目の質問を始める前に、まず経歴表の記入に関する質問をする。

最初から、個人的な立ち入ったことを聞くのはぐあいの悪いことだが、その人が条件に合わないことになるとなって発見すると、それまでの調査がむだになってしまうので、ぜひ項目の質問を始める前に尋ねておきたい。

経歴表の1枚は記入(調査者保存)用、もう1枚は調査センター(研究室)への報告用である。

各欄について説明(記入用)すると、

- a. で囲んだ部分について、質問し記入する。項目の質問に先立って調べる必要のあるのはこの欄である。
- b. で囲んだ部分は、調査者だけで記入できる。しかし、記憶・印象の薄れないうちに書き入れておく必要のあることは言うまでもない。
- c. 調査地点番号は、正式には報告が集まってから、調査センターでつける。研究員は、書き入れない。
- d. 調査地点(調査現在の地名)のふりがなは、町や村の字などにもつけること。チョウカマチか、ソクカムラか(これは現地で被調査者に聞いておいた方がよい)。
- e. 調査地点名は、集落(小字または丁目など)まで記入すること。
- f. 調査地点のおもな産業は、農業とか工業など。細目についても、できれば記入する。  
例 農業(米作・養蚕・りんご)
- g. 調査した場所とは、被調査者宅とか、小学校・寺院などのこと。

## 5.3 項目の質問を始める前に それまでにいちおう説明し、納得してもらってあるはずだが、もう一度調査の対象とする言語について念をおしておく。

質問を始める直前に、開始時刻を記入する。調査開始の時刻は、このときと考える。なお、調査票の末尾にある終了時刻なども、その都度記入すること。

5.4 質問の形式 項目を調査する欄は、次のようになっている。左に項目番号と付図の有無をあらわす記号(絵)がある。次に、質問文・その注意書き(小さい字)、質問文に対する答えを東京語の形(ローマ字)で示す。余白は、答えの記入欄である。ところで、質問文には2つの形式がある。

5.41 なぞなぞ式質問 項目番号001~018などの質問の形式を、なぞなぞ式の質問とよぶ。この調査では、共通語形を与えて方言で翻訳させるという方法はとらない。日本における共通語化のめざましい現状から、翻訳法はいろいろの点で不利と考えたことがその理由の1。共通語形と方言形との意味分野が必ずしも一致しない(極端な例だが、九州などでアザを何と言うかと尋ねて「やはりアザと言います」と答えても、それが東京方言でのホクロに当たるものとして答えているという事態が起りうる)から、翻訳法のみによることは避けるべきだと考えたことがその2。また、なぞなぞ式質問であれば、調査者相互の間の質問内容の差(たとえば、項目をミミ<耳>とだけしておく、ある調査者は聴覚器官としてのミミ<耳がきこえないのミミ>だけを聞きとり、ある調査者はみみたぶ<耳殻>に当たるミミだけを聞きとることによって生ずる差)を小さくできると考えたことがその3。要するに、このなぞなぞ式質問は、意味分野を一定の質問文によって説明し、それに当たる方言形を求めることを原則としているわけである。

5.42 S式質問 項目番号019, 020, 025, 026などの質問の形式をS式(SemanticsのS)質問とよぶ。ある語形を示し、方言での意味・用法を尋ねる質問である。

S式質問には2種類ある。その1は「～にはどういう意味・用法があるか」という質問である(たとえば025, 144など)。この類の質問は、その方言での意味・用法をすべて聞き出すことをめざしている。共通語と一致するものも、被調査者の方言であればとりあげる。

ある一定の語形に対する意味・用法は、他の方言と多かれ少かれずれがあるから——完全に一致することはほとんどないと言ってよい——特色があれば用例による説明などが必要である。

ただし、この類の質問は、被調査者とのやりとりだけで完全な答えを期待することはむずかしいだろう。今回の調査では、被調査者の答える範囲で満足しなければなるまい。なお、この類の質問にはたいていそれに伴ういくつかの質問があるから、それらと関連させて効果をあげることが望ましい（たとえば、203、204、205、206と進んできて、ふたたび203にもどってみるなど）。

S式質問の第2は「～にはこれこれの意味・用法があるか」という質問である（たとえば、019・026・027など）。この類の質問では「使う」か「使わない」かのどちらかの答えしかない。例で説明しよう。たとえば、項目番号202の質問で、その方言でステルに「失う」の意味があるなら、答えは「使う」である。別の方言で、ステルという形がなく、それに対してフテルと言ひ、そのフテルに「失う」の意味があるなら、フテルは語形としてステルに当たると言えるから（詳しくは後述）、これも答えは「使う」である。しかし、ステル（あるいはフテルなど）という形がなく、捨てるという意味にはウブチャールという形しかない方言では、たとえウブチャールに「失う」の意味があるにしても、語形がステルに当たるとは言えないから、答えは「使わない」である。どれをその語形に当たると認めるか、他の語形とするかについては、実際の場合ではいろいろの問題が出てくるであろう。これについては、次のように決める。

a. 示した語形と極めて類似した形は、その語形に当たると認める。たとえばステルに対してフテル、アカイに対してアキヤなど。また、語幹が同根の用言は、その形に当たると認める。たとえばアカイに対してアカカなど。これらは、記入のときに、その形を「使う」次に示しておく必要がある。

b. 接頭語・接尾語を除けば、同根の形は、その語形に当たると認める。たとえばニワに対してオニワ、ステルに対してウッスル（<ウチスツル）など。これらの場合も、その形を「使う」次に示す必要がある。

c. 示した語形がその一部になっている複合語は、その形に当たるとは認めない。たとえばニワに対してウスニワ、カドに対してカドグチなど。この場合は、その形を「使わない」次に示す必要がある。

d. 以上の基準で決めることのできない場合は、調査者の判断にまかせる。この場合も、その語形を「使う」または「使わない」次に示しておく必要がある。

なお、蛇足ながら、このS式質問では共通語の場面でなら使う、方言的場面でなら使わないという場合が多いから、調査の際に注意する必要がある（2 調査することば 参照）。

5・43 ※印は、次の質問への導入文である（001の前、014の前など）。

5・5 質問のしかた 調査は、注意書きを参照しながら質問文を読んで（付図のある場合はそれを示して、さらに必要なときは、質問の求めるところを指さし）、それに対する答えを求めながら進めて行く。

調査は質問文によって行ひ、ほかのことは発言しないことを原則とする。ただし、質問文を自然な話しことばに言いかえること、適当に方言文脈を加味することはさしつかえない。なお〔 〕内の語形についてはすでに方言形を得てあるはずだから、その語形に言い直してよい。

項目は質問しやすいよう、また答えやすいように考えて並べたが、調査者の考えで順序を変えることはさしつかえない。

場合によっては、付図のかわりに実物を使ってもよい（たとえば指の名を問う場合など）。

#### 5・51 質問中に起こるいろいろの場合の処理

これについては、次のように決めておく。

a. 答えがなかなか出ないとき——質問文をくりかえし、また、質問文の範囲内で解説してみる。

b. 共通語で答え、あるはずの方言が出ないとき——別の言い方はありませんか、方言（土地のことば）ではどう言いますかなどと聞いてみる。共通語や予想される方言を与え、答えを誘導してはならない。答えが被調査者自身のことばであることが確かめられない限り（誘導の方法によって得た答えは、被調査者の聞いたことのあることばであって、自分では使ったことのないことばである場合が多い。その区別がはっきりしない限り）、あとで解釈にさしつかえをすそれ、一般に役に立たない。なお5・52、5・62参照。

c. 質問の末尾に示した共通語形と違う品詞で答えたとき——同じ品詞での答えはないか追究してみる。適当な答えがない場合は、別の品詞でもとりあげる(その場合は、品詞名を注記する)。用言については終止形を答えとしてとりあげる(終止形の用法がない場合は、代りの形にそのむね解説をつける)。

d. 答えが2つ以上出たとき——それぞれ答えの間の、意味上・用法上の違いをかみならず確かめて注記する。これはぜひ必要なことである。民間語原説も一見無意味のようであっても記入しておく。これらの注記は、地図の解釈にとって大切な資料となる。

e. 質問の対象となっている事物が被調査者の生活圏内にはない(と思われる)とき——それを確かめて注記する。たとえば、馬を飼わない地方があり、さつまいものとれないところがある。都市では農業関係の項目の答えが得られないことが考えられる。

f. 質問の末尾に示した共通語とかけ離れた見当違いの答えをしたとき——質問文をくりかえし質問文の範囲内で解説し、誤解を解くようにつとめる。

g. 以上いずれの方法でも適当な答えが得られないとき——別の質問によって尋ねる(この場合は、その質問を注記する必要がある)。誘導法を避けるべきであることはb. で述べた。

5・52 被調査者をなれさせるには 被調査者はこのような言語調査になれていないから、はじめのうちは質問にぴったりした答えをなかなかしてくれないかもしれない。また、その方があたりまえとも言える。誘導法を用いない調査法はむだな努力のように思えることもあろう。しかし、調査を進めて行くに従って、はじめはこずった被調査者も、だんだんなれてくるはずのものと考えられる。能率よく調査を進めるためには、調査のごく初期のうちに、調査をどういうふうに進めるか、質問はどんな形式でなされるか、被調査者はそれに対してどういふ答えをすべきかをじゅぶん納得させ、なれさせ、いわば積極的に訓練して行く必要がある。最初の部分にたっぷり時間をかけた方が、かえってあとへ行ってスピードがあがるとも考えられる。5・51の方法を230項目すべてに使うことは、考えてもあざわらしいことだが、多くの場合は、調査の初期にだけ用いればじゅぶんであろう。第1調査票30項目をすませたころにも、まだこの調査になれてこない人は、この調査に適当な被調査者とは考えられない。

5・6 記入の方法 経歴表の記入については、すでに5・2で述べた。項目の質問に対する記入欄には、被調査者の答えを忠実に記入する。参考となる発言もその都度記入しておく。

5・61 表記法 音声の表記法は、原則として国際音声字母とし、都合によってカタカナを用いることも妨げないこととする。音声表記は簡略表記でよいから、国際音声字母の使える研究員はできるだけ使うことが望ましい。国際音声字母は、岩波全書「音声学」(第3刷以後)の巻末などに出ている。なお、補助記号も国際音声字母表のを使う。

音声記号としてカタカナを使うときは、次のきまりに従うこと。次に示す音以外の特殊な表記は、適当にくふうしてさしつかえないが、その説明を必ず添えること。

(1) よう音・つまる音・長音を表わすときは、次のようにへの印を使う。

例 オタマ<sup>ハ</sup>ジャクシ  
シ<sup>ハ</sup>アサッテ  
ト<sup>ハ</sup>オモロコシ

長音を表わすのに、ト<sup>ハ</sup>オモロコシのように、かなづかい式に書かないよう注意する。

また、ト<sup>ハ</sup>オモロコシのようにへの印も使わない。

(2) はねる音はへの印を使わない。

例 サク<sup>ハ</sup>バン (サク<sup>ハ</sup>バンとしない)

(3) 方言によっては、共通語のアイ、カイ、サイに当たるところに、アよりは狭く、エよりは広い母音を含む音節(シラブル)が出る。英語の man の a に以た母音で、国際音声字母で [æ] [kæ] [sæ]……のように書く音節である。これらを、

ア<sub>エ</sub> カ<sub>エ</sub> サ<sub>エ</sub>……

のように表わす。

例 アカ<sub>エ</sub>エ [akæ:] 赤い(岡山市方言)

- (4) 方言によっては、共通語のアイ、カイ、サイに当たるところにア<sub>エ</sub>よりは狭く、エよりは広い母音が出る(国際音声字母で[e][kɛ][sɛ]……)。これを

エ<sub>ア</sub> ケ<sub>ア</sub> セ<sub>ア</sub>……

のように表わす。

例 アケ<sub>ア</sub> [akɛ] 赤い(新潟市方言)

- (5) 北関東から東北諸方言にかけて、共通語のイとエとに当たるところに、同じ一つの母音が出ることもある。これは、イよりも広くエよりも狭い母音で、国際音声字母では[ɛ]で書く音である。これを

エイ

で表わす。

例 エイト [ɛto] 糸(白河市方言)

- (6) 新潟県中部地方に聞かれる、オよりも広く、アよりも狭い母音(国際音声字母で[ɔ])を含む音節は

ア<sub>オ</sub> カ<sub>オ</sub> サ<sub>オ</sub>

のように表わす。

例 タ<sub>オ</sub>オ [tɔ:] 湯(治)

- (7) 九州諸方言その他で、共通語のエに当たるところに出る[jɛ]の音は

イエ

で表わす。

- (8) 一般に、かな2字またはそれ以上で1音節(シラブル)を表わすときは、記号へを使う(はねる音の場合は例外。(2)を参照)。

例 ウィ [wi], イ<sub>ア</sub>エ [jæ], イ<sub>エ</sub>ア [jɛ:]

- (9) いわゆるガ行鼻音は次のように表わす。

ガ ギ グ . . . ガ<sub>エ</sub> [ŋæ] . . .

例 カガミ [kaŋami] 鏡(東京方言)

- (10) 母音の無声化は、次のように表わす。

例 キ<sub>タ</sub> [kita] 北(東京方言)

5・62 状況符号など 音声の表記以外の記入については、次のような符号を用いることとする。

被調査者が答えたときの状況を、次の符号によって表わすことにする。

! おもしろがり(笑い)ながら答えたとき。例 !ゴアサツテ(項目111)

? 疑いながら(自信なさそうに)答えたとき。例 ?ホクロ(項目061)

: はずかしそうに答えたとき。例 :ケツフリオカメ(項目226)

# 思い出せなくて、だいふ考えてから答えたとき。1回目の質問で答えず、もう一度尋ね直してやっと答えが出たとき。例 #マワリカジュ(項目130)

\* 答えを訂正したとき

例 コシラエル(前の答え), \*コサエル(新しい答え)(項目024)

NR 質問文をくりかえしても、解説しても、代りの質問をしても答えの得られないとき、記入欄に書く。

ことばで説明した注記は、被調査者のものと調査者自身のものとを区別する。

<……> 被調査者の説明は、< >で囲む。

(……) 調査者自身が加えた説明は、( )で囲む。

[……] 調査の場にいあわせた第三者が、有益な説明を加えた場合は、調査者の判断で、とりあげてもよ

い。これは〔 〕で囲む。

( )〔 〕には、上にあげた符号がはいりうる。〔\*〕ヌウジとあれば、第三者が被調査者の答えを訂正して答えたものであることを示す。(?)は、調査者自身がこの答えは疑わしいと判断したことをあらわす。被調査者自身に関する場合はくゝを使わない。

また、くゝ( )〔 〕の中に、次の略語を使ってもよい。例 デンデンムシ<新>

古 今は使わないが、自分が昔使った。

新 新しいことば。昔は使わなかった。

ユ ユーモアのある言い方。おどけた言い方。

上 上品なことば。

下 下品なことば。ののしることば。

共 共通語的場面で使う。

隠 隠語として使う。

子 こどもに対して使う。

希 たまにしか使わない。

さらに、必要があれば次の符号を使う。

~~~~ この部分がはっきりしない。はっきり聞きとれなかった。

例 マナグ(項目 034)

—— これで間違いない。誤記でない。

例 ジュ ジュ マッ(項目 036)

5・7 被調査者の決定 3・2の終りのところで述べたように、調査者は調査を進め、第1調査票が終わったところで、その人がこの調査の被調査者として適当かどうかを判定する。判定の基準は3・2で説明した。また、5・52で述べたことも参考となる。

ここで適当と認めた被調査者については、引き続いて第2調査票に移る。不適当と判定した被調査者については、調査を打ち切り、あらためて別の被調査者を探して、第1調査票から調査を始める。

不適当と認めて調査を打ち切る場合、相手に調査を途中でやめたという印象を与えることはおもしろくない。第1調査票を分立したのは、そこを考えたためである。こうすれば、とにかく1冊の調査票を全部すませたことになるから、相手に悪い感じを与えないですむ(そのためには、付図も第1調査票の分と第2調査票の分を、あらかじめ分けておく方がよい)。経歴表についての調査で不適格であるとわかった場合も、その場ですぐやめず、第1調査票だけはいちおう調査してみてもよい。時間のむだは大したことでないし、せっかく調査に協力する気持で会ってくれた人に、礼を失しないですむと考えられる。調査者の側についても、第1調査票の終わったところで判定しなければならないのだから、ばくぜんとした不満を持ちながら調査を続ける状態に、区切りをつけられて好都合だと思う。

5・8 礼状 現地の被調査者や協力者(紹介者など)に対して、希望があれば所定様式の礼状(公文書)を出することができる。希望者はあて先の氏名・住所を連絡してほしい。研究所から本人あて直接発送する。

## 6 調査センターへの報告

6・1 提出期限 11月30日

6・2 提出するもの

- ・各調査地点の経歴表(報告用)
- ・国土地理院5万分の1地形図
- ・各調査地点での調査結果カード(付・表記法の説明)
- ・調査の感想

6・21 経歴表 記入(調査者保存)用の記録を整理して記載し、調査票から切り離して提出する。各欄の説明

は、記入用のそれに準ずる(5・2 参照)。なお、調査所要時間は、第1項の開始から最終項の終了までの時間をさす(途中で長い休止時間があれば、その分は差し引く)。

#### 6・22 国土地理院5万分の1地形図

6・221 地形図は、本年度調査に関係のあるものも、そうでないものもすべて一括して提出する。すなわち、送付したものをすべて返送するわけである。

6・222 本年度調査した地点は、集落を単位として色鉛筆で塗りつぶし、その地名に傍線を引く。集落を単位としてといっても、便宜上、被調査者が言語形成期を過ぎた地点を中心に、最大1cm<sup>2</sup>ぐらいを塗りつぶす。あまり細長くしてもいけない。

6・223 地形図の取り扱い法 地形図を使う便宜上、県界・郡界などは必要に応じて着色してもさしつかえない。また、地形図は別の折り方をしない。今後、調査の終るまで続けて使うから、大切に扱うこと。

6・23 調査結果カード 調査地点ごとに一束にし、調査地点名を記入した紙(研究所から用紙を送る)をつけて提出する。

6・231 カード各欄の説明(本編31ページ参照)

- (1) 項目番号を記入する。
- (2) 答えや状況符号などを記入する。
- (3) 解説注記を記入する。
- (4) 地点番号記入欄。ただし、この欄は調査センターで記入する。

6・232 記入の一般的注意 要領は5・6に準ずるが、カードには被調査者の答えや説明をそのまま機械的に記入するのではない。明らかに誤りと認められる答えなどは、記入するに及ばない。説明は、被調査者が方言で言ったものは共通語に翻訳し、舌たらずの表現はわかりやすいように補うこと。また、調査票に記入してないことでも、誤解を招きそうな答えには解説を加える(たとえば、雄牛をオスとのみ言って、オスウシあるいはオウシなどと言わない地方では、オスを記入するだけでなく、オスウシと言わない。オスと言えば牡牛のことで、牡馬などとまちがえることはないなどと注記しておく)。

2つ以上の答えがある場合は、相互の意味上・用法上の違いについて説明が必要であることは、5・51d. にのべた通り。

6・233 表記法の説明 5・61, 5・62に示した表記法以外の表記をする場合は、「表記法の説明」を提出すること。

6・24 調査の感想 内容は、調査・報告一般についての感想、調査センターへの注文など。特に必要ある場合提出する。分量は自由。

6・3 その他 報告用紙は、すべて研究所から送る。調査票(保存用経歴表も)、調査票付図は提出しなくてよい。調査票はカードの原簿とし、調査票付図は翌年度の調査に必要なから、大切に保存すること。なお、第1調査票だけで調査を打ち切った場合の調査結果は提出する必要はない。この「手引き」も提出しなくてよい。

なお、1960年度以降の調査にあたって、手引きを補った点がある。

7 c式質問 調査のしかたなどは、第1・第2調査票と全く同じであるが、項目のうち、Cの印をつけたものについては、説明する必要がある。これは、質問の文章のなかに、二つまたは三つ以上の答え(語形)を出して、どれを使っているか選び出してもらい形式をとっている。答えは、あげた語形のうち、選ばれたものを質問文中のカナ表記そのまま引き写さず、その音声を正確に記入する。もちろん、質問として出す語形以外のものをふだん使っていれば、それも記録する。Cは choice のCである。

8 音声に関する項目 項目には、できるだけ全国共通の語形が出ると予想されるものを選んだが、別の語形の出ることも考えられる。その時には、もし、質問文のあとにローマ字で示してある共通語形として言うときにはどう言うのがふつうであるかを確かめる。別の語で示した注目点を確かめることは避ける。

たとえば背中を、沖縄では[kuji]あるいは[nagaŋi]などと答えるであろう。その時には、共通語でセナカを言うときの発音も、かならず確かめ、共通語としてでしか言わないことを注記する。セーウェー(幸)について

セーのところをどう言うか調べるのではない。

正月を [itʃiŋwatsü] などと答えた場合は、いちおう注目点(グワ)に関連のある答えを得たことになるが、これも共通語の形と一致しないから、この場合も、かならずショーガツを言うときの発音も確かめる。

音声に関する項目は、注目点を調べるのが第1の目的であるが、できるだけそれ以外にも気を配る。

たとえば七月は [ʃitʃiŋatsü] か [çitʃiŋatsü] か以外に、[ʃitʃiŋwatsü] か [ʃitʃiŋatu] かなども気を配る。

税金は [dze:kiN] か [dʒe:kiN] か以外に [ze:kiN] か [dzeikiN] かなども注目する。

日本言語地図①付録A

昭和41年3月©

国立国語研究所

東京都北区稻付西山町  
電話 東京(03)900-3111(代)



Introduction  
to  
The Linguistic Atlas of Japan

— Methodology —

The National Language Research Institute

TOKYO

1 9 6 6